

○農林水産省告示第 号

肥料取締法の一部を改正する法律（令和元年法律第六十二号）の一部の施行に伴い、並びに肥料の品質の確保等に関する法律施行規則（昭和二十五年農林省令第六十四号）別表第一号二及び第二号の規定に基づき、令和二年十一月五日農林水産省告示第二千百五十九号（肥料の品質の確保等に関する法律施行規則別表第一号二及び第二号の規定に基づき、化学的变化により品質が低下するおそれがないものとして農林水産大臣が定める要件を定める件）の一部を次のように改正する。

令和三年 月 日

農林水産大臣 野上浩太郎

次の表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分（以下「傍線部分」という。）でこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線部分があるものは、これを当該傍線部分のように改め、改正後欄に掲げる規定の傍線部分でこれに対応する改正前欄に掲げる規定の傍線部分がないものは、これを加える。

改正後	<p>肥料の品質の確保等に関する法律施行規則（以下「規則」という。）別表第一号二及び第二号の農林水産大臣が定める要件は、次に掲げるものとする。</p> <p>一 肥料の品質の確保等に関する法律（昭和二十五年法律第二百一十七号。以下「法」という。）第四条第二項第二号に掲げる普通肥料（以下「指定配合肥料等」という。）（次号に該当するものを除く。）にあつては、当該指定配合肥料等の保証成分量を当該指定配合肥料等の主成分の含有量に基づき保証することとし、かつ、当該指定配合肥料等を生産した日から四週間を経過した日以後に、当該指定配合肥料等の主成分（当該指定配合肥料等の原料として使用した普通肥料において保証されたもの（く溶性りん酸を保証する指定配合肥料等にあつては可溶性りん酸を除き、可溶性りん酸を保証する指定配合肥料等にあつて</p>
改正前	<p>肥料の品質の確保等に関する法律施行規則（以下「規則」という。）別表第一号二及び第二号の農林水産大臣が定める要件は、次に掲げるものとする。</p> <p>一 肥料の品質の確保等に関する法律（昭和二十五年法律第二百一十七号。以下「法」という。）第四条第二項第二号に掲げる普通肥料（以下「指定配合肥料等」という。）（次号に該当するものを除く。）にあつては、当該指定配合肥料等の保証成分量を当該指定配合肥料等の主成分の含有量に基づき保証することとし、かつ、当該指定配合肥料等を生産した日から四週間を経過した日以後に、当該指定配合肥料等の主成分（当該指定配合肥料等の原料として使用した普通肥料において保証されたもの（原料として使用した普通肥料においてく溶性りん酸及び可溶性りん酸が保証された当該指定配合肥料等の可溶性りん酸を除</p>

はく溶性りん酸を除き、有効石灰を保証する指定配合肥料等にあつてはアルカリ分を除く。）に限る。）の含有量が、当該指定配合肥料等の原料として使用した普通肥料ごとに原料として使用した普通肥料の保証成分量に原料として使用した普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値（別表第一欄に掲げる指定配合肥料等にあつては、第二欄に掲げる主成分の含有量として第三欄に掲げる値）の百分の八十以上（合算した値が五未満の場合には百分の五十以上）であることとする。

二 指定配合肥料等（原料として使用した普通肥料において保証された主成分の非水溶化が生じたものに限る。）にあつては、次に掲げるものとする。

（一） 当該指定配合肥料等の保証成分量を当該指定配合肥料等の主成分の含有量に基づき保証すること。

（二） 当該指定配合肥料等を生産した日から四週間を経過した日以後に、当該指定配合肥料等の非水溶化が生じた主成分（当該指定配合肥料等の原料として使用した普通肥料において保

く。）に限る。）の含有量が、当該指定配合肥料等の原料として使用した普通肥料ごとに原料として使用した普通肥料の保証成分量に原料として使用した普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値（別表第一欄に掲げる指定配合肥料等にあつては、第二欄に掲げる主成分の含有量として第三欄に掲げる値）の百分の八十以上（合算した値が五未満の場合には百分の五十以上）であることとする。

二 指定配合肥料等（原料として使用した普通肥料において保証された主成分の非水溶化が生じたものに限る。）にあつては、次に掲げるものとする。

（一） 当該指定配合肥料等の保証成分量を当該指定配合肥料等の主成分の含有量に基づき保証すること。

（二） 当該指定配合肥料等を生産した日から四週間を経過した日以後に、当該指定配合肥料等の非水溶化が生じた主成分（当該指定配合肥料等の原料として使用した普通肥料において保

証されたものに限り、原料として使用した普通肥料において、可溶性りん酸及び可溶性りん酸が保証されたものであつて、可溶性りん酸のみの非水溶化が生じたものの可溶性りん酸を除く。）の含有量が、当該指定配合肥料等を生産した直後の当該成分の含有量の百分の八十以上であること。

(三) 当該指定配合肥料等の(二)に掲げる主成分以外の主成分（当該指定配合肥料等の原料として使用した普通肥料において保証された主成分に限る。）の含有量が前号に規定する要件を満たすこと。

三 法第四条第二項第三号に掲げる普通肥料（以下「特殊肥料等入り指定混合肥料」という。）（次号に該当するもの及び主成分を保証する普通肥料を原料として使用しないものを除く。）にあつては、当該特殊肥料等入り指定混合肥料を生産した日から四週間を経過した日以後に、当該特殊肥料等入り指定混合肥料の主成分（当該特殊肥料等入り指定混合肥料の原料として使用した普通肥料において保証されたもの（可溶性りん酸の含有

証されたものに限り、原料として使用した普通肥料において、可溶性りん酸及び可溶性りん酸が保証されたものであつて、可溶性りん酸のみの非水溶化が生じたものの可溶性りん酸を除く。）の含有量が、当該指定配合肥料等を生産した直後の当該成分の含有量の百分の八十以上であること。

(三) 当該指定配合肥料等の(二)に掲げる主成分以外の主成分（当該指定配合肥料等の原料として使用した普通肥料において保証された主成分に限る。）の含有量が前号に規定する要件を満たすこと。

三 法第四条第二項第三号に掲げる普通肥料（以下「特殊肥料等入り指定混合肥料」という。）（次号に該当するもの及び主成分を保証する普通肥料を原料として使用しないものを除く。）にあつては、当該特殊肥料等入り指定混合肥料を生産した日から四週間を経過した日以後に、当該特殊肥料等入り指定混合肥料の主要な成分（当該特殊肥料等入り指定混合肥料の原料として使用した普通肥料において保証されたもの（原料として使用

量を記載する特殊肥料等入り指定混合肥料にあつては可溶性りん酸を除き、可溶性りん酸の含有量を記載する特殊肥料等入り指定混合肥料にあつては可溶性りん酸を除き、有効石灰の含有量を記載する指定配合肥料等にあつてはアルカリ分を除く。）に限る。）の含有量が、当該特殊肥料等入り指定混合肥料の原料として使用した普通肥料又は特殊肥料ごとに原料として使用した普通肥料の保証成分量若しくは主成分の含有量又は特殊肥料の主成分の含有量（主成分を保証した普通肥料以外の肥料にあつては、法第十八条第一項に規定する保証票（以下単に「保証票」という。）に記載されていない、又は法第二十二條の二第一項に掲げる事項（以下「表示事項」という。）として表示されていない主成分の含有量を含む。）に原料として使用した当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値（別表第一欄に掲げる特殊肥料等入り指定混合肥料にあつては、第二欄に掲げる主成分の含有量として第三欄に掲げる値）の百分の八十以上（合算した値が五未満の場合には百分の五十以上）であるこ

した普通肥料において可溶性りん酸及び可溶性りん酸が保証された当該特殊肥料等入り指定混合肥料の可溶性りん酸を除く。）に限る。）の含有量が、当該特殊肥料等入り指定混合肥料の原料として使用した普通肥料又は特殊肥料ごとに原料として使用した普通肥料の保証成分量若しくは主成分の含有量又は特殊肥料の主要成分の含有量（主成分を保証した普通肥料以外の肥料にあつては、法第十八条第一項に規定する保証票（以下単に「保証票」という。）に記載されていない、又は法第二十二條の二第一項に掲げる事項（以下「表示事項」という。）として表示されていない主要成分の含有量を含む。）に原料として使用した当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値（別表第一欄に掲げる特殊肥料等入り指定混合肥料にあつては、第二欄に掲げる主要成分の含有量として第三欄に掲げる値）の百分の八十以上（合算した値が五未満の場合には百分の五十以上）であることとする。

ととする。

四 特殊肥料等入り指定混合肥料（原料として使用した普通肥料において保証された主成分の非水溶化が生じたものに限る。）にあつては、当該特殊肥料等入り指定混合肥料を生産した日から四週間を経過した日以後に、当該特殊肥料等入り指定混合肥料の非水溶化が生じた主成分（当該特殊肥料等入り指定混合肥料の原料として使用した普通肥料において保証されたものに限る、原料として使用した普通肥料においてく溶性りん酸及び可溶性りん酸が保証され、かつ、可溶性りん酸のみの非水溶化が生じた当該特殊肥料等入り指定混合肥料の可溶性りん酸を除く。）の含有量が当該特殊肥料等入り指定混合肥料を生産した直後の当該成分の含有量の百分の八十以上であり、かつ、当該特殊肥料等入り指定混合肥料のその他の主成分（当該特殊肥料等入り指定混合肥料の原料として使用した普通肥料において保証されたものに限る。）の含有量が前号に規定する要件を満たすこととする。

四 特殊肥料等入り指定混合肥料（原料として使用した普通肥料において保証された主要な成分の非水溶化が生じたものに限る。）にあつては、当該特殊肥料等入り指定混合肥料を生産した日から四週間を経過した日以後に、当該特殊肥料等入り指定混合肥料の非水溶化が生じた主要な成分（当該特殊肥料等入り指定混合肥料の原料として使用した普通肥料において保証されたもの限り、原料として使用した普通肥料においてく溶性りん酸及び可溶性りん酸が保証され、かつ、可溶性りん酸のみの非水溶化が生じた当該特殊肥料等入り指定混合肥料の可溶性りん酸を除く。）の含有量が当該特殊肥料等入り指定混合肥料を生産した直後の当該成分の含有量の百分の八十以上であり、かつ、当該特殊肥料等入り指定混合肥料のその他の主要な成分（当該特殊肥料等入り指定混合肥料の原料として使用した普通肥料において保証されたものに限る。）の含有量が前号に規定する要件を満たすこととする。

五 法第四条第二項第四号に掲げる普通肥料（以下「土壤改良資材入り指定混合肥料」という。）（次号に該当するもの及び主成分を保証する普通肥料を原料として使用しないものを除く。）にあつては、当該土壤改良資材入り指定混合肥料を生産した日から四週間を経過した日以後に、当該土壤改良資材入り指定混合肥料の主成分（当該土壤改良資材入り指定混合肥料の原料として使用した普通肥料において保証されたもの（く溶性りん酸の含有量を記載する土壤改良資材入り指定混合肥料にあつては可溶性りん酸を除き、可溶性りん酸の含有量を記載する土壤改良資材入り指定混合肥料にあつてはく溶性りん酸を除き、有効石灰の含有量を記載する土壤改良資材入り指定混合肥料にあつてはアルカリ分を除く。）に限る。）の含有量が、当該土壤改良資材入り指定混合肥料の原料として使用した普通肥料又は特殊肥料ごとに原料として使用した普通肥料の保証成分量若しくは主成分の含有量又は特殊肥料の主成分の含有量（主成分を保証した普通肥料以外の肥料にあつては、保証票に記載されて

五 法第四条第二項第四号に掲げる普通肥料（以下「土壤改良資材入り指定混合肥料」という。）（次号に該当するもの及び主成分を保証する普通肥料を原料として使用しないものを除く。）にあつては、当該土壤改良資材入り指定混合肥料を生産した日から四週間を経過した日以後に、当該土壤改良資材入り指定混合肥料の主要な成分（当該土壤改良資材入り指定混合肥料の原料として使用した普通肥料において保証されたもの（原料として使用した肥料においてく溶性りん酸及び可溶性りん酸が保証された普通肥料の可溶性りん酸を除く。）に限る。）の含有量が、当該土壤改良資材入り指定混合肥料の原料として使用した普通肥料又は特殊肥料ごとに原料として使用した普通肥料の保証成分量若しくは主要な成分の含有量又は特殊肥料の主要な成分の含有量（主成分を保証した普通肥料以外の肥料にあつては、保証票に記載されていない、又は表示事項として表示されていない主要な成分の含有量を含む。）に原料として使用した当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値（別表第一欄

いない、又は表示事項として表示されていない主成分の含有量を含む。）に原料として使用した当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値（別表第一欄に掲げる土壤改良資材入り指定混合肥料にあつては、第二欄に掲げる主成分の含有量として第三欄に掲げる値）の百分の八十以上（合算した値が五未満の場合には百分の五十以上）であることとする。

六 土壤改良資材入り指定混合肥料（原料として使用した普通肥料において保証された主成分の非水溶化が生じたものに限る。）にあつては、当該土壤改良資材入り指定混合肥料を生産した日から四週間を経過した日以後に、当該土壤改良資材入り指定混合肥料の非水溶化が生じた主成分（当該土壤改良資材入り指定混合肥料の原料として使用した普通肥料において保証されたものに限り、原料として使用した普通肥料においてく溶性りん酸及び可溶性りん酸が保証され、かつ、可溶性りん酸のみの非水溶化が生じた当該土壤改良資材入り指定混合肥料の可溶性りん酸を除く。）の含有量が当該土壤改良資材入り指定混合肥料

に掲げる土壤改良資材入り指定混合肥料にあつては、第二欄に掲げる主要な成分の含有量として第三欄に掲げる値）の百分の八十以上（合算した値が五未満の場合には百分の五十以上）であることとする。

六 土壤改良資材入り指定混合肥料（原料として使用した普通肥料において保証された主要な成分の非水溶化が生じたものに限る。）にあつては、当該土壤改良資材入り指定混合肥料を生産した日から四週間を経過した日以後に、当該土壤改良資材入り指定混合肥料の非水溶化が生じた主要な成分（当該土壤改良資材入り指定混合肥料の原料として使用した普通肥料において保証されたものに限り、原料として使用した普通肥料においてく溶性りん酸及び可溶性りん酸が保証され、かつ、可溶性りん酸のみの非水溶化が生じた当該土壤改良資材入り指定混合肥料の可溶性りん酸を除く。）の含有量が当該土壤改良資材入り指定

を生産した直後の当該成分の含有量の百分の八十以上であり、かつ、当該土壌改良資材入り指定混合肥料のその他の主成分（当該土壌改良資材入り指定混合肥料の原料として使用した普通肥料において保証されたものに限る。）の含有量が前号に規定する要件を満たすこととする。

附一 この告示に掲げる主成分の定量方法及び量の算出は、独立行政法人農林水産消費安全技術センターが定める肥料等試験法によること。

（削る）

別表

第一欄	第二欄	第三欄
原料として	特例告示の別	次の（一）、（二）及び（三）（指定配合
使用した肥	表の上欄に掲	肥料等にあつては、（一）及び（二）

混合肥料を生産した直後の当該成分の含有量の百分の八十以上であり、かつ、当該土壌改良資材入り指定混合肥料のその他の主要な成分（当該土壌改良資材入り指定混合肥料の原料として使用した普通肥料において保証されたものに限る。）の含有量が前号に規定する要件を満たすこととする。

附一 この告示に掲げる主成分及び主要な成分の定量方法及び量の算出は、独立行政法人農林水産消費安全技術センターが定める肥料等試験法によること。

二 肥料の生産業者は、この告示の規定に基づき品質が低下するおそれがないことを確認するために定量し、又は算出した量を示す資料を保管すること。

別表

第一欄	第二欄	第三欄
原料として	特例告示の別	次の（一）、（二）及び（三）（指定配合
使用した肥	表の上欄に掲	肥料等にあつては、（一）及び（二）

料において 昭和五十九 年三月十六 日農林水産 省告示第六 百九十九号 (肥料の品 質の確保等 に関する法 律施行規則 第十一条第 八項ただし 書及び同条 第九項ただ し書の規定 に基づき指	げる主成分	
値	により求めた値を合算した	
(一) 原料として使用した肥料のうち特例告示の別表の上欄に掲げる主成分を保証し、又は含有量を記載し、若しくは表示したものごとに当該主成分の保証成分量又は含有量(以下「保証成分量等」という。)に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算する。		
(二) 原料として使用した肥料(特例告示の別表の上欄に		
料において 昭和五十九 年三月十六 日農林水産 省告示第六 百九十九号 (肥料の品 質の確保等 に関する法 律施行規則 第十一条第 八項ただし 書及び第九 項ただし書 の規定に基 づき指定混	げる主成分又 は主要な成分	
値	により求めた値を合算した	
(一) 原料として使用した肥料のうち特例告示の別表の上欄に掲げる主成分又は主要な成分(以下「主成分等」という。)を保証し、又は含有量を記載し、若しくは表示したものごとに当該主成分の保証成分量又は主要な成分の含有量(以下「保証成分量等」という。)に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算する。		
(二) 原料として使用した肥料(特例告示の別表の上欄に		

定混合肥料	の保証又は	主成分の含	有量の記載	の方法の特	例を定める	件。以下「	特例告示」	という。」	の別表の区	分ごとの上	欄に掲げる	主成分及び	下欄に掲げ	る主成分が	保証された
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

掲げる主成分を保証し、又	は含有量を記載し、若しく	は表示したものを除く。」	のうち同表下欄に掲げる主	成分（同表の一の区分の下	欄に掲げる二種類の主成分	を保証し、又は含有量を記	載し、若しくは表示したも	のにあつてはそれぞれの主	成分、同表二、五、七又は	九の区分の下欄に掲げる二	種類の主成分を保証し、又	は含有量を記載し、若しく	は表示したものにあっては	二種類の主成分のうち保証	成分量等の大きい主成分）
--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------

合肥料の保	証又は主要	な成分の含	有量の記載	の方法の特	例を定める	件。以下「	特例告示」	という。」	の別表の区	分ごとの上	欄に掲げる	主成分及び	下欄に掲げ	る主成分が	保証された
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

掲げる主成分等を保証し、	又は含有量を記載し、若し	くは表示したものを除く。	のうち同表下欄に掲げる	主成分等（同表の一の区分	の下欄に掲げる二種類の主	成分を保証し、又は含有量	を記載し、若しくは表示し	たものにあってはそれぞれ	の主成分等、同表二、五、	七又は九の区分の下欄に掲	げる二種類の主成分等を保	証し、又は含有量を記載し	、若しくは表示したものに	あつては二種類の主成分等	のうち保証成分量等の大き
--------------	--------------	--------------	-------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------

指定配合肥	料等、特殊	肥料等入り	指定混合肥	料及び土壌	改良資材入	り指定混合	肥料（以下	「指定混合	肥料」とい	う。）（原	料として使	用した肥料	においてく	溶性りん酸	及び可溶性
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

の保証成分量等に当該肥料	の配合割合を乗じて得た値	を合算する。	(三) 原料として使用した肥料	(主成分を保証した普通肥	料及び特例告示の別表の上	欄又は下欄に掲げる主成分	の含有量を記載し、又は表	示した肥料を除く。)のう	ち同表の上欄に掲げる主成	分(同表の二、三若しくは	四の区分の上欄に掲げる主	成分のうち複数の種類の主	成分、同表の五及び六の区	分の上欄に掲げる二種類の	主成分、同表の七及び八の
--------------	--------------	--------	-----------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------

指定配合肥	料等、特殊	肥料等入り	指定混合肥	料及び土壌	改良資材入	り指定混合	肥料（以下	「指定混合	肥料」とい	う。）（原	料として使	用した肥料	においてく	溶性りん酸	及び可溶性
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

い主成分等)の保証成分量	等に当該肥料の配合割合を	乗じて得た値を合算する。	(三) 原料として使用した肥料	(主成分を保証した普通肥	料及び特例告示の別表の上	欄又は下欄に掲げる主要な	成分の含有量を記載し、又	は表示した肥料を除く。)の	うち同表の上欄に掲げる	主要な成分(同表の二、三	若しくは四の区分の上欄に	掲げる主要な成分のうち複	数の種類の主要な成分、同	表の五及び六の区分の上欄	に掲げる二種類の主要な成
--------------	--------------	--------------	-----------------	--------------	--------------	--------------	--------------	---------------	-------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------

りん酸が保	証されたも	の並びに原	料として使	用した肥料	において保	証された可	溶性りん酸	又は水溶性	りん酸の非	水溶化が生	じたもの（	原料として	使用した普	通肥料にお	いて保証さ
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

区分の上欄に掲げる二種類	の主成分又は同表の九及び	十の区分の上欄に掲げる二	種類の主成分を含有するも	のにあつては、複数の種類	の主成分のうち最も含有量	の大きい主成分）の含有量	に当該肥料の配合割合を乗	じて得た値を合算する。
--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	-------------

りん酸が保	証されたも	の並びに原	料として使	用した肥料	において保	証された可	溶性りん酸	又は水溶性	りん酸の非	水溶化が生	じたもの（	原料として	使用した普	通肥料にお	いて保証さ
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

分、同表の七及び八の区分	の上欄に掲げる二種類の主	要な成分又は同表の九及び	十の区分の上欄に掲げる二	種類の主要な成分を含有す	るものにあつては、複数の	種類の主要な成分のうち最	も含有量の大きい主要な成	分）の含有量に当該肥料の	配合割合を乗じて得た値を	合算する。
--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	-------

性りん酸及	において可溶	普通肥料に	て使用した	に原料とし	るもの並び	酸に限られ	水溶性りん	りん酸及び	量、く溶性	はりん酸全	性りん酸又	酸及び水溶	く溶性りん	の主成分が	れたりん酸
-------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

性りん酸及	において可溶	普通肥料に	て使用した	に原料とし	るもの並び	酸に限られ	水溶性りん	りん酸及び	量、く溶性	はりん酸全	性りん酸又	酸及び水溶	く溶性りん	の主成分が	れたりん酸
-------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

び水溶性り	ん酸が保証	され、かつ	、可溶性り	ん酸の非水	溶化が生じ	ないものを	除く。ゝの	く溶性りん	酸又は可溶	性りん酸に	ついてはこ	の限りでな	い。ゝ	原料として	使用した肥
														又は可溶性り	く溶性りん酸
														配合肥料等にあつては、(一)、	次の(一)、(二)、(三)及び(四)(指定

料において	ん酸のうち指	(二)及び(三)により求めた値を
く溶性りん	定混合肥料に	合算した値
酸及び可溶	において保証さ	(一) 原料として使用した肥料
性りん酸が	れ、又は含有	のうち保証等りん酸を保証
保証された	量が記載され	し、又は含有量を記載した
指定混合肥	るもの(以下	ものごとに保証等りん酸の
料	この表におい	保証成分量等に当該肥料の
	て「保証等り	配合割合を乗じて得た値を
	ん酸」という	合算する。
	。	(二) 原料として使用した肥料
		(保証等りん酸を保証し、
		又は含有量を記載したもの
		を除く。)のうち保証等り
		ん酸がく溶性りん酸である
		ものにあつては可溶性りん
		酸、保証等りん酸が可溶性

料において	く溶性りん	(二)及び(三)により求めた値を
酸及び可溶	酸及び可溶	合算した値
性りん酸が	性りん酸が	(一) 原料として使用した肥料
保証された	保証された	のうちく溶性りん酸を保証
指定混合肥	指定混合肥	し、又は含有量を記載した
料	料	ものごとに当該く溶性りん
		酸の保証成分量等に当該肥
		料の配合割合を乗じて得た
		値を合算する。
		(二) 原料として使用した肥料
		のうち可溶性りん酸を保証
		し、又は含有量を記載した
		ものごとに当該可溶性りん
		酸の保証成分量等に当該肥
		料の配合割合を乗じて得た
		値を合算する。

りん酸であるものにあつては、可溶性りん酸を保證し、又は含有量を記載したものごとに保證等りん酸が可溶性りん酸であるものにあつては可溶性りん酸、保證等りん酸が可溶性りん酸であるものにあつては可溶性りん酸の保證成分量等に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算する。

(三) 原料として使用した肥料（可溶性りん酸又は可溶性りん酸を保證し、又は含有量を記載したものを除く。）のうち水溶性りん酸を保

(三) 原料として使用した肥料（可溶性りん酸又は可溶性りん酸を保證し、又は含有量を記載したものを除く。）のうち水溶性りん酸を保

証し、又は含有量を記載したものと当該水溶性りん酸の保証成分量等に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算する。

(四) 原料として使用した肥料（主成分を保証する普通肥料及びく溶性りん酸、可溶性りん酸又は水溶性りん酸の含有量を記載し、又は表示した肥料を除く。）のうち保証等りん酸を含有するものと当該成分の含有量に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算する。

証し、又は含有量を記載したものと当該水溶性りん酸の保証成分量等に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算する。

(四) 原料として使用した肥料（主成分を保証する普通肥料及びく溶性りん酸、可溶性りん酸又は水溶性りん酸（この号において「く溶性りん酸等」という。）の含有量を記載し、又は表示した肥料を除く。）のうちく溶性りん酸等（く溶性りん酸等のうち複数の種類の成分を含有する肥料にあって

	アルカリ分 を保証し、 又は含有す る肥料に水 酸化苦土肥 料、炭酸苦 土肥料又は 副産肥料（ 専ら苦土含 有物を原料
	アルカリ分
	次の（一）及び（二）により求めた値 を合算した値 （一）原料として使用した肥料 のうちアルカリ分を保証し 、又は含有量を記載したも のごとに当該アルカリ分の 保証成分量等に当該肥料の 配合割合を乗じて得た値を 合算する。 （削る）
	アルカリ分 を保証し、 又は含有す る肥料に水 酸化苦土肥 料、炭酸苦 土肥料又は 副産苦土肥 料を配合し た指定混合
	アルカリ分
は、く溶性りん酸等のうち 最も含有量の大きいもの） を含有するものごとに当該 成分の含有量に当該肥料の 配合割合を乗じて得た値を 合算する。	次の（一）、（二）、（三）及び（四）により 求めた値を合算した値 （一）原料として使用した肥料 のうちアルカリ分を保証し 、又は含有量を記載したも のごとに当該アルカリ分の 保証成分量等に当該肥料の 配合割合を乗じて得た値を 合算する。 （二）水酸化苦土肥料を原料と

として使用	したもので	あつて、く	溶性苦土又	は可溶性苦	土を保証し	、アルカリ	分を保証し	ないものに	限る。以下	この号にお	いて同じ。	を配合し	た指定混合	肥料
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	----

(二)	可溶性苦土又は可溶性苦土を保証する肥料（アルカリ分を保証する肥料を除く）	(削る)
-----	--------------------------------------	------

肥料

(三)	炭酸苦土肥料を原料として使用した場合には、当該肥料ごとに当該肥料の可溶性苦土の保証成分量に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値に一・三九を乗ずる。	(四)	可溶性苦土又は可溶性苦土を保証する肥料を原料として使用した場合には、当
-----	---	-----	-------------------------------------

	<p>。を原料として使用した場合には、当該肥料ごとに当該肥料の当該主成分（可溶性苦土及び可溶性苦土を保証する場合には、可溶性苦土）の保証成分量に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値に一・三九を乗ずる。</p>
	<p>該肥料ごとに当該肥料の当該成分（可溶性苦土及び可溶性苦土を保証する場合には、可溶性苦土）の保証成分量に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値に一・三九を乗ずる。</p>

附 則

1 この告示は、肥料取締法の一部を改正する法律附則第一条第二号に掲げる規定の施行の日（令和三年十月一日）から施行する。

2 この告示の施行の際現に肥料取締法の一部を改正する法律による改正前の肥料取締法第四条各項の規定による登録を受けている普通肥料であつて、肥料の品質の確保等に関する法律第四条第二項第二号から第四号までに掲げる普通肥料に使用されるものに係るこの告示による改正後の令和二年十一月五日農林水産省告示第二千百五十九号（肥料の品質の確保等に関する法律施行規則別表第一号二及び第二号の規定に基づき、化学的変化により品質が低下するおそれがないものとして農林水産大臣が定める要件を定める件）別表アルカリ分を保証し、又は含有する肥料に水酸化苦土肥料、炭酸苦土肥料又は副産肥料（専ら苦土含有物を原料として使用したものであつて、く溶性苦土又は可溶性苦土を保証し、アルカリ分を保証しないものに限る。以下この号において同じ。）を配合した指定混合肥料の項の規定の適用については、原料として使用する普通肥料がその登録の更新を受けるまでは、なお従前の例による。

○農林水産省告示第 号

肥料取締法の一部を改正する法律（令和元年法律第六十二号）の一部の施行に伴い、及び肥料の品質の確保等に関する法律（昭和二十五年法律第二百二十七号）第三条第一項の規定に基づき、昭和六十一年二月二十日農林水産省告示第二百八十四号（肥料の品質の確保等に関する法律に基づき普通肥料の公定規格を定める等の件）の一部を次のように改正し、同法第三条第二項の規定に基づき、公告する。

令和三年 月 日

（案）

農林水産大臣 野上浩太郎

次の表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分（以下「傍線部分」という。）でこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線部分があるものは、これを当該傍線部分のように改め、改正後欄に掲げる規定の傍線部分でこれに対応する改正前欄に掲げる規定の傍線部分がないものは、これを加え、改正前欄に掲げる規定の傍線部分でこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線部分がないものは、これを削る。

改正後				改正前			
一 窒素質肥料（有機質肥料（動植物質のものに限る。）を除く。） （1）登録の有効期間が六年であるもの				一 窒素質肥料（有機質肥料（動植物質のものに限る。）を除く。） （1）登録の有効期間が六年であるもの			
肥料の種類	硫酸アンモニ ア		硝酸石灰	肥料の種類	硫酸アンモニ ア		硝酸石灰
含有すべき主成分の最小量（％）	一 アンモニ ア性窒素 二〇・五 二 アンモニ ア性窒素の ほか可溶性 硫黄を保証 するものに あつては、 一に掲げる もののほか 可溶性硫黄 一・〇		一 硝酸性窒 素 一〇・〇	含有すべき主成分の最小量（％）	アンモニ ア性窒素 二〇・五 （新設）		硝酸性窒 素 一〇・〇
含有を許される有害成分の最大量（％）	（略）		（略）	含有を許される有害成分の最大量（％）	（略）		（略）
その他の制限事項			（略）	その他の制限事項			（略）

(削る)	(略)	
(削る)	(略)	二 硝酸性窒素のほか可溶性石灰、可溶性石灰又は水溶性石灰を保証する場合には、あつては、一に掲げるもののほか可溶性石灰については一・〇、可溶性石灰については一・〇、水溶性石灰については一・〇
(削る)	(略)	
(削る)	(略)	

被覆窒素肥料（窒素質肥料を硫酸その他の被覆原料で被覆したものという。）	(略)	
一 窒素全量、アンモニウム窒素、硝酸性窒素又はアンモニウム窒素及び硝酸性窒素の合計量のいずれかについて	(略)	(新設)
窒素全量、アンモニウム窒素、硝酸性窒素又はアンモニウム窒素及び硝酸性窒素の含有率	(略)	
一 窒素は、水溶性であること。 二 窒素の初期溶出率は、五〇％以下であること。 三 牛、めん羊又は山羊（以下「牛等」という。）	(略)	

二	一	一・〇・〇	（由来の原料）
1	アンモニ	つき	牛の皮に由来す
	ア性窒素を	硫青酸化物	るゼラチン及び
	保証するも	〇・〇・一	コラーゲンを除
	のにあつて	ひ素	く。以下同じ。
	は	〇・〇・〇四	（を使用する場
	アンモニア	亜硝酸	合にあつては、
	性窒素	〇・〇・四	肥料の品質の確
	一・〇	ピウレット	保等に関する法
2	硝酸性窒	性窒素	律施行規則（昭
	素を保証す	〇・〇・二	和二十五年農林
	るものにあ	スルフアミ	省令第六十四号
	つては	ン酸	。以下「規則」
	硝酸性窒素	〇・〇・一	という。）別表
三	一・〇		第一号ホに規定
	水溶性苦土		するところによ
	を保証するも		り牛、めん羊、
	のにあつては		山羊及び鹿によ
	水溶性苦土		る牛等由来の原
	一・〇		料を使用して生
四			産された肥料の
	水溶性マン		摂取に起因して
	ガンを保証す		生ずるこれらの
	るものにあつ		家畜の伝達性海
	ては		綿状脳症の発生
	水溶性マンガ		を予防するため
	ン 〇・一〇		の措置（以下「
五			管理措置」とい
	水溶性ほう		う。）が行われ
	素を保証する		たものであるこ
	ものにあつて		と。
	は		
	水溶性ほう素		

	(削る)	
	(削る)	
	(削る)	
	(削る)	
	混合窒素肥料（窒素質肥料に、窒素質肥料、苦土肥料、マンガン質肥料、ほう素質肥料又は微量要素複合肥料を混合したものをいう。）	
<p>三 </p> <p>一 窒素全量、アンモニア性窒素、硝酸性窒素又はアンモニア性窒素及び硝酸性窒素の合計量のいずれかについて</p> <p>二 </p> <p>一五・〇</p> <p>二一 アンモニア性窒素を保証するものにあつては</p> <p>は</p> <p>アンモニア性窒素</p> <p>一・〇</p> <p>二 硝酸性窒素を保証するものにあつては</p> <p>硝酸性窒素</p> <p>一・〇</p> <p>水溶性苦土</p>	<p>一 窒素全量、アンモニア性窒素、硝酸性窒素又はアンモニア性窒素及び硝酸性窒素の合計量のいずれかについて</p> <p>一五・〇</p> <p>二一 アンモニア性窒素を保証するものにあつては</p> <p>は</p> <p>アンモニア性窒素</p> <p>一・〇</p> <p>二 硝酸性窒素を保証するものにあつては</p> <p>硝酸性窒素</p> <p>一・〇</p> <p>水溶性苦土</p>	〇・〇五
<p>三 </p> <p>一 窒素全量、アンモニア性窒素、硝酸性窒素又はアンモニア性窒素及び硝酸性窒素の合計量のいずれかについて</p> <p>二 </p> <p>一五・〇</p> <p>二一 アンモニア性窒素を保証するものにあつては</p> <p>は</p> <p>アンモニア性窒素</p> <p>一・〇</p> <p>二 硝酸性窒素を保証するものにあつては</p> <p>硝酸性窒素</p> <p>一・〇</p> <p>水溶性苦土</p>	<p>一 窒素全量、アンモニア性窒素、硝酸性窒素又はアンモニア性窒素及び硝酸性窒素の合計量の含有率一〇・〇％につき</p> <p>硫酸化物</p> <p>〇・〇一</p> <p>亜硝酸</p> <p>〇・〇〇四</p> <p>ピウレット性窒素</p> <p>〇・〇四</p> <p>スルファミン酸</p> <p>〇・〇一</p>	
	<p>一 牛等由来の原料を使用する場合にあつては、管理措置が行われたものであること。</p> <p>二 規則第七条の六第一号の農林水産大臣が指定する混合窒素肥料であること。</p>	<p>四 規則第七条の六第一号の農林水産大臣が指定する被覆窒素肥料であること。</p>

(2) 登録の有効期間が三年又は六年であるもの		肥料の種類	被覆窒素肥料 (窒素質肥料 又は副産肥料 (専ら原料規格 第二中一の項 から五の項 までに掲げる
		含有すべき主成分の最小量 (%)	一 窒素全量、アンモニウム性窒素、硝酸性窒素又はアンモニウム性窒素及び硝酸性窒素
		含有を許される有害成分の最大量 (%)	窒素全量、アンモニウム性窒素、硝酸性窒素又はアンモニウム性窒素及び硝酸性窒素
		その他の制限事項	一 窒素は、水溶性であること。 二 窒素の初期溶出率は、五〇％以下であること。 三 牛、めん羊又

(2) 登録の有効期間が三年であるもの		肥料の種類	被覆窒素肥料
	を保証するものにあつては 水溶性苦土 一・〇 四 水溶性マンガンを保証するものにあつては 水溶性マンガン 〇・一〇 五 水溶性ほう素を保証するものにあつては 水溶性ほう素 〇・〇五	含有すべき主成分の最小量 (%)	一 窒素全量、アンモニウム性窒素、硝酸性窒素又はアンモニウム性窒素及び硝酸性窒素の合計量の
		含有を許される有害成分の最大量 (%)	窒素全量、アンモニウム性窒素、硝酸性窒素又はアンモニウム性窒素及び硝酸性窒素
		その他の制限事項	一 窒素は、水溶性であること。 二 窒素の初期溶出率は、五〇％以下であること。 三 牛等由来の原

原料を使用し た肥料であつ て、窒素を保 証し、りん酸 及び加里を保 証しないもの に限る。を 硫黄その他の 被覆原料で被 覆したもの をいう。）									
窒素の合計 量のいずれ かについて	一〇・〇	二 一	アンモ ニア性窒 素を保証 するもの にあつて	は	アンモニ ア性窒素	一・〇	二 窒素を保 証するもの にあつて	硝酸性窒 素	一・〇
	〇・〇	硫青酸化 物	〇・〇一	〇・〇四	〇・〇四	〇・〇二	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一
は山羊（以下「 牛等」という。 ）由来の原料（ 牛の皮に由来す るゼラチン及び コラーゲンを除 く。以下同じ。 ）を使用する場 合にあつては、 肥料の品質の確 保等に関する法 律施行規則（昭 和二十五年農林 省令第六十四号 以下「規則」 という。）別表 第一号ホに規定 するところによ り牛、めん羊、 山羊及び鹿によ る牛等由来の原 料を使用して生 産された肥料の 摂取に起因して 生ずるこれらの 家畜の伝達性海 綿状脳症の発生 を予防するため の措置（以下「 管理措置」とい う。）が行われ									
いずれか一に ついて	一〇・〇	二 一	アンモニ ア性窒素を 保証するもの にあつて	は	アンモニ ア性窒素	一・〇	二 窒素を保証す るものにあつ ては	硝酸性窒 素	一・〇
	〇・〇	硫青酸化 物	〇・〇一	〇・〇四	〇・〇四	〇・〇二	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一
料を使用する場 合にあつては、 管理措置が行わ れたものである こと。									

五 登録の有効期
 間は、原料規格
 第一中一の項口
 、原料規格第二
 中一の項ヲ、二
 の項ホ、三の項
 へ、四の項ホ、
 五の項ハ、六の
 項ル、七の項ホ
 、八の項口、九
 の項ハ、十の項
 ヌ、十一の項ヌ
 、十二の項ハ、
 十三の項口又は
 十四の項に掲げ
 る原料（登録の
 有効期間が六年
 である肥料又は
 当該肥料を原料
 として使用する
 肥料の製造にお
 いて生じたもの
 を除く。）（以
 下「三年原料」
 という。）を使

（新設）

(削る)	
(削る)	
(削る)	
(削る)	用した肥料又は 登録の有効期間 が三年である肥 料（以下「三年 肥料等」と総称 する。）を原料 として使用する 肥料にあつては 三年、三年肥料 等を原料として 使用しない肥料 にあつては六年 である。

副産窒素肥料 （次に掲げる肥 料をいう。 一 食品工業又 は化学工業に おいて副産さ れたもの 二 石炭、石油 その他の燃料 の燃焼ガスの 脱硫処理又は 脱硝処理に伴 い副産された もの）	
一 窒素全量、 アンモニア性 窒素、硝酸性 窒素又はアン モニア性窒素 及び硝酸性窒 素の合計量の いずれかに ついて 七・〇 二一 アンモニ ア性窒素を 保証するも のにあつて は アンモニア 性窒素	
窒素全量、 アンモニア 性窒素、硝 酸性窒素又 はアンモニ ア性窒素及 び硝酸性窒 素の合計量 の含有率一 ・〇％につ き 硫青酸化物 〇・〇一 ひ素 〇・〇〇四 亜硝酸 〇・〇四	
一 植害試験の調 査を受け害が認 められないもの であること。 二 牛等由来の原 料を使用する場 合にあつては、 管理措置が行わ れたものである こと。 三 牛等の部位（ 牛等由来の原料 のうち、肉（食 用に供された後 に、又は食用に 供されずに肥料 の原料として使	

[illegible]

(削る)	
(削る)	
(削る)	
(削る)	
液状副産窒素肥料（食品工業、非鉄金属製造業又は化学工業において副産されたものをいう。）	
一 窒素全量、アンモニウム性窒素、硝酸性窒素又はアンモニウム性窒素及び硝酸性窒素の合計量のいずれかに	
窒素全量、アンモニウム性窒素、硝酸性窒素又はアンモニウム性窒素及び硝酸性窒素の合計量の含有率一	
一 植害試験の調査を受け害が認められないものであること。 二 牛等由来の原料を使用する場合にあつては、管理措置が行われたものである	胸椎横突起、腰椎横突起、頸椎棘突起、胸椎棘突起、腰椎棘突起、仙骨翼、正中仙骨稜及び尾椎を除く。 （昭和三十八年法律第一百四十四号第十四条の検査を経ない牛等の部位（以下「脊柱等」という。）が混合しないものとして農林水産大臣の確認を受けた工程において製造されたものであること。

	(削る)	
	(削る)	
	(削る)	
	(削る)	

液状窒素肥料	
<p>一 窒素全量、アンモニア性窒素、硝酸性窒素又はアンモニア性窒素及び硝酸性窒素の合計量のいずれかにについて</p> <p>二 アンモニキ五・〇</p> <p>は ア性窒素を保証するものにあつて</p> <p>〇・〇〇四</p>	<p>二 アンモニ五・〇</p> <p>ア性窒素を保証するものにあつて</p> <p>は アンモニア性窒素一・〇</p> <p>二 硝酸性窒素を保証するものにあつては</p> <p>硝酸性窒素一・〇</p> <p>スルファミン酸〇・〇一</p>
<p>窒素全量、アンモニア性窒素、硝酸性窒素又はアンモニア性窒素及び硝酸性窒素の合計量の含有率一・〇%につき</p> <p>硫酸化物〇・〇一</p> <p>ひ素〇・〇〇四</p>	<p>三 牛等の部位を原料とする場合</p> <p>に あつては、脊柱等が混合しないものとして農林水産大臣の確認を受けた工程において製造されたものであること。</p>
<p>一 窒素は、窒素質肥料、チオ硫酸アンモニウム、トリアゾン又はシアナミドに由来するものであること。</p> <p>二 チオ硫酸アンモニウムに由来する窒素を含むものは、pHが六・〇以上のものであること。</p> <p>三 シアナミドに</p>	

混合窒素肥料 (窒素質肥料 又は副産肥料 (専ら原料規	
主成分別表第 一のとおり。 ただし、同表 の記載にかか	
一 りん酸 又は加里 を保証し ないもの	
一 窒素全量を保 証する肥料は、 アンモニア性窒 素又は硝酸性窒	
混合窒素肥料	
一 窒素全量、 アンモニア性 窒素、硝酸性 窒素又はアン	アンモニア 性窒素 一・〇 二 硝酸性窒 素を保証す るものにあ つては 硝酸性窒素 一・〇 三 水溶性苦土 を保証するも のにあつては 水溶性苦土 一・〇 四 水溶性マン ガンを保証す るものにあつ ては 水溶性マンガ ン 〇・一〇 五 水溶性ほう 素を保証する ものにあつて は 水溶性ほう素 〇・〇五
窒素全量、 アンモニア 性窒素、硝 酸性窒素又	亜硝酸 〇・〇四 ピウレット 性窒素 〇・〇二 スルファミ ン酸 〇・〇一
(新設)	四 シアナミドに 由来する窒素を 含有するものに あつては、ジシ アンジアミド性 窒素は窒素全量 の二〇・〇％以 下であること。 五 牛等由来の原 料を使用する場 合にあつては、 管理措置が行わ れたものである こと。

格第二中一の項から五の項までに掲げる原料を使用した肥料であつて、窒素を保証し、りん酸及び加里を保証しないものに限る。）に	をらず、窒素全量、アンモニア性窒素又は硝酸性窒素のいずれか一について
窒素質肥料、有機質肥料、副産肥料等、石灰質肥料、けい酸質肥料、苦土質肥料、マンガ	
質肥料、ほう素質肥料又は微量要素複合肥料を混合したものをいう。	
二	素以外の形態の窒素を含有するもの並びにアンモニア性窒素及び硝酸性窒素を含有するものであること。
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二
二	二

過りん酸石	肥料の種類		(略)		
	一	含有すべき主成分の最小量(%)			
	可溶	含有すべき主成分の最大量(%)			
	(略)	含有を許される有害成分の最大量(%)			
		その他の制限事項			

(1) 登録の有効期間が六年であるもの

二りん酸質肥料（有機質肥料（動植物質のものに限る。）を除く。）

九 登録の有効期間は、三年原料を使用する肥料を原料として使用するものにあつては三年、三年原料を使用する肥料を原料として使用しないものにあつては六年である。

あつては、要植害確認原料が法第七条ただし書の規定に基づき植害試験の調査を受け害が認められないものであること。

過りん酸石	肥料の種類		(略)		
	可溶性りん酸	含有すべき主成分の最小量(%)			
		含有すべき主成分の最大量(%)			
	(略)	含有を許される有害成分の最大量(%)			
		その他の制限事項			

(1) 登録の有効期間が六年であるもの

二りん酸質肥料（有機質肥料（動植物質のものに限る。）を除く。）

(新設)

料以外のものであること。

灰

可溶性	ほか	ものの	掲げる	、一に	つては	のにあ	するも	を保証	性硫黄	は可溶	石灰又	水溶性	石灰、	く溶性	石灰、	可溶性	のほか	りん酸	水溶性	酸及び	性りん	二、可溶	○	一三・	りん酸	水溶性	○	一五・	酸	性りん
-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	---	-----	-----	-----	---	-----	---	-----

灰

水溶性りん酸

												重過りん酸 石灰											
性 り ん	二 可 溶	○	二 八 ・	水 溶 性 り ん 酸	三 〇 ・	酸 性 り ん	一 可 溶	一 ・ 〇	は つ い て	硫 黄 に	可 溶 性	一 ・ 〇	は つ い て	石 灰 に	水 溶 性	一 ・ 〇	は つ い て	石 灰 に	く 溶 性	一 ・ 〇	は つ い て	石 灰 に	
												(略)											
												重過りん酸 石灰											
(新設)												可溶性りん酸 三〇・〇 水溶性りん酸 二八・〇											
												(略)											

	熔成りん肥 ^{ようせいりんひ}	(略)	
く分ル酸性二 溶性及びリアん溶	一 酸性りん溶	(略)	石灰に ついて は、一・〇 可溶性 硫黄に ついて は、一・〇
	(略)	(略)	
	(略)		

	熔成りん肥 ^{ようせいりんひ}	(略)	
性けい酸、 のほかに溶 く溶性苦土 カリ分及び ん酸、アル	一 ん酸 く溶性り アルカリ分 四〇・〇 く溶性苦土 一二・〇	(略)	
	(略)	(略)	
	(略)		

にほく つう溶 い素性	一・ 〇	いては	ンマ ン溶 ガ性	く 〇	一・ 九	ては い酸 性	にけ つ溶 性	可 か の	ほ の る	も の に	掲 げ る	つ て は	の に あ る	す 保 証	を う 素	ほく 溶 性	ンマ 又 は	ン溶 ガ性	く 性	い 酸 性	溶 性	ほ 可 の	苦 土 の
-------------------	---------	-----	----------------	--------	---------	---------------	---------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	------------------	-------------	-------------	--------------	--------------	----------	--------	-------------	--------	-------------	-------------

〇・ 〇五	は 素 に つ い て	く 溶 性 ほ う	一・ 〇	ては	ガ ン に つ い	く 溶 性 マ ン	二・ 〇	は 酸 に つ い て	可 溶 性 け い	の ほ か	掲 げ る も の	ては、 一に	も の に あ つ	を 保 証 す る	溶 性 ほ う 素	ガ ン 又 は く	く 溶 性 マ ン
----------	----------------------------	-----------------------	---------	----	-----------------------	-----------------------	---------	----------------------------	-----------------------	-------------	-----------------------	-----------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------

(削る)	腐植酸りん肥(石炭又は亜炭を硝酸で分解し、熔成りん肥、焼成りん肥、りん肥、鉍石、塩基性のマグネシウム若しくはマンガン含有物又はほう酸塩及び硫酸又はりん酸を加えたものをいう。)	(略)	
(削る)	(略)	(略)	ては ○・○ 五
(削る)			
(削る)	(略)	(略)	
(削る)	(略)	(略)	

のをいう。	被覆りん酸肥料(りん酸質肥料を硫酸その他硫黄その他の被覆原料で被覆したものをいう。	(略)	
又は水溶性	一 水溶性りん酸 二 水溶性のほか	(略)	
○・○ ○ ○ ○ 一	水溶性りん酸の含有率一・〇%につきひ素 ○・〇〇四 カドミウム	(略)	
の原料を	一 りん酸の初期溶出率は五〇%以下であること。 二 牛等由来	(略)	

	(略)	(削る)
ては ○・ 五○	(略)	(削る)
	(略)	(削る)
	(略)	(削る)
	(略)	(削る)

	(略)	加工りん酸肥料(りん酸質肥料、熔成微量要素複合肥料、りん酸含有物、塩基性のカルシウム、マグネシウム若しくはマンガン含有物、銦さい又はほう酸塩に硫酸、りん酸又は塩酸を加えたものをいう。
	(略)	一 く溶性りん酸及び水溶性りん酸を保証するものにあつては 二 五・〇 水溶性りん酸一・〇 く溶性りん酸及び水溶性りん酸のほかく溶性苦土、水性苦土、溶解性マンガン、く溶性ほう素又は水溶性ほう素を保証するものにあつては、 一 に掲げる
	(略)	
	(略)	く溶性りん酸の含有率一・〇%につき 〇・〇〇四 カドミウム 〇・〇〇〇一 ニッケル 五 クロム 〇・一 チタン 〇・〇四
	(略)	一 牛等由来の原料を使用する場合にあつては、管理措置が行われたものであること。 二 規則第七條の六第二号の農林水産大臣が指定する加工りん酸肥料であること。

(削る)	
(削る)	
(削る)	
(削る)	
(削る)	

混合りん酸肥料(りん酸質肥料にりん酸質肥料、石灰質肥料、けい酸質肥料、苦土肥料、マンガンを含有する物質肥料、ほ素質肥料)	
<div> <div> 一、く溶性りん酸を保証するものにあつては、く溶性りん酸</div> <div> 二、く溶性りん酸及びアルカリ分を保証するも</div> </div>	<div> <div> ものほか、く溶性苦土については、二・〇</div> <div> 水溶性苦土については、一・〇</div> <div> く溶性マンガンのについては、一・〇</div> <div> く溶性ほう素については、一・〇</div> <div> は、素については、〇・〇五</div> </div>
く溶性りん酸及びりん酸以外の保証する主成分のうち最も大きい主成分の含有率	
<div> <div> 一、可溶性マンガンを保証する肥料は、原料として可溶性マンガンを保証する肥料を使用した場合、</div> <div> 二、牛等由来</div> </div>	<div> <div> 〇・〇〇二</div> <div> ひ素</div> </div>

又ハ微量要	素複合肥料	を混合した	ものをいう	。
のにあつて	は	く溶性りん	酸三・〇	アルカリ分
一五・〇	三	く溶性りん	酸又はアルカリ分の	ほかに水溶性
りん酸、可	溶性けい酸	、く溶性苦	土、水溶性	苦土、可溶
性マンガ	、く溶性マ	ンガン、水	溶性マンガ	ン、く溶性
ほう素又は	水溶性ほう	素を保証す	るものにあ	つては、一
又は二に掲	げるもの	ほかに	水溶性りん	酸について
一・〇	は	一・〇		
の原料を使	用する場合	にあつては	、管理措置	が行われた
ものである	こと。	三	規則第七	条の六第二
号の農林水	産大臣が指	定する混合	りん酸肥料	であること

可溶性けい	酸について	は	一〇・〇	く溶性苦土	について	一・〇	水溶性苦土	について	一・〇	可溶性マン	ガンについて	では	一・〇	く溶性マン	ガンについて	では	一・〇	水溶性マン	ガンについて	では	一・〇	く溶性ほう	素について	は	一・〇	水溶性ほう	素について	は	一・〇	可溶性けい

(2) 登録の有効期間が三年又は六年であるもの

肥料の種類	含有すべき主成分の最小量(%)	含有を許される有害成分の最大量(%)	その他の制限事項
被覆りん酸肥料(りん酸質肥料又は副産肥料)(専ら原料規格第二中六の項に掲げる原料を使用した肥料であつて、りん酸を保証し、窒素及び加里を保証しないものに限る。)	一 水溶性りん酸 一〇・〇 二 水溶性りん酸のほか水溶性石灰、水溶性苦土、水溶性マンガンを、水溶性ほう素又は可溶性硫黄を保証するものにあつては、一に掲げるもののほか、水溶性石灰については一・〇、水溶性苦土については一・〇	水溶性りん酸の含有率 一・〇%につき 〇・〇〇四 カドミウム 〇・〇〇〇 一五	一 りん酸の初期溶出率は五〇%以下であること。 二 牛等由来の原料を使用する場合にあつては、管理措置が行われたものであること。 三 要植害確認原料を使用する肥料を原料として使用する肥料にあつては、要植害確認原料が法第七条ただし書の規定に基づき植害試験の調査を受け害が認められないものであること。 四 登録の有効期

肥料の種類	含有すべき主成分の最小量(%)	含有を許される有害成分の最大量(%)	その他の制限事項
被覆りん酸肥料(りん酸質肥料を硫黄その他の被覆原料で被覆したものを用いる。)	一 水溶性りん酸 一〇・〇 二 水溶性りん酸のほか水溶性苦土又は水溶性ほう素を保証するものにあつては、一に掲げるもののほか、水溶性苦土については一・〇、水溶性ほう素については〇・〇五	水溶性りん酸の含有率 一・〇%につき 〇・〇〇四 カドミウム 〇・〇〇〇 一五	一 りん酸の初期溶出率は五〇%以下であること。 二 牛等由来の原料を使用する場合にあつては、管理措置が行われたものであること。 三 規則第七条の六第二号の農林水産大臣が指定する被覆りん酸肥料以外のものであること。 (新設)

(削る)	(削る)	
(削る)	(削る)	水溶性マンガンについては 〇・一〇 水溶性ほう素については 〇・〇五 可溶性硫黄については 一・〇
(削る)	(削る)	
(削る)	(削る)	間は、三年肥料等を原料として使用する肥料にあつては三年、三年肥料等を原料として使用しない肥料にあつては六年である。

酸性りん肥(下水)	液体りん酸肥料	
く溶性りん酸 五・〇	水溶性りん酸 一七・〇 水溶性苦土 三・〇	
酸性の含有率	水溶性りん酸の含有率 一・〇％につき 〇・〇〇四 カドミウム 〇・〇〇〇 一五	
一 二ミリのメートルの網ふるいを	一 牛等由来の原料を使用する場合にあつては、管理措置が行われたものであること。 二 牛等の部位を原料とする場合にあつては、脊柱等が混合しないものとして農林水産大臣の確認を受けた工程において製造されたものであること。	

保証し、窒素及び加里を保証しないものに限る。）	熔成微量元素複合肥料、りん酸含有物、塩基性のカルシウム、マグネシウム若しくはマンガン含有物、鉍さい又はほう酸塩に硫酸、りん酸又は塩酸を加えたものをいう。）
-------------------------	---

水溶性りん酸 一・〇	二 水溶性りん酸及び水溶性りん酸のほかに可溶性石灰、水溶性石灰、土、水溶性苦土、水溶性マンガン、水溶性ほう素、水溶性ほう素又は可溶性硫酸を保証するものにあつては、一に掲げるもののほか	可溶性石灰 一・〇	二 水溶性石灰 一・〇	水溶性石灰 一・〇
------------	---	-----------	-------------	-----------

使用する肥料にあつては、要植害確認原料が法第七条ただし書の規定に基づき植害試験の調査を受け害が認められないものであること。	三 登録の有効期間は、三年肥料等を原料として使用する肥料にあつては三年、三年肥料等を原料として使用しない肥料にあつては六年である
---	--

二 水溶性りん酸及び水溶性りん酸のほかに水溶性苦土、水溶性マンガン、水溶性ほう素又は水溶性ほう素を保証するものにあつては、一に掲げるもののほか	二・〇	水溶性苦土 一・〇	水溶性マンガン 一・〇	水溶性ほう素 一・〇	水溶性ほう素 〇・〇五	水溶性ほう素 〇・〇五
---	-----	-----------	-------------	------------	-------------	-------------

（新設）	する加工りん酸肥料以外のものであること。
------	----------------------

(削る)	
(削る)	く溶性苦土 については 二・〇 水溶性苦土 については 一・〇 く溶性マン ガンについ ては く溶性ほう 素についで は 〇・〇五 水溶性ほう 素についで は 〇・〇五 可溶性硫黄 については 一・〇
(削る)	
(削る)	

副産りん酸肥料 (次に掲げる肥 料をいう。 一 食品工業又 は化学工業に おいて副産さ れたもの 二 下水道の終 末処理場その	
一 ぐ溶性りん 酸を保証する ものにあつて は ぐ溶性りん酸 一五・〇 二 ぐ溶性りん 酸のほか水溶 性りん酸又は	
ぐ溶性りん 酸の含有率 一・〇％に つき ひ素 〇・〇〇四 カドミウム 〇・〇〇〇 一五	
一 植害試験の調 査を受け害が認 められないもの であること。 二 牛等由来の原 料を使用する場 合にあつては、 管理措置が行わ れたものである	

<p>質肥料、苦土</p> <p>肥料、けい酸</p> <p>料等、石灰質</p> <p>肥料、副産肥</p> <p>肥料、有機質</p> <p>に、りん酸質</p> <p>のに限る。）</p> <p>保証しないも</p> <p>素及び加里を</p> <p>を保証し、窒</p> <p>つて、りん酸</p> <p>した肥料であ</p> <p>る原料を使用</p> <p>六の項に掲げ</p> <p>肥料（専ら原</p> <p>肥料又は副産</p> <p>料規格第二中</p> <p>の記載にかか</p> <p>わらず、可溶</p> <p>性りん酸、く</p> <p>溶成りん酸又</p> <p>は水溶性りん</p> <p>酸のいずれか</p> <p>一について</p> <p>一・〇</p> <p>（削る）</p>	<p>混合りん酸肥</p> <p>料（りん酸質</p> <p>肥料又は副産</p> <p>肥料（専ら原</p> <p>料規格第二中</p> <p>の項に掲げら</p> <p>る原料を使用</p> <p>した肥料であ</p> <p>つて、りん酸</p> <p>を保証し、窒</p> <p>素及び加里を</p> <p>保証しないも</p> <p>のに限る。）</p> <p>に、りん酸質</p> <p>肥料、有機質</p> <p>肥料、副産肥</p> <p>料等、石灰質</p> <p>肥料、けい酸</p> <p>質肥料、苦土</p>	<p>主成分別表第</p> <p>一のとおり。</p> <p>ただし、同表</p> <p>の記載にかか</p> <p>わらず、可溶</p> <p>性りん酸、く</p> <p>溶成りん酸又</p> <p>は水溶性りん</p> <p>酸のいずれか</p> <p>一について</p> <p>一・〇</p> <p>（削る）</p>	<p>一 窒素又は加里を</p> <p>は加里を保証しな</p> <p>いものにあつては</p> <p>、保証する主成分</p> <p>のうち最も大きい</p> <p>主成分の量の合計</p> <p>量の含有率一・〇</p> <p>%につき有害成分</p> <p>別表第二のとおり</p> <p>の最大量</p> <p>二 窒素又</p>	<p>一 窒素全量を保証する肥料は、アンモニア性窒素又は硝酸性窒素以外の形態の窒素を含有するものと並びにアンモニア性窒素及び硝酸性窒素を含有するものであること。</p> <p>二 りん酸全量は加里全量を保証する肥料は、動植物質の原料を使用したものであること。</p> <p>三 く溶性りん酸を含有する肥料</p>	<p>他の排水の脱りん処理に伴い副産されたもの）</p>	<p>混合りん酸肥料</p>	<p>一 く溶性りん酸を保証するものにあつては</p> <p>く溶性りん酸一五・〇</p> <p>水溶性りん酸については</p> <p>二・〇</p> <p>く溶性苦土については</p> <p>三・〇</p>	<p>く溶性りん酸及びびりん酸の含有率一・〇%につきひ素</p> <p>〇・〇〇二</p> <p>亜硝酸</p> <p>〇・〇二</p> <p>カドミウム</p> <p>〇・〇〇〇</p> <p>〇・〇〇〇</p> <p>〇七五</p> <p>ニッケル</p> <p>〇・〇〇五</p>	<p>（新設）</p> <p>（新設）</p> <p>（新設）</p>	<p>三 牛等の部位を原料とする場合にあつては、脊柱等が混合しないものとして農林水産大臣の確認を受けた工程において製造されたものであること。</p>
---	---	---	---	--	------------------------------	----------------	--	---	-------------------------------------	--

(削る)

及び可溶性りん酸を含有する肥料を原料として使用する肥料にあつては、く溶性りん酸又は可溶性りん酸のいずれか一を保証するものであること。

四 アルカリ分を含有する肥料及び石灰を含有する肥料を原料として使用する肥料にあつては、アルカリ分又は石灰のいずれか一を保証するものであること。

(新設)

二|一|
(新設) (略) (略)

肥料の種類	三 加里質肥料（有機質肥料（動植物質のものに限る。）を除く。） (1) 登録の有効期間が六年であるもの			
				八 要植害確認原料を使用する肥料を原料として使用する肥料にあつては、要植害確認原料が法第七条ただし書の規定に基づき植害試験の調査を受け害が認められないものであること。 九 登録の有効期間は、三年肥料等を原料として使用する肥料にあつては三年、三年肥料等を原料として使用しない肥料にあつては六年であること。
含有すべき主成分の最小量（％）				
含有を許される有害成分の最大量				
その他の制限事項				

肥料の種類	三 加里質肥料（有機質肥料（動植物質のものに限る。）を除く。） (1) 登録の有効期間が六年であるもの			
				可溶性マンガ ンについては ○・一〇 く溶性マンガ ンについては ○・一〇 水溶性マンガ ンについては ○・一〇 く溶性ほう素 については ○・〇五 水溶性ほう素 については ○・〇五
				三 規則第七条の六第二号の農林産大臣が指定する混合りん酸肥料以外のものであること。 (新設)
含有すべき主成分の最小量（％）				
含有を許される有害成分の最大量				
その他の制限事項				

硫酸加里 里	(略)	硫酸加里 里	
一 水溶性加里 二 水溶性加里及び水溶性土のほかに可溶性硫酸を保証するものにあつては、一に掲げるもの	(略)	一 水溶性加里 二 水溶性加里のほかに可溶性硫酸を保証するものにあつては、一に掲げるものほか可溶性硫酸 一・〇	
(略)		(略)	(%)
(略)		(略)	

硫酸加里 里	(略)	硫酸加里 里	
水溶性加里 水溶性土 (新設) 一六・〇 八・〇	(略)	水溶性加里 (新設) 四五・〇	
(略)		(略)	(%)
(略)		(略)	

(削る)	(略)	(削る)	(略)	
(削る)	(略)	(削る)	(略)	ののほか 可溶性硫黄 一・〇
(削る)	(略)	(削る)	(略)	
(削る)	(略)	(削る)	(略)	

副産加里肥料（食品工業、繊維工業又は化学工業において副産されたものをいう。）	(略)	被覆加里肥料（加里質肥料を硫黄その他の被覆原料で被覆したものをいう。）	(略)	
一、く溶性加里又は水溶性加里を保証するものにあつては、く溶性加里に	(略)	一、水溶性加里 二、水溶性加里のほか水溶性苦土又は水溶性ほう素を保証するものにあつては、一、に掲げるもののほか 水溶性苦土については 水溶性ほう素については 〇・〇五	(略)	
加里の最も大きい主成分の含有率一・〇％につき ひ素	(略)	水溶性加里の含有率一・〇％につき ひ素 〇・〇〇四	(略)	
	(略)	一、加里の初期溶出率は五〇％以下であること。 二、規則第七条の六第三号の農林水産大臣が指定する被覆加里肥料であること。	(略)	

	(削る)		
	(削る)		
	(削る)		
	(削る)		

混合加里肥料（加里質肥料に、加里質肥料、石灰質肥料、けい酸質肥料、苦土肥料、マンガン質肥料、ほう素質肥料又は微量要素複合肥料を混合したものをいう。）	
二 一 水溶性加里について六・〇	二 一 水溶性加里について九・〇
二 二 可溶性加里について六・〇	二 二 可溶性加里について九・〇
二 三 カドミウム	二 三 カドミウム
二 四 亜硝酸	二 四 亜硝酸
二 五 硫酸	二 五 硫酸
二 六 硝酸	二 六 硝酸
二 七 塩化	二 七 塩化
二 八 炭酸	二 八 炭酸
二 九 珪酸	二 九 珪酸
三〇 有機質肥料	三〇 有機質肥料
三一 無機質肥料	三一 無機質肥料
三二 複合肥料	三二 複合肥料
三三 特殊肥料	三三 特殊肥料
三四 加工肥料	三四 加工肥料
三五 他種肥料	三五 他種肥料

<p>つては 二五・〇 水溶性加里に つては 九・〇 二 く溶性加里 又は水溶性加 里のほかく溶 性苦土を保証 するものにあ つては、一に 掲げるもの ほか く溶性苦土 三・〇</p>	<p>〇・〇〇四</p>	<p>混合加里肥料（ 加里質肥料に、 加里質肥料、石 灰質肥料、けい 酸質肥料、苦土 肥料、マンガ ン質肥料、ほう 素肥料又は微量 要素複合肥料を 混合したものを いう。）</p>	<p>一 可溶性マンガ ンを保証する肥 料は、原料とし て可溶性マンガ ンを保証する肥 料を使用したも のであること。 二 規則第七条の 六第三号の農林 水産大臣が指定 する混合加里肥 料であること。</p>
<p>〇・〇〇〇 六・〇 二 く溶性加里 又は水溶性加 里のほかアル カリ分、可溶</p>	<p>加里及び加 里以外の保 証する主成 分のうち最 も大きい主 成分の量の 合計量の含 有率一・〇 %につき ひ素 〇・〇〇二 亜硝酸 〇・〇二 カドミウム 〇・〇〇〇</p>	<p>一 可溶性加里 又は水溶性加 里を保証する ものにあつて は、 二 水溶性加里 に 六・〇 二 く溶性加里 又は水溶性加 里のほかアル カリ分、可溶</p>	<p>混合加里肥料（ 加里質肥料に、 加里質肥料、石 灰質肥料、けい 酸質肥料、苦土 肥料、マンガ ン質肥料、ほう 素肥料又は微量 要素複合肥料を 混合したものを いう。）</p>

(2) 登録の有効期間が三年又は六年であるもの				
(2) 登録の有効期間が三年又は六年であるもの	肥料の種類	含有すべき主成分の最小量(%)	含有を許される有害成分の最大量(%)	その他の制限事項
	被覆加里肥料 (加里質肥料又は副産肥料) (専ら原料規格第二中七の項又は八の項に掲げる原料を使用した肥料であつて、加里を保証し、窒素及びりん酸を保証し	一 水溶性加里 一〇・〇 二 水溶性加里のほか水溶性石灰、水溶性苦土、水溶性マシガン、水溶性ほう素又は可溶性硫黄を保証	(略)	一 (略) 二 要植害確認原料を使用する肥料を原料として使用する肥料にあつては、要植害確認原料が法第七条ただし書の規定に基づき植害試験の調査

(2) 登録の有効期間が三年であるもの				
(2) 登録の有効期間が三年であるもの	肥料の種類	含有すべき主成分の最小量(%)	含有を許される有害成分の最大量(%)	その他の制限事項
	被覆加里肥料	一 水溶性加里 三〇・〇 二 水溶性加里のほか水溶性苦土又は水溶性ほう素を保証するものにあつては、一に掲げるもののほか水溶性苦土に	(略)	一 加里の初期溶出率は五〇％以下であること。 二 規則第七条の六第三号の農林水産大臣が指定する被覆加里肥料以外のものがあること。

ないものに限る。)を硫黄その他の被覆原料で被覆したものを用いる。	するものにあつては、 一に掲げるもののほか 水溶性石灰 一・〇 水溶性苦土 一・〇 水溶性マンガ ンについて 〇・一〇 水溶性ほう 素について 〇・〇五 可溶性硫黄 一・〇	一 窒素又はりん酸を保証しないものにあつては、保証する主成分のうち最も大き	一 窒素全量を保証する肥料は、アンモニア性窒素又は硝酸性窒素以外の形態の窒素を含有するもの並びにアンモニア性窒素及び硝酸性窒素を 三 登録の有効期間、三年肥料等を原料として使用する肥料にあつては三年、三年肥料等を原料として使用しない肥料にあつては六年である。
混合加里肥料	ついては 一・〇 水溶性ほう素 〇・〇五	一 一 加里及び加里以外の保証する主成分のうち最も大きい主成分の量の含有率一・〇％につき	(新設)

44

45

魚かす粉末	肥料の種類			
	含有すべき主成分の最小量 (%)	含有を許される有害成分の最大量 (%)		
	窒素全量及びりん酸全量の合計 窒素全量 一二・〇 りん酸全量 四・〇 三・〇			(新設)

四 有機質肥料（動植物質のものに限る。）
(1) 登録の有効期間が六年であるもの

干魚肥料粉末			
一 窒素全量 六・〇 りん酸全量 三・〇 二 窒素全量 及びりん酸 全量のほか けい酸、苦 土、マンガ ン又はほう 素を保証す るものにあ つては、一 に掲げるも	りん酸全量 三・〇 二 窒素全量 及びりん酸 全量のほか けい酸、苦 土、マンガ ン又はほう 素を保証す るものにあ つては、一 に掲げるも		
干魚肥料粉末			
窒素全量 六・〇 りん酸全量 三・〇 (新設)	(新設)		

	魚節煮かす	甲殻類質肥料 粉末
<div> <div>のほか</div> <div>主成分別表</div> <div>第二のとお</div> </div>	<div> <div>一 窒素全量 九・〇</div> <div>二 窒素全量 のほかけい 酸、苦土、 マンガン又 はほう素を 保証するも のにあつて は、一に掲 げるもの ほか</div> <div>主成分別表</div> <div>第二のとお</div> </div>	<div> <div>一 窒素全量 三・〇</div> <div>二 窒素全量 のほかけい 酸、苦土、 マンガン又 はほう素を 保証するも のにあつて は、一に掲 げるもの ほか</div> <div>主成分別表</div> <div>第二のとお</div> </div>

	魚節煮かす	甲殻類質肥料粉 末
<div> <div>窒素全量 九・〇</div> <div>(新設)</div> </div>	<div> <div>窒素全量 三・〇</div> <div>りん酸全量 一・〇</div> <div>(新設)</div> </div>	<div> <div>窒素全量 三・〇</div> <div>りん酸全量 一・〇</div> <div>(新設)</div> </div>

肉かす粉末	蒸製魚鱗及びその粉末	
一 窒素全量 六・〇	一 窒素全量 六・〇 二 窒素全量 一八・〇 及びりん酸全量 のほかに掲げるものにあつては、一成分別表第二のお	素を保証するものにあつては、一成分別表第二のお
(略)		

肉かす粉末	蒸製魚鱗及びその粉末	
窒素全量 (新設) 六・〇	窒素全量 六・〇 りん酸全量 一八・〇 (新設)	
(略)		

肉 骨 粉	
<div> <div> 一 窒素全量 五・〇</div> <div> 二 窒素全量 及びりん酸 全量のほか けい酸、苦 土、マンガ ン又はほう 素を保証す るものに ついては、一 に掲げるも ののほか 主成分別表 第二のおお り</div> </div>	<div> のほかけい 酸、苦土、 マンガン又 はほう素を 保証するも のにあつて は、一に掲 げるものの ほか 主成分別表 第二のおお り</div>
(略)	
肉 骨 粉	
<div> <div>窒素全量 五・〇</div> <div> (新設) りん酸全量 五・〇</div> </div>	
(略)	

蒸製てい角粉	蒸製てい角粉
<div> <div>一</div> <div>室素全量及びりん酸全量の合計量</div> <div>一五・〇</div> <div>室素全量</div> <div>六・〇</div> <div>りん酸全量</div> <div>七・〇</div> <div>二</div> <div>室素全量及びりん酸全量のほか</div> <div>土、マンガ</div> </div>	<div> <div>一</div> <div>室素全量</div> <div>一〇・〇</div> <div>二</div> <div>室素全量のほか</div> <div>酸、苦土、マンガ</div> <div>はほう素を保証するものにあつては、一に掲げるものほか</div> <div>主成分別表</div> <div>第二のとり</div> </div>
(略)	(略)

蒸製てい角骨粉	蒸製てい角粉
<div> <div>室素全量及びりん酸全量の合計量</div> <div>一五・〇</div> <div>室素全量</div> <div>六・〇</div> <div>りん酸全量</div> <div>七・〇</div> <div>(新設)</div> </div>	<div> <div>室素全量</div> <div>一〇・〇</div> </div>
(略)	(略)

乾血及びその粉末	蒸製毛粉（羽及び鯨ひげを蒸製したものを含む。）	
一 窒素全量 一〇・〇 二 窒素全量 のほかけい 酸、苦土、	一 窒素全量 六・〇 二 窒素全量 のほかけい 酸、苦土、 マンガン又はほう素を保証するものにあつては、一に掲げるもののほか 主成分表第二のおり	ン又はほう素を保証するものにあつては、一に掲げるもののほか 主成分表第二のおり
(略)	(略)	

乾血及びその粉末	蒸製毛粉（羽及び鯨ひげを蒸製したものを含む。）	
窒素全量 一〇・〇 (新設)	窒素全量 六・〇 (新設)	
(略)	(略)	

生 骨 粉	
<div> <div> 一、窒素全量及びりん酸全量の合計量 二〇・〇 窒素全量 三・〇 りん酸全量 一六・〇 </div> <div> 二、窒素全量及びりん酸全量のほか、けい酸、石灰、苦土、マンガンを又はほう素を保証するものにあつては、一に掲げるものの </div> </div>	<div> マンガンを又はほう素を保証するものにあつては、一に掲げるもののほか、主成分表第二のお </div>
(略)	
生 骨 粉	
<div> (新設) </div>	窒素全量及びりん酸全量の合計量 二〇・〇 窒素全量 三・〇 りん酸全量 一六・〇
(略)	

	蒸製骨粉（脱 こう骨粉を 含む。）
ほか けい酸、苦 土、マンガ ン又はほう 素について は主成分別 表第二のと おり 可溶性石灰 については 一・〇 く溶性石灰 については 一・〇 水溶性石灰 については 一・〇	一 窒素全量 及びりん酸 全量を保証 するものに あつては窒 素全量及び りん酸全量 の合計量 一二・〇 窒素全量 一・〇 りん酸全量 一七・〇
(略)	

	蒸製骨粉（脱こ う骨粉を含む。）
	一 窒素全量及 びりん酸全 量を保証するも のにあつては 窒素全量及び りん酸全量の 合計量 一二・〇 窒素全量 一・〇 りん酸全量 一七・〇
(略)	

二　りん酸全量を保証するものにあつては														
りん酸全量														
二五・〇														
三　窒素全量														
又はりん酸全量のほか														
けい酸、石灰、苦土、														
マンガン又はほう素を保証するものにあつては、一又は二に掲げるもののほか														
けい酸、苦土、マンガン又はほう素については、一又は二に掲げるもののほか														
素については主成分別表第二のとおり														
可溶性石灰については														
一・〇														
く溶性石灰については														
一・〇														

二　りん酸全量を保証するものにあつては
りん酸全量
二五・〇
(新設)

		蒸製鶏骨粉	
		一 窒素全量及びりん酸全量の合計量 一七・〇 窒素全量 一・〇 りん酸全量 一三・〇	水溶性石灰 については 一・〇
		二 窒素全量及びりん酸全量のほか、石灰、苦土、マンガンを含有素を保証するものにあつては、一に掲げるもののほか、けい酸、苦土、マンガンを又はほう素について主成分別表第二のと	
		蒸製鶏骨粉	
		(新設) 窒素全量及びりん酸全量の合計量 一七・〇 窒素全量 一・〇 りん酸全量 一三・〇	

干蚕蛹粉末	蒸製皮革粉	
<div> <div>一</div> <div>窒素全量</div> <div>七・〇</div> </div> <div> <div>二</div> <div>窒素全量</div> <div>のほかけい</div> </div>	<div> <div>一</div> <div>窒素全量</div> <div>六・〇</div> </div> <div> <div>二</div> <div>窒素全量</div> <div>のほかけい</div> <div>酸、苦土、</div> <div>マンガン又</div> <div>はほう素を</div> <div>保証するも</div> <div>のにあつて</div> <div>は、一に掲</div> <div>げるもの</div> <div>ほか</div> <div>主成分別表</div> <div>第二のとお</div> </div>	<div> <div>おり</div> <div>可溶性石灰</div> <div>については</div> <div>一・〇</div> </div> <div> <div>く溶性石灰</div> <div>については</div> <div>一・〇</div> </div> <div> <div>水溶性石灰</div> <div>については</div> <div>一・〇</div> </div>
	(略)	

干蚕蛹粉末	蒸製皮革粉	
<div> <div>窒素全量</div> <div>七・〇</div> <div>(新設)</div> </div>	<div> <div>窒素全量</div> <div>六・〇</div> <div>(新設)</div> </div>	
	(略)	

	絹紡蚕蛹くず ^{よう}	とうもろこしはい芽及びその粉末
素について は成分別表 第二のお り	一 窒素全量 七・〇 二 窒素全量 のほかけい 酸、苦土、 マンガン又 はほう素を 保証するも のにあつて は、一に掲 げるもの ほか 主成分別表 第二のお り	一 窒素全量 二・〇 りん酸全量 二・〇 加里全量 一・〇 二 窒素全量 、りん酸全 量及び加里

	絹紡蚕蛹くず ^{よう}	とうもろこしはい芽及びその粉末
窒素全量 七・〇 (新設)	窒素全量 二・〇 りん酸全量 二・〇 加里全量 一・〇 (新設)	

	大豆油かす及びその粉末
<div> <div>全量のほか</div> <div>けい酸、苦</div> <div>土、マンガ</div> <div>ン又はほう</div> <div>素を保証す</div> <div>るものにあ</div> <div>つては、一</div> <div>に掲げるも</div> <div>のほか</div> <div>主成分別表</div> <div>第二のお</div> <div>り</div> </div>	<div> <div>一窒素全量</div> <div>六・〇</div> <div>りん酸全量</div> <div>一・〇</div> <div>加里全量</div> <div>一・〇</div> <div>二窒素全量</div> <div>、りん酸全</div> <div>量及び加里</div> <div>全量のほか</div> <div>けい酸、苦</div> <div>土、マンガ</div> <div>ン、又はほ</div> <div>う素を保証</div> <div>するものに</div> <div>あつては、</div> <div>一に掲げる</div> <div>もののほか</div> </div>
	大豆油かす及びその粉末
窒素全量	<div> <div>六・〇</div> <div>りん酸全量</div> <div>一・〇</div> <div>加里全量</div> <div>一・〇</div> <div>(新設)</div> </div>

わたみ油かす及びその粉末	なたね油かす及びその粉末（からし油かす及びその粉末を含む。）	
一、窒素全量 五・〇 りん酸全量 一・〇 加里全量	主成分別表 第二のおり 一、窒素全量 四・五 りん酸全量 一・九 加里全量 二、窒素全量 一・〇 、りん酸全量及び加里全量のほか 全量のほか けい酸、苦 土、マンガ ン又はほう 素を保証す るものにあ つては、一 に掲げるも ののほか 主成分別表 第二のおり	主成分別表 第二のおり

わたみ油かす及びその粉末	なたね油かす及びその粉末（からし油かす及びその粉末を含む。）	
窒素全量 五・〇 りん酸全量 一・〇 加里全量	窒素全量 四・五 りん酸全量 二・〇 加里全量 （新設） 一・〇	

ごま油かす及		
一 窒素全量	<div>あまに油かす及びその粉末</div> <div>一 窒素全量 四・五</div> <div>りん酸全量 一・〇</div> <div>加里全量 一・〇</div> <div>二 窒素全量</div> <div>、りん酸全量及び加里全量のほか</div> <div>けい酸、苦土、マンガ</div> <div>ン又はほう素を保証するものにあ</div> <div>つては、一に掲げるものほか</div> <div>主成分別表第二のおり</div>	<div>るものにあ</div> <div>つては、一に掲げるものほか</div> <div>主成分別表第二のおり</div>
ごま油かす及び		
窒素全量	<div>あまに油かす及びその粉末</div> <div>窒素全量 四・五</div> <div>りん酸全量 一・〇</div> <div>加里全量 一・〇</div> <div>(新設)</div>	

びその粉末	ひまし油かす 及びその粉末
六・〇 りん酸全量 一・〇 加里全量 一・〇 窒素全量 二、りん酸全量及び加里全量のほか 土、マンガ ン又はほう 素を保証す るものにあ つては、一 に掲げるも ののほか 主成分別表 第二のお り	一、窒素全量 四・〇 りん酸全量 一・〇 加里全量 一・〇 窒素全量 二、りん酸全量及び加里全量のほか
その粉末	ひまし油かす 及びその粉末
六・〇 りん酸全量 一・〇 加里全量 一・〇 窒素全量 （新設）	四・〇 りん酸全量 一・〇 加里全量 一・〇 窒素全量 （新設）

カポック油かす及びその粉末	その他の草本性植物油かす及びその粉末（二以上の草本性植物油かす及びその粉末を混合したものを除く。）	
一、窒素全量 四・五 りん酸全量 一・〇 加里全量 一・〇	一、窒素全量 三・〇 りん酸全量 一・〇 加里全量 一・〇 二、窒素全量 一・〇 りん酸全量 一・〇 量及び加里 量のほかに 全量のほかに けい酸、苦 土、マンガ ン又はほう 素を保証す るものにあ つては、一 に掲げるも ののほか 主成分別表 第二のおお り	第二のおお り

カポック油かす及びその粉末	その他の草本性植物油かす及びその粉末（二以上の草本性植物油かす及びその粉末を混合したものを除く。）	
窒素全量 四・五 りん酸全量 一・〇 加里全量 一・〇	窒素全量 三・〇 りん酸全量 一・〇 加里全量 一・〇 （新設）	

甘草かす粉末	たばこくず肥料粉末		
一 窒素全量 八・〇 二 窒素全量 のほかけい 酸、苦土、 マンガン又 はほう素を 保証するも	一 窒素全量 一・〇 加里全量 四・〇 二 窒素全量 及び加里全 量のほかけ い酸、苦土 、マンガン 又はほう素 を保証する ものにあつ ては、一に 掲げるもの のほかけ 主成分別表 第二のお	主成分別表 第二のお	
	(略)		

甘草かす粉末	たばこくず肥料粉末		
窒素全量 (新設) 八・〇	窒素全量 一・〇 加里全量 (新設) 四・〇		
	(略)		

豆腐かす乾燥肥料										
の に あ つ て	は、 一 に 掲	げ る も の の	ほ か	主 成 分 別 表	第 二 の と お	り	一 窒 素 全 量 四・〇	二 窒 素 全 量 の ほ か り ん 酸 全 量 、 加 里 全 量 、 け い 酸 、 苦 土 、 マ ン ガ ン 又 は ほ う 素 を 保 証 す る も の に あ つ て は、 一 に 掲 げ る も の の ほ か り ん 酸 全 量 に つ い て は	一・〇 加 里 全 量 に つ い て は	一・〇 け い 酸 、 苦 土 、 マ ン ガ ン 又 は ほ う 素 を 保 証 す る も の に あ つ て は
豆腐かす乾燥肥料										
の に あ つ て	は、 一 に 掲	げ る も の の	ほ か	主 成 分 別 表	第 二 の と お	り	一 窒 素 全 量 四・〇	二 窒 素 全 量 の ほ か り ん 酸 全 量 又 は 加 里 全 量 を 保 証 す る も の に あ つ て は、 一 に 掲 げ る も の の ほ か り ん 酸 全 量 に つ い て は	一・〇 加 里 全 量 に つ い て は	一・〇 け い 酸 、 苦 土 、 マ ン ガ ン 又 は ほ う 素 を 保 証 す る も の に あ つ て は

窒素質グアノ	えんじゆかす 粉末	
一 窒素全量 一二・〇 アンモニア 性窒素	二 窒素全量 、りん酸全 量及び加里 全量のほか けい酸、苦 土、マンガ ン又はほう 素を保証す るものに つては、一 に掲げるも ののほか主 成分別表第 二のとおり	一 窒素全量 三・〇 りん酸全量 一・〇 加里全量 二・〇 は素につ いて 主成分別 表 第二のお り

窒素質グアノ	えんじゆかす 粉末	
窒素全量 一二・〇 アンモニア性窒 素 一・〇	窒素全量 三・〇 りん酸全量 一・〇 加里全量 二・〇 (新設)	

加工家きんふん肥料（次に掲げる肥料をいう。 一 家きんの	
一 窒素全量 二・五 りん酸全量 二・五 加里全量	<div> <div> りん酸全量 一・〇 八・〇 可溶性りん酸 四・〇 加里全量 一・〇 </div> <div> 二 窒素全量 、アンモニ ア性窒素、 りん酸全量 、可溶性り ん酸及び加 里全量のほ かけい酸、 苦土、マン ガン又はほ う素を保証 するものに あつては、 一に掲げる もののほか 主成分別表 第二のおお り </div> </div>
(略)	
(略)	

加工家きんふん肥料（次に掲げる肥料をいう。 一 家きんのふんに硫酸等を	
窒素全量 二・五 りん酸全量 二・五 加里全量	<div> <div> りん酸全量 八・〇 可溶性りん酸 四・〇 加里全量 一・〇 </div> <div> (新設) </div> </div>
(略)	
(略)	

とうもろこし浸漬液肥料（コーンスタ―チを製造する際に副産されるところ）	<div> <div>一</div> <div>窒素全量</div> <div>三・〇</div> <div>りん酸全量</div> <div>三・〇</div> <div>加里全量</div> <div>二・〇</div> </div>	<div> <div>一・〇</div> <div>窒素全量</div> <div>二</div> <div>、りん酸全量及び加里全量</div> <div>のほかに</div> <div>けい酸、苦土、マンガ</div> <div>ン又はほう素について</div> <div>は主成分別表第二のとおり</div> <div>可溶性硫黄</div> <div>については</div> <div>一・〇</div> </div>	<div> <div>一</div> <div>ふんに硫酸等を混合して火力乾燥したもの</div> <div>二</div> <div>家さんのふんを加圧蒸煮した後乾燥したもの</div> <div>三</div> <div>家さんのふんについて熱風乾燥及び粉碎を同時に行つたもの</div> <div>四</div> <div>家さんのふんをはっこう乾燥させたもの</div> </div>
(略)			

とうもろこし浸漬液肥料（コーンスタ―チを製造する際に副産されるところ）を亜硫酸液	<div> <div>窒素全量</div> <div>三・〇</div> <div>りん酸全量</div> <div>三・〇</div> <div>加里全量</div> <div>二・〇</div> </div>	<div> <div>一・〇</div> <div>(新設)</div> </div>	<div> <div>混合して火力乾燥したもの</div> <div>二</div> <div>家さんのふんを加圧蒸煮した後乾燥したもの</div> <div>三</div> <div>家さんのふんについて熱風乾燥及び粉碎を同時に行つたもの</div> <div>四</div> <div>家さんのふんをはっこう乾燥させたもの</div> </div>
(略)			

しを亜硫酸液で浸漬した液を発酵、濃縮したものを用う。）	(削る)
水溶性加里 二・〇 窒素全量、りん酸全量、加里全量及び水溶性加里のほかけい酸、苦土、マンガン又はほう素を保証するものにあつては、一に掲げるもののほか主成分別表第二のおり	(削る)
で浸漬した液を発酵、濃縮したものを用う。）	副産植物質肥料（食品工業又は発酵工業において副産されたものであつて、植物質の原料に由来するものを用う。）
水溶性加里 二・〇 (新設)	一 窒素全量を保証するものにあつては窒素全量 三・五 二 窒素全量のほかアンモニア性窒素、りん酸全量又は加里全量を保証するものにあつては窒素

(削る)				
(削る)				
(削る)				
(削る)				

混合有機質肥料（次に掲げる肥料いう。	窒素全量及びりん酸全量又は加里全量の合計量	窒素全量の含有率一・〇％につき	一 牛等由來の原料を使用する場合にあつては、管理措置が行われたものであること。
一 有機質肥料に有機質肥料又は米ぬか、発酵米ぬか、乾燥藻及びその粉末、よもぎかす若しくは動物の排せつ物	窒素全量及びりん酸全量については 一・〇 加里全量については 一・〇	〇・〇〇一 カドミウム 〇・〇〇〇 〇八	二 牛等の部位を原料とする場合にあつては、脊柱等が混合しないものとして農林水産大臣の確認を受けた工程

	食品残さ加工肥料（食品由来の有機質物）（食品加工場等における食品の製造、加工又は調理の過程で発生した食用に供することができない残さを除く。）を加熱乾燥し、搾油機により搾油したかすをい	
	一 窒素全量 二・五 加里全量 一・〇	
	二 窒素全量及び加里全量のほかりん酸全量、けい酸、苦土、マンガシ又はほう素を保証するものにあつては、一に掲げるものに掲げるも	
	一 油分は一〇％以下であること。 二 牛等由来の原料を使用する場合にあつては、管理措置が行われたものであること。	
(新設)	(鶏ふんの炭化物に限る。)を混合したもの 二 一に掲げる混合有機質肥料の原料となる肥料に血液又は豆腐かすを混合し、乾燥したもの	
(新設)		
(新設)		
(新設)	三 規則第七条の六第四号の農林水産大臣が指定する混合有機質肥料であること。	において製造されたものであること。

(2) 登録の有効期間が三年であるもの	肥料の種類	魚糞物加工肥料（原料規格第一中一の項イ又はロに掲げる原料を泥炭その他の動植物に由来する吸着原料に吸着させたものをいう。）	含有すべき主成分の最小量（％）	含有を許される有害成分の最大量（％）	その他の制限事項
		一 窒素全量 四・〇	一 窒素全量 二 窒素全量及びりん酸全量のほか加里全量、けい酸、苦土、マンガ	（略）	（略）
		（略）	（略）	（略）	（略）
		（略）	（略）	（略）	（略）

(2) 登録の有効期間が三年であるもの	肥料の種類	魚糞物加工肥料（魚荒、いか内臓その他魚糞物を泥炭その他の動植物に由来する吸着原料に吸着させたものをいう。）	含有すべき主成分の最小量（％）	含有を許される有害成分の最大量（％）	その他の制限事項
		一 窒素全量 四・〇 りん酸全量 一・〇	二 窒素全量及びりん酸全量のほか加里全量を保証するものにあっては、一に掲げるもののほか	（略）	（略）
		（略）	（略）	（略）	（略）
		（略）	（略）	（略）	（略）

(削る)	
(削る)	素を保証するものにあつては、一に掲げるもののほか加里全量については一・〇けい酸、苦土、マンガン又はほう素については主成分別表第二のとおり
(削る)	
(削る)	
食品残さ加工肥料（食品由来の有機質物）（食品加工場等における食品の製造、加工又は調理の過程で発生した食用に供することができない残さを除く。）を加熱乾燥し、搾油機により搾油	
一 窒素全量 二 五 加里全量 一・〇 二 窒素全量及び加里全量のほかりん酸全量を保証するものにあつては、一に掲げるもののほかかりん酸全量 一・〇	加里全量 一・〇
一 油分は一〇％以下であること 二 牛等由来の原料を使用する場合にあつては、管理措置が行われたものであること。	

	乾燥菌体肥料 (次に掲げる 肥料をいう。 一 専ら原料 規格第一中 三の項ホ又 はへに掲げ る原料を使 用したもの 二 原料規格 第二十五 の項に掲げ る原料を加 熱乾燥した もの)	
	一 窒素全量 を保証する ものにあつ ては 窒素全量 五・五 二 窒素全量 のほかりん 酸全量、加 里全量、け い酸、石灰 、苦土、マ ンガン、ほ う素又は可 溶性硫黄を 保証するも のにあつて は 窒素全量 四・〇 りん酸全量 については 一・〇 加里全量に ついては 一・〇 けい酸、苦	
	(略)	
	(略)	
したかすをい う。)	乾燥菌体肥料 (次に掲げる 肥料をいう。 一 培養によ つて得られ る菌体又は この菌体か ら脂質若し くは核酸を 抽出したか すを乾燥し たもの 二 食品工業 、パルプ工 業、発酵工 業又はゼラ チン工業(へ なめし皮革 くずを原料 として使用 しないもの に限る。) の廃水を活 性スラッジ 法により浄 化する際に 得られる菌	
	一 窒素全量 を保証するも のにあつては 窒素全量 五・五 二 窒素全量 のほかりん 酸全量又は 加里全量 を保証する ものにあつて は 窒素全量 四・〇 りん酸全量 については 一・〇 加里全量に ついては 一・〇	
	(略)	
	(略)	

(削る)	
(削る)	土、マンガ ン又はほう 素について は主成分別 表第二のと おり 可溶性石灰 については 一・〇 く溶性石灰 については 一・〇 水溶性石灰 については 一・〇 可溶性硫黄 については 一・〇
(削る)	
(削る)	
副産動物質肥 料（食品工業 、繊維工業、 ゼラチン工業 又はなめしか わ製造業にお いて副産され たものであつ て、動物質の 原料に由来す るものをいう	～ 体を加熱乾 燥したもの
一 窒素全量を 保証するもの にあつては 窒素全量 六・〇 二 窒素全量の ほかりん酸全 量又は加里全 量を保証する ものにあつて は窒素全量及	
窒素全量の 含有率一・ 〇％につき ひ素 〇・〇一 カドミウム 〇・〇〇〇 〇八	
一 牛等由来の原 料を使用する場 合にあつては、 管理措置が行わ れたものである こと。 二 牛等の部位を 原料とする場合 にあつては、脊 柱等が混合しな いものとして農	

	(削る)	
	(削る)	
	(削る)	
	(削る)	

	混合有機質肥料	
	窒素全量及びりん酸全量又は加里全量の合計量 六・〇 窒素全量 一・〇 りん酸全量については 一・〇 加里全量については 一・〇	びりん酸全量又は加里全量の合計量 一〇・〇 窒素全量 二・〇 りん酸全量については 二・〇 加里全量については 九・〇
	窒素全量の含有率一・〇％につき 〇・〇 カドミウム 〇・〇〇〇 〇八	
三 規則第七条の六 第四号の農林	一 牛等由来の原料を使用する場合にあつては、管理措置が行われたものであること。 二 牛等の部位を原料とする場合にあつては、脊柱等が混合しないものとして農林水産大臣の確認を受けた工程において製造されたものであること。	林水産大臣の確認を受けた工程において製造されたものであること。

			水産大臣が指定する混合有機質肥料以外のものであること。
(3) 登録の有効期間が三年又は六年であるもの			
肥料の種類	含有すべき主成分の最小量(%)	含有を許される有害成分の最大量(%)	その他の制限事項
副産動植物質肥料(専ら原料規格第一に掲げる原料を使用したものを用いる。)	主成分別表第一のとおり	原料規格第一中一の項に掲げる原料を使用したものについて、保証する窒素、りん酸又は加里のうち最も大きい主成分の含有率一・〇%につき、 〇・〇〇一 カドミウム 〇・〇〇〇	一 窒素全量、りん酸全量又は加里全量のいずれか一以上を保証したものであること。 二 可溶性りん酸を含有する原料及び可溶性りん酸を含有する原料を使用する肥料にあつては、可溶性りん酸又は可溶性りん酸のいずれか一を保証するものであること。 三 アルカリ分を

含有する原料及び石灰を含有する原料を使用する肥料にあつては、アルカリ分又は石灰のいずれか一を保証するものであること。	四 牛等由来の原料を使用する場合にあつては、管理措置が行われたものであること。	五 牛等の部位を原料とする場合にあつては、脊柱等が混合しないものとして農林水産大臣の確認を受けた工程において製造されたものであること。	六 登録の有効期間は、三年原料を使用する肥料にあつては三年、三年原料を使用しない肥料に
--	---	---	---

	主成分別表第一のとおり	保証する窒素、りん酸又は加里のうち最も大きい主成分の量の含有率一・〇％につき	あつては六年である。
混合有機質肥料（次に掲げる肥料をいう。） 一 有機質肥料に有機質肥料又は米ぬか、発酵米ぬか、乾燥藻及びその粉末、よもぎかす若しくは動物の排せつ物（鶏ふんの炭化物に限る。）を混合したもの 二 一に掲げる混合有機質肥料の原料となる肥料に血液又は豆腐かすを混合し、乾燥したもの		〇・〇一 カドミウム 〇・〇〇〇 〇・〇〇〇 〇・八	一 窒素全量、りん酸全量又は加里全量のいずれか一以上を保証したものであること。 二 く溶性りん酸を含有する原料及び可溶性りん酸を含有する原料を使用する肥料にあつては、く溶性りん酸又は可溶性りん酸のいずれか一を保証するものであること。 三 アルカリ分を含有する原料及び石灰を含有する原料を使用する肥料にあつては、アルカリ分又は石灰のいずれか一を保証するものであること。

<div> <div>五</div> <div>副産肥料等</div> </div> <div> <div>(1)</div> <div>登録の有効期間が三年であるもの</div> </div>	
	<div> <div>四</div> <div>牛等由来の原料を使用する場合にあつては、管理措置が行われたものであること。</div> </div> <div> <div>五</div> <div>牛等の部位を原料とする場合に於ては、脊柱等が混合しないものとして農林水産大臣の確認を受けた工程において製造されたものであること。</div> </div> <div> <div>六</div> <div>登録の有効期間は、三年肥料等を原料として使用する肥料にあつては三年、三年肥料等を原料として使用しない肥料にあつては六年である。</div> </div>

(新設)

肥料の種類	含有すべき主成分の最小量 (%)	含有を許される有害成分の最大量 (%)	その他の制限事項
菌体肥料（次に掲げる肥料をいう。） 一 専ら原料規格第二中十五の項に掲げる原料を使用したもの 二 原料規格第二中十五の項に掲げる原料又は当該原料に原料規格第一に掲げる原料を混合したものを攪拌し、腐熟させたものをいう。	主成分別表第一のとおり	酸素 ○・○○五 カドミウム ○・○○○ 水銀 ○・○○○ ニッケル ○・○○三 クロム ○・○○五 鉛 ○・○○一	一 く溶性りん酸を含有する原料及び可溶性りん酸を含有する原料を使用する肥料にあつては、く溶性りん酸又は可溶性りん酸のいずれか一を保証するものであること。 二 アルカリ分を含有する原料及び石灰を含有する原料を使用する肥料にあつては、アルカリ分又は石灰のいずれか一を保証するものであること。 三 植害試験の調査を受け害が認められないものであること。 四 牛等由来の原

副産肥料（次に掲げる肥料をいう。 一 原料規格第一に掲げる原料及び原料規格第一	肥料の種類	(2) 登録の有効期間が三年又は六年であるもの		
主成分別表第一のとおり	含有すべき主成分の最小量（％）			
有害成分別表第三のとおり	含有を許される有害成分の最大量（％）			
一 窒素全量を保証する肥料は、アンモニア性窒素又は硝酸性窒素以外の形態の窒素を含有するもの並びにアン	その他の制限事項			五 牛等の部位を原料とする場合に於ては、畜柱等が混合しないものとして農林水産大臣の確認を受けた工程において製造されたものであること。

二に掲げる原料（十五の項に掲げるものを除く。）をそれぞれ一以上使用したもの	二専ら原料規格第二に掲げる原料（十五の項に掲げるものを除く。）を使用したもの
---------------------------------------	--

モニア性窒素及び硝酸性窒素を含有するものであること。	二りん酸全量又は加里全量を保証する肥料は、動植物質の原料を使用したものであること。	三可溶性りん酸を含有する原料及び可溶性りん酸を含有する原料を使用する肥料にあつては、可溶性りん酸又は可溶性りん酸のいずれか一を保証するものであること。	四アルカリ分を含有する原料及び石灰を含有する原料を使用する肥料にあつては、アルカリ分又は石灰のいずれか一を保証するものであること。
----------------------------	---	---	---

と。	五 牛等由來の原料を使用する場合にあつては、	管理措置が行われたものであること。	六 牛等の部位を原料とする場合に於ては、脊柱等が混合しないものとして農林水産大臣の確認を受けた工程において製造されたものであること。	七 製鋼鉋さいを原料とするものに於ては、四ミリメートルの網ふるいを全通するものであること。その他の鉋さいを原料とする場合に於ては、二ミリメートルの網ふるいを全通し、かつ、六〇〇マイ
----	------------------------	-------------------	--	--

液状肥料（肥料（混合汚泥複合肥料及び規則第一条の二各号に掲げる普通肥料を除く。）又は	
一・〇 窒素全量 は にあつて するもの 量を保証 一 窒素全	
有害成分別 表第三のと おり	
一 窒素全量を保証する肥料は、アンモニア性窒素又は硝酸性窒素以外の成分形態の窒素を含有するもの並びに	<p>八 要植害確認原料を使用する肥料にあつては、要植害確認原料が法第七条ただし書の規定に基づき植害試験の調査を受け害が認められないものであること。</p> <p>九 登録の有効期間は、三年原料を使用する肥料にあつては三年、三年原料を使用しない肥料にあつては六年である。</p>

三																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
の		証		加		2		加		は		に		す		量		三		加		一		水		つ		も		保		り		4		水		一		可		つ		も		保		り		3		可		一		く		ん																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
に		する		里				里				あ		る		を保		1		里				つ		て		の		証		ん		溶				つ		に		証		ん				あ		る				溶				ん																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
あ		も		を		全				つ		て		の		証				全				て		は		あ		す		酸		性				て		あ		す		酸				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性				性</	

るものであること。	五	チオ硫酸アンモニウムに由来する窒素を含有する肥料にあつては、pHが六・〇以上のものであること。	六	シアナミドに由来する窒素を含有する肥料にあつては、その他の原料に由来する窒素を含有しないこと。	七	シアナミドに由来する窒素を含有する肥料にあつては、ジシアジアミド性窒素は窒素全量の二〇・〇%以下であること。	八	牛等由来の原料を使用する場合にあつては、管理措置が行われたものであること。
-----------	---	---	---	---	---	--	---	---------------------------------------

証するも	七 1	可溶性	五・〇	い酸	水溶性	つては	ものにあ	保証する	けい酸を	2	水溶性	五・〇	い酸	可溶性	つては	ものにあ	保証する	けい酸を	六 1	可溶性	一・〇	灰	水溶性	石	証するも	のにあつ	ては	3	水溶性	一・〇	灰	く溶性	ては

て使用する肥料	にあつては、要	植害確認原料が	法第七条ただし	書の規定に基づ	き植害試験の調	査を受け害が認	められないもの	であること。	十二 登録の有効	期間は、三年原	料又は三年肥料	等を使用する肥	料にあつては三	年、三年原料又	は三年肥料等を	使用しない肥料	にあつては六年	である。

[illegible]

吸着複合肥料 (窒素、りん 酸若しくは加 里を含有する 肥料(混合汚 泥複合肥料及 び規則第一 条の二各号に 掲げる普通肥 料を除く。)又 は肥料原料(原 料規格第一 及び原料規格 第二に掲げる ものに限り、 要植害確認原 料及び原料規 格第二中十五 の項に掲げる	
主成分別表第 一のとおり。 ただし、同表 の記載にか わらず、窒 素、りん酸 又は加里 のいずれに ついても二 以上につ いてそれぞ れの最も大 きい主成分 の量の合計 量 二・〇〇	水溶性ほ う素 〇・〇〇 五 十 可溶性硫 黄を保証す るものにあ つては 可溶性硫黄 一・〇
窒素、りん 酸又は加里 のそれぞれ の最も大き い主成分の 量の合計量 の含有率一 ・〇％につ き 硫酸化物 〇・〇〇五 ひ素 〇・〇〇二 〇・〇〇二 亜硝酸 〇・〇二 ビウレット 性窒素 〇・〇一 スルファミ	
一 窒素全量を保 証する肥料は、 アンモニア性窒 素又は硝酸性窒 素以外の成分形 態の窒素を含有 するもの並びに アンモニア性窒 素及び硝酸性窒 素を含有するも のであること。 二 りん酸全量又 は加里全量を保 証する肥料は、 動植物質の原料 を使用したもの であること。 三 可溶性りん酸 を含有する原料	

ものを除く。 （の水溶液を けいそう土そ 他の吸着原 料に吸着させ たものをいう 。）

ン酸 ○・○○五 カドミウム ○・○○○ ○七五

及び可溶性りん 酸を含有する原 料を使用する肥 料にあつては、 可溶性りん酸又 は可溶性りん酸 のいずれか一を 保証するもので あること。	四 アルカリ分を 含有する原料及 び石灰を含有す る原料を使用す る肥料にあつて は、アルカリ分 又は石灰のいづ れか一を保証す るものであるこ と。	五 牛等由来の原 料を使用する場 合にあつては、 管理措置が行わ れたものである こと。	六 牛等の部位を 原料とする場合 にあつては、脊 柱等が混合しな いものとして農 林水産大臣の確
---	---	--	--

家庭園芸用複 合肥料（肥料 （混合汚泥複 合肥料及び規	
一 室素、り ん酸又は加 里のいずれ か二以上に	
室素、りん 酸又は加里 のそれぞれ の最も大き	
一 室素全量を保 証する肥料は、 アンモニア性窒 素又は硝酸性窒	<p>七 要植害確認原 料を使用する肥 料を原料として 使用するものに あつては、要植 害確認原料が法 第七条ただし書 の規定に基づき 植害試験の調査 を受け害が認め られないもので あること。</p> <p>八 登録の有効期 間は、三年原料 又は三年肥料等 を使用する肥料 にあつては三年 、三年原料又は 三年肥料等を使 用しない肥料に あつては六年で ある。</p> <p>認を受けた工程 において製造さ れたものである こと。</p>

則第一条の二	各号に掲げる	普通肥料を除く。)	又は肥料原料(原料規格第一及び原料規格第二に掲げるもの	に限り、要植害確認原料及び原料規格第二中十五の項	に掲げるものを除く。)	を使用したものであつて、規則第一条の三	に規定する家庭園芸用肥料であるものをいう。)	計量	大きい主成分の量の合	き	有害成分別表第二のと	おり	い主成分の量の合計量の含有率一・〇%につ	素以外の形態の窒素を含有するものと並びにアンモニウム性窒素及び硝酸性窒素を含有するものであること。	二りん酸全量又は加里全量を保証する肥料は、動植物質の原料を使用したものであること。	三く溶性りん酸を含有する原料及び可溶性りん酸を含有する原料を使用する肥料にあつては、く溶性りん酸又は可溶性りん酸のいずれか一を保証するものであること。	四アルカリ分を含有する原料及び石灰を含有する原料を使用する肥料にあつては、アルカリ分
--------	--------	-----------	-----------------------------	--------------------------	-------------	---------------------	------------------------	----	------------	---	------------	----	----------------------	---	---	---	--

[illegible][illegible][illegible][illegible]

ついでそれ	いずれの最も大きい主成分の量の合計量	〇・二
窒素全量	有害成分別表第二のとおり	二一
は		二
に於て		三
するもの		四
を保證するものにあつては、		五
アンモニニア性窒素を保証するものは、		六
酸性窒素		七
〇・一		八
硝酸性を保証するものに於ては		九
硝酸性窒素		十
〇・一		十一
窒素含有率		十二
〇・二		十三
窒素含有率は、		十四
動植物質の原料を使用したものであること。		十五
く溶性りん酸を含有する原料及び可溶性りん酸を含有する原料を使用する肥料にあつては、		十六
く溶性りん酸又は可溶性りん酸のいづれか一を保証するものであること。		十七
アルカリ分を含む原料及び石灰を含む原料を使用する肥料にあつては、アルカリ分		十八

	ついでそれ	どれの最も	大きい主成	分の量の合	計量	○・二	窒素全量 量を保証するものにあつては、 <u>窒素全量</u>	2 アンモニア性窒素を保証するものにあつては、 <u>アンモニウム性窒素</u>	3 硝酸性を証明するものは、 <u>硝酸性窒素</u>	○・一	い主成分の量の合計量の含有率一〇％につき有害成分別表第二のとおり
	素以外の形態の窒素を含有するものと並びにアンモニア性窒素及び硝酸性窒素を含有するものであること。	二 りん酸全量は加里全量を保証する肥料は、動植物質の原料を使用したものであること。 三 く溶性りん酸を含有する原料及び可溶性りん酸を含有する原料を使用する肥料にあつては、く溶性りん酸又は可溶性りん酸のいずれか一を保証するものであること。	四 アルカリ分を含む原料及び石灰を含む原料を使用する肥料にあつては、アルカリ分								

[illegible][illegible]

ついでそれ	どれの最も	大きい主成	分の量の合	計量	○・二	窒素全	量を保証す るものにあ つては、 窒素全量	○・一	アンモニ	ニア性窒素を 保証するもの にあつては、 アンモニア性窒素	○・一	硝酸性窒素	証するものに あつては、 硝酸性窒素	○・一
い主成分の	量の合計量	の含有率一	〇・〇％につ	き	有害成分別	表第二のと	おり							
素以外の形態の	窒素を含有する	ものと並びにアン	モニア性窒素及	び硝酸性窒素を	含有するもので	あること。								
りん酸全量又	は加里全量を保	証する肥料は、	動植物質の原料	を使用したもの	であること。									
く溶性りん酸	を含有する原料	及び可溶性りん	酸を含有する原	料を使用する肥	料にあつては、									
く溶性りん酸又	は可溶性りん酸	のいずれか一を	保証するもので	あること。										
アルカリ分を	含有する原料及	び石灰を含有す	る原料を使用す	る肥料にあつて	は、アルカリ分									

五・〇	アルカリ分	つては	るものにあ	分を保証す	五		水溶性加	のにあつ	証するも	加里を保	3		〇・一	水溶性加	のにあつ	証するも	加里を保	2		〇・一	加里全量	は	にあつて	するもの	量を保証	四		〇・一	加里全	ん酸
					五						3							2								四				

ある。	あつては六年で	用しない肥料に	三年肥料等を使	、三年原料又は	にあつては三年	を使用する肥料	又は三年肥料等	間は、三年原料	登録の有効期	九		あること。	を認め	植害試験の調査	の規定に基づき	第七条ただし書	害確認原料が法	あつては、要植	使用する肥料に	料を原料として	料を使用する肥	八		こと。	%以上通過する	網ふるいを六〇	クロメートルの	つ、六〇〇マイ	いを全通し、か	ートルの網ふる
										九												八								

八 1	可 溶 性	五 ・ 〇	酸	溶 性 け い	つ て は 水	も の に あ	保 証 す る	け い 酸 を	2	水 溶 性	五 ・ 〇	い 酸	可 溶 性 け	つ て は	も の に あ	保 証 す る	け い 酸 を	七 1	可 溶 性	〇 ・ 一	水 溶 性 石 灰	〇 ・ 一	く 溶 性 石 灰	〇 ・ 一	可 溶 性 石 灰	は	の に あ つ て	保 証 す る も	溶 性 石 灰 を	石 灰 又 は 水	灰、く溶 性	六 可 溶 性 石	
苦 土 を 保																																	

一	○	・	○	○	ン	可	溶	性	マ	九 1	○	・	○	○	一	土	水	溶	性	苦	て	は	の	に	あ	つ	証	す	も	の	に	あ	つ	証	す	も	三 3	○	・	○	○	一	土	く	溶	性	苦	て	は	の	に	あ	つ	証	す	も	二 2	○	・	○	○	一	土	可	溶	性	苦	て	は	の	に	あ	つ	証	す	も

六 複合肥料			
(1) 登録の有効期間が六年であるもの			
肥料の種類	含有すべき主成分の最小量(%)	含有を許される有害成分の最大量(%)	その他の制限事項
りん酸アンモニウム	一 アンモニウム窒素	窒素及びりん酸の最も大きい主成分の量の合計量の含有量一・〇%	
二 水溶性りん酸	八・四		
二 アンモニウム窒素及び水溶性りん酸	三七・一	につき	
〇・〇〇二			
十一 可溶性硫酸を保證するものにあつては 〇・一 〇・一			

五 複合肥料			
(1) 登録の有効期間が六年であるもの			
肥料の種類	含有すべき主成分の最小量(%)	含有を許される有害成分の最大量(%)	その他の制限事項
(新設)	(新設)	(新設)	
(新設)	(新設)	(新設)	
(新設)	(新設)	(新設)	

三 〇・ 〇	酸	水 溶 性 り ん	三 七・ 一	酸	く 溶 性 り ん	八・ 四	性 窒 素	ア ン モ ニ ア	つ て は	る も の に あ	酸 を 保 証 す	く 溶 性 り ん	ん 酸 の ほ か	び 水 溶 性 り	ア 性 窒 素 及	二 ア ン モ ニ	三 〇・ 〇	酸	水 溶 性 り ん	三 七・ 一	酸	可 溶 性 り ん	八・ 四	性 窒 素	ア ン モ ニ ア	つ て は	る も の に あ	酸 を 保 証 す	可 溶 性 り ん	ん 酸 の ほ か
--------------	---	-----------------------	--------------	---	-----------------------	---------	-------------	-----------------------	-------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	----------------------------	--------------	---	-----------------------	--------------	---	-----------------------	---------	-------------	-----------------------	-------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------

カ
ド
ミ
ウ
ム
〇・
〇
〇
〇
〇
七
五

硝酸加里	りん酸加里	りん酸マグネシウム
硝酸性窒素 九・七	水溶性りん酸 二五・〇 水溶性加里 二四・二	アンモニウム性窒素 四・〇 水溶性りん酸 二〇・〇 水溶性苦土 一一・五
窒素及び加里の主成分の量の合計の含有率 一・〇%につき 亜硝酸 〇・〇二	りん酸及び加里の主成分の量の合計の含有率 一・〇%につき ひ素 〇・〇〇二 カドミウム 〇・〇〇〇 〇七五	窒素及びりん酸の主成分の量の合計の含有率 一・〇%につき ひ素 〇・〇〇二 カドミウム

(新設)	(新設)	(新設)
(新設)	(新設)	(新設)
(新設)	(新設)	(新設)

<p>終末処理場から生じる汚泥を焼成したもの肥料又は肥料原料を混合し、熔融したもの</p>	(削る)
<p>については四〇・〇可溶性けい酸については一〇・〇は一〇・〇く溶性苦土については一・二・〇</p>	(削る)
<p>〇・〇〇〇鉛〇・〇〇〇三〇五</p>	(削る)
<p>四 牛等の部位を原料とする場合にあつては、脊柱等が混合しないものとして農林水産大臣の確認を受けた工程において製造されたものであること。</p>	(削る)
<p>化成肥料(次に掲げる肥料をいう。一 窒素質肥料、りん酸質肥料、加里質肥料、有機質肥料、複合肥料、石灰質肥料、けい酸質肥料(シリカゲル肥料に限る)、苦土肥料、マンガノ質肥料、ほう素質肥料又は微量要素複合肥料のいずれか二以上を配合し、造粒又</p>	
<p>については三〇・〇く溶性苦土については二〇・〇</p>	<p>一 窒素、りん酸又は加里のいずれか二以上についてそれぞれ最も大きい主成分の量の合計量の含有率一〇・〇％につき二一 窒素全量を保証するものにあつては窒素全量一・〇</p> <p>二 アンモニウム性窒素をア性窒素を保証するものにあつてはアンモニウム性窒素を二・〇</p> <p>三 アンモニウム性窒素を二・〇</p>
<p>窒素、りん酸又は加里の最も大きい主成分の量の合計量の含有率一〇・〇％につき二一 窒素全量を保証するものにあつては窒素全量一・〇</p>	<p>二 窒素全量を保証するものにあつては窒素全量一・〇</p> <p>三 窒素全量を保証するものにあつては窒素全量一・〇</p>
<p>三 牛等の部位を原料とする場合にあつては、脊柱等が混合しないものとして農林水産大臣の確認を受けた工程において製造されたものであること。</p>	<p>一 窒素全量を保証する肥料は、アンモニウム性窒素又は硝酸性窒素以外の成分形態の窒素を含有するもの並びにアンモニウム性窒素及び硝酸性窒素を併せて含有するものであること。</p> <p>二 りん酸全量又は加里全量を保証する肥料は、原料として動植物質のものを使用したものであること。</p> <p>三 原料としてく</p>

110

る普通肥料を 除く。）又は 肥料原料（汚 泥及び魚介類 の臓器を除く 。）を使用し 、これに化学 的操作を加え たもの	四 三に掲げる 化成肥料を配 合し、造粒又 は成形したも の	五 一若しくは 二に掲げる化 成肥料又はそ の原料となる 肥料若しくは その原料とな る肥料を配合 したものに三 に掲げる化成 肥料、その化 成肥料を配合 したもの又は 四に掲げる化 成肥料を配合 し、造粒又は 成形したもの	四 一 加里全量 を保證する ものにあつ ては 加里全量 一・〇	二 く溶性加 里を保證す るものにあ つては く溶性加里 一・〇	三 水溶性加 里を保證す るものにあ つては 水溶性加里 一・〇	五 可溶性けい 酸を保證す るものにあ つては 可溶性けい 酸一・〇	六 一 可溶性苦 土を保證す るものにあ つては 可溶性苦土 一・〇	七 規則第七条の 六第五号の農 林水産大臣が 指定する化成 肥料であるこ と。	認を受けた工 程において製 造されたもの であること。
---	---	--	--	--	--	--	--	---	--------------------------------------

(削る)	
(削る)	
(削る)	
(削る)	

成形成複合肥料 (窒素、リン、カリ、有機質肥料、複合肥料、苦土肥料、マンガン肥料、ほう素肥料、若しくは微量要素複合肥料に木質泥炭、紙パルプ、廃繊維、草炭質腐植、流紋岩質凝灰岩粉末又はベントナイトのいずれか一を混合	
窒素、リン、カリ、有機質肥料、複合肥料、苦土肥料、マンガン肥料、ほう素肥料、若しくは微量要素複合肥料に木質泥炭、紙パルプ、廃繊維、草炭質腐植、流紋岩質凝灰岩粉末又はベントナイトのいずれか一を混合	窒素、リン、カリ、有機質肥料、複合肥料、苦土肥料、マンガン肥料、ほう素肥料、若しくは微量要素複合肥料に木質泥炭、紙パルプ、廃繊維、草炭質腐植、流紋岩質凝灰岩粉末又はベントナイトのいずれか一を混合
窒素、リン、カリ、有機質肥料、複合肥料、苦土肥料、マンガン肥料、ほう素肥料、若しくは微量要素複合肥料に木質泥炭、紙パルプ、廃繊維、草炭質腐植、流紋岩質凝灰岩粉末又はベントナイトのいずれか一を混合	窒素、リン、カリ、有機質肥料、複合肥料、苦土肥料、マンガン肥料、ほう素肥料、若しくは微量要素複合肥料に木質泥炭、紙パルプ、廃繊維、草炭質腐植、流紋岩質凝灰岩粉末又はベントナイトのいずれか一を混合
窒素、リン、カリ、有機質肥料、複合肥料、苦土肥料、マンガン肥料、ほう素肥料、若しくは微量要素複合肥料に木質泥炭、紙パルプ、廃繊維、草炭質腐植、流紋岩質凝灰岩粉末又はベントナイトのいずれか一を混合	窒素、リン、カリ、有機質肥料、複合肥料、苦土肥料、マンガン肥料、ほう素肥料、若しくは微量要素複合肥料に木質泥炭、紙パルプ、廃繊維、草炭質腐植、流紋岩質凝灰岩粉末又はベントナイトのいずれか一を混合

114

水溶性苦土	つては	るものにあ	土を保証す	2	水溶性苦	1・〇	く溶性苦土	つては	るものにあ	土を保証す	5	く溶性苦	1・〇	水溶性加里	つては	るものにあ	里を保証す	3	水溶性加	1・〇	く溶性加里	つては	るものにあ	里を保証す	2	水溶性加	1・〇	加里全量	ては	ものにあつ	を保証する	4	加里全量	1・〇	酸	水溶性りん
-------	-----	-------	-------	---	------	-----	-------	-----	-------	-------	---	------	-----	-------	-----	-------	-------	---	------	-----	-------	-----	-------	-------	---	------	-----	------	----	-------	-------	---	------	-----	---	-------

六、紙パルプ廃繊維（紙パルプ工場の廃水から得られる廃繊維で、乾物当たりホルセルロースを五五％以上を含むもの）は、乾物として二五％以上四〇％以下を使用すること。

七、草炭質腐植（草炭を水洗分離して得られる腐植で、乾物当たり灰分の含量が二〇％以下のもの）は、乾物として一〇％以上二五％以下を使用すること。

八、流紋岩質凝灰岩粉末（乾物一〇〇グラム当たり陽イオン交換容量一三〇ミリグラム当量以上

116

	(削る)	
	(削る)	
	(削る)	
	(削る)	
	被覆複合肥料 (化成肥料又は液状複合肥料を硫黄その他の被覆原料で被覆したものをいう。)	
するものに あつては 水溶性ほう 素 〇・〇五	一 窒素及び水 溶性りん酸又 は水溶性加里 の主成分の量 の合計量 一五・〇 二 窒素全量 を保證する ものにあつ ては 窒素全量 一・〇 三 アンモニ ア性窒素を 保證するも のにあつて は アンモニア 性窒素 一・〇 三 硝酸性窒 素を保證す るものにあ つては 〇・〇〇五 カドミウム 〇・〇〇〇 〇七五	窒素、りん 酸又は加里 のそれぞれ の最も大き い主成分の 量の合計量 の含有率一 ・〇％につ き 硫酸化合物 〇・〇〇五 ひ素 〇・〇〇二 亜硝酸 〇・〇二 ピウレット 性窒素 〇・〇一 スルフアミ ン酸 〇・〇〇五 カドミウム 〇・〇〇〇 〇七五
	一 窒素は、水溶 性であること。 二 窒素の初期溶 出率は、五〇％ 以下であること。 三 牛等由来の原 料を使用する場 合にあつては、 管理措置が行わ れたものである こと。 四 規則第七条の 六第五号の農林 水産大臣が指定 する被覆複合肥 料であること。	

[illegible]

(削る)

119

[illegible]

つては	く溶性加里	一・〇	水溶性加里を保証するものにあつては	水溶性加里	一・〇	可溶性けい酸を保証するものにあつては	可溶性けい酸	一・〇	く溶性苦土を保証するものにあつては	く溶性苦土	一・〇	水溶性苦土を保証するものにあつては	水溶性苦土	一・〇	可溶性マングランを保証するものにあつては	可溶性マングラン	一・〇
-----	-------	-----	-------------------	-------	-----	--------------------	--------	-----	-------------------	-------	-----	-------------------	-------	-----	----------------------	----------	-----

○・○○五	素	水溶性ほう あつては するものに う素を保証	2	○・○○五	素	く溶性ほう あつては するものに う素を保証	81	○・○○五	ガン	水溶性マン にあっては 証するもの ンガンを保	3	○・○○五	ガン	く溶性マン にあつては 証するもの ンガンを保	2	○・○○五	ガン	可溶性マン
-------	---	---------------------------------	---	-------	---	---------------------------------	----	-------	----	----------------------------------	---	-------	----	----------------------------------	---	-------	----	-------

	(2)	登録の有効期間が三年であるもの	肥料の種類	(略)	(削る)
			含有すべき主成分の最小量(%)	(略)	(削る)
			含有を許される有害成分の最大量(%)	(略)	(削る)
			その他の制限事項		(削る)
	(2)	登録の有効期間が三年であるもの	肥料の種類	(略)	化成肥料
			含有すべき主成分の最小量(%)	(略)	一 窒素、りん酸又は加里のいずれか二以上についてそれぞれ最も大きい主成分の量の合計量 一〇・〇 二 窒素全量を保証するものにあつては 窒素全量 一・〇 二 アンモニウム性窒素を 保証するものにあつては アンモニア
			含有を許される有害成分の最大量(%)	(略)	窒素、りん酸又は加里のそれぞれ最も大きい主成分の量の合計量の含有率一〇・〇%につき 硫酸化合物 〇・〇〇五 ひ素 〇・〇〇二 亜硝酸 〇・〇二 ビウレット 性窒素 〇・〇一 スルファミ
			その他の制限事項		一 窒素全量を保証する肥料は、アンモニウム性窒素又は硝酸性窒素以外の成分形態の窒素を含有するもの並びにアンモニウム性窒素及び硝酸性窒素を併せて含有するものであること。 二 りん酸全量又は加里全量を保証する肥料は、原料として動植物質のものを使用したものであること。 三 原料としてく

124

四	一・〇	酸
四	一・〇	加里全量
を		保証する
もの		にあつ
ては		
加里全量		
一・〇		
二		
く		
溶性加		
里を		
保証す		
るもの		
にあ		
つては		
く		
溶性加		
一・〇		
三		
水溶性加		
里を		
保証す		
るもの		
にあ		
つては		
水溶性加		
一・〇		
五		
可溶性けい		
酸を		
保証す		
もの		
にあ		
つて		
は		
可溶性けい		
酸		
一・〇		
六		
一		
く		
溶性苦		
土を		
保証す		
るもの		
にあ		
つては		
く		
溶性苦		
土		
一・〇		

七		
規則第七條の		
六第五号の農林		
水産大臣が指定		
する化成肥料以		
外のものである		
こと。		

	(削る)	
	(削る)	
	(削る)	
	(削る)	
混合堆肥複合肥料（次に掲げる肥料をいう。）	一 窒素質肥料、りん酸肥料、加里質肥料、加里質肥料、有機質肥料、複合肥料、石灰質肥料、けい酸質肥料（シリカゲル肥	
八 一 く溶性ほう素を保証するものにあつては く溶性ほう素 ○・一〇	一 窒素、りん酸又は加里のいずれか二以上についてそれぞれ最も大きい主成分の量の合計量の含有率一〇・〇％につき 二 窒素全量を保証するものにあつては 窒素全量 一・〇	二 一 水溶性ほう素を保証するものにあつては 水溶性ほう素 ○・〇五
	窒素、りん酸又は加里の最も大きい主成分の量の合計量の含有率一〇・〇％につき 硫酸化物 〇・〇〇五 ひ素 〇・〇〇二 亜硝酸	
	一 可溶性りん酸又は可溶性マンガンを保証する肥料は、化成肥料の当該欄の三又は四の規定によること。 二 堆肥（動物の排泄物を主原料とするものに限る。）を原料とする場合にあつては、乾物と	

するものに
限る。―を
混合し、造
粒又は成形
後、加熱乾
燥したもの

3	2	七 1	2	六 1	可 溶性けい酸
ンガンを保 水溶性マ ○・一○	ンガンを保 水溶性マ ○・一○	ンガンを保 水溶性マ 一・○	土を保証す るものにあ つては 水溶性苦土 一・○	土を保証す るものにあ つては 水溶性苦土 一・○	

(削る)	
(削る)	
(削る)	
(削る)	
成形複合肥料	
<div> <div>二</div> <div>1</div> <div>室素全量</div> <div>を</div> <div>保証</div> <div>する</div> <div>もの</div> <div>にあ</div> <div>つ</div> </div>	<div> <div>八</div> <div>1</div> <div>く</div> <div>溶性</div> <div>ほ</div> <div>う</div> <div>素</div> <div>を保</div> <div>証</div> <div>する</div> <div>もの</div> <div>に</div> <div>あ</div> <div>つ</div> <div>て</div> <div>は</div> <div>水</div> <div>溶性</div> <div>マ</div> <div>ン</div> <div>ガ</div> <div>ン</div> <div>証</div> <div>する</div> <div>もの</div> <div>に</div> <div>あ</div> <div>つ</div> <div>て</div> <div>は</div> <div>〇</div> <div>・</div> <div>一</div> <div>〇</div> <div>〇</div> <div>・</div> <div>〇</div> <div>五</div> <div>素</div> <div>水</div> <div>溶性</div> <div>ほ</div> <div>う</div> <div>あ</div> <div>つ</div> <div>て</div> <div>は</div> <div>〇</div> <div>・</div> <div>〇</div> <div>五</div> <div>素</div> </div>
<div> <div>〇</div> <div>・</div> <div>〇</div> <div>〇</div> <div>五</div> <div>硫</div> <div>青</div> <div>酸</div> <div>化</div> <div>物</div> <div>〇</div> <div>・</div> <div>〇</div> <div>〇</div> <div>五</div> </div>	<div> <div>室</div> <div>素</div> <div>、</div> <div>りん</div> <div>酸</div> <div>又</div> <div>は</div> <div>加</div> <div>里</div> <div>の</div> <div>そ</div> <div>れ</div> <div>ぞ</div> <div>れ</div> <div>の</div> <div>最</div> <div>も</div> <div>大</div> <div>き</div> <div>の</div> <div>主</div> <div>成</div> <div>分</div> <div>の</div> <div>合</div> <div>計</div> <div>量</div> <div>の</div> <div>含</div> <div>有</div> <div>率</div> <div>一</div> <div>〇</div> <div>・</div> <div>〇</div> <div>〇</div> <div>〇</div> <div>五</div> <div>〇</div> <div>・</div> <div>〇</div> <div>〇</div> <div>〇</div> <div>五</div> </div>
<div> <div>一</div> <div>室</div> <div>素</div> <div>全</div> <div>量</div> <div>を</div> <div>保</div> <div>証</div> <div>する</div> <div>もの</div> <div>に</div> <div>あ</div> <div>つ</div> <div>て</div> <div>は</div> <div>〇</div> <div>・</div> <div>〇</div> <div>〇</div> <div>〇</div> <div>五</div> </div>	

137

<p>二五%以下を使用すること。</p>	<p>八 流紋岩質凝灰岩粉末（乾物一〇〇グラム当たり陽イオン交換容量一三〇ミリグラム当量以上を有するもの）は、二五%以上三五%以下を使用すること。</p>	<p>九 ベントナイト（乾物一〇〇グラム当たり陽イオン交換容量五〇ミリグラム当量以上を有するものは、二五%以上三五%以下を使用すること。</p>	<p>十 牛等由来の原料を使用する場合にあつては、管理措置が行われたものであること。</p>	<p>十一 規則第七条の六第五号の農林水産大臣が指</p>
----------------------	---	--	--	-------------------------------

	(削る)	
	(削る)	
	(削る)	
	(削る)	
	吸着複合肥料 (窒素、りん 酸又は加里を 含有する水溶 液をけいそう 土その他の吸 着原料に吸着 させたものを いう。)	
一 窒素、水溶 性りん酸又は 水溶性加里の いずれか二以 上の主成分の 量の合計量 五・〇 二一 窒素全量 を保證する ものにあつ ては 窒素全量 一・〇 二 アンモニ ア性窒素を 保證するも 〇・〇五 素 水溶性ほう 素 〇・〇五 二 水溶性ほう 素を保證 するものに あつては 水溶性ほう 素	窒素、りん 酸又は加里 のそれぞれ の最も大き い主成分の 量の合計量 の含有率一 ・〇％につ き 硫酸酸化物 〇・〇〇五 ひ素 〇・〇〇二 亜硝酸 〇・〇二 ピウレット	
一 植害試験の調 査を受け害が認 められないもの であること。 二 牛等由来の原 料を使用する場 合にあつては、 管理措置が行わ れたものである こと。 三 牛等の部位を 原料とする場合 にあつては、脊 柱等が混合しな いものとして農 林水産大臣の確	定する成形複合 肥料以外のもの であること。	

(削る)			
(削る)			
(削る)			
(削る)			
被覆複合肥料			
二一 窒素全量	一 窒素及び水溶性りん酸又は水溶性加里の合計量 一五・〇	三 硝酸性窒素を保証するものにあつては 一・〇	の にあつては アンモニア性窒素 一・〇
の含有率一	窒素、りん酸又は加里のそれぞれ最大の主成分の量の合計量	〇・〇〇五 カドミウム 〇・〇〇〇 〇七五	性窒素 〇・〇一 スルファミン酸
三 牛等由来の原料	一 窒素は、水溶性であること。 二 窒素の初期溶出率は、五〇%以下であること	認を受けた工程において製造されたものであること。	

	(削る)	
	(削る)	
	(削る)	
	(削る)	

副産複合肥料 (食品工業又は化学工業において副産されたものであつて、窒素、りん酸又は加里のいずれか二以上を含むものを含むもの。) 窒素全量 一・〇 五	副産複合肥料 (食品工業又は化学工業において副産されたものであつて、窒素、りん酸又は加里のいずれか二以上の主成分の量の合計量 五・〇 二一 窒素全量を保証するものにあつては 窒素全量 一・〇 五	五 水溶性苦土を保証するものにあつては 水溶性苦土 一・〇 六 水溶性マンガンを保証するものにあつては 水溶性マンガン 一・〇 七 水溶性ほう素を保証するものにあつては 水溶性ほう素 〇・〇五
窒素、りん酸又は加里のそれぞれ最大の主成分の量の合計量の含有率一・〇%につき 硫青酸化物 〇・〇五 五	窒素、りん酸又は加里のそれぞれ最大の主成分の量の合計量の含有率一・〇%につき 硫青酸化物 〇・〇五 五	
一 植害試験の調査を受け害が認められないものであること。 二 牛等由来の原料を使用する場合 牛等の部位を原料とする場合	一 窒素、りん酸又は加里のそれぞれ最大の主成分の量の合計量の含有率一・〇%につき 硫青酸化物 〇・〇五 五	

[illegible]

(削る)	
(削る)	
(削る)	
(削る)	
液状複合肥料	
一 室素、りん 酸又は加里の いずれか二以 上についてそ れぞれの最も 大きい主成分	四 酸 一・〇 一 加里全量 を保証する ものにあつ ては 加里全量 二 く溶性加 里を保証す るものにあ つては く溶性加里 一・〇 三 水溶性加 里を保証す るものにあ つては 水溶性加里 一・〇 五 く溶性苦土 を保証するも のにあつては く溶性苦土 一・〇
室素、りん 酸又は加里 のそれぞれ の最も大き い主成分の 量の合計量	
一 室素全量、り ん酸全量、加 里全量、く溶性 りん酸又は可溶性 りん酸を保証す る肥料は、成形	

一

窒

素

、

りん

酸

又

は

加

里

の

い

ず

れ

か

二

以

上

に

つ

い

て

そ

れ

ぞ

れ

の

最

も

大

き

い

主

成

分

の

合

計

量

窒

素

、

りん

酸

又

は

加

里

の

そ

れ

ぞ

れ

の

最

も

大

き

い

主

成

分

の

合

計

量

一

窒

素

全

量

、

りん

酸

全

量

、

加

里

全

量

、

く

溶

性

り

ん

酸

又

は

可

溶

性

り

ん

酸

を

保

証

す

る

肥

料

は

、

成

形

149

	(削る)	
	(削る)	
	(削る)	
	(削る)	
	熔成汚泥灰複 合肥料(下水 道の終末処理 場から生じる 汚泥を焼成し たものに肥料 又は肥料原料 を混合し、熔 融したもの をいう。	
一 二・〇 二 一・〇 三 〇・〇 四 〇・〇 五 〇・〇	一 二・〇 二 一・〇 三 〇・〇 四 〇・〇 五 〇・〇	一 二・〇 二 一・〇 三 〇・〇 四 〇・〇 五 〇・〇
一 二・〇 二 一・〇 三 〇・〇 四 〇・〇 五 〇・〇	一 二・〇 二 一・〇 三 〇・〇 四 〇・〇 五 〇・〇	一 二・〇 二 一・〇 三 〇・〇 四 〇・〇 五 〇・〇
一 二・〇 二 一・〇 三 〇・〇 四 〇・〇 五 〇・〇	一 二・〇 二 一・〇 三 〇・〇 四 〇・〇 五 〇・〇	一 二・〇 二 一・〇 三 〇・〇 四 〇・〇 五 〇・〇

理施設から生じた汚泥を濃縮、脱水又は乾燥したものは動物の排泄物を凝集を促進する材料（昭和二十五年六月二十日農林省告示百七十七号（特殊肥料等を指定する件）の別表に掲げる凝集促進材を除く。）若しくは悪臭を防止する材料を混合し、脱水若しくは乾燥

四 汚泥肥料は、乾物として四〇％以下を使用すること。
五（略）
六 要植害確認原料を使用する肥料を原料として使用するものにあつては、要植害確認原料が法第七条ただし書の規定に基づき植害試験の調査を受け害が認められないものであること。

施設から生じた汚泥を濃縮、脱水又は乾燥したもの、乾燥したものは動物の排泄物を凝集を促進する材料（昭和二十五年六月二十日農林省告示百七十七号（特殊肥料等を指定する件）の別表に掲げる凝集促進材を除く。）若しくは悪臭を防止する材料を混合し、脱水若しくは乾燥したものを動物の排泄物を混合したもの又はこれを

量を保証するものにあつてはりん酸全量一・〇〇〇二
二 ぐ溶性りん酸を保証するものにあつてはぐ溶性りん酸一・〇〇〇三
三 可溶性りん酸を保証するものにあつては可溶性りん酸一・〇〇〇二
四 水溶性りん酸を保証するものにあつては水溶性りん酸一・〇〇〇二
四一 加里全量を保証するものにあつては加里全量一・〇〇〇二
二 ぐ溶性加里一・〇〇〇二

水銀
〇・〇〇〇二
鉛
〇・〇〇〇三

二 汚泥発酵肥料は、乾物として四〇％以下を使用すること。
三（略）
（新設）

乾燥したものを

二 動物の排せつ物の燃焼灰（鶏ふん燃焼灰に限る。）及び汚泥発酵肥料）

155

水溶性ほう	あつては するものに う素を保証	2	○・○五	く溶性ほう	あつては するものに う素を保証	ハ 1	○・一〇	く溶性ほう	にあっては 証するもの ンガンを保 グン	3	○・一〇	水溶性マ ンガンを保 証するもの にあつては 水溶性マン ガン	2	○・一〇	く溶性マ ンガンを保 証するもの にあつては く溶性マン ガン	可溶性マン ガン	にあっては 証するもの
-------	------------------------	---	------	-------	------------------------	--------	------	-------	-------------------------------	---	------	--	---	------	--	-------------	----------------

	(削る)		
	(削る)		
	(削る)		
	(削る)		
家庭園芸用複 合肥料(熔成 複合肥料、化 成肥料、配合 肥料、混合動 物排せつ物複 合肥料、混合 堆肥複合肥料 、成形複合肥 料、吸着複合 肥料、被覆複 合肥料、副産 複合肥料、液 状複合肥料、 熔成汚泥灰複 合肥料及び混 合汚泥複合肥 料以外の複合 肥料であつて 、かつ、規則 第一条の二に 規定する家庭 園芸用肥料で あるものをい う。)	一 窒素、りん 酸又は加里の 二以上いずれ かについてそ れぞれの最も 大きい主成分 の量の合計量 の含有率一 ・〇％につ き 硫青酸化物 〇・〇〇五 ひ素 〇・〇〇二 亜硝酸 〇・〇〇二 ピウレット 性窒素 〇・〇一 スルファミ ン酸 〇・〇〇五 カドミウム 〇・〇〇〇 〇七五 ニッケル 〇・〇〇五 クロム	二 牛等由來の原 料を使用する場 合にあつては、 管理措置が行わ れたものである こと。 三 牛等の部位を 原料とする場合 にあつては、脊 柱等が混合しな いものとして農 林水産大臣の確 認を受けた工程 において製造さ れたものである こと。	素 〇・〇五

登録の有効期間が三年又は六年であるもの

(新設)

[illegible]

肥料の種類	含有すべき主成分の最小量(%)	含有を許される有害成分の最大量(%)	その他の制限事項
化成肥料（次に掲げる肥料をいう。 一 窒素、リン酸、カリ、有機質肥料、加里質肥料、加里質肥料、有機質肥料、副産肥料、等、複合肥料、石灰質肥料、けい酸質肥料、苦土質肥料、マンガン質肥料、ほう素質肥料又は微量要素複合肥料のいずれか二以上を配合し、造粒又は成形したもの 二 一に掲げ	主成分別表第一のとおり。 ただし、同表の記載にかかわらず、窒素、リン酸又は加里のいずれか二以上についてそれぞれ、の最も大きい主成分の量の合計量 二・〇	窒素、リン酸又は加里のそれぞれ、の最も大きい主成分の量の合計量の含有率一・〇%につき有害成分別表第二のとおり	一 窒素全量を保証する肥料は、アンモニウム性窒素又は硝酸性窒素以外の成分形態の窒素を含有するもの並びにアンモニウム性窒素及び硝酸性窒素を含有するものであること。 二 リン酸全量は加里全量を保証する肥料は、動植物質の原料を使用したものであること。 三 く溶性りん酸を含有する肥料及び可溶性りん酸を含有する肥料を原料として使用する肥料にあつては、く溶性りん酸又は可

三 肥料（混合汚泥複合肥料及び規

る化成肥料の原料となる肥料に米ぬか、発酵米ぬか、乾燥藻及びその粉末、発酵乾ふん肥料、よもぎかす、骨灰、動物の排せつ物（鶏ふんの炭化物に限る。）又は動物の排せつ物の燃焼灰（鶏ふん燃焼灰又は牛の排せつ物と鶏ふんとの混合物の燃焼灰に限る。）のいずれか一以上を配合し、造粒又は成形したもの

四 アルカリ分を含有する肥料及び石灰を含有する肥料を原料として使用する肥料にあつては、アルカリ分又は石灰のいずれか一を保証するものであること。

五 牛等由来の原料を使用する場合にあつては、管理措置が行われたものであること。

六 牛等の部位を原料とする場合にあつては、脊柱等が混合しないものとして農林水産大臣の確認を受けた工程において製造されたものであること。

七 要植害確認原

則第一条の	二各号に掲	げる普通肥	料を除く。	）又は肥料	原料（原料	規格第一及	び原料規格	第二に掲げ	るものに限	り、三年原	料及び原料	規格第二中	十五の項に	掲げるもの	を除く。）	を使用し、	これに化学	的操作を加	えたもの	四	三に掲げ	る化成肥料	を配合し、	造粒又は成	形したもの	五	一若しく	は二に掲げ	る化成肥料	又はその原	料となる肥	料若しくは
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	---	------	-------	-------	-------	-------	---	------	-------	-------	-------	-------	-------

料を使用する肥	料を原料として	使用する肥料に	あつては、要植	害確認原料が法	第七条ただし書	の規定に基づき	植害試験の調査	を受け害が認め	られないもので	あること。	八	登録の有効期	間は、三年原料	又は三年肥料等	を使用する肥料	にあつては三年	、三年原料又は	三年肥料等を使	用しない肥料に	あつては六年で	ある。
---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	-------	---	--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	-----

混合動物排せ つ物複合肥料 (窒素質肥料 、りん酸質肥 料、加里質肥 料、有機質肥 料、副産肥料 等、複合肥料 、石灰質肥料 、けい酸質肥 料、苦土質肥 料、マンガ 質肥料、ほう 素質肥料又は 微量要素複合	その原料と なる肥料を 配合したも のに三に掲 げる化成肥 料、その化 成肥料を配 合したもの 又は四に掲 げる化成肥 料を配合し 、造粒又は 成形したも の
主成分別表第 一のとおり。 ただし、同表 の記載にか わらず、窒素 、りん酸又は 加里のいずれ か二以上につ いてそれぞれ の最も大きい 主成分の量の 合計量 二・〇	
窒素、りん 酸又は加里 のそれぞれ の最も大き い主成分の 量の合計量 の含有率一 ・〇％につ き有害成分 別表第二の とおり	
一 く溶性りん酸 を含有する肥料 及び可溶性りん 酸を含有する肥 料を原料として 使用する肥料に あつては、く溶 性りん酸又は可 溶性りん酸のい ずれか一を保証 するものである こと。 二 アルカリ分を 含有する肥料及 び石灰を含有す	

肥料に動物の	排せつ物	（	牛又は豚の排	せつ物を加熱	乾燥したもの	に限る。）を	混合し、造粒	又は成形した	ものをいう。	）
--------	------	---	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	---

物（牛又は豚の
排せつ物を加熱

乾燥したものに 限る。)は、乾 物として七〇% 以下を使用する こと。	六 牛等由来の原 料を使用する場 合にあつては、 管理措置が行わ れたものである こと。	七 要植害確認原 料を使用する肥 料を原料として 使用する肥料に あつては、要植 害確認原料が法 第七条ただし書 の規定に基づき 植害試験の調査 を受け害が認め られないもので あること。	八 登録の有効期 間は、三年肥料 等を原料として 使用する肥料に あつては三年、 三年肥料等を原 料として使用し
---	--	--	---

混合堆肥複合肥料（次に掲げる肥料をいう。 一 窒素質肥料、りん酸質肥料、加里質肥料、有機質肥料、副産肥料等、複合肥料、石灰質肥料、けい酸質肥料、苦土質肥料、マンガン質肥料、ほう素質肥料又は微量要素複合肥料に堆肥（動物の排せつ物又は食品由来の有機質物を主原料とするも	
主成分別表第一の一のとおり。 ただし、同表の記載にかかわらず、窒素、りん酸又は加里のいずれにか二以上についてそれぞれ最も大きい主成分の量の合計量 二・〇	
窒素、りん酸又は加里のそれぞれ最も大きい主成分の量の合計量の含有率一・〇につき有害成分別表第二の一のとおり	
一 く溶性りん酸を含有する肥料及び可溶性りん酸を含有する肥料を原料として使用する肥料にあつては、く溶性りん酸又は可溶性りん酸のいずれか一を保証するものであること。 二 アルカリ分を含有する肥料及び石灰を含有する肥料を原料として使用する肥料にあつては、アルカリ分又は石灰のいずれか一を保証するものであること。 三 可溶性マンガンを保証する肥料は、可溶性マンガンを保証す	ない肥料にあつては六年である。

の	に	限	る。	（	を	混	合	し	、	造	粒	又	は	成	形	後	、	加	熱	乾	燥	し	た	も	の	二	窒	素	質	肥	料	、	りん	酸	質	肥	料	、	加	里	質	肥	料	、	有	機	質	肥	料	、	副	産	肥	料	等	、	複	合	肥	料	、	石	灰	質	肥	料	、	け	い	酸	質	肥	料	、	苦	土	質	肥	料	、	マン	ガ	ン	質	肥	料	、	ほ	う	素	質	肥	料	又	は	微	量	要	素	複	合	肥	料	に	米	ぬ	か	、	発	酵	米	ぬ	か	、	乾	燥	藻	及	び	そ	の	粉	末	、	発	酵	乾	ぶ	ん	肥	料	、	よ	も	ぎ	か	す	、	骨	灰	、	動	物
---	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

る	肥	料	を	原	料	と	し	て	使	用	し	た	も	の	で	あ	る	こ	と。	四	堆	肥	（	動	物	の	排	せ	つ	物	を	主	原	料	と	す	る	も	の	に	限	る。	）	を	原	料	と	す	る	場	合	に	あ	つ	て	は	、	乾	物	と	し	て	窒	素	全	量	が	二	・	〇	％	以	上	で	あ	り	、	か	つ	、	窒	素	全	量	、	りん	酸	全	量	又	加	里	全	量	の	合	計	量	五	・	〇	％	以	上	で	あ	る	こ	と。	五	堆	肥	（	食	品	由	来	の	有	機	質	物	を	主	原	料	と	す	る	も	の	に	限	る。	）	を	原	料	と	す	る	場	合	に	あ	つ	て	は	、	乾	物	と	し	て	窒	素	全	量	が	三	・	〇	％	以	上	で	あ	り	、	か	つ	、	窒	素	全	量	、	りん	酸	全	量	又	加	里	全	量	の	合	計	量	が	五	・	〇	％	以	上
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

	<div data-bbox="544 264 1414 427" data-label="Text"> <p>の排せつ物 （鶏ふんの炭化物に限る。）又は動物の排せつ物の燃焼灰（鶏ふん燃焼灰に限る。）のいずれか一以上及び堆肥（動物の排せつ物又は食品由来の有機質物を主原料とするものに限る。）を混合し、造粒又は成形後、加熱乾燥したもの）</p> </div> <div data-bbox="288 824 1414 1070" data-label="Text"> <p>であること。</p> <p>六 牛等由来の原料を使用する場合にあつては、管理措置が行われたものであること。</p> <p>七 要植害確認原料を使用する肥料を原料として使用する肥料にあつては、要植害確認原料が法第七条ただし書の規定に基づき植害試験の調査を受け害が認められないものであること。</p> <p>八 登録の有効期間は、三年肥料等を原料として使用するものにあつては三年、三年肥料等を原料として使用しないものにあつては六年である。</p> </div>
--	--

成形複合肥料 (窒素質肥料、りん酸質肥料、加里質肥料、有機質肥料、副産肥料等、複合肥料、石灰質肥料、けい酸質肥料、苦土質肥料、マンガン質肥料、ほう素質肥料若しくは微量要素複合肥料に木質泥炭、紙パルプ廃繊維、草炭質腐植、流紋岩質凝灰岩粉末又はベントナイトのいずれか一を混合し、造粒又は成形したものをいう。	主成分別表第一のとおりに記載にかかわらず、窒素、りん酸又は加里のいずれにか二以上についてそれぞれ最大の量の主成分の量の合計量	二・〇	窒素、りん酸又は加里のそれぞれの最大の主成分の量の含有率一・〇%につき有害成分別表第二のとおりに	一 窒素全量を保証する肥料は、アンモニア性窒素又は硝酸性窒素以外の成分形態の窒素を含有するもの並びにアンモニア性窒素及び硝酸性窒素を含有するものであること。	二 りん酸全量又は加里全量を保証する肥料は、動植物質の原料を使用したものであること。	三 く溶性りん酸を含有する肥料及び可溶性りん酸を含有する肥料を原料として使用する肥料にあつては、く溶性りん酸又は可溶性りん酸のいずれか一を保証するものであること。	四 アルカリ分を
--	--	-----	--	--	--	---	----------

七	紙パルプ廃繊	含有する肥料及び石灰を含有する肥料を原料として使用する肥料にあつては、アルカリ分又は石灰のいずれか一を保証するものであること。	五	可溶性マンガンを保証する肥料は、可溶性マンガンを保証する肥料を原料として使用したものであること。	六	木質泥炭（乾物一グラム当たり〇・〇二モル毎リットルの過マンガン酸カリウム溶液の消費量が一〇〇ミリリットル相当以上の腐植を含有するもの）は、乾物として二〇%以上四五%以下を使用すること。	七	紙パルプ廃繊
---	--------	---	---	--	---	--	---	--------

維（紙パルプ工場の廃水から得られる廃繊維で、乾物当たりホルセルロースを五五％以上含有するもの）は、乾物として二五％以上四〇％以下を使用すること。	八 草炭質腐植（草炭を水洗分離して得られる腐植で、乾物当たり灰分の含量が二〇％以下のもの）は、乾物として一〇％以上二五％以下を使用すること。	九 流紋岩質凝灰岩粉末（乾物一〇〇グラム当たり陽イオン交換容量一三〇ミリグラム当量以上を有するもの）は、二五％以上三五％以下を使用すること。
--	--	--

十	ベントナイト (乾物一〇〇グラム当たり陽イオン交換容量五〇ミリグラム当量以上を有するもの)は、二五%以上三五%以下を使用すること。
十一	牛等由来の原料を使用する場合にあつては、管理措置が行われたものであること。
十二	要植害確認原料を使用する肥料を原料として使用するものにあつては、要植害確認原料が法第七条ただし書の規定に基づき植害試験の調査を受け害が認められないものであること。
十三	登録の有効期間は、三年肥料等を原料とし

配合肥料（次に掲げる肥料	
一、窒素、りん酸又は加里	<div>七、酸水溶性けい</div> <div>七、水溶性苦土を保證するものにあつては</div> <div>八、水溶性マンガンに於ては</div> <div>九、水溶性ほう素に於ては</div> <div>十、可溶性硫酸を保證するものにあつては</div> <div>一・〇</div>
酸又は加里	
一、窒素全量を保証する肥料は、	

をいう。	一	窒素質肥料、りん酸質肥料、加里質肥料、有機質肥料、副産肥料等、複合肥料、石灰質肥料、けい酸質肥料、苦土質肥料、マンガン質肥料、ほう素質肥料又は微量要素複合肥料のいずれか二以上を配合したもの	二	一に掲げる配合肥料の原料となる肥料に米ぬか、発酵米ぬか、乾燥藻及びその粉末、発酵乾ぶん肥料、グアノ（りん酸の	
里のいずれかに二以上に ついてそれぞれの最も 大きい主成分の量の合 計量	二・〇	二一 窒素全量を保証するものにあつては、 窒素全量一・〇	二	アンモニア性窒素を保証するものにあつては、 アンモニ ア性窒素一・〇	三 硝酸性窒素を保証するものに あつては、 硝酸性窒素一・〇
のそれぞれ の最も大 きい主成 分の合計 量の含有 率一・〇 につき別表第二のとおり	二	りん酸全量は加里全量を保証する肥料は、 動植物質の原料を使用したものであること。	三	く溶性りん酸を含有する肥料及び可溶性りん酸を含有する肥料を原料として使用する肥料にあつては、く溶性りん酸又は可溶性りん酸のいずれか一を保証するものであること。	四 アルカリ分を含有する肥料及び石灰を含有す

水溶性	つては	ものにあ	保証する	りん酸を	4	一・〇	水溶性	ん酸	可溶性	つては	ものにあ	保証する	りん酸を	3	一・〇	可溶性	ん酸	く溶性	つては	ものにあ	保証する	りん酸を	2	一・〇	く溶性	りん酸全	量は	ては	のにあつ	証するも	全量を保	1	りん酸	一・〇
-----	-----	------	------	------	---	-----	-----	----	-----	-----	------	------	------	---	-----	-----	----	-----	-----	------	------	------	---	-----	-----	------	----	----	------	------	------	---	-----	-----

五・〇	アルカリ分	つては	るものにあ	分を保証す	五		水溶性加	のにあつ	証するも	加里を保	3		水溶性加	のにあつ	証するも	加里を保	2		加里全量	は	にあつて	するもの	量を保証	四		加里全	一・〇	ん酸
					アルカリ	一・〇					水溶性	一・〇					加里を	一・〇						加里を				

九	登録の有効期	間は、三年肥料	等を原料として	使用する肥料に	あつては三年、	三年肥料等を原	料として使用し	ない肥料にあつ	ては六年である	あること。	を認め	植害試験の調査	の規定に基づき	第七条ただし書	害確認原料が法	あつては、要植	使用する肥料に	料を原料として	料を使用する肥

七 石灰質肥料														
肥料の種類	(1) 登録の有効期間が六年であるもの													
含有すべき主成分の最小量	含有を許される成分の	その他の制限事項	2 保証するものにあつては 水溶性ほう素を保証するものに あつては 水溶性ほう素 五 ○・○ 十一 可溶性硫黄を保証するものに あつては 可溶性硫黄 一・○											

六 石灰質肥料														
肥料の種類	(1) 登録の有効期間が六年であるもの													
	含有すべき主成分の最小量(%)	含有を許される有害成分の最大量												
その他の制限事項														

	(略)	貝化石肥料（貝化石粉末又はこれにマグネシウムの酸化物若しくは水酸化物を混合し、造粒したものをいう。）	硫酸カルシウム（りん酸を生産する際に副産されるものに限る。）
(%)	(略)	(略)	一 可溶性石灰、く溶性石灰又は水溶性石灰の含率一・〇%につき 二 可溶性石灰、く溶性石灰又は水溶性石灰のほかに可溶性硫黄を保証する
最大量（%）	(略)		一 可溶性石灰、く溶性石灰又は水溶性石灰の含率一・〇%につき 二 スルファミン酸 〇・〇一
	(略)		
	(略)	貝化石肥料（貝化石粉末又はこれにマグネシウムの酸化物若しくは水酸化物を混合し、造粒したものをいう。）	(新設)
	(略)	(略)	(新設)
(%)	(略)		(新設)
	(略)		

	(略)	(削る)
ものにあ つては 可溶性硫 黄 一・〇	(略)	(削る)
	(略)	(削る)
	(略)	(削る)

	(略)	混合石灰肥料 (石灰質肥料に 、石灰質肥料、 苦土肥料、ほう 素質肥料又は微 量要素複合肥料 を混合したもの をいう。)
一 アルカリ分 三五・〇 二 アルカリ分 のほかに可溶性 苦土、可溶性 苦土、可溶性 マンガン、可 溶性マンガン 、可溶性ほう 素又は水溶性 ほう素を保証 するものにあ つては、一に 掲げるものの ほか 可溶性苦土に ついては 四・五 可溶性苦土に ついては 一・〇 可溶性マンガ ンについては	(略)	一 アルカリ分 の含有率一 ・〇％につ き ひ素 〇・〇〇四 亜硝酸 〇・〇四 ニッケル 〇・〇一 クロム 〇・一 チタン 〇・〇四
一 可溶性マンガ ンを保証する肥 料は、原料とし て可溶性マンガ ンを保証する肥 料を使用したも のであること。 二 規則第七条の 六第六号の農林 水産大臣が指定 する混合石灰肥 料であること。	(略)	

(2) 登録の有効期間が三年又は六年であるもの	肥料の種類	混合石灰肥料（石灰質肥料に、有機質肥料、副産肥料等、石灰質肥料、けい酸質肥料、苦土質肥料、マンガン質肥料、ほう素質肥料又は微量要素複合肥料を混合したものを	主成分別表第一のおり。ただし、同表の記載にかかわらず、アルカリ分については	五・〇
	含有すべき主成分の最小量（％）	含有を許される有害成分の最大量（％）	一 窒素を保証し、りん酸又は加里を保証しないものにあっては、窒素全量、アンモニア性窒素、硝酸	二 りん酸全量又は加里全量を保証する肥料は、動植物質の原料を使用
	その他の制限事項	一 窒素全量を保証する肥料は、アンモニア性窒素又は硝酸性窒素以外の成分形態の窒素を含有するもの並びにアンモニア性窒素及び硝酸性窒素を含有するものであること。	二 りん酸全量又は加里全量を保証する肥料は、動植物質の原料を使用	三 窒素全量を保証する肥料は、アンモニア性窒素又は硝酸性窒素を含有するものであること。

い
う。
)

酸性窒素	又はアン	モニア性	窒素及び	硝酸性窒	素の合計	量のうち	最も大き	いものの	含有率一	・〇％に	つき	有害成分	別表第一	のとお	二りん酸	又は加里	のいづれ	か一を保	証し、窒	素を保証	しないも	のにあつ	ては、保	証する主	成分のう	ち最も大	きい主成	分の量の	合計量の	含有率一
用したものであること。	三	く溶性りん酸を含有する肥料及び可溶性りん酸を含有する肥料を原料として使用する肥料にあつては、く溶性りん酸又は可溶性りん酸のいづれか一を保証するものであること。	四	アルカリ分を含有する肥料及び石灰を含有する肥料を原料として使用する肥料にあつては、アルカリ分又は石灰のいづれか一を保証するものであること。	五	可溶性マンガンを保証する肥料は、可溶性マンガンを保証する肥料を原料として使用したものであること。	六	牛等由来の原料を使用する場合にあつては、管理措置が行われたものであること。	七	牛等の部位を原料とする場合にあつては、脊柱等が混合しないも																				

するものにあ	つては、一に	掲げるもの	ほか	可溶性苦土に	ついては	四・五	く溶性苦土に	ついては	一・〇	可溶性マンガ	ンについて	〇・一〇	く溶性マンガ	ンについて	〇・一〇	く溶性ほう素	について	〇・五	水溶性ほう素	について	〇・五
--------	--------	-------	----	--------	------	-----	--------	------	-----	--------	-------	------	--------	-------	------	--------	------	-----	--------	------	-----

チタン
 〇・一
 〇・四

(新設)

・〇％に つき	有害成分 別表第二	のとお り窒素、	三 りん酸又 は加里の うち、い ずれか二 以上を保 証するも のにあつ ては、窒 素、りん 酸又は加 里のそれ ぞれの最 も大きい 主成分の 量の合計 量の含有 率一・〇 ％につき	有害成分 別表第二	のとお り窒素、	四 りん酸及 び加里を 保証しな
------------	--------------	-------------	---	--------------	-------------	---------------------------

のとして農林水産大臣 の確認を受けた工程に おいて製造されたもの であること。	八 要植害確認原料を使 用する肥料を原料とし て使用する肥料にあつ ては、要植害確認原料 が法第七条ただし書の 規定に基づき植害試験 の調査を受け害が認め られないものであるこ と。	九 登録の有効期間は、 三年肥料等を原料とし て使用する肥料にあつ ては三年、三年肥料等 を原料として使用しな い肥料にあつては六年 である。
--	--	--

二 規則第七条の 六第六号の農林 水産大臣が指定 する混合石灰肥 料以外のもので あること。
--

(新設)

硫酸苦土肥料	肥料の種類	(1) 登録の有効期間が六年であるもの	八 (略)	九 苦土質肥料	
一 水溶性 苦土 一一・〇	含有すべき主成分の最小量 (%)	含有を許される有害成分の最大量 (%)	七 (略)	八 苦土肥料	(1) 登録の有効期間が六年であるもの
二 水溶性 苦土のほ か可溶性 硫黄を保					
(略)					
苦土含有物に硫酸を作用 させて生じたものにあつ ては、く溶性苦土の含有 量に対する水溶性苦土の 含有比率が〇・八以上で あること。	その他の制限事項				

硫酸苦土肥料	肥料の種類	(1) 登録の有効期間が六年であるもの	七 (略)	八 苦土肥料	
水溶性苦土 一一・〇 (新設)	含有すべき主成分の最小量 (%)	含有を許される有害成分の最大量 (%)	七 (略)	八 苦土肥料	(1) 登録の有効期間が六年であるもの
(略)					
(新設)					
	その他の制限事項				

	(略)	加工苦土肥料 (蛇紋岩その他の 塩基性マグネ シウム含有物に 硫酸を加えたも のをいう。)
証するも のにあつ ては、一 に掲げる もののほ か、可溶性 硫酸、黄 一・〇	(略)	一、く溶性 苦土 二、三・〇 水溶性苦 土 三、〇 二、く溶性 苦土及び 水溶性苦 土のほか 可溶性石 灰、く溶 性石灰、 水溶性石 灰又は可 溶性硫酸 を保證す るものに あつては
	(略)	(略)
	(略)	(略)
	(略)	加工苦土肥料(蛇紋岩その他の塩基性マグネシウム含有物に硫酸を加えたものをいう。)
	(略)	く溶性苦土 二、三・〇 水溶性苦土 三・〇 (新設)
	(略)	(略)
	(略)	(略)。

(削る)	(削る)
(削る)	(削る)
(削る)	(削る)
(削る)	(削る)

副産苦土肥料（食品工業、パルプ工業、化学工業、窯業、鉄鋼業又は非鉄金属製造業において副産されたものをいう。）	混合苦土肥料（苦土肥料を二以上混合したものをいう。）
一 可溶性苦土及び可溶性苦土を保証するものにあつては 可溶性苦土 四〇・〇 く溶性苦土 一〇・〇 二 可溶性苦土を保証するものにあつては く溶性苦土 一〇・〇	く溶性苦土 二三・〇 水溶性苦土 三・〇
く溶性苦土の含有率一・〇％につき ニッケル 〇・〇一 クロム 〇・一 チタン 〇・〇四	く溶性苦土の含有率一・〇％につき ひ素 〇・〇〇四 亜硝酸 〇・〇四 ニッケル 〇・〇一 クロム 〇・一 チタン 〇・〇四
一 ニミリメートルの網ふるいを全通し、かつ、鉍さいを原料として使用するものにあつては、六〇〇マイクロメートルの網ふるいを六〇％以上通過すること。 二 規則第七条の六第八号の農林水産大臣が指定する副産苦土肥料であること。	規則第七条の六第八号の農林水産大臣が指定する混合苦土肥料であること。

(2) 登録の有効期間が三年又は六年であるもの	肥料の種類	被覆苦土肥料 (副産肥料) 専ら原料規格 第二中十一の 項に掲げる原 料を使用した 肥料であつて 、苦土を保証 したものに限 る。)又は苦 土質肥料を硫 黄その他の被 覆原料で被覆 したものとい う。
	含有すべき主成分の最小量(%)	一 水溶性苦土 八・〇 二 水溶性苦土のほか水溶性石灰、水溶性マンガン、水溶性性ほう素又は可溶性硫酸を保証するものにあつては、一に掲げるもののほか水溶性石灰については一・〇水溶性マンガンについて
	含有を許される有害成分の最大量(%)	水溶性苦土の含有率一・〇%につき 〇・〇〇四
	その他の制限事項	一 (略) 二 要植害確認原料を使用する肥料を原料として使用する肥料にあつては、要植害確認原料が法第七条ただし書の規定に基づき植害試験の調査を受け害が認められないものであること。 三 登録の有効期間は、三年原料を使用する肥料を原料として使用する肥料にあつては三年、三
(2) 登録の有効期間が三年であるもの	肥料の種類	被覆苦土肥料
	含有すべき主成分の最小量(%)	水溶性苦土 八・〇 (新設)
	含有を許される有害成分の最大量(%)	水溶性苦土の含有率一・〇%につき 〇・〇〇四
	その他の制限事項	一 (略) 二 規則第七条の六第八号の農林水産大臣が指定する副産苦土肥料以外のものであること。 (新設)

(削る)	
(削る)	ては ○・一〇 水溶性ほう 素について は ○・〇五 可溶性硫黄 について 可溶性硫黄 一・〇
(削る)	
(削る)	年原料を使用す る肥料を原料と して使用しない 肥料にあつては 六年である。
副産苦土肥料	
一 可溶性苦土 及び可溶性苦 土を保証する ものにあつて は 可溶性苦土 四〇・〇 く溶性苦土 一〇・〇 二 可溶性苦土 を保証するも のにあつては く溶性苦土 一〇・〇	
く溶性苦土 の含有率一 ・〇％につ き ニッケル 〇・〇一 クロム 〇・一 チタン 〇・〇四	
一 二ミリメー ルの網ふるい を全通し、かつ、 鉍さいを原料と して使用するも のにあつては、 六〇〇マイク ロメートルの網 ふるいを六〇％ 以上通過する こと。 二 植害試験の 調査を受け害が 認められないも のであること。 三 規則第七条の 六第八号の農 林水産大臣が 指定する副産 苦土肥料以外 のもので	

	混合苦土肥料 (副産肥料) 専ら原料規格 第二中十一の 項に掲げる原 料を使用した 肥料であつて 、苦土を保証 したものに限 る。) 又は苦 土質肥料に有 機質肥料、副 産肥料等、石 灰質肥料、け い酸質肥料、 苦土質肥料、 マンガン質肥 料、ほう素質 肥料又は微量 要素複合肥料 を混合したも のをいう。)	主成分別表第 一のとおり。 ただし、同表 の記載にかか わらず、可溶 性苦土、く溶 性苦土又は水 溶性苦土につ いて 一・〇	一 窒素を 保証し、 りん酸又 は加里を 保証しな いものに あつては 、窒素全 量、アン モニア性 窒素、硝 酸性窒素 又はアン モニア性 窒素及び 硝酸性窒 素の合計 量のうち 最も大き いものの 含有率一 ・〇%に つき 有害成分 別表第一 のとおり の二 りん酸 又は加里 のいずれ	一 窒素全量を保 証する肥料は、 アンモニア性窒 素又は硝酸性窒 素以外の成分形 態の窒素を含有 するものと並び アンモニア性窒 素及び硝酸性窒 素を含有するも のであること。 二 りん酸全量又 は加里全量を保 証する肥料は、 動植物質の原料 を使用したもの であること。 三 く溶性りん酸 を含有する肥料 及び可溶性りん 酸を含有する肥 料を原料として 使用する肥料に あつては、く溶 性りん酸又は可 溶性りん酸のい ずれか一を保証 するものである こと。	混合苦土肥料	く溶性苦土 二・三・〇 水溶性苦土 三・〇	く溶性苦土 の含有率一 ・〇%につ き ひ素 〇・〇〇四 亜硝酸 〇・〇四 ニッケル 〇・〇一 クロム 〇・一 チタン 〇・〇四	(新設)	(新設)	あること。
	(新設)									

か	一	を	保	証	し	、	窒	素	を	保	証	し	な	い	も	の	に	あ	つ	て	は	、	保	証	す	る	主	成	分	の	う	ち	最	も	大	き	い	主	成	分	の	量	の	合	計	量	の	含	有	率	一	・	〇	%	に	つ	き	有	害	成	分	別	表	第	二	の	と	お	り	三	窒	素	、	り	ん	酸	又	は	加	里	の	う	ち	、	い	ず	れ	か	二	以	上	を	保	証	す	る	も	の	に	あ	つ	て	は	、	窒	素	、	り	ん	酸	又	は	加	里	の	そ	れ	ぞ	れ	の	最
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

四	アルカリ分を	含有する肥料及	び石灰を含有す	る肥料を原料と	して使用する肥	料にあつては、	アルカリ分又は	石灰のいずれか	一を保証するも	のであること。	五	可溶性マンガ	ンを保証する肥	料は、原料とし	て可溶性マンガ	ンを保証する肥	料を使用したも	のであること。	六	牛等由来の原	料を使用する場	合にあつては、	管理措置が行わ	れたものである	こと。	七	牛等の部位を	原料とする場合	にあつては、脊	柱等が混合しな	いものとして農	林水産大臣の確	認を受けた工程	において製造さ
---	--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---	--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---	--------	---------	---------	---------	---------	-----	---	--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------

(新設)

(新設)

(新設)

(新設)

肥料の種類										
含有すべ										
含有を許										
その他の制限事項										

肥料の種類										
含有すべき主										
含有を許さ										
その他の制限事項										

硫酸マンガン肥 料	(略)	加工マンガン肥 料(マンガン含 有物にマグネシ ウム含有物を混 合し、硫酸を加 えたものをいう 。)
一 水溶性 マンガン 一〇・〇 二 水溶性 マンガン のほかに 溶性硫黄 を保証す るものに あつては 可溶性硫 黄 一・〇	(略)	一 水溶性 マンガン 二・〇 水溶性苦 土 一・二・〇 二 水溶性 マンガン 及び水溶 性苦土の
(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)

硫酸マンガン肥 料	(略)	加工マンガン肥 料(マンガン含 有物にマグネシ ウム含有物を混 合し、硫酸を加 えたものをいう 。)
水溶性マンガン 一〇・〇 (新設)	(略)	水溶性マンガン 二・〇 水溶性苦土 一・二・〇 (新設)
(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)

(略)	
(略)	ほ か 可 溶 性 石 灰 、 く 溶 性 石 灰 、 水 溶 性 石 灰 又 は 可 溶 性 硫 黄 を 保 証 す る も の に あ つ て は 、 一 に 掲 げ る も の の ほ か 可 溶 性 石 灰 に つ い て は 一 ・ ○ く 溶 性 石 灰 に つ い て は 一 ・ ○ 水 溶 性 石 灰 に つ い て は 一 ・ ○ 可 溶 性 硫 黄 に つ い て は 一 ・ ○
(略)	
(略)	
(略)	
(略)	
(略)	
(略)	
(略)	

(2) 登録の有効期間が三年又は六年であるもの	肥料の種類	(削る)	(削る)
	含有すべき主成分の最小量 (%)	(削る)	(削る)
	含有を許される有害成分の最大量 (%)	(削る)	(削る)
	その他の制限事項	(削る)	(削る)

(2) 登録の有効期間が三年であるもの	混合マンガ肥料(マンガ質肥料にマンガ質肥料又は苦土肥料を混合したものを用いる。)	水溶性マンガ 二・〇	水溶性マンガの含有率一・〇%につき 〇・〇〇四	規則第七条の六第九号の農林水産大臣が指定する混合マンガ肥料であること。
	肥料の種類	含有すべき主成分の最小量 (%)	含有を許される有害成分の最大量 (%)	その他の制限事項
	副産マンガ肥料(化学工業において副産されたものをいう。)	水溶性マンガ 八・〇 水溶性マンガ 二・〇	水溶性マンガの含有率一・〇%につき 〇・〇〇四 ニッケル 〇・〇一 クロム 〇・一 チタン 〇・〇四	植害試験の調査を受け害が認められないものであること。
	液体副産マンガ肥料(化学工業肥料)	水溶性マンガ 一〇・〇	水溶性マンガの含有	植害試験の調査を受け害が認められ

	混合マンガン肥料（副産肥料）専ら原料規格第二中十二の項に掲げる原料を使用した肥料であつて、マンガンを保証したものに限り、又はマンガン質肥料に有機質肥料、副産肥料等、石灰質肥料、けい酸質肥料、苦土質肥料、マンガン質肥料、ほう素質肥料又は微量要素複合肥料を混合したものをいう。）
	主成分別表第一の一のとおり。 ただし、同表の記載にかかわらず、可溶性マンガン、又は水溶性マンガンのいずれか一について ○・一〇
	一 窒素を保証し、りん酸又は加里を保証しないものに あつては、窒素全量、アンモニア性窒素、硝酸性窒素、又はアンモニア性窒素及び硝酸性窒素の合計量のうち最も大きいもの含有率一・〇％につき 有害成分別表第一のとおり
	一 窒素全量を保証する肥料は、アンモニア性窒素又は硝酸性窒素以外の成分形態の窒素を含有するものと並びにアンモニア性窒素及び硝酸性窒素を含有するものであること。 二 りん酸全量又は加里全量を保証する肥料は、動植物質の原料を使用したものであること。 三 く溶性りん酸を含有する肥料及び可溶性りん酸を含有する肥料を原料として使用する肥料にあつては、く溶性りん酸又は可溶性りん酸のい
業において副産されたものをいう。）	混合マンガン肥料
	水溶性マンガンの含有率 二・〇 水溶性苦土 一・二・〇
率一・〇％につき ひ素 〇・〇〇四	水溶性マンガンの含有率 一・〇％につき ひ素 〇・〇〇四
ないものであること。	(新設) (新設) (新設)

素、りん	ては、窒	のにあつ	証するも	以上を保	ずれか二	う、い	は加里の	りん酸又	三 窒素、	のとお	別表第二	有害成分	つき	・〇%に	含有率一	合計量の	分の量の	きい主成	ち最も大	成分のう	証する主	ては、保	のにあつ	しないも	素を保証	証し、窒	か一を保	のいづれ	二 りん酸	又は加里		
いものとして農	柱等が混合しな	にあつては、脊	原料とする場合	七 牛等の部位を	こと。	れたものである	管理措置が行わ	合にあつては、	六 牛等由来の原	料を使用する場	のであること。	して使用したも	る肥料を原料と	ンガンを保証す	料は、可溶性マ	ンを保証する肥	五 可溶性マンガ	のであること。	一を保証するも	石灰のいずれか	アルカリ分又は	料にあつては、	して使用する肥	る肥料を原料と	び石灰を含有す	含有する肥料及	四 アルカリ分を	こと。	ずれか一を保証	するものである		

(新設)

(新設)

(新設)

(新設)

十一 ほう素質肥料 登録の有効期間が六年であるもの		
	四 窒素、りん酸及び加里を保証しないものに あつては、マンガンの最も大きい主成分の量の含有率一・〇%につき有害成分別表第一のとおりに	八 要植害確認原料を使用する肥料を原料として使用する肥料にあつては、要植害確認原料が法第七条ただし書の規定に基づき植害試験の調査を受け害が認められないものであること。

十 ほう素質肥料 (1) 登録の有効期間が六年であるもの	
	規則第七条の六第 九号の農林水産大 臣が指定する混合 マンガン肥料以外 のものであること 。（新設）

肥料の種類	(略)	加工ほう素肥料 (ほう素含有物に蛇紋岩その他の塩基性マグネシウム含有物を混合し、硫酸を加えたものをいう。)
含有すべき主成分の最小量(%)	(略)	一 水溶性ほう素 一・〇 水溶性苦土 一一・〇 二 水溶性ほう素及び水溶性苦土のほかに可溶性石灰、可溶性石灰又は可溶性硫酸を保証するものにあつては、一に掲げるもの
含有を許される有害成分の最大量(%)	(略)	(略)
その他の制限事項	(略)	

肥料の種類	(略)	加工ほう素肥料 (ほう素含有物に蛇紋岩その他の塩基性マグネシウム含有物を混合し、硫酸を加えたものをいう。)
含有すべき主成分の最小量(%)	(略)	水溶性ほう素 一・〇 水溶性苦土 一一・〇 (新設)
含有を許される有害成分の最大量(%)	(略)	(略)
その他の制限事項	(略)	

(削る)	(略)	肥料の種類	十二 微量元素複合肥料 (1) 登録の有効期間が六年であるもの	
(削る)	(略)	含有すべき主成分の最小量(%)		のほかに 可溶性石 灰についで は 一・〇 く溶性石 灰についで は 一・〇 水溶性石 灰についで は 一・〇 可溶性硫 黄についで は 一・〇
(削る)	(略)	含有を許される有害成分の最大量(%)		
	(略)	その他の制限事項		

液体微量元素複	(略)	肥料の種類	十一 微量元素複合肥料 (1) 登録の有効期間が六年であるもの	
一 水溶性マン	(略)	含有すべき主成分の最小量(%)		
マンガン及	(略)	含有を許される有害成分の最大量(%)		
	(略)	その他の制限事項		

(削る)	
(削る)	
(削る)	
(削る)	

混合微量元素肥料(マンガン質肥料、ほう素質肥料、微量元素複合肥料又は苦土肥料を混合したものをいう。)	合肥料
<div> <div> 一 マンガン及びほう素についてそれぞれ最も大きい主成分の量の合計量 八・〇 </div> <div> 二 可溶性マンガンを保証するものにあつては可溶性マン </div> </div>	<div> <div> 一 マンガン及びほう素の含有率一・〇％につき </div> <div> 二 規則第七条の六第十一号の農林水産大臣が指定する混合微量元素肥料である </div> </div>
<div> <div> 一 マンガン及びほう素の含有率一・〇％につき </div> <div> 二 規則第七条の六第十一号の農林水産大臣が指定する混合微量元素肥料である </div> </div>	<div> <div> 一 マンガン及びほう素の含有率一・〇％につき </div> <div> 二 規則第七条の六第十一号の農林水産大臣が指定する混合微量元素肥料である </div> </div>

(2) 登録の有効期間が三年又は六年であるもの		
(2) 登録の有効期間が三年又は六年であるもの	肥料の種類	混合微量要素肥料（副産肥料）（専ら原料規格第二中一の項に掲げる原料を使用した肥料であつて、苦土を保証したもの又は専ら原料規格第二中一の項に掲げ
	含有すべき主成分の最小量（％）	主成分別表第一の一のとおり。
	含有を許される有害成分の最大量（％）	一、窒素を保持し、りん酸又は加里を保証しないものにあつては、窒素全量、アンモニア性窒素、硝酸性窒素
	その他の制限事項	一、窒素全量を保持する肥料は、アンモニア性窒素又は硝酸性窒素以外の成分形態の窒素を含有するものと並びにアンモニア性窒素及び硝酸性窒素を含有するものであること。 二、りん酸全量又

(2) 登録の有効期間が三年であるもの		
(2) 登録の有効期間が三年であるもの	肥料の種類	混合微量要素肥料
	含有すべき主成分の最小量（％）	一、マンガンを含有するものにあつては、二、りん酸全量又
	含有を許される有害成分の最大量（％）	一、マンガンを含有するものにあつては、二、りん酸全量又
	その他の制限事項	（新設）

つき	有害成分	別表第二	のとお	三	窒素、	りん酸又	は加里の	うち、い	ずれか二	以上を保	証するも	のにあつ	ては、窒	素りん酸	又は加里	のそれぞ	れの最も	大きい主	成分の量	の合計量	の含有率	一・〇%	につき	有害成分	別表第二	のとお	四	窒素、	りん酸及	び加里を	保証しな	いものに	
ンガンを保証す	る肥料を原料と	して使用したも	のであること。	六	牛等由来の原	料を使用する場	合にあつては、	管理措置が行わ	れたものである	こと。	七	牛等の部位を	原料とする場合	にあつては、脊	柱等が混合しな	いものとして農	林水産大臣の確	認を受けた工程	において製造さ	れたものである	こと。	八	要植害確認原	料を使用する肥	料を原料として	使用する肥料に	あつては、要植	害確認原料が法	第七条ただし書	の規定に基づき	植害試験の調査	を受け害が認め	られないもので

るものにあ	つては	く溶性苦土	一・〇	2	水溶性苦	土を保証す	るものにあ	つては	水溶性苦土	一・〇
-------	-----	-------	-----	---	------	-------	-------	-----	-------	-----

て可溶性マンガ	ンを保証する肥	料を使用したも	のであること。	(新設)	(新設)	二	規則第七条の	六第十一号の農	林水産大臣が指	定する混合微量	要素肥料以外の	ものであること
---------	---------	---------	---------	------	------	---	--------	---------	---------	---------	---------	---------

(削る)	<p>三の項までに掲げる原料に動植物質の原料を混合したもの又はこれを乾燥したもの</p> <p>三 原料規格第三中一の項から三の項までに掲げる原料又は当該原料に動植物質の原料若しくは原料規格第三中四の項に掲げる原料を混合したものを堆積又は攪拌し、腐熟させたもの</p> <p>四 専ら原料規格第三中四の項に掲げる原料を使用したもの</p>
(削る)	<p>水銀 〇・〇〇〇 二</p> <p>ニッケル 〇・〇三</p> <p>クロム 〇・〇五</p> <p>鉛 〇・〇一</p>
(削る)	<p>が認められないものであること。</p> <p>二 牛等由来の原料を使用する場合にあつては、管理措置が行われたものであること。</p> <p>三 牛等の部位を原料とする場合にあつては、脊柱等が混合しないものとして農林水産大臣の確認を受けた工程において製造されたものであること。</p>
<p>下水汚泥肥料（次に掲げる肥料をいう。</p> <p>一 下水道の終末処理場から生じる汚泥を濃縮、消化、脱水又は乾燥したもの</p> <p>二 一に掲げる下水汚泥肥料に植物質若しくは動物質の原料を混合したもの又はこれを乾燥したもの</p> <p>三 一若しくは二に掲げる下水</p>	
<p>ひ素 〇・〇〇五</p> <p>カドミウム 〇・〇〇〇五</p> <p>水銀 〇・〇〇〇二</p> <p>ニッケル 〇・〇三</p>	
<p>一 金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令（昭和四十八年総理府令第五号）別表第一の基準に適合する原料を使用したものであること。</p>	

	(削る)	
	(削る)	
	(削る)	
汚泥肥料を混合したもの又はこれを乾燥したもの	一 し尿処理施設、集落排水処理施設若しくは浄化槽から生じた汚泥又はこれらを混合したものを濃縮、消化、脱水又は乾燥したもの 二 し尿に凝集を促進する材料又は悪臭を防止する材料を混	
クロム 〇・〇五	ひ素 〇・〇〇五 カドミウム 〇・〇〇〇 水銀 五 ニッケル 二	二 植害試験の調査を受け害が認められないものであること。 三 牛等由来の原料を使用する場合にあつては、管理措置が行われたものであること。 四 牛等の部位を原料とする場合にあつては、脊柱等が混合しないものとして農林水産大臣の確認を受けた工程において製造されたものであること。
	一 金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令別表第一の基準に適合する原料を使用したものであること。 二 植害試験の調	

(削る)	
(削る)	
(削る)	
<p>工業汚泥肥料（次に掲げる肥料をいう。</p> <p>一 工場若しくは事業場の排水処理施設から生じた汚泥を濃縮、消化、脱水又は乾燥したもの</p> <p>二 一に掲げる工業汚泥肥料に植物質若しくは動物質の原料を混合したもの又はこれを乾燥したもの</p> <p>ひ素 〇・〇〇五</p> <p>カドミウム 〇・〇〇〇</p> <p>水銀 〇・〇〇〇</p> <p>ニッケル 〇・〇三</p> <p>一 金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令別表第一の基準に適合する原料を使用したものであること。</p> <p>二 植害試験の調査を受け害が認められないものであること。</p>	<p>合し、脱水又は乾燥したもの</p> <p>三 動物の排せつ物に凝集を促進する材料（昭和二十五年六月二十日農林省告示百七十七号（特殊肥料等を指定する件）の別表に掲げる凝集促進材を除く。）又は悪臭を防止する材料を混合し、脱水又は乾燥したもの</p> <p>四 一、二若しくは三に掲げるし尿汚泥肥料に植物質若しくは動物質の原料を混合したもの又はこれを乾燥したもの</p> <p>五 一、二、三若しくは四に掲げるし尿汚泥肥料を混合したもの又はこれを乾燥したもの</p> <p>クロム 〇・〇三</p> <p>鉛 〇・〇一</p> <p>三 牛等由来の原料を使用する場合にあつては、管理措置が行われたものであること。</p> <p>四 牛等の部位を原料とする場合にあつては、脊柱等が混合しないものとして農林水産大臣の確認を受けた工程において製造されたものであること。</p>

(削る)		
(削る)		
(削る)		
三 一若しくは二に掲げる工業汚泥肥料を混合したもの又はこれを乾燥したもの	混合汚泥肥料（次に掲げる肥料をいう。 一 下水汚泥肥料、し尿汚泥肥料若しくは工業汚泥肥料のいずれか二以上を混合したもの又はこれを乾燥したもの 二 一に掲げる混合汚泥肥料に植物質若しくは動物質の原料を混合したもの又はこれを乾燥したもの 三 一若しくは二に掲げる混合	クロム 〇・〇五 鉛 〇・〇一
ひ素 〇・〇〇五 カドミウム 〇・〇〇〇 五 水銀 〇・〇〇〇 二 ニッケル 〇・〇三 クロム	一 金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令別表第一の基準に適合する原料を使用したものであること。 二 植害試験の調査を受け害が認められないもの	三 牛等由来の原料を使用する場合にあつては、管理措置が行われたものであること。 四 牛等の部位を原料とする場合にあつては、脊柱等が混合しないものとして農林水産大臣の確認を受けた工程において製造されたものであること。

	(削る)
	(削る)
	(削る)
汚泥肥料を混合したもの又はこれを乾燥したもの	焼成汚泥肥料（下水汚泥肥料、し尿汚泥肥料、工業汚泥肥料又は混合汚泥肥料を焼成したものをいう。）
鉛 〇・〇五 〇・〇一	ひ素 〇・〇〇五 カドミウム 〇・〇〇〇 水銀 〇・〇〇〇 ニッケル 〇・〇〇三 クロム 〇・〇〇五
三 牛等由来の原料を使用する場合にあつては、管理措置が行われたものであること。 四 牛等の部位を原料とする場合にあつては、脊柱等が混合しないものとして農林水産大臣の確認を受けた工程において製造されたものであること。	一 金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令別表第一の基準に適合する原料を使用したものであること。 二 植害試験の調査を受け害が認められないものであること。

	(削る)		
	(削る)		
	(削る)		
汚泥発酵肥料（次に掲げる肥料をいう。 一 下水汚泥肥料、し尿汚泥肥料、工業汚泥肥料又は混合汚泥肥料を堆積又は攪拌し、腐熟させたもの 二 一に掲げる汚泥発酵肥料に植物質若しくは動物質の原料又は焼成汚泥肥料を混合したものを堆積又は攪拌し、腐熟させたもの			
鉛	〇・〇一	ひ素	〇・〇〇五
カドミウム	〇・〇〇〇	五	
水銀	〇・〇〇〇	二	
ニッケル	〇・〇〇三		
クロム	〇・〇〇五		
鉛	〇・〇一		
三 牛等由来の原料を使用する場合にあつては、管理措置が行われたものであること。		一 金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令別表第一の基準に適合する原料を使用したものであること。	
二 植害試験の調査を受け害が認められないものであること。		三 牛等由来の原料を使用する場合にあつては、管理措置が行われたものであること。	
三 牛等由来の原料を使用する場合にあつては、管理措置が行われたものであること。		四 牛等の部位を原料とするものにあつては、脊柱等が混合しないものとして農	

水産副産物発酵肥料（原料規格第三中五の項に掲げる原料に植物質又は動物質の原料を混合したものを堆積又は攪拌し、腐熟させたものをいう。）		硫黄及びその化合物（専ら原料規格第三中六の項に掲げる原料を使用したものをいう。）
（略）	（略）	（略）
（削る）	一 植害試験の調査を受けていない水産副産物を原料とする肥料にあつては、植害試験の調査を受け害が認められないものであること。 二 （略） 三 （略）	植害試験の調査を受けていない硫黄含有物を原料とする肥料にあつては、植害試験の調査
水産副産物発酵肥料（魚介類の臓器に植物質又は動物質の原料を混合したものを堆積又は攪拌し、腐熟させたものをいう。）		硫黄及びその化合物
（略）	（略）	（略）
一 金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令別表第一の基準に適合する原料を使用したものであること。 二 植害試験の調査を受け害が認められないものであること。	一 金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令別表第一の基準に適合する原料を使用したものであること。 二 植害試験の調査を受け害が認められないものであること。 三 （略） 四 （略）	植害試験の調査を受け害が認められないものであること。

		を受け害が認められないものであること。
--	--	---------------------

十四 農薬その他の物が混入される肥料

肥料の種類	混入が許される農薬その他の物の種類	混入が許される農薬その他の物の最大量又は最小量（％）	含有すべき主成分の最小量の特例	混入上の制限事項
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

附一 この告示に掲げる肥料には、規則第四条第四号に掲げる材料を使用したものを含む。

二 この告示に掲げる主成分、有害成分その他の成分及び物理的・化学的性質等の分析に当たっては、独立行政法人農林水産消費安全技術センターが定める肥料等試験法によるものとする。ただし、次の表の第一欄に掲げる主成分の量の算出は、同表の第二欄に掲げるものによることとし、五の表菌体肥料の欄及び十三の表に掲げる有害成分の量は、独立行政法人農林水産消費安全技術センターが定める肥料等試験法により分析した乾物の重量に対する百分率とする。

第一欄

第二欄

--	--	--

十三 農薬その他の物が混入される肥料

肥料の種類	混入が許される農薬その他の物の種類	混入が許される農薬その他の物の最大量又は最小量（％）	含有すべき主成分の最小量の特例	混入上の制限事項
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

附一 この告示に掲げる肥料には、規則第四条第三号に掲げる材料を使用したものを含む。

二 この告示に掲げる主成分、有害成分その他の成分及び物理的・化学的性質等の分析に当たっては、独立行政法人農林水産消費安全技術センターが定める肥料等試験法によるものとする。ただし、次の表の第一欄に掲げる主成分の量の算出は、同表の第二欄に掲げるものによることとし、十二の表に掲げる有害成分の量は、独立行政法人農林水産消費安全技術センターが定める肥料等試験法により分析した乾物の重量に対する百分率とする。

第一欄

第二欄

(略)	(略)
アルカリ分	酸化カルシウム (C a O) 及び酸化マグネシウム (M g O)
可溶性石灰 不溶性石灰 水溶性石灰	酸化カルシウム (C a O)
可溶性けい酸 水溶性けい酸	二酸化ケイ素 (S i O ₂)
(略)	(略)
不溶性ほう素 水溶性ほう素	(略)
可溶性硫黄	硫黄 (S)

三 (略)

主成分別表第一

一 窒素全量を保証するものにあつては 窒素全量	一・〇
二 アンモニニア性窒素を保証するものにあつては アンモニニア性窒素	一・〇
三 硝酸性窒素を保証するものにあつては 硝酸性窒素	一・〇
四 リン酸全量を保証するものにあつては	

(略)	(略)
(新設)	(新設)
(新設)	(新設)
可溶性けい酸	二酸化ケイ素 (S i O ₂)
(略)	(略)
不溶性ほう素 水溶性ほう素	(略)
(新設)	(新設)

三 (略)

(新設)

五	りん酸全量	一・〇
可溶性りん酸を保証するものにあつては		
六	可溶性りん酸	一・〇
く溶性りん酸を保証するものにあつては		
七	く溶性りん酸	一・〇
水溶性りん酸を保証するものにあつては		
八	水溶性りん酸	一・〇
加里全量を保証するものにあつては		
九	加里全量	一・〇
く溶性加里を保証するものにあつては		
十	く溶性加里	一・〇
水溶性加里を保証するものにあつては		
十一	水溶性加里	一・〇
アルカリ分を保証するものにあつては		
十二	アルカリ分	五・〇
可溶性石灰を保証するものにあつては		
十三	可溶性石灰	一・〇
く溶性石灰を保証するものにあつては		
十四	く溶性石灰	一・〇
水溶性石灰を保証するものにあつては		
十五	水溶性石灰	一・〇
可溶性けい酸を保証するものにあつては		
十六	可溶性けい酸	五・〇
水溶性けい酸を保証するものにあつては		
十七	水溶性けい酸	五・〇
可溶性苦土を保証するものにあつては		
十八	可溶性苦土	一・〇
く溶性苦土を保証するものにあつては		
十九	く溶性苦土	一・〇
水溶性苦土を保証するものにあつては		
水溶性苦土		一・〇

二十	可溶性マンガンを保証するものにあつては 可溶性マンガンを保証するものにあつては	○・一〇
二十一	可溶性マンガンを保証するものにあつては 可溶性マンガンを保証するものにあつては	○・一〇
二十二	可溶性マンガンを保証するものにあつては 可溶性マンガンを保証するものにあつては	○・一〇
二十三	可溶性ほう素を保証するものにあつては 可溶性ほう素を保証するものにあつては	○・一〇
二十四	可溶性ほう素を保証するものにあつては 可溶性ほう素を保証するものにあつては	○・一〇
二十五	一から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証するものにあつては	一・〇

主成分別表第二

(新設)

一	可溶性けい酸については 可溶性けい酸については	五・〇
二	可溶性けい酸については 可溶性けい酸については	五・〇
三	可溶性苦土については 可溶性苦土については	一・〇
四	可溶性苦土については 可溶性苦土については	一・〇
五	可溶性苦土については 可溶性苦土については	一・〇
六	可溶性マンガンを保証するものにあつては 可溶性マンガンを保証するものにあつては	○・一〇
七	可溶性マンガンを保証するものにあつては 可溶性マンガンを保証するものにあつては	○・一〇
八	可溶性マンガンを保証するものにあつては 可溶性マンガンを保証するものにあつては	○・一〇
九	可溶性ほう素については 可溶性ほう素については	○・一〇
十	可溶性ほう素については 可溶性ほう素については	○・一〇

有害成分別表第一

(新設)

硫青酸化物	○・一〇
ひ素	○・一〇

有害成分別表第二

鉛	水銀	チタン	クロム	ニッケル	カドミウム	スルファミン酸	ビウレット性窒素	亜硝酸	ひ素	硫青酸化物
○・○・○・○・三	○・○・○・○・五	○・○・○・○・二	○・○・○・○・五	○・○・○・○・五	○・○・○・○・七・五	○・○・○・○・五	○・○・○・○・一	○・○・○・○・二	○・○・○・○・二	○・○・○・○・五

鉛	水銀	チタン	クロム	ニッケル	カドミウム	スルファミン酸	ビウレット性窒素	亜硝酸
○・○・○・○・六	○・○・○・○・一	○・○・○・○・四	○・○・○・○・一	○・○・○・○・一	○・○・○・○・一・五	○・○・○・○・一	○・○・○・○・二	○・○・○・○・四

(新設)

有害成分別表第三

一 六に該当するもの以外のものであつて、窒素、りん酸又は加里のいずれか一を保証するもの（窒素、りん酸又は加里のいずれか一のほかけい酸、アルカリ分、石灰、苦土、マンガンを又はほう素を保証するものを含む。）について	
1 窒素を保証し、りん酸及び加里を保証しないもの（けい酸、アルカリ分、石灰、苦土、マンガンを又はほう素を保証するものを含む。）にあつては、窒素全量、アンモニア性窒素、硝酸性窒素又はアンモニア性窒素及び硝酸性窒素の合計量のうち最も大きいものの含有率一・〇％につき	〇・〇一
硫酸化物	〇・〇一
ひ素	〇・〇〇四
亜硝酸	〇・〇〇四
ビウレット性窒素	〇・〇〇二
スルファミン酸	〇・〇〇一
2 りん酸を保証し、窒素及び加里を保証しないもの（りん酸のほかけい酸、アルカリ分、石灰、苦土、マンガンを又はほう素を保証するものを含む。）について	
イ ロ及びハに掲げるもの以外のものであつては、りん酸の最も大きい主成分の量の含有率一・〇％につき	〇・〇〇四
ひ素	〇・〇〇四
カドミウム	〇・〇〇〇一五
ロ 鉍さいを原料とするものであつては、く溶性りん酸、可溶性りん酸又は水溶性りん酸のうち最も大きい主成分の量の含有率一・〇％につき	〇・〇〇〇一五
ひ素	〇・〇〇四
カドミウム	〇・〇〇〇一五
ニッケル	〇・〇〇一
クロム	〇・一

（新設）

ハ	原料規格第二中六の項リ又は又に掲げる原料を使用したものに あつては、く溶性りん酸、可溶性りん酸又は水溶性りん酸の うち最も大きい主成分の量の含有率一・〇％につき	
	ひ素	〇・〇〇四
	カドミウム	〇・〇〇〇一五
	ニッケル	〇・〇〇一
	クロム	〇・一
	水銀	〇・〇〇〇一
	鉛	〇・〇〇六
	3 加里を保証し、窒素及びりん酸を保証しないもの（加里のほか けい酸、アルカリ分、石灰、苦土、マンガン又はほう素を保証す るものを含む。）にあつては、加里の最も大きい主成分の量の含 有率一・〇％につき	〇・〇〇四
	ひ素	
	二 六に該当するもの以外のものであつて、窒素、りん酸又は加里の いずれか二以上を保証するもの（窒素、りん酸又は加里のいずれか 二以上のほかけい酸、アルカリ分、石灰、苦土、マンガン又はほう 素を保証するものを含む。）について	
1	2 に掲げるもの以外のものであつては、窒素、りん酸又は加里 のそれぞれの最も大きい主成分の量の合計量の含有率一・〇％に つき	
	硫青酸化物	〇・〇〇五
	ひ素	〇・〇〇二
	亜硝酸	〇・〇〇二
	ピウレット性窒素	〇・〇〇一
	スルファミン酸	〇・〇〇五
	カドミウム	〇・〇〇〇七五
	2 原料規格第二中六の項リ又は又に掲げる原料を使用したものに あつては、窒素、りん酸又は加里のそれぞれの最も大きい主成分 の量の合計量の含有率一・〇％につき	

三	ひ素	〇・〇〇二
	カドミウム	〇・〇〇〇〇七五
	ニッケル	〇・〇〇五
	クロム	〇・〇五
	水銀	〇・〇〇〇〇五
	鉛	〇・〇〇三
	六に該当するもの以外のものであつて、けい酸を保証し、窒素、りん酸及び加里のいずれも保証しないもの（けい酸のほかアルカリ分、石灰、苦土、マンガンはほう素を保証するものを含む。）にあつては、可溶性けい酸又は水溶性けい酸のうち最も大きい主成分の量の含有率一・〇％につき	
	ニッケル	〇・〇一
	クロム	〇・一
	チタン	〇・〇四
四	最大限量として	
	ニッケル	〇・四
	クロム	四・〇
	チタン	一・五
	六に該当するもの以外のものであつて、アルカリ分又は石灰のいずれか一を保証し、窒素、りん酸、加里及びけい酸のいずれも保証しないもの（アルカリ分又は石灰のいずれか一のほか苦土、マンガンはほう素を保証するものを含む。）について	
1	アルカリ分を保証し、石灰を保証しないもの（アルカリ分のはか苦土、マンガンはほう素を保証するものを含む。）にあつては、アルカリ分の含有率一・〇％につき	
	ニッケル	〇・〇一
	クロム	〇・一
	チタン	〇・〇四
	最大限量として	
	ニッケル	〇・四
	クロム	四・〇

クロム チタン	2 石灰を保証し、アルカリ分を保証しないもの（石灰のほか苦土、マンガン又はほう素を保証するものを含む。）にあつては、可溶性石灰、く溶性石灰又は水溶性石灰のうち最も大きい主成分の量の含有率一・〇%につき	ニッケル クロム チタン 最大限量として	〇・〇 〇・一 〇・〇四
五 六に該当するもの以外のものであつて、苦土、マンガン又はほう素を保証し、窒素、りん酸、加里、けい酸、アルカリ分及び石灰のいずれも保証しないものについて	1 苦土を保証し、マンガンを保証しないもの（苦土のほかほう素を保証するものを含む。）にあつては、可溶性苦土、く溶性苦土又は水溶性苦土のうち最も大きい主成分の量の含有率一・〇%につき	ニッケル クロム チタン	〇・〇 〇・一 一・五
2 マンガンを保証し、ほう素を保証しないもの（マンガンのほか苦土を保証するものを含む。）にあつては、可溶性マンガン、く溶性マンガン又は水溶性マンガンのうち最も大きい主成分の量の含有率一・〇%につき	ニッケル クロム チタン	〇・〇 〇・一 〇・〇四	〇・〇 〇・一 〇・〇四
ニッケル クロム ひ素	〇・〇 〇・〇 〇・〇四	〇・〇 〇・一 〇・〇四	〇・〇 〇・一 〇・〇四

チタン	○・○四
3 はう素を保証し、苦土及びマンガンを保証しないものにあつては	なし
4 マンガン及びほう素を保証するもの（マンガン及びほう素のほか苦土を保証するものを含む。）にあつては、マンガン及びほう素のそれぞれの最も大きい主成分の量の合計量の含有率一・〇％につき	〇・〇〇二
ひ素	〇・〇〇二
亜硝酸	〇・〇〇二
ニッケル	〇・〇〇五
クロム	〇・〇五
チタン	〇・〇二
六 肥料を原料として使用するもの、原料規格における複数の項の原料を使用するもの及び植害試験の調査を要する原料を使用するものについて	
1 窒素、りん酸又は加里のいずれか一を保証するもの（窒素、りん酸又は加里のいずれか一のほかけい酸、アルカリ分、石灰、苦土、マンガン又はほう素を保証するものを含む。）、けい酸を保証し、窒素、りん酸及び加里のいずれも保証しないもの（けい酸のほかアルカリ分、石灰、苦土、マンガン又はほう素を保証するものを含む。）、アルカリ分又は石灰のいずれか一を保証し、窒素、りん酸、加里及びけい酸のいずれも保証しないもの（アルカリ分又は石灰のいずれか一のほか苦土、マンガン又はほう素を保証するものを含む。）並びに苦土、マンガン又はほう素を保証し、窒素、りん酸、加里、けい酸、アルカリ分及び石灰のいずれも保証しないもの（苦土、マンガン及びほう素を保証するもの並びにマンガン及びほう素を保証するものを除く。）について	
イ ロに掲げるものの以外のものにあつては、保証する窒素、りん酸又は加里（けい酸を保証し、窒素、りん酸、加里を保証しないもの（けい酸のほかアルカリ分、石灰、苦土、マンガン又は	

ほう素を保証するものを含む。)	にあつては保証するけい酸、
アルカリ分又は石灰のいずれか一を保証し、窒素、りん酸、加里及びけい酸のいずれも保証しないもの(アルカリ分又は石灰のいずれか一のほか苦土、マンガン又はほう素を保証するものを含む。)	にあつては保証するアルカリ分又は石灰、苦土を保証し、窒素、りん酸、加里、けい酸、アルカリ分、石灰及びマンガンのいずれも保証しないもの(苦土のほかほう素を保証するものを含む。)
にあつては保証する苦土、マンガンを保証し、窒素、りん酸、加里、けい酸、アルカリ分、石灰及びほう素のいずれも保証しないもの(マンガンのほか苦土を保証するものを含む。)	にあつては保証するマンガンを保証し、窒素、りん酸、加里、けい酸、アルカリ分、石灰、苦土及びマンガンのいずれも保証しないものにあつては保証するほう素)
のうち最も大きい主成分の量の含有率一・〇%につき	
硫青酸化物	〇・〇一
ひ素	〇・〇四
亜硝酸	〇・〇四
ビウレット性窒素	〇・〇二
スルファミン酸	〇・〇一
カドミウム	〇・〇〇一五
ニッケル	〇・〇一
クロム	〇・一
チタン	〇・〇四
水銀	〇・〇〇〇一
鉛	〇・〇〇〇六
ロ	
鉍さいを原料とするものにあつては、保証する窒素、りん酸又は加里(けい酸を保証し、窒素、りん酸、加里のいずれも保証しないもの(けい酸のほかアルカリ分、石灰、苦土、マンガンを又はほう素を保証するものを含む。)	にあつては保証するけい酸、アルカリ分又は石灰のいずれか一を保証し、窒素、りん

2		酸、加里及びけい酸のいずれも保証しないもの（アルカリ分又は石灰のいずれか一のほか苦土、マンガンを保証するものを含む。）にあつては保証するアルカリ分又は石灰、苦土を保証し、窒素、りん酸、加里、けい酸、アルカリ分、石灰及びマンガンのいずれも保証しないもの（苦土のほかほう素を保証するものを含む。）にあつては保証する苦土、マンガンを保証し、窒素、りん酸、加里、けい酸、アルカリ分、石灰及びほう素のいずれも保証しないもの（マンガンのほか苦土を保証するものを含む。）にあつては保証するマンガンを保証し、窒素、りん酸、加里、けい酸、アルカリ分、石灰、苦土及びマンガンのいずれも保証しないものにあつては保証するほう素）のうち最も大きい主成分の量の含有率一・〇%につき
硫酸	〇・〇一	硫酸化物
ひ素	〇・〇〇四	亜硝酸
ビウレット性窒素	〇・〇二	スルファミン酸
カドミウム	〇・〇〇一五	ニッケル
ニッケル	〇・〇一	クロム
チタン	〇・〇四	水銀
鉛	〇・〇〇六	最大限量として
ニッケル	〇・四	クロム
チタン	四・〇	窒素、りん酸又は加里のいずれか二以上を保証するもの（窒素、りん酸又は加里のいずれか二以上のほかけい酸、アルカリ分、石灰、苦土、マンガンを保証するものを含む。）につ
窒素、りん酸又は加里のいずれか二以上を保証するもの（窒素、りん酸又は加里のいずれか二以上のほかけい酸、アルカリ分、石灰、苦土、マンガンを保証するものを含む。）につ	一・五	

イ		ロに掲げるもの以外のものにあつては、窒素、りん酸又は加里のそれぞれの最も大きい主成分の量の合計量の含有率一・〇％につき
硫酸化物	〇・〇〇五	
ひ素	〇・〇〇二	
亜硝酸	〇・〇〇一	
ビウレット性窒素	〇・〇〇五	
スルフアミン酸	〇・〇〇五	
カドミウム	〇・〇〇〇七五	
ニッケル	〇・〇〇五	
クロム	〇・〇〇五	
チタン	〇・〇〇二	
水銀	〇・〇〇〇五	
鉛	〇・〇〇三	
ロ		鉍さいを原料とするものにあつては、窒素、りん酸又は加里のそれぞれの最も大きい主成分の量の合計量の含有率一・〇％につき
硫酸化物	〇・〇〇五	
ひ素	〇・〇〇二	
亜硝酸	〇・〇〇二	
ビウレット性窒素	〇・〇〇一	
スルフアミン酸	〇・〇〇五	
カドミウム	〇・〇〇〇七五	
ニッケル	〇・〇〇五	
クロム	〇・〇〇五	
チタン	〇・〇〇二	
水銀	〇・〇〇〇五	
鉛	〇・〇〇三	
最大限量として		

3		ニッケル	〇・四
		クロム	四・〇
		チタン	一・五
		マンガン及びほう素を保証し、窒素、りん酸、加里、けい酸、アルカリ分及び石灰のいずれも保証しないもの（マンガン及びほう素のほか苦土を保証するものを含む。）について	
		イ ロに掲げるもの以外のものにあつては、マンガン及びほう素のそれぞれの最も大きい主成分の量の合計量の含有率一・〇%につき	
		硫青酸化物	〇・〇〇五
		ひ素	〇・〇〇二
		亜硝酸	〇・〇〇二
		ビウレット性窒素	〇・〇〇一
		スルフアミン酸	〇・〇〇五
		カドミウム	〇・〇〇〇七五
		ニッケル	〇・〇〇五
		クロム	〇・〇〇五
		チタン	〇・〇〇二
		水銀	〇・〇〇〇〇五
		鉛	〇・〇〇〇三
		ロ 鉍さいを原料とするものにあつては、マンガン及びほう素のそれぞれの最も大きい主成分の量の合計量の含有率一・〇%につき	
		硫青酸化物	〇・〇〇五
		ひ素	〇・〇〇二
		亜硝酸	〇・〇〇二
		ビウレット性窒素	〇・〇〇一
		スルフアミン酸	〇・〇〇五
		カドミウム	〇・〇〇〇七五
		ニッケル	〇・〇〇五

クロム	チタン	水銀	鉛	最大限量として	ニッケル	クロム	チタン
〇・〇五	〇・〇二	〇・〇〇五	〇・〇〇三		〇・四	四・〇	一・五

原料規格第一

原料規格第一		分類 番号	一	二
原料規格第一		原料の種類	動物由来物質	植物由来物質
原料の条件		イ	魚介類（ロに掲げるものを除く。）	イ
		ロ	魚介類の臓器を収集したもの（発酵させたものを含む。）	イ
		ハ	繊維工業において副産された動物性繊維	ホ
		ニ	食料品、飲料又は飼料の製造副産物（魚介類を除く。）	ホ
		ヘ	イ、ハ、ニ又はホを発酵させたもの	イ
		ロ	食品、飲料又は飼料の製造副産物	イ
		ハ	廃糖蜜	イ

（新設）

備考	三							
	菌体由来物質							
	ホ	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ニ	
一	動植物質のものに限る。							でんぷん製造副産物
二	粉碎、濃縮、脱水、乾燥等の加工を行ったものを含む。							イ、ロ、ハ又はニを発酵させたもの
三	規則第四条第四号に掲げる材料又は水を使用したものを含む。							食料品、飲料又は飼料の製造における発酵副産物
四	排水処理施設から生じた汚泥以外のものであること。							漢方薬又はペニシリンの製造における発酵副産物
								食料品用酵母の製造副産物
								発酵工業において副産されたエチルアルコール、くえん酸、乳酸等の製造における発酵副産物
								培養によつて得られる菌体を乾燥したもの
								培養によつて得られる菌体から脂質又は核酸を抽出したかすを乾燥したもの

原料規格第二

原料規格第二		分類 番号	原料の種類	原料の条件
一			水溶性窒素化合物含有物（アンモニア、アンモニウム塩、硝酸又は硝酸塩以外の水溶性窒素化合物を含有するものをいう。）	イ アミノ酸若しくは核酸又はこれらの塩（試薬又は工業用薬品として製造されたものに限る。）
			ロ アラントイン（試薬又は工業用薬品として製造されたものに限る。）	
			ハ オキサミド（試薬又は工業用薬品として製造されたものに限る。）	
			ニ シアナミド（試薬又は工業用薬品として製造されたものに限る。）	
			ホ 食品用酵素、人工甘味剤、食品添加物又は飼料添加物の製造副産物	
			ヘ 石灰窒素（試薬又は工業用薬品として製造されたものに限る。）	
			ト トリアジン（試薬又は工業用薬品として製造されたものに限る。）	
			チ 尿素（試薬又は工業用薬品として製造されたものに限る。）又はこれにホルムアルデヒドを	

（新設）

二																		
菌体含有物（発酵副産物又は培養によつて得られる菌体を含有するものをいう。）																		
		加えたもの	リ	モノエタノールアミン（試薬又は工業用薬品として製造されたものに限る。）	ヌ	硫酸グアニル尿素（試薬又は工業用薬品として製造されたものに限る。）	ル	EDTA又はその塩（試薬又は工業用薬品として製造されたものに限る。）	ヲ	別表第一に掲げる業（同表第十三号及び第十四号に掲げるものを除く。）において副産されたものであつて、植害試験の調査を受け害が認められないもの	イ	食料品、飲料又は飼料の製造における発酵副産物に硫酸、塩酸、アンモニア、塩化加里又は水酸化カリウムを加えたもの	ロ	漢方薬又はペニシリンの製造における発酵副産物に硫酸、塩酸、アンモニア、塩化加里又は水酸化カリウムを加えたもの	ハ	食料品用酵母の製造副産物に硫酸、塩酸、アンモニア、塩化加里又は水酸化カリウムを加えたもの	ニ	発酵工業において副産されたエチルアルコール、くえん酸、乳酸等の製造における発酵副産物に硫酸、塩酸、アンモニア、塩化加里又は水

四		三	
アンモニア含有物（アンモニア又はアン		動植物由来物質含有物（動植物を含むものの、動植物に酸、アルカリ等を添加したもの又は動植物中の化合物を抽出したものをいう。）	
ロ	イ	ホ 別表第一に掲げる業（同表第十三号及び第十四号に掲げるものを除く。）において副産されたものであつて、植害試験の調査を受け害が認められないもの	
		酸化カリウムを加えたもの	
ロ	イ	イ キチン又はキトサン（試薬又は工業用薬品として製造されたものに限り。）	
		ロ ゼラチン（試薬又は工業用薬品として製造されたものに限り。）	
ロ	イ	ハ 動植物質の原料に硫酸、塩酸、硝酸、りん酸、水酸化ナトリウム、水酸化カリウム、炭酸カリウム、食用アルコール又は酵素を加えたもの	
		ニ フィチン酸（試薬又は工業用薬品として製造されたものに限り。）	
ロ	イ	ホ ベタイン（試薬又は工業用薬品として製造されたものに限り。）	
		ヘ 別表第一に掲げる業（同表第十三号及び第十四号に掲げるものを除く。）において副産されたものであつて、植害試験の調査を受け害が認められないもの	
ロ	イ	試薬又は工業用薬品として製造された化合物	
		食料品用酵素、アミノ酸、人工甘味剤、食品	

六		五			
りん酸、ポリりん酸、ポリりん酸若しくは		硝酸含有物（硝酸又は硝酸塩を含有するものをいう。）		モニウム塩を含有するものをいう。）	
イ 試薬又は工業用薬品として製造された化合物		イ 試薬又は工業用薬品として製造された化合物		ハ 尿素の加熱分解により発生したアンモニニアに硫酸を化学反応させることによつて得られる硫酸アンモニニア含有物	
ロ 次のいずれかのりん酸含有液に水酸化ナトリウムを加えることによつて得られるりん酸ナトリウム		ロ 炭酸希土類又は酸化希土類の製造副産物（硝酸アンモニニア含有物に限る。）		ニ 堆肥又は汚泥肥料の製造の過程で発生した排気中のアンモニニアに硫酸又はりん酸を化学反応させることによつて得られる硫酸アンモニニア含有物又はりん酸アンモニニア含有物	
ハ 別表第一に掲げる業（同表第十三号に掲げるものを除く。）において副産されたものであつて、植害試験の調査を受け害が認められないもの		ホ 別表第一に掲げる業（同表第十三号に掲げるものを除く。）において副産されたものであつて、植害試験の調査を受け害が認められないもの			

は亜りん酸又はこれらの塩を含有するものをいう。）									
<div> <div>リウム含有物</div> <div>(1) イノシトール製造液</div> <div>(2) 精製りん酸の抽出残液</div> </div>									
<div> <div>ハ</div> <div>次のいずれかの方法によりりん酸アンモニウムを含有する粉末消火薬剤のはつ水コーティングを剥離させることによつて得られるりん酸アンモニウム含有物</div> <div>(1) 加圧、摩砕又は粉砕</div> <div>(2) アルコールとの混合及び当該アルコールの揮発</div> <div>(3) 尿素水溶液との混合</div> </div>									
ニ 製鋼鉍さい									
ホ 次のいずれかのりん酸含有液又は亜りん酸含有液に石灰を加えることによつて得られるりん酸カルシウム含有物									
(1) アルミ箔のエッチング処理に使用したりん酸液									
(2) アミノ酸製造における発酵副産液									
(3) イノシトール製造液									
(4) 液晶基盤の洗浄に使用したりん酸液									
(5) エタノールの製造に使用したりん酸液									
(6) オセイン製造廃液									
(7) 鑄造用りん鉄、りん銅又はりんニッケルの製造の過程で発生したりん酸を含有する排気の溶解液									
(8) ニッケルめつき廃液からニッケルを回収して生じた亜りん酸含有液									
(9) ビタミンB1製造液									

<p>へ りん鉱石又はこれに硫酸、硝酸、りん酸若しくはアンモニアを加えたもの</p>	<p>ト 下水道の終末処理場、し尿処理施設、農業集落排水処理施設又は食料品を製造する事業場において排水処理後の凝集沈殿、膜分離等の固液分離により得られる分離液に塩化カルシウム又は水酸化カルシウムを加え、析出させたりん酸含有物（種晶を使用する場合にあつては、種晶に肥料原料となるものを使用したものに限る。）</p>	<p>チ 下水道の終末処理場、し尿処理施設、農業集落排水処理施設又は食品を製造する事業場から生じた汚泥の燃焼灰に水酸化ナトリウムを加え、固液分離して得られる分離液に塩化カルシウム又は水酸化カルシウムを加え、析出させたりん酸含有物</p>	<p>リ 下水道の終末処理場、し尿処理施設、農業集落排水処理施設若しくは食品を製造する事業場から生じた汚泥又は食品を製造する事業場から生じた排水を消化処理して得られる消化液又は脱水ろ液（しさを除去したものに限る。）に塩化マグネシウム、水酸化マグネシウム又は硫酸マグネシウムを加え、析出させたりん酸含有物（消化液中で析出させる場合にあつては、析出後に水洗したものに限る。）（種晶を使用する場合にあつては、種晶に肥料原料となるものを使用したものに限る。）</p>
--	--	--	---

七			
加里含有物（酸化カリウム、水酸化カリウム又はカリウム塩を含むものを含む。）			
ホ	別表第一に掲げる業（同表第十三号及び第十	ル	別表第一に掲げる業（同表第十四号に掲げるものを除く。）における副産物又は下水道の終末処理場、し尿処理施設、集落排水処理施設若しくは別表第一に掲げる業（同表第十四号に掲げるものを除く。）の排水処理施設において回収されたりん酸含有物であつて、植害試験の調査を受け害が認められないもの（汚泥が除去されたものに限る。また、吸着原料を使用する場合にあつては、当該吸着原料の品質を確認したものに限る。）
イ	試薬又は工業用薬品として製造された化合物	ヌ	し尿処理施設において脱水ろ液（しさを除去したものに限る。）に塩化マグネシウム、水酸化マグネシウム又は硫酸マグネシウムを加え、析出させたりん酸含有物（析出後に水洗したものに限る。）（種晶を使用する場合にあつては、種晶に肥料原料となるものを使用したものに限る。）
ロ	アルキルサリチル酸製造副産物（硫酸カリウム含有物に限る。）		
ハ	海藻に水酸化カリウムを加えたもの		
ニ	てん菜又はさとうきびを原料とした糖製造副産物（硫酸カリウム含有物に限る。）		

九		八	
けい酸含有物 (けい酸又は けい酸塩を含 有するものを いう。) ハ		動植物質燃焼 灰 イ	
イ 試薬又は工業用薬品として製造された化合物 ロ 鉱さい ハ 別表第一に掲げる業(同表第十三号及び第十 四号に掲げるものを除く。)において副産され たものであつて、植害試験の調査を受け害が認 められないもの		四号に掲げるものを除く。)において副産され たものであつて、植害試験の調査を受け害が認 められないもの イ 次のいずれか一以上の燃焼灰 (1) 油やしの果房又は果実 (2) アルコール製造副産物(動植物質のものに 限る。) (3) 廃菌床培地(動植物質のものに限る。) (4) コーヒーかす (5) コーンスターチ製造副産物(動植物質に限 る。) (6) 植物油かす類 (7) 鶏ふん (8) 牛ふん (9) 飼料(動植物質のものに限る。) ロ 別表第一に掲げる業(同表第十三号及び第十 四号に掲げるものを除く。)において副産され たもの(動植物質のものに限る。)の燃焼灰で あつて、植害試験の調査を受け害が認められな いもの	

十											十一
カルシウム含有物（酸化カルシウム、水酸化カルシウム又はカルシウム塩を含むものを含む。）											苦土含有物（酸化マグネシウム、水酸化マグネシウム
イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	チ	リ	ヌ	イ	ロ
試験又は工業用薬品として製造された化合物	貝化石	水酸化カルシウム又は炭酸カルシウムの製造副産物（酸化カルシウム、水酸化カルシウム又は炭酸カルシウム含有物に限る。）	石灰石	糖製造副産物（酸化カルシウム、水酸化カルシウム又は炭酸カルシウム含有物に限る。）	ドロマイト鉱石	卵殻	別表第一に掲げる業（同表第十三号及び第十四号に掲げるものを除く。）において副産されたものであつて、植害試験の調査を受け害が認められないもの	試験又は工業用薬品として製造された化合物	海水		

十二											
含有するもの		ム又はマグネシウム塩を含有するものをいう。）									
含有するもの	マンガン塩を	マンガン又は	ガン、水酸化	物（酸化マン	マンガン含有						
ハ	別表第一に掲げる業（同表第十三号及び第十	イ	試薬又は工業用薬品として製造された化合物	ロ	フェロマンガ	チ	マグネシアクリンカー製造副産物（酸化マグネシウム含有物又は水酸化マグネシウム含有物に限る。）	リ	マグネシウムを含有する鉱物又は岩石を焼成したもの	ヌ	別表第一に掲げる業（同表第十三号及び第十四号に掲げるものを除く。）において副産されたものであつて、植害試験の調査を受け害が認められないもの
				ロ	フェロマンガ	ト	ブルーサイト				
				ロ	フェロマンガ	ヘ	フェロニッケル鉱さい				
				ロ	フェロマンガ	ホ	ドロマイトれんが又はドロマイト鉱石				
				ロ	フェロマンガ	ニ	水酸化マグネシウム製造副産物（水酸化マグネシウム含有物に限る。）				
				ロ	フェロマンガ						

をいう。)	四号に掲げるものを除く。)において副産されたものであつて、植害試験の調査を受け害が認められないもの
十三 ほう酸含有物 (ほう酸又はほう酸塩を含有するものをいう。)	イ 試薬又は工業用薬品として製造された化合物 ロ 別表第一に掲げる業(同表第十三号及び第十四号に掲げるものを除く。)において副産されたものであつて、植害試験の調査を受け害が認められないもの
十四 肥料製造副産物	普通肥料(登録を受けたもの(法第四条第一項第三号から第五号までに掲げるものを除く。))及び法第四条第二項第二号に掲げるもの(法第十六条の二第一項の規定による届出に係るものに限る。))に限り、異物を混入したものを除く。)の製造において生じたもの
十五 食品等工場活性沈殿物	別表第三に掲げる業において副産された主産物製造廃水を活性スラッジ法により浄化する際に得られる菌体を濃縮、消化、脱水又は乾燥したもの
<p>備考</p> <p>一 粉碎、濃縮、脱水、乾燥等の加工を行ったものを含む。</p> <p>二 規則第四条第四号に掲げる材料又は水を使用したものを含む。</p> <p>三 中和又はH_pを調整する目的で別表第二に掲げる原料を使用したものを含む。</p> <p>四 排水処理施設から生じた汚泥以外のものであること。</p>	

原料規格第三

(新設)

分類 番号		原料規格第三	
一	二	原料の種類	原料の条件
下水汚泥	し尿汚泥	下水道の終末処理場から生じた汚泥を濃縮、消化、脱水又は乾燥したもの	イ し尿処理施設から生じた汚泥を濃縮、消化、脱水又は乾燥したもの ロ 集落排水処理施設から生じた汚泥を濃縮、消化、脱水又は乾燥したもの ハ 浄化槽から生じた汚泥を濃縮、消化、脱水又は乾燥したもの ニ し尿に凝集を促進する材料若しくは悪臭を防止する材料を混合したもの又はこれを脱水若しくは乾燥したもの
一 金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令（昭和四十八年総理府令第五号）別表第一の基準に係る調査を受け、基準に適合することが確認されたものであること。	二 植害試験の調査を受け、肥料に使用する場合にあつては、植害試験の調査を受け害が認められないものであること。	その他の制限事項	
ホ 動物の排せつ物に凝集を促進する材料（昭和二十五年六月二十日農林省告示第百七十七号（特殊肥料等を指定する件）の別表第一に掲げるもの			

五	四	三	
水産副産物	焼成汚泥	工業汚泥	
魚介類の臓器	<div>イ 一の項、二の項又は三の項に掲げる原料を焼成したもの</div> <div>ロ 一の項、二の項又は三の項に掲げる原料に植物質又は動物質の原料を加え焼成したもの</div>	<div>イ 工場の排水処理施設から生じた汚泥を濃縮、消化、脱水又は乾燥したもの</div> <div>ロ 事業場の排水処理施設から生じた汚泥を濃縮、消化、脱水又は乾燥したもの</div>	<div>を除外。若しくは悪臭を防止する材料を混合したもの又はこれを脱水若しくは乾燥したもの</div>
一 金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令（昭和四十八年総理府令第五号）別表第一の基準に係る調査を受け、基準に適合することが確認され	<div>植害試験の調査を受け、肥料に使用する場合にあつては、植害試験の調査を受け害が認められないものであること。</div>		

		六			
		硫黄含有物 (硫黄又は その化合物 を含有する ものをいう 。)			
		イ 試薬又は工業用薬品として 製造されたもの			
		ロ 別表第一に掲げる業(同表 第十三号及び第十四号に掲げ るものを除く。)において副 産されたもの			
		あること。		二 植害試験の調 査を受けない肥 料に使用する場 合にあつては、 植害試験の調査 を受け害が認め られないもので あること。	
備考		一 粉砕、濃縮、脱水、乾燥等の加工を行ったものを含む。			
二 規則第四条第四号に掲げる材料又は水を使用したものを含む。					
別表第一					
一 農業					
二 漁業					
三 食料品製造業					
四 飲料・たばこ・飼料製造業					
五 化学工業					
六 繊維工業					
七 なめし革・同製品・毛皮製造業(なめし革製造業及び毛皮製造業					

(新設)

八	鉛業、採石業、砂利採取業（金属鉛業を除く。）
九	パルプ・紙・紙加工品製造業（パルプ製造業及び紙製造業に限る。）
十	窯業・土石製品製造業（ガラス・同製品製造業を除く。）
十一	鉄鋼業
十二	非鉄金属製造業
十三	電子部品・デバイス・電子回路製造業（りん酸回収工程を含むものに限る。）
十四	石炭・石油その他の燃料の燃焼ガスの脱硫処理又は脱硝処理を行う業
別表第二	
一	次に掲げる酸性の原料 硫酸、塩酸、硝酸、りん酸、くえん酸、酢酸、ぎ酸又はけい酸
二	次に掲げる塩基性の原料 アンモニア液又はアンモニアガス、けい酸ナトリウム、炭酸ナトリウム、酢酸ナトリウム、水酸化ナトリウム、炭酸カリウム、酸化カリウム、水酸化カリウム、炭酸カルシウム、酸化カルシウム、水酸化カルシウム、炭酸マグネシウム、酸化マグネシウム又は水酸化マグネシウム
別表第三	
一	食品製造業
二	清涼飲料製造業
三	酒類製造業
四	茶・コーヒー製造業
五	配合飼料製造業又は単体飼料製造業
六	パルプ製造業
七	樹脂製造業（パルプを原料として使用するものに限る。）
八	発酵工業

（新設）

（新設）

九|ゼラチン製造業（なめし皮革くずを原料として使用しないものに
限る。）

附 則

この告示は、肥料取締法の一部を改正する法律附則第一条第二号に掲げる規定の施行の日（令和三年十二月一日）から施行する。

（案）

○農林水産省告示第 号

肥料取締法の一部を改正する法律（令和元年法律第六十二号）の一部の施行に伴い、及び肥料の品質の確保等に関する法律（昭和二十五年法律第二百二十七号）第二十二条の二第一項の規定に基づき、平成十二年八月三十一日農林水産省告示第千百六十三号（特殊肥料の品質表示基準を定める件）の一部を次のように改正する。

令和三年 月 日

農林水産大臣 野上浩太郎

次の表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分（以下「傍線部分」という。）でこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線部分があるものは、これを当該傍線部分のように改め、改正後欄に掲げる規定の傍線部分でこれに対応する改正前欄に掲げる規定の傍線部分がないものは、これを加え、改正前欄に掲げる規定の傍線部分でこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線部分がないものは、これを削る。

改 正 後	改 正 前
<p>特殊肥料の品質表示基準</p> <p>第1 (略)</p> <p>第2 遵守事項</p> <p>1 表示事項の表示の方法</p> <p>(1)～(6) (略)</p> <p>(7) 原料</p> <p>ア～ウ (略)</p> <p>エ 材料 (オに掲げるものを除く。) は、次の区分に応じ て記載すること。</p> <p>(7) 堆肥</p> <p>生産に当たって腐熟を促進する材料が使用されたものについては、その材料の名称を記載すること。<u>また、固結、浮上若しくは悪臭を防止するための材料又は粒状化を促進するための材料 (昭和25年6月20日農林省告示第177号 (特殊肥料等を指定する件) の別表第二に掲げる材料に限る。(1)において同じ。)</u> が使用された混合特殊肥料を原料とした堆肥については、その材料の名称を記載すること。</p> <p>(1) 混合特殊肥料</p> <p>生産に当たって固結、浮上若しくは悪臭を防止するための材料又は粒状化を促進するための材料が使用されたものについては、その材料の名称を記載すること。また、当該材料が使用された混合特殊肥料を原料とした場合にあつては、その材料の名称も記載すること。</p>	<p>特殊肥料の品質表示基準</p> <p>第1 (略)</p> <p>第2 遵守事項</p> <p>1 表示事項の表示の方法</p> <p>(1)～(6) (略)</p> <p>(7) 原料</p> <p>ア～ウ (略)</p> <p>エ 材料 (オに掲げるものを除く。) は、次の区分に応じ て記載すること。</p> <p>(7) 堆肥 <u>((1)に掲げるものを除く。)</u></p> <p>生産に当たって腐熟を促進する材料が使用されたものについては、その材料の名称を記載すること。</p> <p>(1) 混合特殊肥料等 (次に掲げる材料が使用された混合特殊肥料を原料として使用する堆肥及び動物の排せつ物を含む。)</p> <p>生産に当たって固結、浮上若しくは悪臭を防止するための材料又は粒状化を促進するための材料 <u>(昭和25年6月20日農林省告示第177号 (特殊肥料等を指定する件) の別表第二に掲げる材料に限る。)</u> が使用されたものについては、その材料の名称を記載すること。また、当該材料が使用された混合特殊肥料を原料とし</p>

オ・カ (略)

(8) 主成分の含有量

ア 表一の左欄に掲げる主成分の含有量等については、別紙の分析法による分析結果に基づき、それぞれ同表の中欄に掲げる表示の単位を用いて現物当たりの数値で記載すること。ただし、混合特殊肥料にあつては、堆肥又は動物の排泄物を原料として使用する場合に限り記載すること（炭素窒素比を除く。）。これらの場合において、表示値の誤差の範囲は、同表の右欄に掲げるとおりとする。

イ 表二の左欄に掲げる主成分の含有量等については、別紙の分析法による分析結果に基づき、規則第11条第9項の表の中欄に掲げる量以上含有する場合に限り、それぞれ表二の中欄に掲げる表示の単位を用いて記載することができる。この場合において、表示値の誤差の範囲は、同表の右欄に掲げるとおりとする。

ウ 現物当たりの数値で記載することが困難な場合には、「主成分の含有量等」を「主成分の含有量等（乾物当たり）」として、乾物当たりの数値及び水分含有量を記載すること。

エ 窒素全量、りん酸全量又は加里全量については、現物当たりの含有量の測定結果が0.5%未満である場合には、「0.5%未満」と記載することができる。

表一 (略)

表二

<u>主成分</u>	表示の単位	誤差の許容範囲
窒素全量（混合特殊肥料（堆肥又は動物の排泄物を原料と	パーセント（%）	表示値が1.5パーセント未満の場合は、プラスマイナス0

た場合にあつては、その材料の名称も記載すること。

オ・カ (略)

(8) 主要な成分の含有量

ア 表一の左欄に掲げる主要な成分の含有量等については、別紙の分析法による分析結果に基づき、それぞれ同表の中欄に掲げる表示の単位を用いて現物当たりの数値で記載すること。ただし、混合特殊肥料にあつては、堆肥又は動物の排泄物を原料として使用する場合に限り記載すること（炭素窒素比を除く。）。これらの場合において、表示値の誤差の範囲は、同表の右欄に掲げるとおりとする。

イ 表二の左欄に掲げる主要な成分の含有量等については、別紙の分析法による分析結果に基づき、規則第11条第9項の表の中欄に掲げる量以上含有する場合に限り、それぞれ表二の中欄に掲げる表示の単位を用いて記載することができる。この場合において、表示値の誤差の範囲は、同表の右欄に掲げるとおりとする。

ウ 現物当たりの数値で記載することが困難な場合には、「主要な成分の含有量等」を「主要な成分の含有量等（乾物当たり）」として、乾物当たりの数値及び水分含有量を記載すること。

エ 窒素全量、りん酸全量又は加里全量については、現物当たりの含有量の測定結果が0.5%未満である場合には、「0.5%未満」と記載することができる。

表一 (略)

表二

<u>主要な成分</u>	表示の単位	誤差の許容範囲
窒素全量（混合特殊肥料（堆肥又は動物の排泄物を原料と	パーセント（%）	表示値が1.5パーセント未満の場合は、プラスマイナス0

<p>して使用したものを除く。)に限る。)アソモニア性窒素、硝酸性窒素、りん酸全量 (混合特殊肥料 (堆肥又は動物の排せつ物を原料として使用したものを除く。))に限る。)、く溶性りん酸、可溶性りん酸、水里全量 (混合特殊肥料 (堆肥又は動物の排せつ物を原料として使用したものを除く。))に限る。)、く溶性加里、アルカリ分、<u>可溶性石灰</u>、<u>可溶性石灰</u>、<u>可溶性けい酸</u>、<u>可溶性苦土</u>、<u>可溶性苦土</u>、<u>可溶性硫黄</u></p>		<p>.3パーセント 表示値が1.5パーセント以上5パーセント未満の場合は、表示値のプラスマイナス20パーセント 表示値が5パーセント以上<u>10パーセント</u>未満の場合は、<u>プラスマイナス1パーセント</u> 表示値が<u>10パーセント</u>以上の場合には、表示値のプラスマイナス10パーセント</p>	<p>して使用したものを除く。)に限る。)アソモニア性窒素、硝酸性窒素、りん酸全量 (混合特殊肥料 (堆肥又は動物の排せつ物を原料として使用したものを除く。))に限る。)、く溶性りん酸、可溶性りん酸、水里全量 (混合特殊肥料 (堆肥又は動物の排せつ物を原料として使用したものを除く。))に限る。)、く溶性加里、水溶性加里、アルカリ分、可溶性けい酸、水溶性けい酸、可溶性苦土、可溶性苦土、水溶性苦土</p>		<p>.3パーセント 表示値が1.5パーセント以上5パーセント未満の場合は、表示値のプラスマイナス20パーセント 表示値が5パーセント以上<u>10%未満</u>の場合は、<u>プラスマイナス1パーセント</u> 表示値が<u>10%以上</u>の場合には、表示値のプラスマイナス10パーセント</p>
<p>可溶性マンガン、く溶性マンガン、水溶性マンガン、く溶性ほう素、水溶性ほう素</p>	<p>(略)</p>	<p>(略)</p>	<p>可溶性マンガン、く溶性マンガン、水溶性マンガン、く溶性ほう素、水溶性ほう素</p>	<p>(略)</p>	<p>(略)</p>

2 (略)

別表 (第 1 関係)

肥料の種類	表示事項
堆肥 (汚泥又は魚介類の臓器を原料として生産されるものを除く。)	一般表示事項 原料 <u>主成分</u> の含有量等 窒素全量 (アンモニア性窒素) (硝酸性窒素) りん酸全量
動物の排せつ物	(く溶性りん酸) (可溶性りん酸) (水溶性りん酸) 加里全量
混合特殊肥料	(く溶性加里) (水溶性加里) (アルカリ分) (可溶性石灰) (く溶性石灰) (水溶性石灰) (可溶性けい酸) (水溶性けい酸) (可溶性苦土) (く溶性苦土) (水溶性苦土) (可溶性マンガン) (く溶性マンガン)

2 (略)

別表 (第 1 関係)

肥料の種類	表示事項
堆肥 (汚泥又は魚介類の臓器を原料として生産されるものを除く。)	一般表示事項 原料 <u>主要な成分</u> の含有量等 窒素全量 (アンモニア性窒素) (硝酸性窒素) りん酸全量
動物の排せつ物	(く溶性りん酸) (可溶性りん酸) (水溶性りん酸) 加里全量
混合特殊肥料	(く溶性加里) (水溶性加里) (アルカリ分) (可溶性けい酸) (水溶性けい酸) (可溶性苦土) (く溶性苦土) (水溶性苦土) (可溶性マンガン) (く溶性マンガン) (水溶性マンガン) (く溶性ほう素) (水溶性ほう素)

	(水溶性マンガン) (く溶性ほう素) (水溶性ほう素) 銅全量 亜鉛全量 石灰全量 (可溶性硫黄) 炭素窒素比 (堆肥又は動物の排せつ物に 限る。) 水分含有量
--	---

備考

1 (略)

2 第2の1の(8)のアに定める主成分の含有量等については、銅全量にあっては豚ぶんを原料として使用するものであって現物1キログラム当たり300ミリグラム以上含有する場合に限り、亜鉛全量にあっては豚ぶん又は鶏ふんを原料として使用するものであって現物1キログラム当たり900ミリグラム以上含有する場合に限り、石灰全量にあっては石灰を原料として使用するものであって現物1キログラム当たり150グラム以上含有する場合に限り、水分含有量にあっては乾物当たりで表示する場合に限り、それぞれ表示しなければならないものとする。

なお、() 内の主成分にあっては、規則第11条第9項の表の中欄に掲げる量以上含有する場合に限り、記載することができるものとする。

別紙 (第2関係)

主成分の含有量等の分析に当たっては、独立行政法人農林水産消費安全技術センターが定める肥料等試験法によるものとする。ただし、次の表の第一欄に掲げる主成分の量の算出は、同表第二欄に掲げるものによることとする。

	銅全量 亜鉛全量 石灰全量 炭素窒素比 (堆肥又は動物の排せつ物に 限る。) 水分含有量
--	---

備考

1 (略)

2 第2の1の(8)のアに定める主要な成分の含有量等については、銅全量にあっては豚ぶんを原料として使用するものであって現物1キログラム当たり300ミリグラム以上含有場合に限り、亜鉛全量にあっては豚ぶん又は鶏ふんを原料として使用するものであって現物1キログラム当たり900ミリグラム以上含有する場合に限り、石灰全量にあっては石灰を原料として使用するものであって現物1キログラム当たり150グラム以上含有する場合に限り、水分含有量にあっては乾物当たりで表示する場合に限り、それぞれ表示しなければならないものとする。

なお、() 内の主要な成分にあっては、規則第11条第9項の表の中欄に掲げる量以上含有する場合に限り、記載することができるものとする。

別紙 (第2関係)

主要な成分の含有量等の分析に当たっては、独立行政法人農林水産消費安全技術センターが定める肥料等試験法によるものとする。ただし、次の表の第一欄に掲げる主要な成分の量の算出は、同表第二欄に掲げるものによることとする。

第 1 欄	第 2 欄
(略)	(略)
加里全量	(略)
く溶性加里	
水溶性加里	
アルカリ分	酸化カルシウム (C a O) 及び酸化マ グネシウム (M g O)
石灰全量	酸化カルシウム (C a O)
可溶性石灰	
く溶性石灰	
水溶性石灰	
(略)	(略)
く溶性ほう素	(略)
水溶性ほう素	
可溶性硫黄	硫黄 (S)

第 1 欄	第 2 欄
(略)	(略)
加里全量	(略)
く溶性加里	
水溶性加里	
(新設)	(新設)
石灰全量	酸化カルシウム (C a O)
(略)	(略)
く溶性ほう素	(略)
水溶性ほう素	
(新設)	(新設)

附 則

1 この告示は、肥料取締法の一部を改正する法律附則第一条第二号に掲げる規定の施行の日（令和三年十二月一日）から施行する。

2 この告示の施行の日前に肥料の品質の確保等に関する法律第二十二条第一項の規定による届出がされた特殊肥料の主成分を記載する方法については、当分の間、なお従前の例によることができる。

○農林水産省告示第 号

肥料の品質の確保等に関する法律施行規則（昭和二十五年農林省令第六十四号）第一条の規定に基づき、原料の範囲を限定しなければ品質の確保が困難な肥料から除くものを次のように指定する。

令和三年 月 日

農林水産大臣 野上浩太郎

農林水産大臣が指定するものは、次の表の上欄に掲げるものについて、それぞれ同表の下欄に掲げるものとする。

区分	農林水産大臣の指定するもの
液状肥料	専ら肥料（混合汚泥複合肥料及び肥料の品質の確保等に関する法律施行規則（以下「規則」という。）第一条の二各号に掲げる普通肥料を除く。）を原料として使用したもの

<p>吸着複合肥料</p>	<p>専ら肥料（混合汚泥複合肥料及び規則第一条の二各号に掲げる普通肥料を除く。）を原料として使用したもの</p>
<p>家庭園芸用複合肥料</p>	<p>専ら肥料（混合汚泥複合肥料及び規則第一条の二各号に掲げる普通肥料を除く。）を原料として使用したもの</p>
<p>化成肥料</p>	<p>次の各号のいずれかに該当するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 化学的操作を加えていないもの 二 専ら肥料（混合汚泥複合肥料及び規則第一条の二各号に掲げる普通肥料を除く。）を原料として使用し、これに化学的操作を加えたもの

附 則

この告示は、肥料取締法の一部を改正する法律（令和元年法律第六十二号）附則第一条第二号に掲げる規定の施行の日（令和三年十二月一日）から施行する。

○農林水産省告示第 号

肥料取締法の一部を改正する法律（令和元年法律第六十二号）の一部の施行に伴い、並びに肥料の品質の確保等に関する法律施行規則（昭和二十五年農林省令第六十四号）第十一条第八項ただし書及び同条第九項ただし書（同条第十項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、昭和五十九年三月十六日農林水産省告示第六百九十九号（肥料の品質の確保等に関する法律施行規則第十一条第八項ただし書及び同条第九項ただし書の規定に基づき指定混合肥料の保証又は主要な成分の含有量の記載の方法の特例を定める件）の一部を次のように改正する。

令和三年 月 日

農林水産大臣 野上浩太郎

次の表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分（以下「傍線部分」という。）でこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線部分があるものは、これを当該傍線部分のように改め、改正後欄に掲げる規定の傍線部分でこれに対応する改正前欄に掲げる規定の傍線部分がないものは、これを加え、改正前欄に掲げる規定の傍線部分でこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線部分がないものは、これを削る。

改正後	<p>1 肥料の品質の確保等に関する法律施行規則第十一条第八項第二号に規定する指定配合肥料</p> <p>一 原料として使用した普通肥料においてアンモニア性窒素及び硝酸性窒素が保証され、かつ、窒素全量が保証されない指定配合肥料の窒素の主成分の保証については、肥料の品質の確保等に関する法律施行規則（昭和二十五年農林省令第六十四号。以下「規則」という。）第十一条第八項各号の規定によりアンモニア性窒素及び硝酸性窒素を保証し、かつ、次の(一)及び(二)により求めた値を合算した値の百分の八十以上（合算した値が五未満の値の場合には百分の五十以上。以下同じ。）で、かつ、次の(三)のイ及び(四)のイの値を合算した値若しくは(三)のロ及び(四)のロの値を合算した値又は当該指定配合肥料の窒素全量の含有量（当該指定配合肥料の生産業者が当該指定配合肥料のロットご</p>
改正前	<p>1 肥料の品質の確保等に関する法律施行規則第十一条第八項第二号に規定する指定配合肥料</p> <p>一 原料として使用した普通肥料においてアンモニア性窒素及び硝酸性窒素が保証され、かつ、窒素全量が保証されない指定配合肥料の窒素の主成分の保証については、肥料の品質の確保等に関する法律施行規則（昭和二十五年農林省令第六十四号。以下「規則」という。）第十一条第八項各号の規定によりアンモニア性窒素及び硝酸性窒素を保証し、かつ、次の(一)及び(二)により求めた値を合算した値の百分の八十以上（合算した値が五未満の値の場合には百分の五十以上。以下同じ。）で、かつ、次の(三)のイ及び(四)のイの値を合算した値若しくは(三)のロ及び(四)のロの値を合算した値又は当該指定配合肥料の窒素全量の含有量（当該指定配合肥料の生産業者が当該指定配合肥料のロットご</p>

とに確認したものに限る。)を超えない範囲内の数値で同項第五号及び第六号の規定により窒素全量を保証することができるものとする。

(一)・(二) (略)

(三) 次のいずれかの値

イ (一)における当該合算した値

ロ 当該指定配合肥料の生産業者が原料として使用した普通肥料のうちアンモニア性窒素を保証したものと当該主成分の含有量(当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認したものに限る。)に当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値

(四) 次のいずれかの値

イ (二)における当該合算した値

ロ 当該指定配合肥料の生産業者が原料として使用した普通肥料のうち硝酸性窒素を保証したものと当該主成分の含有量(当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認

とに確認したものに限る。)を超えない範囲内の数値で同項第五号及び第六号の規定により窒素全量を保証することができるものとする。

(一)・(二) (略)

(三) 次のいずれかの値

イ (一)における当該合算した値

ロ 当該指定配合肥料の生産業者が原料として使用した普通肥料のうちアンモニア性窒素を保証したものと当該主成分の含有量(当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認したものに限る。)に当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値

(四) 次のいずれかの値

イ (二)における当該合算した値

ロ 当該指定配合肥料の生産業者が原料として使用した普通肥料のうち硝酸性窒素を保証したものと当該主成分の含有量(当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認

したものに限る。)に当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値

二 原料として使用した普通肥料において別表の区分ごとの上欄に掲げる主成分及び下欄に掲げる主成分が保証された指定配合肥料の上欄に掲げる主成分の保証については、次の(一)及び(二)により求めた値を合算した値の百分の八十以上で、かつ、次の(三)のイ及び(四)のイの値を合算した値若しくは(三)のロ及び(四)のロの値を合算した値又は当該指定配合肥料の上欄に掲げる主成分の含有量(当該指定配合肥料の生産業者が当該指定配合肥料のロットごとに確認したものに限る。)を超えない範囲内の数値で規則第十一条第八項第五号及び第六号の規定により保証するものとする。ただし、原料として使用した普通肥料においてく溶性りん酸及び可溶性りん酸が保証された指定配合肥料並びに原料として使用した普通肥料において保証された可溶性りん酸又は水溶性りん酸の非水溶化が生じた指定配合肥料(原料として使用した普通肥料において保証されたりん酸の主成分がく溶性

したものに限る。)に当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値

二 原料として使用した普通肥料において別表の区分ごとの上欄に掲げる主成分及び下欄に掲げる主成分が保証された指定配合肥料の上欄に掲げる主成分の保証については、次の(一)及び(二)により求めた値を合算した値の百分の八十以上で、かつ、次の(三)のイ及び(四)のイの値を合算した値若しくは(三)のロ及び(四)のロの値を合算した値又は当該指定配合肥料の上欄に掲げる主成分の含有量(当該指定配合肥料の生産業者が当該指定配合肥料のロットごとに確認したものに限る。)を超えない範囲内の数値で規則第十一条第八項第五号及び第六号の規定により保証するものとする。ただし、原料として使用した普通肥料においてく溶性りん酸及び可溶性りん酸が保証された指定配合肥料並びに原料として使用した普通肥料において保証された可溶性りん酸又は水溶性りん酸の非水溶化が生じた指定配合肥料(原料として使用した普通肥料において保証されたりん酸の主成分がく溶性

りん酸及び水溶性りん酸又はりん酸全量、く溶性りん酸及び水溶性りん酸に限られるもの並びに原料として使用した普通肥料において可溶性りん酸及び水溶性りん酸が保証され、かつ、可溶性りん酸の非水溶化が生じないものを除く。)のく溶性りん酸又は可溶性りん酸の保証についてはこの限りでない。

(一) (略)

(二) 原料として使用した普通肥料(上欄に掲げる主成分を保証したものを除く。)のうち下欄に掲げる主成分を保証したものとに下欄に掲げる主成分(1の区分の下欄に掲げる二種類の主成分を保証したものにあつてはそれぞれの主成分、2、5、7又は9の区分の下欄に掲げる二種類の主成分を保証したものにあつては二種類の主成分のうち保証成分量の大きい主成分。以下同じ。)の保証成分量に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算する。

(三) 次のいずれかの値

イ (一)における当該合算した値

りん酸及び水溶性りん酸又はりん酸全量、く溶性りん酸及び水溶性りん酸に限られるもの並びに原料として使用した普通肥料において可溶性りん酸及び水溶性りん酸が保証され、かつ、可溶性りん酸の非水溶化が生じないものを除く。)のく溶性りん酸又は可溶性りん酸の保証についてはこの限りでない。

(一) (略)

(二) 原料として使用した普通肥料(上欄に掲げる主成分を保証したものを除く。)のうち下欄に掲げる主成分を保証したものとに下欄に掲げる主成分(1の区分の下欄に掲げる二種類の主成分を保証したものにあつてはそれぞれの主成分、2、5、7又は9の区分の下欄に掲げる二種類の主成分を保証したものにあつては二種類の主成分のうち保証成分量の大きい主成分。以下同じ。)の保証成分量に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算する。

(三) 次のいずれかの値

イ (一)における当該合算した値

<p>ロ 当該指定配合肥料の生産業者が原料として使用した普通肥料のうち上欄に掲げる主成分を保証したものごとに当該主成分の含有量（当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認したものに限る。）に当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値</p>	<p>(四) 次のいずれかの値</p>
<p>イ (二)における当該合算した値</p> <p>ロ 当該指定配合肥料の生産業者が原料として使用した普通肥料（上欄に掲げる主成分を保証したものを除く。）のうち下欄に掲げる主成分を保証したものごとに当該主成分の含有量（当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認したものに限る。）に当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値</p>	<p>(四) 次のいずれかの値</p>
<p>ロ 当該指定配合肥料の生産業者が原料として使用した普通肥料のうち上欄に掲げる主成分を保証したものごとに当該主成分の含有量（当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認したものに限る。）に当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値</p>	<p>イ (二)における当該合算した値</p> <p>ロ 当該指定配合肥料の生産業者が原料として使用した普通肥料（上欄に掲げる主成分を保証したものを除く。）のうち下欄に掲げる主成分を保証したものごとに当該主成分の含有量（当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認したものに限る。）に当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値</p>
<p>三 原料として使用した普通肥料において窒素全量及びアンモニア性窒素若しくは硝酸性窒素又はその双方が保証された指定配合肥料の窒素全量の保証において、当該指定配合肥料の窒素全</p>	<p>三 原料として使用した普通肥料において窒素全量及びアンモニア性窒素若しくは硝酸性窒素又はその双方が保証された指定配合肥料の窒素全量の保証において、当該指定配合肥料の窒素全</p>

量の保証成分量とアンモニア性窒素若しくは硝酸性窒素の保証成分量又はその双方の保証成分量を合算した値のうち最も大きいものとの差が１％未満の場合は、窒素全量の保証を省略することができる。

四 原料として使用した普通肥料においてりん酸全量及びく溶性りん酸、可溶性りん酸若しくは水溶性りん酸又はこれらのうち二以上が保証された指定配合肥料のりん酸全量の保証において、当該指定配合肥料のりん酸全量の保証成分量とく溶性りん酸、可溶性りん酸又は水溶性りん酸のうち最も大きな主成分の保証成分量との差が１％未満の場合は、りん酸全量の保証を省略することができる。

五 原料として使用した普通肥料において加里全量及びく溶性加里若しくは水溶性加里又はその双方が保証された指定配合肥料の加里全量の保証において、当該指定配合肥料の加里全量の保証成分量とく溶性加里又は水溶性加里のうち最も大きい主成分の保証成分量との差が１％未満の場合は、加里全量の保証を省

量の保証成分量とアンモニア性窒素若しくは硝酸性窒素の保証成分量又はその双方の保証成分量を合算した値のうち最も大きいものとの差が１％未満の場合は、窒素全量の保証を省略することができる。

四 原料として使用した普通肥料においてりん酸全量及びく溶性りん酸、可溶性りん酸若しくは水溶性りん酸又はこれらのうち二以上が保証された指定配合肥料のりん酸全量の保証において、当該指定配合肥料のりん酸全量の保証成分量とく溶性りん酸、可溶性りん酸又は水溶性りん酸のうち最も大きな主成分の保証成分量との差が１％未満の場合は、りん酸全量の保証を省略することができる。

五 原料として使用した普通肥料において加里全量及びく溶性加里若しくは水溶性加里又はその双方が保証された指定配合肥料の加里全量の保証において、当該指定配合肥料の加里全量の保証成分量とく溶性加里又は水溶性加里のうち最も大きい主成分の保証成分量との差が１％未満の場合は、加里全量の保証を省

略することができる。

六 原料として使用した普通肥料においてく溶性りん酸及び可溶性りん酸が保証された指定配合肥料のく溶性りん酸及び可溶性りん酸の保証については、これらのうちいずれか一を保証するものとし、く溶性りん酸を保証する場合にあつては次の(一)、(二)及び(三)により求めた値を合算した値の百分の八十以上で、かつ、次の(四)のイ、(五)のイ及び(六)のイの値を合算した値若しくは(四)のロ、(五)のロ及び(六)のロの値を合算した値又は当該指定配合肥料のく溶性りん酸の含有量（当該指定配合肥料の生産業者が当該指定配合肥料のロットごとに確認したものに限る。）を超えない範囲内の数値、く溶性りん酸を保証する場合にあつては次の(七)、(八)及び(九)により求めた値を合算した値の百分の八十以上で、かつ、次の(十)、(十一)及び(十二)の値を合算した値又は当該指定配合肥料のく溶性りん酸の含有量（当該指定配合肥料の生産業者が当該指定配合肥料のロットごとに確認したものに限る。）を超えない範囲内の数値で規則第十一条第八項第五号及び第六号

略することができる。

六 原料として使用した普通肥料においてく溶性りん酸及び可溶性りん酸が保証された指定配合肥料のく溶性りん酸及び可溶性りん酸の保証については、く溶性りん酸を次の(一)、(二)及び(三)により求めた値を合算した値の百分の八十以上で、かつ、次の(四)のイ、(五)のイ及び(六)のイの値を合算した値若しくは(四)のロ、(五)のロ及び(六)のロの値を合算した値又は当該指定配合肥料のく溶性りん酸の含有量（当該指定配合肥料の生産業者が当該指定配合肥料のロットごとに確認したものに限る。）を超えない範囲内の数値で規則第十一条第八項第五号及び第六号の規定により保証するものとし、く溶性りん酸を保証しないものとする。

の規定により保証するものとする。

(一) 原料として使用した普通肥料のうちく溶性りん酸を保証したものと当該く溶性りん酸の保証成分量に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算する。

(二) 原料として使用した普通肥料のうちく溶性りん酸を保証し、く溶性りん酸を保証しないものと当該く溶性りん酸の保証成分量に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算する。

(三) 原料として使用した普通肥料のうち水溶性りん酸を保証し、く溶性りん酸及びく溶性りん酸のいずれも保証しないものと当該水溶性りん酸の保証成分量に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算する。

(四) 次のいずれかの値

イ (一)における当該合算した値

ロ 当該指定配合肥料の生産業者が原料として使用した普通

(一) 原料として使用した普通肥料のうちく溶性りん酸を保証したものと当該く溶性りん酸の保証成分量に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算する。

(二) 原料として使用した普通肥料のうちく溶性りん酸を保証したものと当該く溶性りん酸の保証成分量に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算する。

(三) 原料として使用した普通肥料のうち水溶性りん酸を保証し、く溶性りん酸及びく溶性りん酸のいずれも保証しないものと当該水溶性りん酸の保証成分量に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算する。

(四) 次のいずれかの値

イ (一)における当該合算した値

ロ 当該指定配合肥料の生産業者が原料として使用した普通

肥料のうちく溶性りん酸を保証したものと当該く溶性りん酸の含有量（当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認したものに限る。）に当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値

(五) 次のいずれかの値

イ (二)における当該合算した値

ロ 当該指定配合肥料の生産業者が原料として使用した普通肥料のうちく溶性りん酸を保証し、く溶性りん酸を保証しないものごとに当該く溶性りん酸の含有量（当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認したものに限る。）に当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値

(六) 次のいずれかの値

イ (三)における当該合算した値

ロ 当該指定配合肥料の生産業者が原料として使用した普通肥料のうち、水溶性りん酸を保証し、く溶性りん酸及びく溶性りん酸のいずれも保証しないものごとに当該水溶性り

肥料のうちく溶性りん酸を保証したものと当該く溶性りん酸の含有量（当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認したものに限る。）に当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値

(五) 次のいずれかの値

イ (二)における当該合算した値

ロ 当該指定配合肥料の生産業者が原料として使用した普通肥料のうちく溶性りん酸を保証したものと当該く溶性りん酸の含有量（当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認したものに限る。）に当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値

(六) 次のいずれかの値

イ (三)における当該合算した値

ロ 当該指定配合肥料の生産業者が原料として使用した普通肥料のうち、水溶性りん酸を保証し、く溶性りん酸及びく溶性りん酸のいずれも保証しないものごとに当該水溶性り

<p>ん酸の含有量（当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認したものに限る。）に当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値</p>	<p>ん酸の含有量（当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認したものに限る。）に当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値</p>
<p>(七) 原料として使用した普通肥料のうち可溶性りん酸を保証したものに当該可溶性りん酸の保証分量に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算する。</p>	<p>(新設)</p>
<p>(八) 原料として使用した普通肥料のうち可溶性りん酸を保証し、可溶性りん酸を保証しないものに当該可溶性りん酸の保証分量に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算する。</p>	<p>(新設)</p>
<p>(九) 原料として使用した普通肥料のうち水溶性りん酸を保証し、可溶性りん酸及び可溶性りん酸のいずれも保証しないものに当該水溶性りん酸の保証分量に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算する。</p>	<p>(新設)</p>
<p>(十) 当該指定配合肥料の生産業者が原料として使用した普通肥</p>	<p>(新設)</p>

<p>七 原料として使用した普通肥料において保証された可溶性りん</p>	<p>を合算した値</p>	<p>料のうち可溶性りん酸を保証したものに当該可溶性りん酸の含有量（当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認したものに限る。）に当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値</p>	<p>(十一) 当該指定配合肥料の生産業者が原料として使用した普通肥料のうち可溶性りん酸を保証し、可溶性りん酸を保証しないものごとに当該可溶性りん酸の含有量（当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認したものに限る。）に当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値</p>
<p>七 原料として使用した普通肥料において保証された可溶性りん</p>	<p>(十二) 当該指定配合肥料の生産業者が原料として使用した普通肥料のうち、水溶性りん酸を保証し、可溶性りん酸及び可溶性りん酸のいずれも保証しないものごとに当該水溶性りん酸の含有量（当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認したものに限る。）に当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値</p>	<p>(新設)</p>	<p>(新設)</p>

酸又は水溶性りん酸の非水溶化が生じた指定配合肥料（く溶性りん酸を保証した普通肥料を原料として使用したもの並びに原料として使用した普通肥料において可溶性りん酸及び水溶性りん酸が保証され、かつ、可溶性りん酸の非水溶化が生じないものを除く。）の原料として使用した普通肥料において保証された可溶性りん酸又は水溶性りん酸の当該指定配合肥料における保証については、次の（一）及び（二）により求めた値を合算した値の百分の八十以上で、かつ、次の（三）のイ及び（四）のイの値を合算した値若しくは（三）のロ及び（四）のロの値を合算した値又は当該指定配合肥料のく溶性りん酸の含有量（当該指定配合肥料の生産業者が当該指定配合肥料のロットごとに確認したものに限る。）を超えない範囲内の数値で規則第十一条第八項第五号及び第六号の規定によりく溶性りん酸として保証するものとする。

（一）・（二）（略）

（三） 次のいずれかの値

イ （一）における当該合算した値

酸又は水溶性りん酸の非水溶化が生じた指定配合肥料（く溶性りん酸を保証した普通肥料を原料として使用したもの並びに原料として使用した普通肥料において可溶性りん酸及び水溶性りん酸が保証され、かつ、可溶性りん酸の非水溶化が生じないものを除く。）の原料として使用した普通肥料において保証された可溶性りん酸又は水溶性りん酸の当該指定配合肥料における保証については、次の（一）及び（二）により求めた値を合算した値の百分の八十以上で、かつ、次の（三）のイ及び（四）のイの値を合算した値若しくは（三）のロ及び（四）のロの値を合算した値又は当該指定配合肥料のく溶性りん酸の含有量（当該指定配合肥料の生産業者が当該指定配合肥料のロットごとに確認したものに限る。）を超えない範囲内の数値で規則第十一条第八項第五号及び第六号の規定によりく溶性りん酸として保証するものとする。

（一）・（二）（略）

（三） 次のいずれかの値

イ （一）における当該合算した値

ロ 当該指定配合肥料の生産業者が原料として使用した普通肥料のうち可溶性りん酸を保証したものごとに当該可溶性りん酸の含有量（当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認したものに限る。）に当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値

(四) 次のいずれかの値

イ (二)における当該合算した値

ロ 当該指定配合肥料の生産業者が原料として使用した普通肥料のうち可溶性りん酸を保証し、可溶性りん酸を保証しないものごとに当該可溶性りん酸の含有量（当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認したものに限る。）に当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値

八 原料として使用した普通肥料において保証された可溶性りん酸の非水溶化が生じた指定配合肥料の水溶性りん酸の保証については、当該指定配合肥料の生産業者が当該指定配合肥料のロットごとに確認した可溶性りん酸の含有量の百分の八十以上で

ロ 当該指定配合肥料の生産業者が原料として使用した普通肥料のうち可溶性りん酸を保証したものごとに当該可溶性りん酸の含有量（当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認したものに限る。）に当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値

(四) 次のいずれかの値

イ (二)における当該合算した値

ロ 当該指定配合肥料の生産業者が原料として使用した普通肥料のうち可溶性りん酸を保証し、可溶性りん酸を保証しないものごとに当該可溶性りん酸の含有量（当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認したものに限る。）に当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値

八 原料として使用した普通肥料において保証された可溶性りん酸の非水溶化が生じた指定配合肥料の水溶性りん酸の保証については、当該指定配合肥料の生産業者が当該指定配合肥料のロットごとに確認した可溶性りん酸の含有量の百分の八十以上で

、かつ、当該含有量を超えない範囲内の数値で規則第十一条第八項第五号及び第六号の規定により保証するものとする。ただし、当該指定配合肥料の生産業者が最も非水溶化が生じる条件下において当該指定配合肥料の水溶性りん酸の含有量を確認した場合には、当該含有量の百分の八十以上で、かつ、当該含有量を超えない範囲内の数値で規則第十一条第八項第五号及び第六号の規定により保証することができる。

九 原料として使用した普通肥料において保証された水溶性加里の非水溶化が生じた指定配合肥料（く溶性加里を保証した普通肥料を原料として使用したものを除く。）の原料として使用した普通肥料において保証された水溶性加里の当該指定配合肥料における保証については、当該水溶性加里の保証成分量に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値の百分の八十以上で、かつ、次のいずれかの値を超えない範囲内の数値で規則第十一条第八項第五号及び第六号の規定によりく溶性加里として保証するものとする。

、かつ、当該含有量を超えない範囲内の数値で規則第十一条第八項第五号及び第六号の規定により保証するものとする。ただし、当該指定配合肥料の生産業者が最も非水溶化が生じる条件下において当該指定配合肥料の水溶性りん酸の含有量を確認した場合には、当該含有量の百分の八十以上で、かつ、当該含有量を超えない範囲内の数値で規則第十一条第八項第五号及び第六号の規定により保証することができる。

九 原料として使用した普通肥料において保証された水溶性加里の非水溶化が生じた指定配合肥料（く溶性加里を保証した普通肥料を原料として使用したものを除く。）の原料として使用した普通肥料において保証された水溶性加里の当該指定配合肥料における保証については、当該水溶性加里の保証成分量に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値の百分の八十以上で、かつ、次のいずれかの値を超えない範囲内の数値で規則第十一条第八項第五号及び第六号の規定によりく溶性加里として保証するものとする。

(一) 当該合算した値	(二) 当該指定配合肥料の生産業者が原料として使用した普通肥料の水溶性加里の含有量（当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認したものに限る。）に当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値	(三) 当該指定配合肥料のく溶性加里の含有量（当該指定配合肥料の生産業者が当該指定配合肥料のロットごとに確認したものに限る。）	十 原料として使用した普通肥料において保証された水溶性加里の非水溶化が生じた指定配合肥料の水溶性加里の保証については、第八号の規定を準用する。この場合において「水溶性りん酸」とあるのは「水溶性加里」と読み替えるものとする。	十一 アルカリ分を保証した普通肥料に水酸化苦土肥料、炭酸苦土肥料又は副産肥料（専ら苦土含有物を原料として使用したものであつて、く溶性苦土又は可溶性苦土を保証し、アルカリ分を保証しないものに限る。以下同じ。）を配合した指定配合肥料
(一) 当該合算した値	(二) 当該指定配合肥料の生産業者が原料として使用した普通肥料の水溶性加里の含有量（当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認したものに限る。）に当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値	(三) 当該指定配合肥料のく溶性加里の含有量（当該指定配合肥料の生産業者が当該指定配合肥料のロットごとに確認したものに限る。）	十 原料として使用した普通肥料において保証された水溶性加里の非水溶化が生じた指定配合肥料の水溶性加里の保証については、第八号の規定を準用する。この場合において「水溶性りん酸」とあるのは「水溶性加里」と読み替えるものとする。	十一 アルカリ分を保証した普通肥料に水酸化苦土肥料、炭酸苦土肥料又は副産苦土肥料を配合した指定配合肥料（アルカリ分を保証した普通肥料、水酸化苦土肥料、炭酸苦土肥料及び副産苦土肥料以外の普通肥料を配合したものを除く。）のアルカリ

料（アルカリ分を保証した普通肥料、水酸化苦土肥料、炭酸苦土肥料及び副産肥料以外の普通肥料を配合したものを除く。）

のアルカリ分の保証については、次の（一）、（二）、（三）及び（四）により求めた値を合算した値の百分の八十以上で、かつ、次の（五）のイ、（六）のイ、（七）のイ及び（八）のイの値を合算した値若しくは（五）のロ、（六）のロ、（七）のロ及び（八）のロの値を合算した値又は当該指定配合肥料のアルカリ分の含有量（当該指定配合肥料の生産業者が当該指定配合肥料のロットごとに確認したものに限る。）を超えない範囲内の数値で規則第十一条第八項第五号及び第六号の規定により保証するものとする。

（一） 原料として使用した普通肥料のうちアルカリ分を保証したものごとに当該アルカリ分の保証成分量に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算する。

（二） 水酸化苦土肥料を原料として使用した場合には、当該肥料ごとに当該肥料のく溶性苦土の保証成分量に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値に一・三九を乗ずる。

分の保証については、次の（一）、（二）、（三）及び（四）により求めた値を合算した値の百分の八十以上で、かつ、次の（五）のイ、（六）のイ、（七）のイ及び（八）のイの値を合算した値若しくは（五）のロ、（六）のロ、（七）のロ及び（八）のロの値を合算した値又は当該指定配合肥料のアルカリ分の含有量（当該指定配合肥料の生産業者が当該指定配合肥料のロットごとに確認したものに限る。）を超えない範囲内の数値で規則第十一条第八項第五号及び第六号の規定により保証するものとする。

（一） 原料として使用した普通肥料のうちアルカリ分を保証したものごとに当該アルカリ分の保証成分量に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算する。

（二） 水酸化苦土肥料を原料として使用した場合には、当該肥料ごとに当該肥料のく溶性苦土の保証成分量に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値に一・三九を乗ずる。

<p>(三) 炭酸苦土肥料を原料として使用した場合には、当該肥料ごとに当該肥料のく溶性苦土の保証成分量に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値に一・三九を乗ずる。</p>	<p>(四) 副産肥料を原料として使用した場合には、当該肥料ごとに当該肥料の可溶性苦土（可溶性苦土を保証しない場合には、く溶性苦土）の保証成分量に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値に一・三九を乗ずる。</p>	<p>(五) 次のいずれかの値</p> <p>イ (一)における当該合算した値</p> <p>ロ 当該指定配合肥料の生産業者が原料として使用した普通肥料のうちアルカリ分を保証したものごとに当該アルカリ分の含有量（当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認したものに限る。）に当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値</p> <p>(六) 次のいずれかの値</p> <p>イ (二)における当該計算した値</p>
<p>(三) 炭酸苦土肥料を原料として使用した場合には、当該肥料ごとに当該肥料のく溶性苦土の保証成分量に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値に一・三九を乗ずる。</p>	<p>(四) 副産苦土肥料を原料として使用した場合には、当該肥料ごとに当該肥料のく溶性苦土（可溶性苦土及びく溶性苦土を保証する場合には、可溶性苦土）の保証成分量に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値に一・三九を乗ずる。</p>	<p>(五) 次のいずれかの値</p> <p>イ (一)における当該合算した値</p> <p>ロ 当該指定配合肥料の生産業者が原料として使用した普通肥料のうちアルカリ分を保証したものごとに当該アルカリ分の含有量（当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認したものに限る。）に当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値</p> <p>(六) 次のいずれかの値</p> <p>イ (二)における当該計算した値</p>

ロ 当該指定配合肥料の生産業者が水酸化苦土肥料を原料として使用した場合には、当該普通肥料ごとに溶性苦土の含有量（当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認したものに限る。）に当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値に一・三九を乗じた値

(七) 次のいずれかの値

イ (三)における当該計算した値

ロ 当該指定配合肥料の生産業者が炭酸苦土肥料を原料として使用した場合には、当該普通肥料ごとに溶性苦土の含有量（当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認したものに限る。）に当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値に一・三九を乗じた値

(八) 次のいずれかの値

イ (四)における当該計算した値

ロ 当該指定配合肥料の生産業者が副産肥料を原料として使用した場合には、当該普通肥料ごとに可溶性苦土（可溶性

ロ 当該指定配合肥料の生産業者が水酸化苦土肥料を原料として使用した場合には、当該普通肥料ごとに溶性苦土の含有量（当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認したものに限る。）に当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値に一・三九を乗じた値

(七) 次のいずれかの値

イ (三)における当該計算した値

ロ 当該指定配合肥料の生産業者が炭酸苦土肥料を原料として使用した場合には、当該普通肥料ごとに溶性苦土の含有量（当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認したものに限る。）に当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値に一・三九を乗じた値

(八) 次のいずれかの値

イ (四)における当該計算した値

ロ 当該指定配合肥料の生産業者が副産苦土肥料を原料として使用した場合には、当該普通肥料ごとに可溶性苦土（可

苦土を保証しない場合には、く溶性苦土の含有量（当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認したものに限る。）に当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値に一・三九を乗じた値

十二 原料として使用した普通肥料においてアルカリ分及び可溶性石灰、く溶性石灰又は水溶性石灰（以下「有効石灰」という。）が保証された指定配合肥料のアルカリ分及び有効石灰の保証については、アルカリ分又は有効石灰のいずれか一（肥料の品質の確保等に関する法律施行規則別表第一号二及び第二号の規定に基づき、令和二年十一月五日農林水産省告示第二千百五十九号（肥料の品質の確保等に関する法律施行規則別表第一号二及び第二号の規定に基づき、化学的変化により品質が低下するおそれがないものとして農林水産大臣が定める要件を定める件）に規定する要件を満たすものにあつては、有効石灰）を保証するものとし、アルカリ分を保証する場合にあつては原料として使用した普通肥料のうちアルカリ分を保証したものごとに

溶性苦土及びく溶性苦土を保証する場合には、可溶性苦土の含有量（当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認したものに限る。）に当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値に一・三九を乗じた値

（新設）

当該主成分の保証成分量に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値の百分の八十以上で、かつ、当該合算した値又は次の(一)の値を超えない範囲内の数値（水酸化苦土肥料、炭酸苦土肥料又は副産肥料を配合した指定配合肥料（アルカリ分を保証した普通肥料、水酸化苦土肥料、炭酸苦土肥料及び副産肥料以外の普通肥料を配合したものを除く。）にあつては、第十一号の(一)、(二)、(三)及び(四)により求めた値を合算した値の百分の八十以上で、かつ、第十一号の(五)のイ、(六)のイ、(七)のイ及び(八)のイの値を合算した値又は次の(一)並びに(六)のロ、(七)のロ及び(八)のロの値を合算した値を超えない範囲内の数値）、有効石灰を保証する場合にあつては原料として使用した普通肥料のうち有効石灰を保証したものごとに当該主成分の保証成分量に当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値の百分の八十以上（合算した値が五未満の値の場合には百分の五十以上）で、かつ、当該合算した値、次の(二)の値又は当該指定配合肥料の有効石灰の含有量（当該指定配合肥料の生産業者が当該指定配合肥

料のロットごとに確認したものに限る。)を超えない範囲内の数値で規則第十一条第八項第五号及び第六号の規定により保証するものとする。

(一) 当該指定配合肥料の生産業者が当該指定配合肥料の原料として使用した普通肥料(アルカリ分を保証したものに限る。

)のアルカリ分の含有量(当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認したものに限る。)に、当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値

(二) 当該指定配合肥料の生産業者が当該指定配合肥料の原料として使用した普通肥料の有効石灰の含有量(当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認したものに限る。)に、当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値

十三 原料として使用した普通肥料において保証された水溶性石灰の非水溶化が生じた指定配合肥料の水溶性石灰の保証については、第八号の規定を準用する。この場合において「水溶性りん酸」とあるのは「水溶性石灰」と読み替えるものとする。

(新設)

<p>十四 原料として使用した普通肥料において保証された水溶性苦土の非水溶化が生じた指定配合肥料（可溶性苦土又は可溶性苦土を保証した普通肥料を原料として使用したものを除く。）の原料として使用した普通肥料において保証された水溶性苦土の当該指定配合肥料における保証については、当該水溶性苦土の保証成分量に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値の百分の八十以上で、かつ、次のいずれかの値を超えない範囲内の数値で規則第十一条第八項第五号及び第六号の規定により可溶性苦土として保証するものとする。</p>	<p>十二 原料として使用した普通肥料において保証された水溶性苦土の非水溶化が生じた指定配合肥料（可溶性苦土又は可溶性苦土を保証した普通肥料を原料として使用したものを除く。）の原料として使用した普通肥料において保証された水溶性苦土の当該指定配合肥料における保証については、当該水溶性苦土の保証成分量に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値の百分の八十以上で、かつ、次のいずれかの値を超えない範囲内の数値で規則第十一条第八項第五号及び第六号の規定により可溶性苦土として保証するものとする。</p>
<p>(一) 当該合算した値</p> <p>(二) 当該指定配合肥料の生産業者が原料として使用した普通肥料の水溶性苦土の含有量（当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認したものに限る。）に当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値</p> <p>(三) 当該指定配合肥料の可溶性苦土の含有量（当該指定配合肥料の生産業者が当該指定配合肥料のロットごとに確認したもの</p>	<p>(一) 当該合算した値</p> <p>(二) 当該指定配合肥料の生産業者が原料として使用した普通肥料の水溶性苦土の含有量（当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認したものに限る。）に当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値</p> <p>(三) 当該指定配合肥料の可溶性苦土の含有量（当該指定配合肥料の生産業者が当該指定配合肥料のロットごとに確認したもの</p>

のに限る。)

十五 原料として使用した普通肥料において保証された水溶性苦土の非水溶化が生じた指定配合肥料の水溶性苦土の保証については、第八号の規定を準用する。この場合において「水溶性りん酸」とあるのは「水溶性苦土」と読み替えるものとする。

十六 原料として使用した普通肥料において保証された水溶性マンガンの非水溶化が生じた指定配合肥料（可溶性マンガンを又は可溶性マンガンを保証した普通肥料を原料として使用したものを除く。）の原料として使用した普通肥料において保証された水溶性マンガンの当該指定配合肥料における保証については、当該水溶性マンガンの保証成分量に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値の百分の八十以上で、かつ、次のいずれかの値を超えない範囲内の数値で規則第十一条第八項第五号及び第六号の規定により可溶性マンガンをとして保証するものとする。

(一) 当該合算した値

のに限る。)

十三 原料として使用した普通肥料において保証された水溶性苦土の非水溶化が生じた指定配合肥料の水溶性苦土の保証については、第八号の規定を準用する。この場合において「水溶性りん酸」とあるのは「水溶性苦土」と読み替えるものとする。

十四 原料として使用した普通肥料において保証された水溶性マンガンの非水溶化が生じた指定配合肥料（可溶性マンガンを又は可溶性マンガンを保証した普通肥料を原料として使用したものを除く。）の原料として使用した普通肥料において保証された水溶性マンガンの当該指定配合肥料における保証については、当該水溶性マンガンの保証成分量に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値の百分の八十以上で、かつ、次のいずれかの値を超えない範囲内の数値で規則第十一条第八項第五号及び第六号の規定により可溶性マンガンをとして保証するものとする。

(一) 当該合算した値

<p>(二) 当該指定配合肥料の生産業者が原料として使用した普通肥料の水溶性マンガンの含有量（当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認したものに限る。）に当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値</p> <p>(三) 当該指定配合肥料のく溶性マンガンの含有量（当該指定配合肥料の生産業者が当該指定配合肥料のロットごとに確認したものに限る。）</p>	<p>十七 原料として使用した普通肥料において保証された水溶性マンガンの非水溶化が生じた指定配合肥料の水溶性マンガンの保証については、第八号の規定を準用する。この場合において「水溶性りん酸」とあるのは「水溶性マンガン」と読み替えるものとする。</p> <p>2 前項の規定は、規則第十一条第八項第四号に規定する指定化成肥料の保証の方法について準用する。この場合において、これらの規定中「指定配合肥料」とあるのは「指定化成肥料」と、第一号中「次の(三)のイ及び(四)のイの値を合算した値若しくは(三)のロ及</p>
<p>(二) 当該指定配合肥料の生産業者が原料として使用した普通肥料の水溶性マンガンの含有量（当該生産業者が当該普通肥料のロットごとに確認したものに限る。）に当該普通肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値</p> <p>(三) 当該指定配合肥料のく溶性マンガンの含有量（当該指定配合肥料の生産業者が当該指定配合肥料のロットごとに確認したものに限る。）</p>	<p>十五 原料として使用した普通肥料において保証された水溶性マンガンの非水溶化が生じた指定配合肥料の水溶性マンガンの保証については、第八号の規定を準用する。この場合において「水溶性りん酸」とあるのは「水溶性マンガン」と読み替えるものとする。</p> <p>2 前項の規定は、規則第十一条第八項第四号に規定する指定化成肥料の保証の方法について準用する。この場合において、これらの規定中「指定配合肥料」とあるのは「指定化成肥料」と、第一号中「次の(三)のイ及び(四)のイの値を合算した値若しくは(三)のロ及</p>

び(四)のロの値を合算した値又は当該指定配合肥料の窒素全量の含有量」とあるのは「当該指定化成肥料の窒素全量の含有量」と、第二号中「次の(三)のイ及び(四)のイの値を合算した値若しくは(三)のロ及び(四)のロの値を合算した値又は当該指定配合肥料の上欄に掲げる主成分の含有量」とあるのは「当該指定化成肥料の上欄に掲げる主成分の含有量」と、第六号中「次の(四)のイ、(五)のイ及び(六)のイの値を合算した値若しくは(四)のロ、(五)のロ及び(六)のロの値を合算した値又は当該指定配合肥料のく溶性りん酸の含有量」とあるのは「当該指定化成肥料のく溶性りん酸の含有量」と、「次の(十)及び(十一)及び(十二)の値を合算した値又は当該指定配合肥料のく溶性りん酸の含有量」とあるのは「当該指定化成肥料の可溶性りん酸の含有量」と、第七号中「次の(三)のイ及び(四)のイの値を合算した値若しくは(三)のロ及び(四)のロの値を合算した値又は当該指定配合肥料のく溶性りん酸の含有量」とあるのは「当該指定化成肥料のく溶性りん酸の含有量」と、第九号中「次のいずれかの値」とあるのは「当該指定化成肥料のく溶性加里の含有量（当該指定化成肥料

び(四)のロの値を合算した値又は当該指定配合肥料の窒素全量の含有量」とあるのは「当該指定化成肥料の窒素全量の含有量」と、第二号中「次の(三)のイ及び(四)のイの値を合算した値若しくは(三)のロ及び(四)のロの値を合算した値又は当該指定配合肥料の上欄に掲げる主成分の含有量」とあるのは「当該指定化成肥料の上欄に掲げる主成分の含有量」と、第六号中「次の(四)のイ、(五)のイ及び(六)のイの値を合算した値若しくは(四)のロ、(五)のロ及び(六)のロの値を合算した値又は当該指定配合肥料のく溶性りん酸の含有量」とあるのは「当該指定化成肥料のく溶性りん酸の含有量」と、第七号中「次の(三)のイ及び(四)のイの値を合算した値若しくは(三)のロ及び(四)のロの値を合算した値又は当該指定配合肥料のく溶性りん酸の含有量」とあるのは「当該指定化成肥料のく溶性りん酸の含有量」と、第九号中「次のいずれかの値」とあるのは「当該指定化成肥料のく溶性加里の含有量（当該指定化成肥料の生産業者が当該指定化成肥料のロットごとに確認したものに限り。」と、第十一号中「次の(五)のイ、(六)のイ、(七)のイ及び(八)のイの値を合算した

料の生産業者が当該指定化成肥料のロットごとに確認したものに
 限る。」と、第十一号中「次の(五)のイ、(六)のイ、(七)のイ及び(八)
 のイの値を合算した値若しくは(五)のロ、(六)のロ、(七)のロ及び(八)
 のロの値を合算した値又は当該指定配合肥料のアルカリ分の含有量
 」とあるのは「当該指定化成肥料のアルカリ分の含有量」と、第
 十二号中「アルカリ分又は有効石灰のいずれか一（肥料の品質の
 確保等に関する法律施行規則別表第一号ニ及び第二号の規定に基
 づき、令和二年十一月五日農林水産省告示第二千五百五十九号（肥
 料の品質の確保等に関する法律施行規則別表第一号ニ及び第二号
 の規定に基づき、化学的变化により品質が低下するおそれがない
 ものとして農林水産大臣が定める要件を定める件）に規定する要
 件を満たすものにあつては、有効石灰）」とあるのは「有効石灰
 」と、「アルカリ分を保証する場合にあつては原料として使用し
 た普通肥料のうちアルカリ分を保証したものごとに当該主成分の
 保証成分量に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値の
 百分の八十以上で、かつ、当該合算した値又は次の(一)の値を超え

値若しくは(五)のロ、(六)のロ、(七)のロ及び(八)のロの値を合算した値
 又は当該指定配合肥料のアルカリ分の含有量」とあるのは「当該
 指定化成肥料のアルカリ分の含有量」と、第十二号中「次のい
 ずれかの値」とあるのは「当該指定化成肥料のく溶性苦土の含有量
 （当該指定化成肥料の生産業者が当該指定化成肥料のロットごと
 に確認したものに限る。」と、第十四号中「次のいずれかの値
 」とあるのは「当該指定化成肥料のく溶性マンガンの含有量（当
 該指定化成肥料の生産業者が当該指定化成肥料のロットごとに確
 認したものに限る。」と読み替えるものとする。

ない範囲内の数値（水酸化苦土肥料、炭酸苦土肥料又は副産肥料を配合した指定配合肥料（アルカリ分を保証した普通肥料、水酸化苦土肥料、炭酸苦土肥料及び副産肥料以外の普通肥料を配合したものを除く。）にあつては、第十一号の（一）、（二）、（三）及び（四）により求めた値を合算した値の百分の八十以上で、かつ、第十一号の（五）のイ、（六）のイ、（七）のイ及び（八）のイの値を合算した値又は次の（一）並びに（六）のロ、（七）のロ及び（八）のロの値を合算した値を超えない範囲内の数値）、有効石灰を保証する場合にあつては原料として」とあるのは「原料として」と、「当該合算した値、次の（二）の値又は当該指定配合肥料の有効石灰の含有量（当該指定配合肥料の生産業者が当該指定配合肥料のロットごとに確認したものに限る。）（一）とあるのは「当該指定化成肥料の有効石灰の含有量（当該指定配合肥料の生産業者が当該指定配合肥料のロットごとに確認したものに限る。）（一）と、第十四号中「次のいずれかの値」とあるのは「当該指定化成肥料のく溶性苦土の含有量（当該指定化成肥料の生産業者が当該指定化成肥料のロットごとに確認したもの）に

限る。）」と、第十六号中「次のいずれかの値」とあるのは「当該指定化成肥料のく溶性マンガンの含有量（当該指定化成肥料の生産業者が当該指定化成肥料のロットごとに確認したものに限る。）」と読み替えるものとする。

3 規則第十一条第九項に規定する特殊肥料等入り指定混合肥料

一 原料として使用した肥料においてく溶性りん酸及び可溶性りん酸が保証され、又はこれらの含有量が記載された特殊肥料等入り指定混合肥料の当該主成分の記載については、これらのうちいずれか一の含有量を記載するものとする。

二 原料として使用した肥料において窒素全量及びアンモニア性窒素若しくは硝酸性窒素若しくはその双方が保証され、又はこれらの含有量が記載された特殊肥料等入り指定混合肥料の窒素全量の記載については、当該特殊肥料等入り指定混合肥料の窒素全量の含有量とアンモニア性窒素若しくは硝酸性窒素の含有量又はその双方の含有量を合算した値のうち最も大きいものの

3 規則第十一条第九項に規定する特殊肥料等入り指定混合肥料

一 原料として使用した肥料においてく溶性りん酸及び可溶性りん酸が保証され、又はこれらの含有量が記載された特殊肥料等入り指定混合肥料の当該主要な成分の記載については、く溶性りん酸の含有量を記載するものとし、可溶性りん酸の含有量を記載しないものとする。

二 原料として使用した肥料において窒素全量及びアンモニア性窒素若しくは硝酸性窒素若しくはその双方が保証され、又はこれらの含有量が記載された特殊肥料等入り指定混合肥料の窒素全量の記載については、当該特殊肥料等入り指定混合肥料の窒素全量の含有量とアンモニア性窒素若しくは硝酸性窒素の含有量又はその双方の含有量を合算した値のうち最も大きいものの

差が１％未満の場合は、窒素全量の記載を省略することができる。

三 原料として使用した肥料においてりん酸全量及びく溶性りん酸、可溶性りん酸若しくは水溶性りん酸若しくはこれらのうち二以上が保証され、又はこれらの含有量が記載された特殊肥料等入り指定混合肥料のりん酸全量の記載については、当該特殊肥料等入り指定混合肥料のりん酸全量の含有量とく溶性りん酸、可溶性りん酸又は水溶性りん酸の含有量のうち最も大きいものの差が１％未満の場合は、りん酸全量の記載を省略することができる。

四 原料として使用した肥料において加里全量及びく溶性加里、水溶性加里若しくはその双方が保証され、又はこれらの含有量が記載された特殊肥料等入り指定混合肥料の加里全量の記載については、当該特殊肥料等入り指定混合肥料の加里全量の含有量とく溶性加里又は水溶性加里のうち最も大きいものの差が１％未満の場合は、加里全量の記載を省略することができる。

差が１％未満の場合は、窒素全量の記載を省略することができる。

三 原料として使用した肥料においてりん酸全量及びく溶性りん酸、可溶性りん酸若しくは水溶性りん酸若しくはこれらのうち二以上が保証され、又はこれらの含有量が記載された特殊肥料等入り指定混合肥料のりん酸全量の記載については、当該特殊肥料等入り指定混合肥料のりん酸全量の含有量とく溶性りん酸、可溶性りん酸又は水溶性りん酸の含有量のうち最も大きいものの差が１％未満の場合は、りん酸全量の記載を省略することができる。

四 原料として使用した肥料において加里全量及びく溶性加里、水溶性加里若しくはその双方が保証され、又はこれらの含有量が記載された特殊肥料等入り指定混合肥料の加里全量の記載については、当該特殊肥料等入り指定混合肥料の加里全量の含有量とく溶性加里又は水溶性加里のうち最も大きいものの差が１％未満の場合は、加里全量の記載を省略することができる。

五 原料として使用した肥料において保証され、又は含有量が記載された可溶性りん酸又は水溶性りん酸の非水溶化が生じた特殊肥料等入り指定混合肥料（く溶性りん酸が保証され、又はその含有量が表示された肥料を原料として使用したもの並びに原料として使用した肥料において可溶性りん酸及び水溶性りん酸が保証され、又はその含有量が記載され、かつ、可溶性りん酸の非水溶化が生じないものを除く。）の原料として使用した肥料において保証され、又は含有量が記載された可溶性りん酸又は水溶性りん酸の当該特殊肥料等入り指定混合肥料における記載については、く溶性りん酸の含有量を記載するものとする。

六 原料として使用した肥料において保証され、又は含有量が記載された水溶性加里の非水溶化が生じた特殊肥料等入り指定混合肥料（く溶性加里を保証され、又はその含有量が表示された肥料を原料として使用したものを除く。）の原料として使用した肥料において保証され、又は含有量が記載された水溶性加里の当該特殊肥料等入り指定混合肥料における当該主成分の記載

五 原料として使用した肥料において保証され、又は含有量が記載された可溶性りん酸又は水溶性りん酸の非水溶化が生じた特殊肥料等入り指定混合肥料（く溶性りん酸が保証され、又はその含有量が表示された肥料を原料として使用したもの並びに原料として使用した肥料において可溶性りん酸及び水溶性りん酸が保証され、又はその含有量が記載され、かつ、可溶性りん酸の非水溶化が生じないものを除く。）の原料として使用した肥料において保証され、又は含有量が記載された可溶性りん酸又は水溶性りん酸の当該特殊肥料等入り指定混合肥料における記載については、く溶性りん酸の含有量を記載するものとする。

六 原料として使用した肥料において保証され、又は含有量が記載された水溶性加里の非水溶化が生じた特殊肥料等入り指定混合肥料（く溶性加里を保証され、又はその含有量が表示された肥料を原料として使用したものを除く。）の原料として使用した肥料において保証され、又は含有量が記載された水溶性加里の当該特殊肥料等入り指定混合肥料における当該主要な成分の

については、く溶性加里の含有量を記載するものとする。

七| 原料として使用した肥料においてアルカリ分及び有効石灰が保証され、又は含有量が記載された特殊肥料等入り指定混合肥料のアルカリ分及び有効石灰の記載については、有効石灰の含有量を記載するものとし、アルカリ分の含有量を記載しないものとする。

八| 原料として使用した肥料において保証され、又は含有量が記載された水溶性苦土の非水溶化が生じた特殊肥料等入り指定混合肥料（可溶性苦土又はく溶性苦土が保証され、又はその含有量が表示された肥料を原料として使用したものを除く。）の原料として使用した肥料において保証され、又は含有量が記載された水溶性苦土の当該特殊肥料等入り指定混合肥料における当該主成分の記載については、く溶性苦土の含有量を記載するものとする。

九| 原料として使用した肥料において保証され、又は含有量が記載された水溶性マンガンの非水溶化が生じた特殊肥料等入り指

記載については、く溶性加里の含有量を記載するものとする。

（新設）

七| 原料として使用した肥料において保証され、又は含有量が記載された水溶性苦土の非水溶化が生じた特殊肥料等入り指定混合肥料（可溶性苦土又はく溶性苦土が保証され、又はその含有量が表示された肥料を原料として使用したものを除く。）の原料として使用した肥料において保証され、又は含有量が記載された水溶性苦土の当該特殊肥料等入り指定混合肥料における当該主要な成分の記載については、く溶性苦土の含有量を記載するものとする。

八| 原料として使用した肥料において保証され、又は含有量が記載された水溶性マンガンの非水溶化が生じた特殊肥料等入り指

<p>別表（略）</p>	<p>定混合肥料（可溶性マンガンを又は溶性マンガンを保証され、又はその含有量が表示された肥料を原料として使用したものを除く。）の原料として使用した肥料において保証され、又は含有量が記載された水溶性マンガンの当該特殊肥料等入り指定混合肥料における当該主成分の記載については、く溶性マンガンの含有量を記載するものとする。</p> <p>4 前項の規定は、規則第十一条第十項に規定する土壤改良資材入り指定混合肥料の主成分の含有量の記載の方法について準用する。この場合において、これらの規定中「特殊肥料等入り指定混合肥料」とあるのは「土壤改良資材入り指定混合肥料」と読み替えるものとする。</p> <p>附 主成分の定量方法及び量の算出は、独立行政法人農林水産消費安全技術センターが定める肥料等試験法によるものとする。</p>
<p>別表（略）</p>	<p>定混合肥料（可溶性マンガンを又は溶性マンガンを保証され、又はその含有量が表示された肥料を原料として使用したものを除く。）の原料として使用した肥料において保証され、又は含有量が記載された水溶性マンガンの当該特殊肥料等入り指定混合肥料における当該主要成分の記載については、く溶性マンガンの含有量を記載するものとする。</p> <p>4 前項の規定は、規則第十一条第十項に規定する土壤改良資材入り指定混合肥料の主要成分の含有量の記載の方法について準用する。この場合において、これらの規定中「特殊肥料等入り指定混合肥料」とあるのは「土壤改良資材入り指定混合肥料」と読み替えるものとする。</p> <p>附 主成分及び主要成分の定量方法及び量の算出は、独立行政法人農林水産消費安全技術センターが定める肥料等試験法によるものとする。</p>

附 則

1 この告示は、肥料取締法の一部を改正する法律附則第一条第二号に掲げる規定の施行の日（令和三年十月一日）から施行する。

2 この告示の施行の際現に肥料取締法の一部を改正する法律による改正前の肥料取締法第四条各項の規定による登録を受けている普通肥料であつて、肥料の品質の確保等に関する法律第四条第二項第二号から第四号までに掲げる普通肥料に使用されるものに係るこの告示による改正後の昭和五十九年三月十六日農林水産省告示第六百九十九号（肥料の品質の確保等に関する法律施行規則第十一条第八項ただし書及び同条第九項ただし書の規定に基づき指定混合肥料の保証又は主成分の含有量の記載の方法の特例を定める件）第一項第十一号（同告示第二項において準用する場合を含む。）の規定の適用については、原料として使用する普通肥料がその登録の更新を受けるまでは、なお従前の例による。

○農林水産省令第 号

肥料取締法の一部を改正する法律（令和元年法律第六十二号）の一部の施行に伴い、並びに肥料の品質の確保等に関する法律（昭和二十五年法律第二百二十七号）第三条第一項第二号、第四条第一項第三号、第六条第一項第六号、第九号及び第十一号（同法第三十三条の二第六項において準用する場合を含む。）、第十二条第一項（同法第三十三条の二第六項において準用する場合を含む。）、第十七条第一項及び第二項（同法第三十三条の二第六項において準用する場合を含む。）、第十八条第一項、第二十七条第一項及び第二項並びに第三十三条の二第四項の規定に基づき、並びに同法を実施するため、肥料の品質の確保等に関する法律施行規則の一部を改正する省令を次のように定める。

令和三年 月 日

農林水産大臣 野上浩太郎

肥料の品質の確保等に関する法律施行規則の一部を改正する省令

肥料の品質の確保等に関する法律施行規則（昭和二十五年農林省令第六十四号）の一部を次のように改正する。

次の表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分（以下「傍線部分」という。）でこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線部分があるものは、これを当該傍線部分のように改め、改正後欄に掲げる規定の傍線部分でこれに対応する改正前欄に掲げる規定の傍線部分がないものは、これを加え、改正前欄に掲げる規定の傍線部分でこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線部分がないものは、これを削る。

改正後	<p>肥料の品質の確保等に関する法律施行規則</p> <p>(原料の範囲を限定しなければ品質の確保が困難な肥料)</p> <p>第一条 肥料の品質の確保等に関する法律(昭和二十五年法律第百二十七号。以下「法」という。)第三条第一項第二号の農林水産省令で定める普通肥料(農林水産大臣が指定するものを除く。)は、次のとおりとする。</p> <p>一 魚廃物加工肥料</p> <p>二 乾燥菌体肥料</p> <p>三 副産動植物質肥料</p> <p>四 菌体肥料</p> <p>五 副産肥料</p> <p>六 液状肥料</p> <p>七 吸着複合肥料</p> <p>八 家庭園芸用複合肥料</p> <p>九 化成肥料</p> <p>(有害成分を含有するおそれが高い普通肥料)</p> <p>第一条の二 法第四条第一項第三号の農林水産省令で定める普通肥料は、次のとおりとする。</p> <p>一 汚泥肥料</p> <p>(削る)</p> <p>(削る)</p> <p>(削る)</p> <p>(削る)</p> <p>(削る)</p>
改正前	<p>肥料の品質の確保等に関する法律施行規則</p> <p>(新設)</p> <p>第一条 肥料の品質の確保等に関する法律(昭和二十五年法律第百二十七号。以下「法」という。)第四条第一項第三号の農林水産省令で定める普通肥料は、次のとおりとする。</p> <p>一 下水汚泥肥料</p> <p>二 し尿汚泥肥料</p> <p>三 工業汚泥肥料</p> <p>四 混合汚泥肥料</p> <p>五 焼成汚泥肥料</p> <p>六 汚泥発酵肥料</p> <p>(有害成分を含有するおそれが高い普通肥料)</p> <p>第一条 肥料の品質の確保等に関する法律(昭和二十五年法律第百二十七号。以下「法」という。)第四条第一項第三号の農林水産省令で定める普通肥料は、次のとおりとする。</p>

二・三 (略)

第一条の三 第一条の五 (略)

(植物に対する害に関する栽培試験の成績を要する肥料)

第二条の二 法第六条第一項第六号(法第三十三条の二第六項において準用する場合を含む。次条において同じ。)の農林水産省令で定める肥料は、次に掲げる種類に属する普通肥料(農林水産大臣が指定するものを除く。)とする。

一 熔成けい酸りん肥

(削る)

(削る)

(削る)

二 乾燥菌体肥料

三 菌体肥料

四 副産肥料

五 熔成複合肥料

六 汚泥肥料

七 水産副産物発酵肥料

八 硫黄及びその化合物

(植物に対する害に関する栽培試験の成績)

第二条の三 法第六条第一項第六号の植物に対する害に関する栽培試験の成績を申請書に記載する場合には、次に掲げる事項を記載しなければならない。

一 三 (略)

四 試験の設計

イ 肥料又はその原料の供試試料の種類及び名称並びに分析成績

ロ 供試土壌の土性、沖積土又は洪積土の別その他土壌の性

七・八 (略)

第一条の二 第一条の四 (略)

(植物に対する害に関する栽培試験の成績を要する肥料)

第二条の二 法第六条第一項第六号(法第三十三条の二第六項において準用する場合を含む。次条において同じ。)の農林水産省令で定める肥料は、次に掲げる種類に属する普通肥料(農林水産大臣が指定するものを除く。)とする。

一 副産窒素肥料

二 液状副産窒素肥料

三 熔成汚泥灰けい酸りん肥

四 副産りん酸肥料

五 乾燥菌体肥料

六 吸着複合肥料

七 副産複合肥料

八 熔成汚泥灰複合肥料

九 副産苦土肥料

十 副産マンガン肥料

十一 液体副産マンガン肥料

(植物に対する害に関する栽培試験の成績)

第二条の三 法第六条第一項第六号の植物に対する害に関する栽培試験の成績を申請書に記載する場合には、次に掲げる事項を記載しなければならない。

一 三 (略)

四 試験の設計

イ 供試肥料及び対照肥料の種類及び名称並びに分析成績

ロ 供試土壌の土性及び沖積土又は洪積土の別

<p>質について必要な事項</p> <p>ハ (略)</p> <p>ニ 施用の設計</p> <p>ホ・ヘ (略)</p> <p>五ノ八 (略)</p> <p>2 前項第六号の試験結果にはそれを証明する供試作物の写真を添付しなければならない。</p>	<p>ハ (略)</p> <p>ニ 施肥の設計</p> <p>ホ・ヘ (略)</p> <p>五ノ八 (略)</p> <p>2 前項第四号ホの試験区には対照区を設け、同項第六号の試験結果にはそれを証明する供試作物の写真を添付しなければならない。</p>
<p>(仮登録の申請に要する栽培試験の成績)</p> <p>第三条 法第六条第一項第九号(法第三十三条の二第六項において準用する場合を含む。)の栽培試験の成績を申請書に記載する場合には、次に掲げる事項を記載しなければならない。</p> <p>一ノ三 (略)</p> <p>四 試験の設計</p> <p>イ (略)</p> <p>ロ ほ場試験の場合にあつてはその位置、田畑の別、地質、土性及び耕土の深さ、容器内試験の場合にあつては供試土壌の土性、沖積土又は洪積土の別その他土壌の性質について必要な事項</p> <p>ハ (略)</p> <p>ニ 施用の設計</p> <p>ホ・ヘ (略)</p> <p>五ノ八 (略)</p> <p>2 (略)</p>	<p>(仮登録の申請に要する栽培試験の成績)</p> <p>第三条 法第六条第一項第九号(法第三十三条の二第六項において準用する場合を含む。)の栽培試験の成績を申請書に記載する場合には、次に掲げる事項を記載しなければならない。</p> <p>一ノ三 (略)</p> <p>四 試験の設計</p> <p>イ (略)</p> <p>ロ ほ場試験の場合にあつてはその位置、田畑の別、地質、土性及び耕土の深さ、容器内試験の場合にあつては供試土壌の土性及び沖積土又は洪積土の別</p> <p>ハ (略)</p> <p>ニ 施肥の設計</p> <p>ホ・ヘ (略)</p> <p>五ノ八 (略)</p> <p>2 (略)</p>
<p>(申請書の記載事項)</p> <p>第四条 法第六条第一項第十一号(法第三十三条の二第六項において準用する場合を含む。)の農林水産省令で定める事項は、次に掲げる事項とする。</p>	<p>(申請書の記載事項)</p> <p>第四条 法第六条第一項第十一号(法第三十三条の二第六項において準用する場合を含む。)の農林水産省令で定める事項は、次に掲げる事項とする。</p>

<p>一 法第四条第一項第一号、第二号、第六号及び第七号に掲げる普通肥料（第一条に定める普通肥料を除く。）であつて農林水産大臣が指定するものにあつては、生産工程の概要</p> <p>二 第一条に定める普通肥料にあつては、使用される原料、公定規格のうち使用される原料についての規格（次号及び第二十五条の二第二項において「原料規格」という。）への適合性が確認できる事項及び生産工程の概要</p> <p>三 第一条の二に定める普通肥料にあつては、原料の使用割合、原料規格への適合性が確認できる事項及び生産工程の概要</p> <p>四・五（略）</p>	<p>一 法第四条第一項第一号、第二号、第六号及び第七号に掲げる普通肥料であつて農林水産大臣が指定するものにあつては、生産工程の概要（新設）</p> <p>二 第一条に定める普通肥料にあつては、原料の使用割合及び生産工程の概要</p> <p>三・四（略）</p>
<p>（見本の提出）</p> <p>第五条（略）</p> <p>2 前項の肥料の見本には、その容器の外部に次に掲げる事項を記載した票紙を付けなければならない。</p> <p>一・二（略）</p> <p>三 含有主成分量及び有害成分の含有量（第一条の二に定める普通肥料にあつては、有害成分の含有量）</p> <p>3 農林水産大臣は、第二条の二に定める普通肥料の登録の申請に係る普通肥料であつて植物に対する害に関する栽培試験の必要があると認めるものと並びに仮登録の申請に係る普通肥料であつて栽培試験の必要があると認めるものについては、当該試験に必要な最少量の見本の追加提出を命ずることがある。</p>	<p>（見本の提出）</p> <p>第五条（略）</p> <p>2 前項の肥料の見本には、その容器の外部に次に掲げる事項を記載した票紙を付けなければならない。</p> <p>一・二（略）</p> <p>三 含有主成分量（第一条に定める普通肥料にあつては、有害成分の含有量）</p> <p>3 農林水産大臣は、第一条及び第二条の二に定める普通肥料の登録の申請に係る普通肥料であつて植物に対する害に関する栽培試験の必要があると認めるものと並びに仮登録の申請に係る普通肥料であつて栽培試験の必要があると認めるものについては、当該試験に必要な最少量の見本の追加提出を命ずることがある。</p>
<p>（登録の有効期間が六年である普通肥料の種類）</p> <p>第七条の六 法第十二条第一項（法第三十三条の二第六項において準用する場合を含む。）の農林水産省令で定める種類の普通肥料は、次のとおりとする。</p> <p>一・二（略）</p>	<p>（登録の有効期間が六年である普通肥料の種類）</p> <p>第七条の六 法第十二条第一項（法第三十三条の二第六項において準用する場合を含む。）の農林水産省令で定める種類の普通肥料は、次のとおりとする。</p> <p>一・二（略）</p>

三 硫酸加里、塩化加里、硫酸加里苦土、重炭酸加里、腐植酸加里肥料、けい酸加里肥料、粗製加里塩、加工苦汁加里肥料、被覆加里肥料（農林水産大臣が指定するものに限る。）、液体けい酸加里肥料、熔成けい酸加里肥料及び混合加里肥料（農林水産大臣が指定するものに限る。）

四 魚かす粉末、干魚肥料粉末、魚節煮かす、甲殻類質肥料粉末、蒸製魚鱗及びその粉末、肉かす粉末、肉骨粉、蒸製てい角粉、蒸製てい角骨粉、蒸製毛粉、乾血及びその粉末、生骨粉、蒸製骨粉、蒸製鶏骨粉、蒸製皮革粉、干蚕蛹粉末、蚕蛹油かす及びその粉末、絹紡蚕蛹くず、とうもろこしはい芽及びその粉末、大豆油かす及びその粉末、なたね油かす及びその粉末、わたみ油かす及びその粉末、落花生油かす及びその粉末、あまに油かす及びその粉末、ごま油かす及びその粉末、ひまし油かす及びその粉末、米ぬか油かす及びその粉末、その他の草本性植物油かす及びその粉末、カポック油かす及びその粉末、とうもろこしはい芽油かす及びその粉末、たばこくず肥料粉末、甘草かす粉末、豆腐かす乾燥肥料、えんじゆかす粉末、窒素質グアノ、加工家きんふん肥料、とうもろこし浸漬液肥料、食品残さ加工肥料、副産動植物質肥料（農林水産大臣が指定するものに限る。）並びに混合有機質肥料（農林水産大臣が指定するものに限る。）

五 副産肥料（農林水産大臣が指定するものに限る。）、液状肥料（農林水産大臣が指定するものに限る。）、吸着複合肥料（農林水産大臣が指定するものに限る。）及び家庭園芸用複合肥料（農林水産大臣が指定するものに限る。）

六 りん酸アンモニア、硝酸加里、りん酸加里、りん酸マグネシウムアンモニウム、熔成複合肥料、化成肥料（農林水産大臣が指定するものに限る。）、混合動物排せつ物複合肥料（農林水産大臣が指定するものに限る。）、混合堆肥複合肥料（農林水産大臣が指定するものに限る。）、成形複合肥料（

三 硫酸加里、塩化加里、硫酸加里苦土、重炭酸加里、腐植酸加里肥料、けい酸加里肥料、粗製加里塩、加工苦汁加里肥料、被覆加里肥料（農林水産大臣が指定するものに限る。）、液体けい酸加里肥料、熔成けい酸加里肥料、副産加里肥料及び混合加里肥料（農林水産大臣が指定するものに限る。）

四 魚かす粉末、干魚肥料粉末、魚節煮かす、甲殻類質肥料粉末、蒸製魚鱗及びその粉末、肉かす粉末、肉骨粉、蒸製てい角粉、蒸製てい角骨粉、蒸製毛粉、乾血及びその粉末、生骨粉、蒸製骨粉、蒸製鶏骨粉、蒸製皮革粉、干蚕蛹粉末、蚕蛹油かす及びその粉末、絹紡蚕蛹くず、とうもろこしはい芽及びその粉末、大豆油かす及びその粉末、なたね油かす及びその粉末、わたみ油かす及びその粉末、落花生油かす及びその粉末、あまに油かす及びその粉末、ごま油かす及びその粉末、ひまし油かす及びその粉末、米ぬか油かす及びその粉末、その他の草本性植物油かす及びその粉末、カポック油かす及びその粉末、とうもろこしはい芽油かす及びその粉末、たばこくず肥料粉末、甘草かす粉末、豆腐かす乾燥肥料、えんじゆかす粉末、窒素質グアノ、加工家きんふん肥料、とうもろこし浸漬液肥料、副産動植物質肥料並びに混合有機質肥料（農林水産大臣が指定するものに限る。）

（新設）

五 熔成複合肥料、化成肥料（農林水産大臣が指定するものに限る。）、成形複合肥料（農林水産大臣が指定するものに限る。）、被覆複合肥料（農林水産大臣が指定するものに限る。）、及び配合肥料（農林水産大臣が指定するものに限る。）

農林水産大臣が指定するものに限る。）、被覆複合肥料（農林水産大臣が指定するものに限る。）及び配合肥料（農林水産大臣が指定するものに限る。）

七| 生石灰、消石灰、炭酸カルシウム肥料、貝化石肥料、硫酸カルシウム、副産石灰肥料及び混合石灰肥料（農林水産大臣が指定するものに限る。）

八|（略）

九| 硫酸苦土肥料、水酸化苦土肥料、酢酸苦土肥料、加工苦土肥料、腐植酸苦土肥料、炭酸苦土肥料、リグニン苦土肥料、被覆苦土肥料（農林水産大臣が指定するものに限る。）及び混合苦土肥料（農林水産大臣が指定するものに限る。）

十・十一|（略）

十二| 熔成微量要素複合肥料及び混合微量要素肥料（農林水産大臣が指定するものに限る。）

（保証票の様式及び添付方法）

第十一条 法第十七条第一項（法第三十三条の二第六項において準用する場合を含む。次項及び第六項、第十一条の二第一項及び第二項並びに第二十五条の二第一項第一号において同じ。）若しくは第二項又は第十八条第一項の規定により付さなければならぬ保証票の様式は、生産業者保証票にあつては別記様式第九号、輸入業者保証票にあつては別記様式第十号、販売業者保証票にあつては別記様式第十一号によらなければならない。

257（略）

8 法第四条第二項第二号に掲げる普通肥料について法第十七条第一項又は第十八条第一項の規定により保証票に記載しなければならない保証成分量については、次に定めるところによらなければならない。ただし、農林水産大臣が別に定める場合にあつては、この限りでない。

六| 生石灰、消石灰、炭酸カルシウム肥料、貝化石肥料、副産石灰肥料及び混合石灰肥料（農林水産大臣が指定するものに限る。）

七|（略）

八| 硫酸苦土肥料、水酸化苦土肥料、酢酸苦土肥料、加工苦土肥料、腐植酸苦土肥料、炭酸苦土肥料、リグニン苦土肥料、被覆苦土肥料（農林水産大臣が指定するものに限る。）、副産苦土肥料（農林水産大臣が指定するものに限る。）及び混合苦土肥料（農林水産大臣が指定するものに限る。）

九・十|（略）

十一| 熔成微量要素複合肥料、液体微量要素複合肥料及び混合微量要素肥料（農林水産大臣が指定するものに限る。）

（保証票の様式及び添付方法）

第十一条 法第十七条第一項（法第三十三条の二第六項において準用する場合を含む。次項及び第六項において同じ。）若しくは第二項又は第十八条第一項の規定により付さなければならぬ保証票の様式は、生産業者保証票にあつては別記様式第九号、輸入業者保証票にあつては別記様式第十号、販売業者保証票にあつては別記様式第十一号によらなければならない。

257（略）

8 法第四条第二項第二号に掲げる普通肥料について法第十七条第一項又は第十八条第一項の規定により保証票に記載しなければならない保証成分量については、次に定めるところによらなければならない。ただし、農林水産大臣が別に定める場合にあつては、この限りでない。

一 原料として使用した普通肥料において保証された主成分は全て保証するものとする。ただし、次号に規定する指定配合肥料に該当する場合（当該指定配合肥料の生産業者が当該指定配合肥料の主成分の含有量を当該指定配合肥料のロットごとに確認した場合に限る。）又は第四号に規定する指定化肥料に該当する場合にあつては、当該主成分に加えて、原料として使用した当該普通肥料の公定規格で定める含有すべき主成分とされているもの（可溶性りん酸を保証する普通肥料にあつては可溶性りん酸を除き、可溶性りん酸を保証する普通肥料にあつては可溶性りん酸を除き、アルカリ分を保証する普通肥料にあつてはアルカリ分を除く。）を保証することができるものとする。

二 (略)

三 前号の保証成分量の数値の上限値については、次に掲げる主成分ごとに、同号イからハまでのいずれかを選択しなければならない。

イ ハ (略)

ニ アルカリ分（農林水産大臣の指定する有効石灰又は農林水産大臣の指定する有効石灰及び有効苦土をいう。）

ホ 農林水産大臣の指定する有効石灰

ヘ 農林水産大臣の指定する有効けい酸

ト 農林水産大臣の指定する有効苦土

チ 農林水産大臣の指定する有効マンガ

リ 農林水産大臣の指定する有効ほう素

又 農林水産大臣の指定する有効硫黄

四 法第四条第二項第二号に掲げる普通肥料のうち造粒（水以外の粒状化を促進する材料を使用する造粒に限る。）その他の農林水産大臣が定める方法により加工された普通肥料（以下この号及び第二十五条の二第一項第一号において「指定化

一 原料として使用した普通肥料において保証された主成分は全て保証するものとする。ただし、次号に規定する指定配合肥料に該当する場合（当該指定配合肥料の生産業者が当該指定配合肥料の主成分の含有量を当該指定配合肥料のロットごとに確認した場合に限る。）又は第四号に規定する指定化肥料に該当する場合にあつては、当該主成分に加えて、原料として使用した当該普通肥料の公定規格で定める含有すべき主成分とされているものを保証することができるものとする。

二 (略)

三 前号の保証成分量の数値の上限値については、次に掲げる主成分ごとに、同号イからハまでのいずれかを選択しなければならない。

イ ハ (略)

ニ アルカリ分

(新設)

ホ 有効けい酸

ヘ 有効苦土

ト 有効マンガ

チ 有効ほう素

(新設)

四 法第四条第二項第二号に掲げる普通肥料のうち造粒（水のみを用いる造粒を除く。）その他の農林水産大臣が定める方法により加工された普通肥料（以下この号において「指定化肥料」という。）において保証する主成分の保証成分量の

成肥料」という。）において保証する主成分の保証成分量の数値は、原料として使用した普通肥料のうち当該主成分を保証したものごとに当該主成分の保証成分量に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値の百分の八十以上（合算した値が五未満の値の場合には百分の五十以上）で、かつ、当該指定化成肥料の生産業者が当該指定化成肥料のロットごとに確認した当該指定化成肥料の主成分の含有量を超えない範囲内で定めるものとする。

五 第一号の規定にかかわらず、次の表の上欄に掲げる主成分についてその保証成分量の数値がそれぞれ同表の中欄（家庭園芸用肥料にあつては、下欄）に掲げる量に満たない場合には、当該主成分を保証してはならない。

主成分	百分比	
窒素、りん酸、加里、有効硫黄	一	〇・一
（削る）	（削る）	（削る）
アルカリ分、有効けい酸	五	五
有効苦土	一	〇・〇一
有効マンガン	〇・一	〇・〇〇一
有効ほう素	〇・〇五	〇・〇〇一

六 保証成分量に、次の表の上欄に掲げる主成分ごとに、それぞれ同表の中欄（家庭園芸用肥料にあつては、下欄）に掲げる量に満たない端数がある場合には、当該端数を切り捨てて表示しなければならない。

主成分	百分比	
窒素、りん酸、加里、有効硫黄	〇・一	〇・〇一
（削る）	（削る）	（削る）
アルカリ分、有効けい酸	〇・一	〇・一
有効苦土	〇・一	〇・〇〇一

数値は、原料として使用した普通肥料のうち当該主成分を保証したものごとに当該主成分の保証成分量に当該肥料の配合割合を乗じて得た値を合算した値の百分の八十以上（合算した値が五未満の値の場合には百分の五十以上）で、かつ、当該指定化成肥料の生産業者が当該指定化成肥料のロットごとに確認した当該指定化成肥料の主成分の含有量を超えない範囲内で定めるものとする。

五 第一号の規定にかかわらず、次の表の上欄に掲げる主成分についてその保証成分量の数値がそれぞれ同表の中欄（家庭園芸用肥料にあつては、下欄）に掲げる量に満たない場合には、当該主成分を保証してはならない。

主成分	百分比	
窒素、りん酸、加里	一	〇・一
有効苦土	一	〇・〇一
アルカリ分、有効けい酸	五	五
（新設）	（新設）	（新設）
有効マンガン	〇・一	〇・〇〇一
有効ほう素	〇・〇五	〇・〇〇一

六 保証成分量に、次の表の上欄に掲げる主成分ごとに、それぞれ同表の中欄（家庭園芸用肥料にあつては、下欄）に掲げる量に満たない端数がある場合には、当該端数を切り捨てて表示しなければならない。

主成分	百分比	
窒素、りん酸、加里	〇・一	〇・〇一
有効苦土	〇・一	〇・〇〇一
アルカリ分、有効けい酸	〇・一	〇・一
（新設）	（新設）	（新設）

〔有効マンガン、有効ほう素〕—〇・〇一—〇・〇〇〇一—

法第四条第二項第三号に掲げる普通肥料（第二号において「特殊肥料等入り指定混合肥料」という。）について法第十七条第一項又は第十八条第一項の規定により保証票に記載しなければならぬ法第十七条第一項第三号の農林水産大臣が定める主成分の含有量については、次に定めるところによらなければならぬ。ただし、農林水産大臣が別に定める場合にあつては、この限りでない。

一 原料として使用した普通肥料（法第四条第一項第三号に掲げる普通肥料を除く。）において保証された主成分は全て記載するものとする。ただし、当該成分に加えて、当該普通肥料の公定規格で定める含有すべき主成分とされているものを法第十七条第一項第三号の農林水産大臣が定める主成分として記載することができる。

二 原料として使用した普通肥料（法第四条第一項第三号に掲げる普通肥料に限る。）及び特殊肥料において表示すべき主成分は全て記載するものとする。ただし、当該成分に加えて、当該特殊肥料等入り指定混合肥料が含有する次号の表の上欄に掲げる法第十七条第一項第三号の農林水産大臣が定める主成分を記載することができる。

三 第一号ただし書及び前号ただし書の規定にかかわらず、次の表の上欄に掲げる法第十七条第一項第三号の農林水産大臣が定める主成分についてその含有量の数値がそれぞれ同表の中欄（家庭園芸用肥料にあつては、下欄）に掲げる量に満たない場合には、当該成分を記載してはならない。

法第十七条第一項第三号の 農林水産大臣が定める主成分		百分比
窒素、りん酸、加里、有効硫黄	一	〇・一

〔有効マンガン、有効ほう素〕—〇・〇一—〇・〇〇〇一—

法第四条第二項第三号に掲げる普通肥料（第二号において「特殊肥料等入り指定混合肥料」という。）について法第十七条第一項又は第十八条第一項の規定により保証票に記載しなければならぬ主要な成分の含有量については、次に定めるところによらなければならぬ。ただし、農林水産大臣が別に定める場合にあつては、この限りでない。

一 原料として使用した普通肥料（法第四条第一項第三号に掲げる普通肥料を除く。）において保証された主成分は、主要な成分として全て記載するものとする。ただし、当該成分に加えて、当該普通肥料の公定規格で定める含有すべき主成分とされているものを主要な成分として記載することができる。

二 原料として使用した普通肥料（法第四条第一項第三号に掲げる普通肥料に限る。）及び特殊肥料において表示すべき主要な成分は全て記載するものとする。ただし、当該成分に加えて、当該特殊肥料等入り指定混合肥料が含有する次号の表の上欄に掲げる主要な成分を記載することができる。

三 第一号ただし書及び前号ただし書の規定にかかわらず、次の表の上欄に掲げる主要な成分についてその含有量の数値がそれぞれ同表の中欄（家庭園芸用肥料にあつては、下欄）に掲げる量に満たない場合には、当該成分を記載してはならない。

主要な成分		百分比
窒素、りん酸、加里	一	〇・一

(削る)	(削る)	(削る)
アルカリ分、有効けい酸	五	五
有効苦土	一	〇・〇一
有効マンガ	〇・一	〇・〇〇一
有効ほう素	〇・〇五	〇・〇〇一
10 前項の規定は、法第四条第二項第四号に掲げる普通肥料（以下この項において「土壌改良資材入り指定混合肥料」という。）の法第十七条第一項第三号の農林水産大臣が定める主成分の含有量について準用する。この場合において、「当該特殊肥料等入り指定混合肥料」とあるのは「当該土壌改良資材入り指定混合肥料」と読み替えるものとする。		
11 (略)		
(保証票の記載事項) 第十一条の二 法第十七条第一項第十二号及び第十三号に掲げる事項の保証票の記載については、農林水産大臣の定めるところによらなければならない。		
2 法第十七条第一項第十四号の農林水産省令で定める事項は、次に掲げる事項とする。		
一・二 (略)		
3・4 (略)		
(事故肥料譲渡許可の申請) 第十六条 前条に掲げる肥料について法第十九条第二項の規定により許可を受けようとする者は、次の事項を記載した事故肥料譲渡許可申請書を農林水産大臣に提出しなければならない。		
一・三 (略)		
四 事故肥料発生前の肥料の数量及び保証成分量（法第四条第		

有効苦土	一	〇・〇一
アルカリ分、有効けい酸	五	五
(新設) 有効マンガ	(新設)	(新設)
有効マンガ	〇・一	〇・〇〇一
有効ほう素	〇・〇五	〇・〇〇一
10 前項の規定は、法四条第二項第四号に掲げる普通肥料（以下この項において「土壌改良資材入り指定混合肥料」という。）の主要な成分の含有量について準用する。この場合において、「当該特殊肥料等入り指定混合肥料」とあるのは「当該土壌改良資材入り指定混合肥料」と読み替えるものとする。		
11 (略)		
(保証票の記載事項) 第十一条の二 法第十七条第一項第十二号及び第十三号（法第十三条の二第六項において準用する場合を含む。）に掲げる事項の保証票の記載については、農林水産大臣の定めるところによらなければならない。		
2 法第十七条第一項第十四号（法第三十三条の二第六項において準用する場合を含む。）の農林水産省令で定める事項は、次に掲げる事項とする。		
一・二 (略)		
3・4 (略)		
(事故肥料譲渡許可の申請) 第十六条 前条に掲げる肥料について法第十九条第二項の規定により許可を受けようとする者は、次の事項を記載した事故肥料譲渡許可申請書を農林水産大臣に提出しなければならない。		
一・三 (略)		
四 事故肥料発生前の肥料の数量及び保証成分量（法第四条第		

一項第三号に掲げる普通肥料にあつては事故肥料発生前の肥料の数量及び含有を許される有害成分の最大量とし、同条第二項第三号及び第四号に掲げる普通肥料（同条第一項第三号に掲げる普通肥料が原料として配合されたものを除く。）にあつては事故肥料発生前の肥料の数量及び法第十七条第一項第三号の農林水産大臣が定める主成分の含有量とし、法第四条第二項第三号及び第四号に掲げる普通肥料（同条第一項第三号に掲げる普通肥料が原料として配合されたものに限る。）にあつては事故肥料発生前の肥料の数量、法第十七条第一項第三号の農林水産大臣が定める主成分の含有量及び原料として配合した法第四条第一項第三号に掲げる普通肥料の種類とする。）

五 譲渡しようとする肥料の数量及び含有主成分量（法第四条第一項第三号に掲げる普通肥料にあつては譲渡しようとする肥料の数量及び有害成分の含有量とし、同条第二項第三号及び第四号に掲げる普通肥料（同条第一項第三号に掲げる普通肥料が原料として配合されたものを除く。）にあつては譲渡しようとする肥料の数量及び法第十七条第一項第三号の農林水産大臣が定める主成分の含有量とし、法第四条第二項第三号及び第四号に掲げる普通肥料（同条第一項第三号に掲げる普通肥料が原料として配合されたものに限る。）にあつては譲渡しようとする肥料の数量、法第十七条第一項第三号の農林水産大臣が定める主成分の含有量及び有害成分の含有量とする。）

六 （略）
2 前項及び肥料の品質の確保等に関する法律施行令（昭和二十五年政令第九十八号。以下「令」という。）第五條の規定により提出すべき事故肥料譲渡許可申請書の様式は、別記様式第十二号によらなければならない。

3 （略）

一項第三号に掲げる普通肥料にあつては事故肥料発生前の肥料の数量及び含有を許される有害成分の最大量とし、同条第二項第三号及び第四号に掲げる普通肥料（同条第一項第三号に掲げる普通肥料が原料として配合されたものを除く。）にあつては事故肥料発生前の肥料の数量及び法第十七条第一項第三号の農林水産大臣が定める主要な成分（以下この号、次号及び第十八条第一項第三号において単に「主要な成分」という。）の含有量とし、同条第二項第三号及び第四号に掲げる普通肥料（同条第一項第三号に掲げる普通肥料が原料として配合されたものに限る。）にあつては事故肥料発生前の肥料の数量、主要な成分の含有量及び原料として配合した同条第一項第三号に掲げる普通肥料の種類とする。）

五 譲渡しようとする肥料の数量及び含有主成分量（法第四条第一項第三号に掲げる普通肥料にあつては譲渡しようとする肥料の数量及び有害成分の含有量とし、同条第二項第三号及び第四号に掲げる普通肥料（同条第一項第三号に掲げる普通肥料が原料として配合されたものを除く。）にあつては譲渡しようとする肥料の数量及び主要な成分の含有量とし、同条第二項第三号及び第四号に掲げる普通肥料（同条第一項第三号に掲げる普通肥料が原料として配合されたものに限る。）にあつては譲渡しようとする肥料の数量、主要な成分の含有量及び有害成分の含有量とする。）

六 （略）
2 前項及び肥料取締法施行令（昭和二十五年政令第九十八号。以下「令」という。）第三條の規定により提出すべき事故肥料譲渡許可申請書の様式は、別記様式第十二号によらなければならない。

3 （略）

(事故肥料成分票の添付命令)

第十八条 農林水産大臣は、法第十九条第二項の規定による許可をするときは、申請者に対し、当該肥料の容器又は包装の外部（容器及び包装を用いないものにあつては、各荷口又は各個。以下同じ。）に次の事項を記載した事故肥料成分票を付すべき旨を命ずることがある。

一・二 (略)

三 含有主成分量（法第四条第一項第三号並びに同条第二項第三号及び第四号に掲げる普通肥料にあつては、法第十七条第一項第三号の農林水産大臣が定める主成分の含有量）

四・五 (略)

(事故肥料成分票の様式)

第十九条 前条及び令第七条第一項の規定により付すべき事故肥料成分票の様式は、別記様式第十三号によらなければならない。

2 (略)

(削る)

(事故肥料成分票の添付命令)

第十八条 農林水産大臣は、法第十九条第二項の規定による許可をするときは、申請者に対し、当該肥料の容器又は包装の外部（容器及び包装を用いないものにあつては、各荷口又は各個。以下同じ。）に次の事項を記載した事故肥料成分票を付すべき旨を命ずることがある。

一・二 (略)

三 含有主成分量（法第四条第一項第三号並びに同条第二項第三号及び第四号に掲げる普通肥料にあつては、主要な成分の含有量）

四・五 (略)

(事故肥料成分票の様式)

第十九条 前条及び令第五条第一項の規定により付すべき事故肥料成分票の様式は、別記様式第十三号によらなければならない。

2 (略)

(表示命令)

第十九条の二 農林水産大臣の定める普通肥料（法第四条第一項第七号若しくは同条第三項の規定による都道府県知事の登録を受けた普通肥料若しくは法第十六条の二第一項若しくは第二項の規定による都道府県知事への届出に係る指定混合肥料又は法第三十三条の二第一項の規定による登録若しくは仮登録を受けた普通肥料を除く。）の生産業者又は輸入業者は、当該普通肥料を生産し、又は輸入したときは、遅滞なく、その容器又は包装の外部に農林水産大臣の定める表示事項を表示しなければならない。

2 前項の農林水産大臣の定める普通肥料であつて法第三十三条

(肥料の生産又は輸入に係る帳簿)

第二十五条の二 法第二十七条第一項の農林水産省令で定める事項は、次に掲げる事項とする。

一 普通肥料を生産し、又は輸入する場合にあつては、次に掲げる事項

イ 生産し、又は輸入した年月日

ロ 普通肥料の名称及び数量

ハ 普通肥料の原料の記載にあつては、次に掲げる事項

(1) 家庭園芸用肥料(指定配合肥料及び指定化成肥料に限る。)
の記載にあつては、当該原料の名称、法第四条第二項第二号から第四号までに掲げる普通肥料のいずれに該当するかの別、使用量及び入手先)

(2) (1)以外の普通肥料の場合には使用した原料(法第十七条第一項又は第二項の規定により保証票に記載するものに限る。)の種類、使用量及び入手先(肥料を原料として使用した場合の当該原料の記載にあつては、当該原料の種類、名称、使用量及び入手先(指定混合肥料を原料として使用した場合の当該原料の記載にあつては、当該原料の名

の二第一項の規定による登録又は仮登録を受けたものの輸入業者は、当該肥料の容器若しくは包装を変更したとき、又は容器若しくは包装のない当該肥料を容器に入れ、若しくは包装したときは、遅滞なく、その容器又は包装の外部に前項の農林水産大臣の定める表示事項を表示しなければならない。当該表示事項が表示されていないか、又は当該表示事項が不明となつた当該肥料を輸入したとき、及び輸入した当該肥料が自己の所有又は管理に属している間に、当該表示事項が不明となつたときも、同様とする。

(新設)

	称、法第四条第二項第二号から第四号までに掲げる普通肥料のいずれに該当するかを別、使用量及び入手先）
ニ	原料規格に定めのある原料を使用した場合の当該原料の記載にあつては、当該原料規格との適合性が確認できる事項
ホ	普通肥料に使用した材料（法第十七条第一項又は第二項の規定により保証票に記載するものに限る。）の種類、名称、使用量及び入手先（第十一条の二第二項第二号の普通肥料にあつては、同号に定める事項及び入手先）
ヘ	普通肥料に使用した異物（法第十七条第一項又は第二項の規定により保証票に記載するものに限る。）の種類、使用量及び入手先
ト	第十一条の二第三項又は第四項の規定により保証票に記載する事項をウェブサイトのアドレスにより記載する場合にあつては、荷口番号
チ	第十一条第八項第二号ロ若しくはハ若しくは第四号又は同項ただし書の規定により主成分の保証成分量を定めた場合にあつては当該保証成分量の裏付けとなる根拠、第一条の二に掲げる普通肥料、特殊肥料等入り指定混合肥料又は土壌改良資材入り指定混合肥料を生産し、又は輸入した場合にあつては法第十七条第一項第三号の農林水産大臣が定める主成分の含有量の裏付けとなる根拠
リ	別表第一号ニに掲げる肥料を原料の一つとして配合した指定混合肥料又は別表第二号に掲げる指定混合肥料にあつては、別表第一号ニ又は第二号の規定により化学的变化により品質が低下するおそれがないものとして農林水産大臣が定める要件を満たすことが確認できる事項
ニ	特殊肥料を生産し、又は輸入する場合にあつては、次に掲げる事項
イ	生産し、又は輸入した年月日
ロ	特殊肥料の名称及び数量

<p>ハ 令第八条に掲げる特殊肥料（専ら自ら飼養した家畜の排せつ物を原料として使用したもの（水分含有量を調整するために合理的に必要と認められる範囲内で動植物質の有機質物を原料として使用したものを含み、専ら特殊肥料が原料として配合される肥料を除く。）をあつては、使用した原料の種類、使用量及び入手先（肥料を原料として使用した場合の当該原料の記載にあつては、当該原料の種類、名称、使用量及び入手先）</p>	<p>ニ 法第二十二條の二第一項の規定に基づき定める表示の基準となるべき事項（以下この号において「品質表示基準」という。）に材料に係る表示事項が規定されている特殊肥料にあつては、使用した材料の種類、名称、使用量（品質表示基準に材料の使用量に係る表示事項が規定されている場合に限る。）及び入手先</p>	<p>2 肥料の生産業者又は輸入業者は、肥料を生産し、又は輸入したときは、その都度、帳簿を記載しなければならない。</p>	<p>3 前二項の規定は、登録外国生産業者が法第三十三條の二第四項の規定により備え付けなければならない帳簿について準用する。この場合において、第一項の規定中「生産し、又は輸入」とあるのは「生産」と、「普通肥料」とあるのは「法第三十三條の二第一項の規定による登録又は仮登録を受けた普通肥料であつて本邦に輸出されるもの」と、第二項の規定中「肥料」とあるのは「法第三十三條の二第一項の規定による登録又は仮登録を受けた普通肥料であつて本邦に輸出されるもの」と、「生産業者又は輸入業者」とあるのは「登録外国生産業者」と、「輸入」とあるのは「販売」と読み替えるものとする。</p>	<p>（肥料の購入又は販売に係る帳簿） 第二十五條の三 肥料の生産業者、輸入業者又は販売業者は、肥料を購入し、又は生産業者、輸入業者若しくは販売業者に販売</p>
---	--	---	--	---

（新設）

したときは、その都度、帳簿を記載しなければならない。

（映像等の送受信による通話の方法による意見の聴取）

第三十二条 令第十条において読み替えて準用する行政不服審査法施行令（平成二十七年政令第三百九十一号）第八条に規定する方法によつて法第三十四条第二項の意見の聴取の期日における審理を行う場合には、審理関係人（行政不服審査法（平成二十六年法律第六十八号）第二十八条に規定する審理関係人をいう。以下この条において同じ。）の意見を聴いて、当該審理に必要な装置が設置された場所であつて行政不服審査法第十一条第二項に規定する審理員が相当と認める場所を、審理関係人ごとに指定して行う。

（提出書類の通数等）

第三十五条 第一条の五又は第八条第一項の規定による申請書、第十条第一項から第四項まで又は第十条の二第一項の規定により提出する書面、第十条の三の規定による届出書、第十一条第三項の規定による届出書、第十六条第一項又は令第五条の規定による申請書、第二十条又は第二十一条の規定による届出書、第二十四条第一項又は第二十五条第一項の規定による報告書、第二十八条第一項の規定による届出書、第三十条第一項の規定による報告書及び第三十一条の規定による届出書は、正副各一通を提出しなければならない。

2・3 （略）

別表（第一条の三関係）

一 次に掲げる肥料（第一条の三第一項に規定する肥料にあつては、へ及びトを除く。）のいずれかを原料の一つとして配合したもの
イ ホ （略）

（映像等の送受信による通話の方法による意見の聴取）

第三十二条 令第十一条において読み替えて準用する行政不服審査法施行令（平成二十七年政令第三百九十一号）第八条に規定する方法によつて法第三十四条第二項の意見の聴取の期日における審理を行う場合には、審理関係人（行政不服審査法（平成二十六年法律第六十八号）第二十八条に規定する審理関係人をいう。以下この条において同じ。）の意見を聴いて、当該審理に必要な装置が設置された場所であつて行政不服審査法第十一条第二項に規定する審理員が相当と認める場所を、審理関係人ごとに指定して行う。

（提出書類の通数等）

第三十五条 第一条の四又は第八条第一項の規定による申請書、第十条第一項から第四項まで又は第十条の二第一項の規定により提出する書面、第十条の三の規定による届出書、第十一条第三項の規定による届出書、第十六条第一項又は令第三条の規定による申請書、第二十条又は第二十一条の規定による届出書、第二十四条第一項又は第二十五条第一項の規定による報告書、第二十八条第一項の規定による届出書、第三十条第一項の規定による報告書及び第三十一条の規定による届出書は、正副各一通を提出しなければならない。

2・3 （略）

別表（第一条の二関係）

一 次に掲げる肥料（第一条の二第一項に規定する肥料にあつては、へ及びトを除く。）のいずれかを原料の一つとして配合したもの
イ ホ （略）

備考	二 石灰質肥料等と異なる種別の普通肥料	<p>へ 第一条の二第一号及び第二号に掲げる普通肥料</p> <p>ト (略)</p> <p>二 次の表の各項の上欄に掲げる肥料の区分に応じ、それぞれ当該各項の下欄各号に掲げる肥料のいずれかを原料として配合したもの（配合若しくは混入又は加工に伴い化学的变化により品質が低下するおそれがないものとして農林水産大臣が定める要件を満たすものを除く。）</p>	
		<p>一 石灰質肥料（農林水産大臣が指定するものを除く。）又はけい酸質肥料（シリカゲル肥料を除く。）に属する普通肥料</p> <p>一 当該肥料の属する種別と異なる種別に属する普通肥料（アルカリ分を保証するもの（混合りん酸肥料を除く。以下この表において同じ。）又は苦土質肥料に属するもの（水溶性苦土を保証するものを除く。以下この表において同じ。）若しくは副産肥料（専ら苦土含有物を原料として使用したものであつて、く溶性苦土又は可溶性苦土を保証し、アルカリ分を保証しないものに限る。以下この表において同じ。）を除く。第二項において「石灰質肥料等と異なる種別の普通肥料」という。）</p> <p>二 第一条の二第三号に掲げる普通肥料</p> <p>三 (略)</p> <p>特殊肥料（農林水産大臣が指定する特殊肥料に限る。）</p>	

備考	二 石灰質肥料等と異なる種別の普通肥料	<p>へ 第一条第一号から第七号までに掲げる普通肥料</p> <p>ト (略)</p> <p>二 次の表の各項の上欄に掲げる肥料の区分に応じ、それぞれ当該各項の下欄各号に掲げる肥料のいずれかを原料として配合したもの（配合若しくは混入又は加工に伴い化学的变化により品質が低下するおそれがないものとして農林水産大臣が定める要件を満たすものを除く。）</p>	
		<p>一 石灰質肥料（農林水産大臣が指定するものを除く。）又はけい酸質肥料（シリカゲル肥料を除く。）に属する普通肥料</p> <p>一 当該肥料の属する種別と異なる種別に属する普通肥料（アルカリ分を保証するもの（混合りん酸肥料を除く。以下この表において同じ。）又は苦土肥料に属するもの（水溶性苦土を保証するものを除く。以下この表において同じ。）を除く。第二項において「石灰質肥料等と異なる種別の普通肥料」という。）</p> <p>二 第一条第八号に掲げる普通肥料</p> <p>三 (略)</p> <p>特殊肥料（農林水産大臣が指定する特殊肥料に限る。）</p>	

第一項上欄に掲げる肥料と同項下欄第一号に掲げる肥料を原料として配合した肥料に限る。

三 配合若しくは混入又は加工に当たつて肥料の品質を低下させるような異物を混入したもの（第一条の三第三項に規定する肥料にあつては、第一条の四に規定する土壤改良資材を除く。）

四 配合若しくは混入又は加工に当たつて第四条第四号に規定する材料（農林水産大臣が指定するものを除く。）を使用したもの

第一項上欄に掲げる肥料と同項下欄第一号に掲げる肥料を原料として配合した肥料に限る。

三 配合若しくは混入又は加工に当たつて肥料の品質を低下させるような異物を混入したもの（第一条の二第三項に規定する肥料にあつては、第一条の三に規定する土壤改良資材を除く。）

四 配合若しくは混入又は加工に当たつて第四条第三号に規定する材料（農林水産大臣が指定するものを除く。）を使用したもの

別記様式第一号、別記様式第二号、別記様式第三号、別記様式第七号、別記様式第九号^(ロ)、^(ハ)、^(ニ)及び^(リ)、別記様式第十号^(ロ)、^(ハ)、^(ニ)及び^(リ)、別記様式第十一号^(ロ)、^(ハ)、^(ニ)及び^(リ)、別記様式第十二号並
びに別記様式第十三号を次のように改める。

別記

様式第 1 号（日本産業規格 A 4）（第 1 条の 5 関係）

肥 料 登 録 申 請 書

（消 入
い 印
こ を
と し
） 紙

年 月 日

農林水産大臣（都道府県知事） 殿

住所

氏名（名称及び代表者の氏名）

下記により生産業者（輸入業者、登録外国生産業者）として肥料の登録を受けたいので、肥料の品質の確保等に関する法律第 6 条第 1 項（肥料の品質の確保等に関する法律第 33 条の 2 第 6 項において準用する同法第 6 条第 1 項）の規定により肥料の見本を添えて登録を申請します。

記

- 1 氏名及び住所（法人にあつてはその名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）
- 2 国内管理人の氏名及び住所（法人にあつてはその名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）
- 3 肥料の種類
- 4 肥料の名称
- 5 保証成分量その他の規格（肥料の品質の確保等に関する法律施行規則第 1 条の 2 に定める普通肥料にあつては、使用される原料その他の規格）
- 6 生産する事業場の名称及び所在地
- 7 保管する施設の所在地
- 8 植物に対する害に関する栽培試験の成績（別紙のとおり）
- 9 肥料の品質の確保等に関する法律施行規則第 4 条第 1 号から第 4 号までに掲げる事項（別紙のとおり）

備考

- 1 収入印紙は、正本にのみ付すること。
- 2 生産業者にあつては 2 を、輸入業者にあつては 2 及び 6 を記載しなくてよい。
- 3 第 2 条の 2 に掲げる肥料以外の肥料にあつては 8 を記載しなくてよい。

様式第 2 号（日本産業規格 A 4）（第 1 条の 5 関係）

肥 料 仮 登 録 申 請 書

（
な 消 収
い 入
こ を 印
と し 紙
）

年 月 日

農林水産大臣 殿

住所

氏名（名称及び代表者の氏名）

下記により生産業者（輸入業者、登録外国生産業者）として肥料の仮登録を受けたいので、肥料の品質の確保等に関する法律第 6 条第 1 項（肥料の品質の確保等に関する法律第 33 条の 2 第 6 項において準用する同法第 6 条第 1 項）の規定により肥料の見本を添えて仮登録を申請します。

記

- 1 氏名及び住所（法人にあつてはその名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）
- 2 国内管理人の氏名及び住所（法人にあつてはその名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）
- 3 肥料の名称
- 4 保証成分量その他の規格
- 5 生産する事業場の名称及び所在地
- 6 保管する施設の所在地
- 7 施用方法（別紙のとおり）
- 8 栽培試験の成績（別紙のとおり）
- 9 肥料の品質の確保等に関する法律施行規則第 4 条第 4 号及び 5 号に掲げる事項（別紙のとおり）

備考

- 1 収入印紙は、正本にのみ付すること。
- 2 生産業者にあつては 2 を、輸入業者にあつては 2 及び 5 を記載しなくてよい。

様式第 3 号（日本産業規格 A 4）（第 8 条関係）

肥料登録（仮登録）有効期間更新申請書

（
な消 収
い印 入
こを 印
とし 紙
）

年 月 日

農林水産大臣（都道府県知事） 殿

住所

氏名（名称及び代表者の氏名）

下記により肥料の登録（仮登録）の更新を受けたいので、肥料の品質の確保等に関する法律第12条第4項（肥料の品質の確保等に関する法律第33条の2第6項において準用する同法第12条第4項）の規定により登録証（仮登録証）を添えて有効期間の更新を申請します。

記

- 1 登録番号（仮登録番号）
- 2 登録年月日（仮登録年月日）
- 3 氏名及び住所（法人にあつてはその名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）
- 4 国内管理人の氏名及び住所（法人にあつてはその名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）
- 5 肥料の種類
- 6 肥料の名称
- 7 保証成分量その他の規格（肥料の品質の確保等に関する法律施行規則第1条の2に定める普通肥料にあつては、使用される原料その他の規格）
- 8 生産する事業場の名称及び所在地
- 9 保管する施設の所在地
- 10 肥料の品質の確保等に関する法律施行規則第4条各号に掲げる事項（別紙のとおり）

備考

- 1 収入印紙は、正本にのみ付すること。
- 2 生産業者にあつては4を、輸入業者にあつては4及び8を記載しなくてよい。
- 3 仮登録にあつては5を記載しなくてよい。

様式第 7 号（日本産業規格 A 4）（第10条関係）

肥料登録証（仮登録証）再交付申請書

年 月 日

農林水産大臣（都道府県知事） 殿

住所

氏名（名称及び代表者の氏名）

下記の登録証（仮登録証）を滅失（汚損）したので、肥料の品質の確保等に関する法律第13条第3項（肥料の品質の確保等に関する法律第33条の2第6項において準用する同法第13条第3項）の規定により登録証（仮登録証）の再交付を申請します。

記

- 1 登録番号（仮登録番号）
- 2 登録年月日（仮登録年月日）
- 3 登録（仮登録）の有効期限
- 4 肥料の種類
- 5 肥料の名称
- 6 保証成分量その他の規格（肥料の品質の確保等に関する法律施行規則第1条の2に定める肥料にあつては、使用される原料その他の規格）

備考 仮登録にあつては4を記載しなくてよい。

様式第 9 号（第11条関係）

（ロ）法第 4 条第 1 項第 3 号に定める普通肥料の登録を受けた普通肥料の場合

○	↑ 2 センチ メートル 以上 ↓
生 産 業 者 保 証 票	
登録番号 肥料の種類 肥料の名称 原料の種類 材料の種類、名称及び使用量 正味重量 生産した年月 生産業者の氏名又は名称及び住所 生産した事業場の名称及び所在地 <hr/> 主成分の含有量 炭素窒素比	

備考

- （イ）の備考第 1 号から第 6 号まで及び第 8 号から第10号までの規定は、法第 4 条第 1 項第 3 号に定める普通肥料の登録を受けた普通肥料の場合における生産業者保証票について準用する。
- 主成分の含有量については、生産した事業場における平均的な測定値をもつて記載することができる。この場合において、その旨を併せて記載するものとする。

(へ) 第11条第9項に規定する特殊肥料等入り指定混合肥料の場合

○	↑ チ ン ト セ ー ト ニ メ シ ↓
特殊肥料等入り指定混合肥料 生産業者保証票	
肥料の名称 原料の種類及び配合割合 材料の種類、名称及び使用量 正味重量 生産した年月 生産業者の氏名又は名称及び住所 生産した事業場の名称及び所在地	
主成分の含有量	

備考

- （イ）の備考第1号から第6号まで及び第8号から第10号までの規定は、特殊肥料等入り指定混合肥料の場合における生産業者保証票について準用する。この場合において、（イ）の備考第8号及び第9号中「登録番号」とあるのは「肥料の名称」と読み替えるものとする。
- 主成分の含有量については、生産した事業場における平均的な測定値をもつて記載することができる。この場合において、その旨を併せて記載するものとする。

(ト) 第11条第10項に規定する土壌改良資材入り指定混合肥料の場合

○	↑ チ ム ハ ン ト セ ー ト 2 メ リ ↑
土 壌 改 良 資 材 入 り 指 定 混 合 肥 料 生 産 業 者 保 証 票	
肥料の名称 原料の種類及び配合割合 材料の種類、名称及び使用量 混入した指定土壌改良資材の種類及び混入割合 正味重量 生産した年月 生産業者の氏名又は名称及び住所 生産した事業場の名称及び所在地 ----- 主成分の含有量	

備考

- 1 (イ)の備考第1号から第6号まで及び第8号から第10号までの規定は、土壌改良資材入り指定混合肥料の場合における生産業者保証票について準用する。この場合において、(イ)の備考第8号及び第9号中「登録番号」とあるのは「肥料の名称」と読み替えるものとする。
- 2 主成分の含有量については、生産した事業場における平均的な測定値をもつて記載することができる。この場合において、その旨を併せて記載するものとする。

(リ) 法第33条の2第1項の規定による登録を受けた法第4条第1項第3号に定める普通肥料の場合

○	↑ チ ン ト セ ー ト 2 メ 以 ↓
登録外国生産肥料 生産業者保証票	
登録番号 肥料の種類 肥料の名称 原料の種類 材料の種類、名称及び使用量 正味重量 生産した年月 登録外国生産業者の氏名又は名称及び住所 生産した事業場の名称及び所在地 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> 主成分の含有量 炭素窒素比	

備考

- 1 (イ)の備考第1号から第6号まで及び第8号から第10号までの規定は、法第33条の2第1項の規定による登録を受けた法第4条第1項第3号に定める普通肥料の場合における登録外国生産肥料生産業者保証票について準用する。
- 2 主成分の含有量については、生産した事業場における平均的な測定値をもつて記載することができる。この場合において、その旨を併せて記載するものとする。

様式第10号（第11条関係）

（ロ）法第4条第1項第3号に定める普通肥料の登録を受けた普通肥料の場合

○	↑ チ ハ ヤ ニ ↓
輸 入 業 者 保 証 票	
登録番号 肥料の種類 肥料の名称 原料の種類 材料の種類、名称及び使用量 正味重量 輸入した年月 輸入業者の氏名又は名称及び住所	
主成分の含有量 炭素窒素比	

備考

- 1 様式第9号(イ)の備考第1号から第6号まで、第8号及び第10号の規定は、法第4条第1項第3号に定める普通肥料の登録を受けた普通肥料の場合における輸入業者保証票について準用する。この場合において、様式第9号(イ)の備考第8号中「「生産した年月」とあるのは「輸入した年月」と読み替えるものとする。
- 2 主成分の含有量については、生産した事業場における平均的な測定値をもつて記載することができる。この場合において、その旨を併せて記載するものとする。

(へ) 第11条第9項に規定する特殊肥料等入り指定混合肥料の場合

○	↑ チ ン ト ヤ ー ト ニ メ シ ↓
特殊肥料等入り指定混合肥料 輸入業者保証票	
肥料の名称 原料の種類及び配合割合 材料の種類、名称及び使用量 正味重量 輸入した年月 輸入業者の氏名又は名称及び住所	
主成分の含有量	

備考

- 1 様式第9号(イ)の備考第1号から第6号まで、第8号及び第10号の規定は、特殊肥料等入り指定混合肥料の場合における輸入業者保証票について準用する。この場合において、様式第9号(イ)の備考第8号中「生産した年月」とあるのは「輸入した年月」と、「登録番号」とあるのは「肥料の名称」と読み替えるものとする。
- 2 主成分の含有量については、生産した事業場における平均的な測定値をもつて記載することができる。この場合において、その旨を併せて記載するものとする。

(ト) 第11条第10項に規定する土壌改良資材入り指定混合肥料の場合

○	↑ チ ン ト ヤ ー ト ニ メ シ ↓
土 壌 改 良 資 材 入 り 指 定 混 合 肥 料 輸 入 業 者 保 証 票	
肥料の名称 原料の種類及び配合割合 材料の種類、名称及び使用量 混入した指定土壌改良資材の種類及び混入割合 正味重量 輸入した年月 輸入業者の氏名又は名称及び住所	
主成分の含有量	

備考

- 1 様式第9号(イ)の備考第1号から第6号まで、第8号及び第10号の規定は、土壌改良資材入り指定混合肥料の場合における輸入業者保証票について準用する。この場合において、様式第9号(イ)の備考第8号中「生産した年月」とあるのは「輸入した年月」と、「登録番号」とあるのは「肥料の名称」と読み替えるものとする。
- 2 主成分の含有量については、生産した事業場における平均的な測定値をもつて記載することができる。この場合において、その旨を併せて記載するものとする。

(リ) 法第33条の2第1項の規定による登録を受けた法第4条第1項第3号に定める普通肥料の場合

○	↑ チ ン ト セ ー ト 2 メ 以
登録外国生産肥料 輸入業者保証票	
登録番号 肥料の種類 肥料の名称 原料の種類 材料の種類、名称及び使用量 正味重量 生産した年月 登録外国生産業者の氏名又は名称及び住所 生産した事業場の名称及び所在地 輸入した年月 輸入業者の氏名又は名称及び住所	
主成分の含有量 炭素窒素比	

備考

- 1 様式第9号（イ）の備考第1号から第6号まで、第9号及び第10号の規定は、法第33条の2第1項の規定による登録を受けた法第4条第1項第3号に定める普通肥料の場合における登録外国生産肥料輸入業者保証票について準用する。
- 2 生産した年月又は輸入した年月をこの様式に従い記載することが困難な場合には、「生産した年月」若しくは「輸入した年月」を「登録番号」の上部に記載するか、又はこの様式の「生産した年月」若しくは「輸入した年月」の欄に記載箇所を表示の上、他の箇所に記載することができる。ただし、生産した年月及び輸入した年月を他の箇所に記載する場合には、生産した年月及び輸入した年月の前にそれぞれ「生産年月」及び「輸入年月」の文字を付して記載するものとする。
- 3 主成分の含有量については、生産した事業場における平均的な測定値をもつて記載することができる。この場合において、その旨を併せて記載するものとする。

様式第11号（第11条関係）

（ロ）法第4条第1項第3号に定める普通肥料の登録を受けた普通肥料の場合

○	↑ チ ン ト セ ー ト 2 メ 以 ↓
販 売 業 者 保 証 票	
肥料の種類 肥料の名称 原料の種類 材料の種類、名称及び使用量 正味重量 生産（輸入）した年月 生産業者（輸入業者）の氏名又は名称及び住所 生産した事業場の名称及び所在地 販売業者保証票を付した年月 販売業者の氏名又は名称及び住所 ----- 主成分の含有量 炭素窒素比	

備考

- 1 様式第9号（イ）の備考第1号から第6号まで及び第9号の規定は、法第4条第1項第3号に定める普通肥料の登録を受けた普通肥料の場合における販売業者保証票について準用する。この場合において、様式第9号（イ）の備考第9号中「登録番号」とあるのは「肥料の種類」と読み替えるものとする。
- 2 生産（輸入）した年月又は販売業者保証票を付した年月をこの様式に従い記載することが困難な場合には、「生産（輸入）した年月」若しくは「販売業者保証票を付した年月」を「肥料の種類」の上部に記載するか、又はこの様式の「生産（輸入）した年月」若しくは「販売業者保証票を付した年月」の欄に記載箇所を表示の上、他の箇所に記載することができる。ただし、生産（輸入）した年月及び販売業者保証票を付した年月を他の箇所に記載する場合には、生産（輸入）した年月及び販売業者保証票を付した年月の前にそれぞれ「生産（輸入）年月」及び「添付年月」の文字を付して記載するものとする。
- 3 荷口番号又は出荷年月を記載する場合には、荷口番号又は出荷年月の前に「荷口番号」又は「出荷年月」の文字を付して記載するものとする。

- 4 主成分の含有量については、生産した事業場における平均的な測定値をもつて記載することができる。この場合において、その旨を併せて記載するものとする。

(へ) 第11条第9項に規定する特殊肥料等入り指定混合肥料の場合

○	特殊肥料等入り指定混合肥料 販売業者保証票
肥料の名称 原料の種類及び配合割合 材料の種類、名称及び使用量 正味重量 生産（輸入）した年月 生産業者（輸入業者）の氏名又は名称及び住所 生産した事業場の名称及び所在地 販売業者保証票を付した年月 販売業者の氏名又は名称及び住所 ----- 主成分の含有量	

備考

- 1 様式第9号（イ）の備考第1号から第6号まで及び第9号の規定は、特殊肥料等入り指定混合肥料の場合における販売業者保証票について準用する。この場合において、様式第9号（イ）の備考第9号中「登録番号」とあるのは「肥料の名称」と読み替えるものとする。
- 2 生産（輸入）した年月又は販売業者保証票を付した年月をこの様式に従い記載することが困難な場合には、「生産（輸入）した年月」若しくは「販売業者保証票を付した年月」を「肥料の名称」の上部に記載するか、又はこの様式の「生産（輸入）した年月」若しくは「販売業者保証票を付した年月」の欄に記載箇所を表示の上、他の箇所に記載することができる。ただし、生産（輸入）した年月及び販売業者保証票を付した年月を他の箇所に記載する場合には、生産（輸入）した年月及び販売業者保証票を付した年月の前にそれぞれ「生産（輸入）年月」及び「添付年月」の文字を付して記載するものとする。
- 3 荷口番号又は出荷年月を記載する場合には、荷口番号又は出荷年月の前に「荷口番号」又は「出荷年月」の文字を付して記載するものとする。
- 4 主成分の含有量については、生産した事業場における平均的な測定値をもつて記載することができる。この場合において、その旨を併せて記載するものとする。

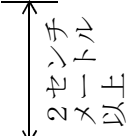
(ト) 第11条第10項に規定する土壌改良資材入り指定混合肥料の場合

○	↑ サ ハ ヤ シ シ ↓
土 壌 改 良 資 材 入 り 指 定 混 合 肥 料 販 売 業 者 保 証 票	
肥料の名称 原料の種類及び配合割合 材料の種類、名称及び使用量 混入した指定土壌改良資材の種類及び混入割合 正味重量 生産（輸入）した年月 生産業者（輸入業者）の氏名又は名称及び住所 生産した事業場の名称及び所在地 販売業者保証票を付した年月 販売業者の氏名又は名称及び住所 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> 主成分の含有量	

備考

- 1 様式第9号（イ）の備考第1号から第6号まで及び第9号の規定は、土壌改良資材入り指定混合肥料の場合における販売業者保証票について準用する。この場合において、様式第9号（イ）の備考第9号中「登録番号」とあるのは「肥料の名称」と読み替えるものとする。
- 2 生産（輸入）した年月又は販売業者保証票を付した年月をこの様式に従い記載することが困難な場合には、「生産（輸入）した年月」若しくは「販売業者保証票を付した年月」を「肥料の名称」の上部に記載するか、又はこの様式の「生産（輸入）した年月」若しくは「販売業者保証票を付した年月」の欄に記載箇所を表示の上、他の箇所に記載することができる。ただし、生産（輸入）した年月及び販売業者保証票を付した年月を他の箇所に記載する場合には、生産（輸入）した年月及び販売業者保証票を付した年月の前にそれぞれ「生産（輸入）年月」及び「添付年月」の文字を付して記載するものとする。
- 3 荷口番号又は出荷年月を記載する場合には、荷口番号又は出荷年月の前に「荷口番号」又は「出荷年月」の文字を付して記載するものとする。
- 4 主成分の含有量については、生産した事業場における平均的な測定値をもつて記載することができる。この場合において、その旨を併せて記載するものとする。

(リ) 法第33条の2第1項の規定による登録を受けた法第4条第1項第3号に定める普通肥料の場合

○	
登録外国生産肥料 販売業者保証票	
肥料の種類 肥料の名称 原料の種類 材料の種類、名称及び使用量 正味重量 生産した年月 登録外国生産業者の氏名又は名称及び住所 生産した事業場の名称及び所在地 販売業者保証票を付した年月 販売業者の氏名又は名称及び住所 ----- 主成分の含有量 炭素窒素比	

備考

- 1 様式第9号(イ)の備考第1号から第6号まで及び第9号の規定は、法第33条の2第1項の規定による登録を受けた法第4条第1項第3号に定める普通肥料の場合における登録外国生産肥料販売業者保証票について準用する。この場合において、様式第9号(イ)の備考第9号中「登録番号」とあるのは「肥料の種類」と読み替えるものとする。
- 2 生産した年月又は販売業者保証票を付した年月をこの様式に従い記載することが困難な場合には、「生産した年月」若しくは「販売業者保証票を付した年月」を「肥料の種類」の上部に記載するか、又はこの様式の「生産した年月」若しくは「販売業者保証票を付した年月」の欄に記載箇所を表示の上、他の箇所に記載することができる。ただし、生産した年月及び販売業者保証票を付した年月を他の箇所に記載する場合には、生産した年月及び販売業者保証票を付した年月の前にそれぞれ「生産年月」及び「添付年月」の文字を付して記載するものとする。
- 3 荷口番号又は出荷年月を記載する場合には、荷口番号又は出荷年月の前に「荷口番号」又は「出荷年月」の文字を付して記載するものとする。
- 4 主成分の含有量については、生産した事業場における平均的な測定値をもつて記載することができる。この場合において、その旨を併せて記載するものとする。

様式第12号（日本産業規格 A 4）（第16条関係）

事故肥料譲渡許可申請書

年 月 日

農林水産大臣（都道府県知事） 殿

住所
氏名（名称及び代表者の氏名）

下記により事故肥料を譲渡したいので、肥料の品質の確保等に関する法律第19条第2項の規定により許可を申請します。

記

- 1 氏名及び住所（法人にあつてはその名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）
- 2 肥料の種類
- 3 肥料の名称
- 4 肥料の所在地
- 5 事故肥料発生前の肥料の数量及び保証成分量（法第4条第1項第3号に掲げる普通肥料にあつては事故肥料発生前の肥料の数量及び含有を許される有害成分の最大量、同条第2項第3号及び第4号に掲げる普通肥料（同条第1項第3号に掲げる普通肥料が原料として配合されたものを除く。）にあつては事故肥料発生前の肥料の数量及び法第17条第1項第3号の農林水産大臣が定める主成分の含有量、法第4条第2項第3号及び第4号に掲げる普通肥料（同条第1項第3号に掲げる普通肥料が原料として配合されたものに限る。）にあつては事故肥料発生前の肥料の数量、法第17条第1項第3号の農林水産大臣が定める主成分の含有量及び原料として配合した法第4条第1項第3号に掲げる普通肥料の種類）
- 6 譲渡しようとする肥料の数量及び主成分の含有量（法第4条第1項第3号に掲げる普通肥料にあつては譲渡しようとする肥料の数量及び有害成分の含有量、同条第2項第3号及び第4号に掲げる普通肥料（同条第1項第3号に掲げる普通肥料が原料として配合されたものを除く。）にあつては譲渡しようとする肥料の数量及び法第17条第1項第3号の農林水産大臣が定める主成分の含有量、法第4条第2項第3号及び第4号に掲げる普通肥料（同条第1項第3号に掲げる普通肥料が原料として配合されたものに限る。）にあつては譲渡しようとする肥料の数量、法第17条第1項第3号の農林水産大臣が定める主成分の含有量及び有害成分の含有量）
- 7 事故の概要

備考

- 1 仮登録肥料及び指定混合肥料にあつては2を記載しなくてよい。

様式第13号（第19条関係）

○	2センチメートル以上
事 故 肥 料 成 分 票	
許可番号 許可年月日 肥料の名称 主成分の含有量（％） 事故肥料成分票を付した者の氏名又は名称及び住所	

- 備考
- 1 事故肥料成分票を容器又は包装の外部に縛り付け、又は縫い付ける場合を除き、最上部2センチメートルの部分は、付けなくてもよい。
 - 2 様式第9号（イ）の備考第1号及び第3号の規定は、事故肥料成分票について準用する。

附 則

（施行期日）

第一条 この省令は、肥料取締法の一部を改正する法律附則第一条第二号に掲げる規定の施行の日（令和三年十二月一日）から施行する。

（経過措置）

第二条 この省令の施行の際現に肥料取締法の一部を改正する法律による改正前の肥料取締法（次項及び次条において「旧法」という。）第四条各項の規定による登録を受けている普通肥料であつて、肥料の品質の確保等に関する法律第四条第二項第二号から第四号までに掲げる普通肥料に使用されるものに係るこの省令による改正後の肥料の品質の確保等に関する法律施行規則第一条の三の規定の適用については、原料として使用する普通肥料がその登録の更新を受けるまでは、なお従前の例による。

2 この省令の施行の際現に旧法第四条各項の規定による登録を受けている普通肥料の登録の有効期間について、その更新を受けるまでは、なお従前の例による。

第三条 この省令の施行の際現にあるこの省令による改正前の肥料の品質の確保等に関する法律施行規則（

第三項において「旧令」という。）の様式（第四項において「旧様式」という。）により使用されている書類は、この省令による改正後の肥料の品質の確保等に関する法律施行規則の様式によるものとみなす。

2 この省令の施行の際現に旧法第四条各項、第五条若しくは第三十三条の二第一項の規定による登録若しくは仮登録を受け、又は同法第十六条の二第一項若しくは第二項の規定による届出がされた普通肥料の保証票に主成分を記載する方法については、当分の間、なお従前の例によることができる。

3 旧法第四条各項、第五条若しくは第三十三条の二第一項の規定による登録若しくは仮登録を受け、又は同法第十六条の二第一項若しくは第二項の規定による届出がされた普通肥料に使用される容器又は包装であつて、この省令の施行の際現に旧令に適合する保証票が付されているものが、施行日から起算して三年以内に肥料取締法の一部を改正する法律による改正後の肥料の品質の確保等に関する法律第四条第一項又は第二項に掲げる普通肥料（施行日前に旧法第四条各項、第五条若しくは第三十三条の二第一項の規定による登録若しくは仮登録を受け、又は同法第十六条の二第一項若しくは第二項の規定による届出がされたものに限る。）の容器又は包装として使用されたときは、この省令による改正後の肥料の品質の確保等に関する法律施行規則に適合する保証票が付されているものと見なす。

4 この省令の施行の際現にある旧様式による用紙については、当分の間、これを取り繕って使用することができる。

○農林水産省告示第 号

肥料の品質の確保等に関する法律施行規則（昭和二十五年農林省令第六十四号）第十一条第八項第三号の規定に基づき、農林水産大臣の指定する有効石灰、有効苦土、有効けい酸、有効マンガン及び有効ほう素を次のように指定する。

令和三年 月 日

農林水産大臣 野上浩太郎

肥料の品質の確保等に関する法律施行規則（以下「規則」という。）第十一条第八項第三号ニの農林水産大臣の指定する有効石灰	可溶性石灰
規則第十一条第八項第三号ニの農林水産	可溶性苦土

規則第十一條第八項第三号チの農林水産	規則第十一條第八項第三号トの農林水産 大臣の指定する有効苦土	規則第十一條第八項第三号への農林水産 大臣の指定する有効けい酸	規則第十一條第八項第三号ホの農林水産 大臣の指定する有効石灰	規則第十一條第八項第三号ニの農林水産 大臣の指定する有効苦土
可溶性マンガ、く溶性マンガ、水溶性マンガ	可溶性苦土、く溶性苦土、水溶性苦土	可溶性けい酸、水溶性けい酸	可溶性石灰、く溶性石灰、水溶性石灰	

大臣の指定する有効マンガ	
規則第十一条第八項第三号りの農林水産 大臣の指定する有効ほう素	く溶性ほう素、水溶性ほう素
規則第十一条第八項第三号又の農林水産 大臣の指定する有効硫黄	可溶性硫黄

附 則

（施行期日）

- 1 この告示は、肥料取締法の一部を改正する法律（令和元年法律第六十二号）附則第一条第二号に掲げる規定の施行の日（令和三年十二月一日）から施行する。

（肥料の品質の確保等に関する法律施行令第二条の規定に基づき、農林水産大臣の指定する有効石灰等を

指定する件の廃止)

2 昭和五十九年三月十六日農林水産省告示第六百九十五号(肥料の品質の確保等に関する法律施行令第二
条の規定に基づき、農林水産大臣の指定する有効石灰等を指定する件)は、廃止する。

○農林水産省告示第 号

肥料の品質の確保等に関する法律（昭和二十五年法律第二百二十七号）第二十一条第一項第一号及び第二号（同法第三十三条の二第六項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、普通肥料の表示の基準を次のように定める。

令和三年 月 日

農林水産大臣 野上浩太郎

第1 表示すべき事項

肥料の品質の確保等に関する法律（以下「法」という。）第二十一条第一項第一号（法第三十三条の二第六項において準用する場合を含む。）の施用上若しくは保管上の注意事項として表示すべき事項又は原料の使用割合その他その品質若しくは効果を明確にするために表示すべき事項（以下「表示事項」という。）は、次のとおりとする。

表示すべき普通肥料	表示事項
1 石灰窒素が原料として使用された普通肥料（原料が石灰窒素に限られたもの及び化学的操作を加えたものを除く。）	<div data-bbox="363 1144 646 2076">この肥料には、石灰窒素が入っていますから、施用後24時間以内は飲酒しないで下さい。</div>

2	<p>たばこくずが原料として使用された普通肥料</p> <div> <p>この肥料には、たばこくず（粉末）が入っていますから、桑園又はその付近において使用すると、桑の葉にニコチンが吸収されて、蚕に害を与えることがあります。</p> </div>
3	<p>土壌中における硝酸化成を抑制する材料が使用された尿素、液状肥料又は家庭園芸用複合肥料</p> <div> <p>この肥料には、硝酸化成抑制材が入っていますから、葉面散布用には使用しないで下さい。</p> </div>
4	<p>チオ硫酸アンモニウムが原料として使用され</p> <div></div>

<p>た液状肥料</p>	<div data-bbox="1107 1142 1406 2078" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>この肥料には、チオ硫酸アンモニウムが入っていますから、過剰施用に注意するとともに、施用後一週間以内は播種しないで下さい。</p> </div>
<p>5 動物由来たん白質（飼料及び飼料添加物の成分規格等に関する省令（昭和51年農林省令第35号）別表第1の2の（1）に定める動物由来たん白質であって、同（1）の表の第2欄に定める確認済ゼラチン等以外のものをいう。以下同じ。）が原料として使用された普通肥料（6に掲げるものを除く。）</p>	<div data-bbox="550 1142 924 2078" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>この肥料には、動物由来たん白質が入っていますから、家畜等の口に入らないところで保管・使用して下さい。</p> </div> <p>（注） 動物由来たん白質の次に（ ）を付し、（ ）の中にその由来する動物種を記載することができる。</p>

	<p>記載例</p> <div data-bbox="922 1144 1295 2078"> <p>この肥料には、動物由来たん白質（豚に由来するもの）が入っていますから、家畜等の口に入らないところで保管・使用して下さい。</p> </div>
<p>6 動物由来たん白質が原料として使用された普通肥料のうち、牛、めん羊又は山羊に由来する動物由来たん白質が原料として使用されたもの又は原料事情等により使用する場合があるもの</p>	<div data-bbox="272 1144 738 2078"> <p>この肥料には、牛等由来たん白質が入っていますから、家畜等の口に入らないところで保管・使用し、家畜等に与えたり、牧草地等に施用したりしないで下さい。</p> </div>

(注) 牛等由来たん白質の次に()を付し、()の中にその由来する動物種を記載することができる。

記載例

この肥料には、牛等由来たん白質（牛又は豚に由来するもの）が入っていますから、家畜等の口に入らないところで保管・使用し、家畜等に与えたり、牧草地等に施用したりしないで下さい。

法第二十一条第一項第二号（法第三十三条の二第六項において準用する場合を含む。）の表示の方法その他表示事項の表示に際して生産業者、輸入業者又は販売業者が遵守すべき事項は、次のとおりとする。

1 普通肥料の生産業者（法第三十三条の二第一項の規定による登録又は仮登録を受けた者を除く。）、輸入業者（法第三十三条の二第一項の規定による登録又は仮登録を受けた普通肥料の輸入業者を含む。）又は販売業者は、次のいずれかに該当するときは、遅滞なく、その生産、輸入又は販売に係る普通肥料の容器又は包装の外部（容器及び包装を用いないものにあつては、各荷口又は各個。以下同じ。）に表示事項を表示しなければならない。

- （1） 当該肥料を生産し、又は輸入したとき
- （2） 当該肥料の容器若しくは包装を変更したとき、又は容器若しくは包装のない当該肥料を容器に入れ、若しくは包装したとき
- （3） 当該肥料が自己の所有又は管理に属している間に、当該表示が滅失し、又はその記載が不明となったとき
- （4） 輸入業者又は販売業者にあつては、当該表示事項が表示されていないか、又は当該表示事項が不

明となった肥料の引渡しを受けたとき

2 表示事項の表示は、容器又は包装を用いる場合にあつては、その外部の見やすい場所に、貼り付け、縫い付け、針金、麻糸等で縛り付け、その他容器又は包装から容易に離れない方法で付し、容器及び包装を用いない場合にあつては、その見やすい場所に付さなければならない。

3 表示に用いる文字及び数字の色、大きさ等は、次に定めるところによらなければならない。

(1) 表示に用いる文字及び数字の色は、背景の色と対照的な色とすること。

(2) 表示に用いる文字及び数字は、日本産業規格 Z 8305 に規定する 8 ポイント以上の大きさとし、かつ、消費者の見やすい書体とすること。ただし、肥料の正味重量が 6 キログラム未満の場合には、文字及び数字の大きさは、適宜とする。

附 則

1 この告示は、肥料取締法の一部を改正する法律（令和元年法律第六十二号）附則第一条第二号に掲げる規定の施行の日（令和三年十二月一日）から施行する。

2 昭和五十九年三月十六日農林水産省告示第七百一号（肥料の品質の確保等に関する法律施行規則第十九条の二第一項の規定に基づき表示を要する普通肥料及びその表示事項を定める件）は、廃止する。

3 この告示の施行の際現に肥料取締法の一部を改正する法律による改正前の法第四条第一項若しくは第二項、第五条若しくは第三十三条の二第一項の規定による登録又は仮登録を受け、又は同法第十六条の二第一項若しくは第二項の規定による届出がされた普通肥料の表示については、当分の間、第二に規定する文字及び数字の色、大きさ等によらないことができる。

○農林水産省告示第 号

肥料取締法の一部を改正する法律（令和元年法律第六十二号）の一部の施行に伴い、及び肥料の品質の確保等に関する法律（昭和二十五年法律第二百二十七号）第十七条第一項第三号の規定に基づき、平成十二年一月二十七日農林水産省告示第九十六号（肥料の品質の確保等に関する法律第十七条第一項第三号の規定に基づき、同法第四条第一項第三号並びに同条第二項第三号及び第四号に掲げる普通肥料の保証票にその含有量を記載する主要な成分を定める件）の一部を次のように改正する。

令和三年 月 日

農林水産大臣 野上浩太郎

次の表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分（以下「傍線部分」という。）でこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線部分があるものは、これを当該傍線部分のように改め、改正後欄に掲げる規定の傍線部分でこれに対応する改正前欄に掲げる規定の傍線部分がないものは、これを加え、改正前欄に掲げる規定の傍線部分でこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線部分がないものは、これを削る。

改 正 後			改 正 前		
肥 料 の 種 類		主 成 分	肥 料 の 種 類		主 要 な 成 分
<u>汚泥肥料、水産副産物発酵肥料</u>		(略)	<u>下水汚泥肥料、し尿汚泥肥料、工業汚泥肥料、混合汚泥肥料、焼成汚泥肥料、汚泥発酵肥料、水産副産物発酵肥料</u>		(略)
(略)		(略)	(略)		(略)
特殊肥料等入り指定混合肥料、土壌改良資材入り指定混合肥料		1 窒素全量 2 アソモニア性窒素 3 硝酸性窒素 4 りん酸全量 5 く溶性りん酸 6 可溶性りん酸 7 水溶性りん酸 8 加里全量 9 く溶性加里 10 水溶性加里 11 アルカリ分 12 可溶性石灰 13 く溶性石灰 14 水溶性石灰	特殊肥料等入り指定混合肥料、土壌改良資材入り指定混合肥料		1 窒素全量 2 アソモニア性窒素 3 硝酸性窒素 4 りん酸全量 5 く溶性りん酸 6 可溶性りん酸 7 水溶性りん酸 8 加里全量 9 く溶性加里 10 水溶性加里 11 アルカリ分 (新設) (新設) (新設) (新設)

	15 可溶性けい酸
	16 水溶性けい酸
	17 可溶性苦土
	18 く溶性苦土
	19 水溶性苦土
	20 可溶性マンガン
	21 く溶性マンガン
	22 水溶性マンガン
	23 く溶性ほう素
	24 水溶性ほう素
	25 銅全量（1キログラム当たり300ミリグラム以上含有する場合に限る。）
	26 亜鉛全量（1キログラム当たり900ミリグラム以上含有する場合に限る。）
	27 石灰全量（1キログラム当たり150グラム以上含有する場合に限る。）
	28 硫黄分全量
	29 可溶性硫黄

附一 主成分の含有量の分析に当たっては、独立行政法人農林水産消費安全技術センターが定める肥料等試験法によるものとする。ただし、別表第一の第一欄に掲げる主成分の含有量の算出は、同表の第二欄に掲げるものによることとする。また、別表第二の左欄に掲げる主成分に応じ、同表の中欄に掲げる表示の単位を用いて記載すること。この場合において、表示値の誤差の範囲は、同表の右欄に掲げるとおりとする。

- 二 窒素、りん酸、加里、有効石灰、有効苦土、硫黄分全量若しくは可溶性硫黄の含有量が0.5%未満であり、アルカリ分若しくは

	12 可溶性けい酸
	13 水溶性けい酸
	14 可溶性苦土
	15 く溶性苦土
	16 水溶性苦土
	17 可溶性マンガン
	18 く溶性マンガン
	19 水溶性マンガン
	20 く溶性ほう素
	21 水溶性ほう素
	22 銅全量（1キログラム当たり300ミリグラム以上含有する場合に限る。）
	23 亜鉛全量（1キログラム当たり900ミリグラム以上含有する場合に限る。）
	24 石灰全量（1キログラム当たり150グラム以上含有する場合に限る。）
	25 硫黄分全量 (新設)

附一 主要な成分の含有量の分析に当たっては、独立行政法人農林水産消費安全技術センターが定める肥料等試験法によるものとする。ただし、別表第一の第一欄に掲げる主要な成分の含有量の算出は、同表の第二欄に掲げるものによることとする。また、別表第二の左欄に掲げる主要な成分に応じ、同表の中欄に掲げる表示の単位を用いて記載すること。この場合において、表示値の誤差の範囲は、同表の右欄に掲げるとおりとする。

- 二 窒素、りん酸、加里若しくは有効苦土の含有量が0.5%未満であり、アルカリ分若しくは有効けい酸の含有量が2.5%未満

は有効けい酸の含有量が2.5%未満であり、有効マンガン含有量が0.05%未満であり、又は有効ほう素の含有量が0.03%未満である場合には、それぞれ「0.5%未満」、「2.5%未満」、「0.05%未満」又は「0.03%未満」と記載することができる。

別表第一

第 1 欄	第 2 欄
(略)	(略)
加里全量	(略)
アルカリ分	酸化カルシウム (C a O) 及び酸化マグネシウム (M g O)
石灰全量 可溶性石灰 可溶性石灰 水溶性石灰	酸化カルシウム (C a O)
硫黄分全量	三酸化硫黄 (S O ₃)
可溶性硫黄	硫黄 (S)
(略)	(略)

別表第二

主成分	表示の単位	誤差の許容範囲
-----	-------	---------

であり、有効マンガン含有量が0.05%未満であり、又は有効ほう素含有量が0.03%未満である場合には、それぞれ「0.5%未満」、「2.5%未満」、「0.05%未満」又は「0.03%未満」と記載することができる。

別表第一

第 1 欄	第 2 欄
(略)	(略)
加里全量	(略)
(新設)	(新設)
石灰全量	酸化カルシウム (C a O)
硫黄分全量	三酸化硫黄 (S O ₃)
(新設)	(新設)
(略)	(略)

別表第二

主要な成分	表示の単位	誤差の許容範囲
-------	-------	---------

<p><u>汚泥肥料</u>、水産副産物発酵肥料の<u>主成分</u>のうち 1 から 3 まで、硫黄及びその化合物の硫黄分全量、特殊肥料等入り指定混合肥料及び土壌改良資材入り指定混合肥料の<u>主成分</u>のうち 1 から <u>19</u> まで、<u>28</u>及び<u>29</u></p>	パーセント (%)	表示値が1.5パーセント未満の場合は、プラスマイナス0.3パーセント表示値が1.5パーセント以上 5 パーセント未満の場合は、表示値のプラスマイナス20パーセント
<p>特殊肥料入り指定混合肥料、土壌改良資材入り指定混合肥料の<u>主成分</u>のうち <u>20</u> から <u>27</u> まで</p>	パーセント (%)	表示値のプラスマイナス30パーセント
(略)	(略)	(略)

<p><u>下水汚泥肥料</u>、<u>し尿汚泥肥料</u>、<u>工業汚泥肥料</u>、<u>混合汚泥肥料</u>、<u>焼成汚泥肥料</u>、<u>汚泥発酵肥料</u>、水産副産物発酵肥料の<u>主要な成分</u>のうち 1 から 3 まで、硫黄及びその化合物の硫黄分全量、特殊肥料等入り指定混合肥料及び土壌改良資材入り指定混合肥料の<u>主要な成分</u>のうち 1 から <u>16</u> まで及び<u>25</u></p>	パーセント (%)	表示値が1.5パーセント未満の場合は、プラスマイナス0.3パーセント表示値が1.5パーセント以上 5 パーセント未満の場合は、表示値のプラスマイナス20パーセント
<p>特殊肥料入り指定混合肥料、土壌改良資材入り指定混合肥料の<u>主要な成分</u>のうち <u>17</u> から <u>21</u> まで</p>	パーセント (%)	表示値のプラスマイナス30パーセント
(略)	(略)	(略)

附 則

この告示は、肥料取締法の一部を改正する法律附則第一条第二号に掲げる規定の施行の日（令和三年十二月一日）から施行する。

○農林水産省告示第 号

肥料の品質の確保等に関する法律施行規則（昭和二十五年農林省令第六十四号）第四条第一号の規定に基づき、昭和五十九年三月十六日農林水産省告示第六百九十八号（肥料の品質の確保等に関する法律施行規則第四条第一号の規定に基づき生産工程の概要の記載を要する普通肥料を指定する件）の一部を次のように改正する。

令和三年 月 日

農林水産大臣 野上浩太郎

次の表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分（以下「傍線部分」という。）でこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線部分があるものは、これを当該傍線部分のように改め、改正後欄に掲げる規定の傍線部分でこれに対応する改正前欄に掲げる規定の傍線部分がないものは、これを加え、改正前欄に掲げる規定の傍線部分でこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線部分がないものは、これを削る。

改正後	改正前
<p>硫酸アンモニア、硝酸石灰、アセトアルデヒド縮合尿素、イソブチルアルデヒド縮合尿素、硫酸グアニル尿素、オキサミド、硝酸アンモニアソーダ肥料、硝酸アンモニア石灰肥料、硝酸苦土肥料、腐植酸アンモニア肥料、被覆窒素肥料、グリオキサール縮合尿素、ホルムアルデヒド加工尿素肥料、メチロール尿素重合肥料、混合窒素肥料、過りん酸石灰、重過りん酸石灰、りん酸苦土肥料、<u>熔成りん肥</u>、<u>焼成りん肥</u>、<u>被覆りん酸肥料</u>、<u>熔成けい酸りん肥</u>、<u>鉍さいりん酸肥料</u>、加工りん酸肥料、加工鉍さいりん酸肥料、腐植酸りん肥、混合りん酸肥料、硫酸加里、硫酸加里苦土、重炭酸加里、粗製加里塩、加工苦汁加里肥料、腐植酸加里肥料、けい酸加里肥料、被覆加里肥料、液体けい酸加里肥料、<u>熔成けい酸加里肥料</u>、混合加里肥料、肉かす粉末、肉骨粉、蒸製てい角粉、蒸製てい角骨粉、蒸製毛粉、乾血及びその粉末、生骨粉、蒸製骨粉、蒸製皮革粉、とうもろこし</p>	<p>硫酸アンモニア、硝酸石灰、アセトアルデヒド縮合尿素、イソブチルアルデヒド縮合尿素、硫酸グアニル尿素、オキサミド、硝酸アンモニアソーダ肥料、硝酸アンモニア石灰肥料、硝酸苦土肥料、腐植酸アンモニア肥料、被覆窒素肥料、グリオキサール縮合尿素、ホルムアルデヒド加工尿素肥料、メチロール尿素重合肥料、副産窒素肥料、<u>液状窒素肥料</u>、<u>混合窒素肥料</u>、<u>液状副産窒素肥料</u>、<u>過りん酸石灰</u>、<u>重過りん酸石灰</u>、<u>りん酸苦土肥料</u>、<u>熔成りん肥</u>、<u>焼成りん肥</u>、<u>被覆りん酸肥料</u>、<u>液体りん酸肥料</u>、<u>熔成けい酸りん肥</u>、<u>熔成汚泥灰</u>、<u>けい酸りん肥</u>、<u>鉍さいりん酸肥料</u>、加工りん酸肥料、加工鉍さいりん酸肥料、腐植酸りん肥、副産りん酸肥料、混合りん酸肥料、硫酸加里、硫酸加里苦土、重炭酸加里、粗製加里塩、加工苦汁加里肥料、腐植酸加里肥料、けい酸加里肥料、被覆加里肥料、液体けい酸加里肥料、<u>熔成けい酸加里肥料</u>、副産加里肥料、混合加里肥料、肉か</p>

<p>浸漬液肥料、加工家きんふん肥料、食品残さ加工肥料、混合有機質肥料（植物油かす及びその粉末の二以上を混合したものを除く。）</p> <p>、液状肥料、吸着複合肥料、家庭園芸用複合肥料、りん酸アンモニウム、硝酸加里、りん酸加里、りん酸マグネシウムアンモニウム、熔成複合肥料、化成肥料、混合動物排せつ物複合肥料、混合堆肥複合肥料、成形複合肥料、被覆複合肥料、配合肥料、混合汚泥複合肥料、生石灰、消石灰、炭酸カルシウム肥料、貝化石肥料、硫酸カルシウム、副産石灰肥料、混合石灰肥料、鉍さいけい酸質肥料、シリカゲル肥料、シリカヒドロゲル肥料、けい灰石肥料、軽量気泡コンクリート粉末肥料、硫酸苦土肥料、水酸化苦土肥料、酢酸苦土肥料、炭酸苦土肥料、加工苦土肥料、腐植酸苦土肥料、リグニン苦土肥料、被覆苦土肥料、混合苦土肥料、硫酸マンガン肥料、炭酸マンガン肥料、加工マンガン肥料、鉍さいマンガン肥料、混合マンガン肥料、熔成ほう素肥料、加工ほう素肥料、熔成微量元素複合肥料、微量元素肥料</p>	<p>す粉末、肉骨粉、蒸製てい角粉、蒸製てい角骨粉、蒸製毛粉、乾血及びその粉末、生骨粉、蒸製骨粉、蒸製皮革粉、とうもろこし浸漬液肥料、乾燥菌体肥料、加工家きんふん肥料、魚廃物加工肥料、食品残さ加工肥料、副産動物質肥料、副産植物質肥料（しょう油を生産する際に副産されるものを除く。）</p> <p>、混合有機質肥料（植物油かす及びその粉末の二以上を混合したものを除く。）</p> <p>、りん酸マグネシウムアンモニウム、熔成複合肥料、化成肥料、混合動物排せつ物複合肥料、混合堆肥複合肥料、成形複合肥料、被覆複合肥料、配合肥料、液状複合肥料、熔成汚泥灰複合肥料、副産複合肥料、配合肥料、家庭園芸用複合肥料、生石灰、消石灰、炭酸カルシウム肥料、貝化石肥料、副産石灰肥料、混合石灰肥料、鉍さいけい酸質肥料、シリカゲル肥料、シリカヒドロゲル肥料、けい灰石肥料、軽量気泡コンクリート粉末肥料、硫酸苦土肥料、水酸化苦土肥料、酢酸苦土肥料、炭酸苦土肥料、加工苦土肥料、腐植酸苦土肥料、リグニン苦土肥料、被覆苦土肥料、混合苦土肥料、硫酸マンガン肥料、炭酸マンガン肥料、加工マンガン</p>
--	---

	肥料、鉍さいマンガ肥料、副産マンガ肥料、液体副産マンガ 肥料、混合マンガ肥料、熔成ほう素肥料、加工ほう素肥料、熔成 微量要素複合肥料、混合微量要素肥料、液体微量要素複合肥料

附 則

この告示は、肥料取締法の一部を改正する法律（令和元年法律第六十二号）附則第一条第二号に掲げる規定の施行の日（令和三年十二月一日）から施行する。

○農林水産省告示第 号

肥料の品質の確保等に関する法律施行規則（昭和二十五年農林省令第六十四号）第七条の六の規定に基づき、平成十三年五月十日農林水産省告示第六百四十三号（肥料の品質の確保等に関する法律施行規則第七条の六の規定に基づき農林水産大臣の指定する化成肥料等を指定する件）の一部を次のように改正する。

令和三年 月 日

農林水産大臣 野上浩太郎

次の表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分（以下「傍線部分」という。）でこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線部分があるものは、これを当該傍線部分のように改め、改正後欄に掲げる規定の傍線部分でこれに対応する改正前欄に掲げる規定の傍線部分がないものは、これを加え、改正前欄に掲げる規定の傍線部分でこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線部分がないものは、これを削る。

改 正 後	改 正 前
<p>1 肥料の品質の確保等に関する法律施行規則（以下「規則」という。）第七條の六第一号の農林水産大臣が指定する被覆窒素肥料は、同号に掲げる窒素質肥料又は同条第五号に掲げる副産肥料（専ら公定規格の原料規格（以下「原料規格」という。）第二中の項から五の項までに掲げる原料を使用した肥料であつて、窒素を保証し、りん酸及び加里を保証しないものに限る。）を硫黄その他の被覆原料で被覆したものである。</p> <p>2 規則第七條の六第一号の農林水産大臣が指定する混合窒素肥料は、同号に掲げる窒素質肥料又は同条第五号に掲げる副産肥料（専ら原料規格第二中の一の項から五の項までに掲げる原料を使用した肥料であつて、窒素を保証し、りん酸及び加里を保証しないものに限る。）に、同条第一号に掲げる窒素質肥料、同条第四号に掲げる有機質肥料、同条第五号に掲げる副産肥料等、同条第七号に掲げる石灰質肥料、同条第八号に掲げるけい酸質肥料、同条第九号に掲げる苦土質肥料、同条第十号に掲げるマンガン質肥料、同条第十一号に掲げるほう素質肥料又は同条第十二号に掲げる微量元素複合肥料を混合したものである。</p> <p>3 規則第七條の六第二号の農林水産大臣が指定する被覆りん酸肥料は、同号に掲げるりん酸質肥料又は同条第五号に掲げる副産肥料（専ら原料規格第二中六の項に掲げる原料を使用した肥料であつて、りん酸を保証し、窒素及び加里を保証しないものに限る。）を硫黄その他の被覆原料で被覆したものである。</p> <p>4 規則第七條の六第二号の農林水産大臣が指定する加工りん酸肥料は、同号に掲げるりん酸質肥料、同条第五号に掲げる副産肥料（専ら原料規格第二中六の項に掲げる原料を使用した肥料であつて、りん酸を保証し、窒素及び加里を保証しないものに限る。）を、熔成微量元素複合肥料、りん酸含有物（りん鉱石又はこれに化学的操作を加えたものに限る。）、塩基性のカルシウム、マグネ</p>	<p>1 肥料の品質の確保等に関する法律施行規則（以下「規則」という。）第七條の六第一号の農林水産大臣が指定する被覆窒素肥料は、同号に掲げる窒素質肥料を硫黄その他の被覆原料で被覆したものである。</p> <p>2 規則第七條の六第一号の農林水産大臣が指定する混合窒素肥料は、同号に掲げる窒素質肥料に、同号に掲げる窒素質肥料、同条第八号に掲げる苦土肥料、同条第九号に掲げるマンガン質肥料、同条第十号に掲げるほう素質肥料又は同条第十一号に掲げる微量元素複合肥料を混合したものである。</p> <p>3 規則第七條の六第二号の農林水産大臣が指定する被覆りん酸肥料は、同号に掲げるりん酸質肥料を硫黄その他の被覆原料で被覆したものである。</p> <p>4 規則第七條の六第二号の農林水産大臣が指定する加工りん酸肥料は、同号に掲げるりん酸質肥料又は熔成微量元素複合肥料、りん酸含有物（りん鉱石又はこれに化学的操作を加えたものに限る。）、塩基性のカルシウム、マグネシウム若しくはマンガン含有物、鉱さい若しくはほう酸塩に、硫酸、りん酸又は塩酸を加えたものとする。</p>

シウム若しくはマンガン含有物、鉍さい又はほう酸塩に、硫酸、りん酸又は塩酸を加えたものとする。

- 5 規則第七条の六第二号の農林水産大臣が指定する混合りん酸肥料は、同号に掲げるりん酸質肥料又は同条第五号に掲げる副産肥料（専ら原料規格第二中六の項に掲げる原料を使用した肥料であって、りん酸を保証し、窒素及び加里を保証しないものに限る。）に、同条第二号に掲げるりん酸質肥料、同条第四号に掲げる有機質肥料、同条第五号に掲げる副産肥料等、同条第七号に掲げる石灰質肥料、同条第八号に掲げるけい酸質肥料、同条第九号に掲げる苦土質肥料、同条第十号に掲げるマンガン質肥料、同条第十一号に掲げるほう素質肥料又は同条第十二号に掲げる微量元素複合肥料を混合したものとする。

- 6 規則第七条の六第三号の農林水産大臣が指定する被覆加里肥料は、同号に掲げる加里質肥料又は同条第五号に掲げる副産肥料（専ら原料規格第二中七の項又は八の項に掲げる原料を使用した肥料であって、加里を保証し、窒素及びりん酸を保証しないものに限る。）を硫黄その他の被覆原料で被覆したものとする。

- 7 規則第七条の六第三号の農林水産大臣が指定する混合加里肥料は、同号に掲げる加里質肥料又は同条第五号に掲げる副産肥料（専ら原料規格第二中七の項又は八の項に掲げる原料を使用した肥料であって、加里を保証し、窒素及びりん酸を保証しないものに限る。）に、同条第三号に掲げる加里質肥料、同条第四号に掲げる有機質肥料、同条第五号に掲げる副産肥料等、同条第七号に掲げる石灰質肥料、同条第八号に掲げるけい酸質肥料、同条第九号に掲げる苦土質肥料、同条第十号に掲げるマンガン質肥料、同条第十一号に掲げるほう素質肥料又は同条第十二号に掲げる微量元素複合肥料を混合したものとする。

- 8 規則第七条の六第四号の農林水産大臣が指定する副産動植物質肥料は、原料規格第一に掲げる原料のうち同規格中一の項ロに掲げるものの以外のもを使用したものとする。

- 5 規則第七条の六第二号の農林水産大臣が指定する混合りん酸肥料は、同号に掲げるりん酸質肥料に、同号に掲げるりん酸質肥料、同条第六号に掲げる石灰質肥料、同条第七号に掲げるけい酸質肥料、同条第八号に掲げる苦土肥料、同条第九号に掲げるマンガン質肥料、同条第十号に掲げるほう素質肥料又は同条第十一号に掲げる微量元素複合肥料を混合したものとする。

- 6 規則第七条の六第三号の農林水産大臣が指定する被覆加里肥料は、加里質肥料を硫黄その他の被覆原料で被覆したもののうち、肥料の品質の確保等に関する法律（昭和二十五年法律第百二十七号）第六条第一項第六号に規定する植物に対する害に関する栽培試験（以下「植害試験」という。）の成績の提出が不要であるものとする。

- 7 規則第七条の六第三号の農林水産大臣が指定する混合加里肥料は、加里質肥料に、加里質肥料、石灰質肥料、けい酸質肥料、苦土肥料、マンガン質肥料、ほう素質肥料又は微量元素複合肥料を混合したもののうち、植害試験の成績の提出が不要であるものとする。

（新設）

<p>9 規則第七条の六第四号の農林水産大臣が指定する混合有機質肥料は、次の各号のいずれかに該当するものとする。</p> <p>一 規則第七条の六第四号に掲げる有機質肥料に、同号に掲げる有機質肥料又は米ぬか、発酵米ぬか、乾燥藻及びその粉末、よもぎかす若しくは動物の排せつ物（鶏ふんの炭化物に限る。）を混合したもの</p> <p>二 前号に掲げる混合有機質肥料の原料となる肥料に、血液又は豆腐かすを混合し、乾燥したもの</p> <p>10 規則第七条の六第五号の農林水産大臣が指定する副産肥料は、原料規格第一及び原料規格第二に掲げる原料のうち原料規格第一中一の項ロ並びに原料規格第二中一の項ウ、二の項ホ、三の項ヘ、四の項ホ、五の項ハ、六の項ル、七の項ホ、八の項ロ、九の項ハ、十の項ヌ、十一の項ヌ、十二の項ハ、十三の項ロ、十四の項及び十五の項に掲げるもの（登録の有効期間が六年である肥料又は当該肥料を原料として使用する肥料の製造において生じたものを除く。）以外のもの（以下「六年原料」という。）を使用したものとする。</p> <p>11 規則第七条の六第五号の農林水産大臣が指定する液状肥料は、同条に掲げる普通肥料又は特殊肥料若しくは六年原料を使用したものであつて、液状のものとする。</p> <p>12 規則第七条の六第五号の農林水産大臣が指定する家庭園芸用複合肥料は、同条に掲げる普通肥料又は特殊肥料若しくは六年原料を使用したものであつて、規則第一条の三に規定する家庭園芸用肥料であるものとする。</p> <p>13 規則第七条の六第五号の農林水産大臣が指定する吸着複合肥料は、同条に掲げる普通肥料又は特殊肥料若しくは六年原料を（けい）そう土その他の吸着原料に吸着させたものをいう。</p> <p>14 規則第七条の六第六号の農林水産大臣が指定する化成肥料は、次の各号のいずれかに該当するものとする。</p> <p>一 規則第七条の六各号に掲げる窒素質肥料、りん酸質肥料、加里質肥料、有機質肥料、<u>副産肥料</u>等、複合肥料、石灰質肥料、</p>	<p>8 規則第七条の六第四号の農林水産大臣が指定する混合有機質肥料は、次の各号のいずれかに該当するものとする。</p> <p>一 規則第七条の六第四号に掲げる有機質肥料に、同号に掲げる有機質肥料又は米ぬか、発酵米ぬか、乾燥藻及びその粉末、よもぎかす若しくは動物の排せつ物（鶏ふんの炭化物に限る。）を混合したもの</p> <p>二 前号に掲げる混合有機質肥料の原料となる肥料に、血液又は豆腐かすを混合し、乾燥したもの</p> <p>（新設）</p>
<p>（新設）</p> <p>（新設）</p>	<p>（新設）</p> <p>（新設）</p>
<p>（新設）</p>	<p>（新設）</p>
<p>9 規則第七条の六第五号の農林水産大臣が指定する化成肥料は、次の各号のいずれかに該当するものとする。</p> <p>一 規則第七条の六各号に掲げる窒素質肥料、りん酸質肥料、加里質肥料、有機質肥料、複合肥料、石灰質肥料、けい酸質肥料</p>	<p>9 規則第七条の六第五号の農林水産大臣が指定する化成肥料は、次の各号のいずれかに該当するものとする。</p> <p>一 規則第七条の六各号に掲げる窒素質肥料、りん酸質肥料、加里質肥料、有機質肥料、複合肥料、石灰質肥料、けい酸質肥料</p>

	<p>けい酸質肥料、<u>苦土質肥料</u>、<u>マンガン質肥料</u>、<u>ほう素質肥料</u>又は微量要素複合肥料のいずれか二以上を配合し、造粒又は成形したもの</p> <p>二 前号に掲げる化成肥料の原料となる肥料に、米ぬか、発酵米ぬか、乾燥藻及びその粉末、発酵乾ぶん肥料、よもぎかす、骨灰、動物の排せつ物（鶏ふんの炭化物に限る。）又は動物の排せつ物の燃焼灰（鶏ふん燃焼灰又は牛の排せつ物と鶏ふんとの混合物の燃焼灰に限る。）のいずれか一以上を配合し、造粒又は成形したもの</p> <p>三 肥料（<u>混合汚泥複合肥料</u>及び規則第一条の二各号に掲げる普通肥料を除く。）又は肥料原料（<u>原料規格第一中ロの項に掲げるもの又は原料規格第二中十五の項に掲げるものを除く。</u>）を使用し、これに化学的操作を加えた単一の化合物</p> <p>四 りん酸又はりん鉱石を硝酸若しくは硫酸で分解したものに、アモニア又は硫酸を加え、これに第一号に掲げる化成肥料若しくはその原料となる肥料、前号に掲げる化成肥料又は塩基性のマグネシウム含有物を加えたもの</p> <p>五 第三号又は前号に掲げる化成肥料を配合し、造粒又は成形したもの</p> <p>六 第一号又は第二号に掲げる化成肥料又はその原料となる肥料若しくはその原料となる肥料を配合したものに、第三号若しくは第四号に掲げる化成肥料、その化成肥料を配合したもの又は前号に掲げる化成肥料を配合し、造粒又は成形したもの</p>
15	<p>規則第七条の六第六号の農林水産大臣が指定する混合動物排せつ物複合肥料は、同条各号に掲げる窒素質肥料、りん酸質肥料、加里質肥料、有機質肥料、副産肥料等、複合肥料、石灰質肥料、けい酸質肥料、苦土質肥料、マンガン質肥料、ほう素質肥料又は微量要素複合肥料に動物の排せつ物（牛又は豚の排せつ物を加熱乾燥したものに限る。）を混合し、造粒又は成形したものとす</p>
16	<p>規則第七条の六第六号の農林水産大臣が指定する混合堆肥複合</p>

	<p>（シリカゲル肥料に限る。）<u>、苦土肥料</u>、<u>マンガン質肥料</u>、<u>ほう素質肥料</u>又は微量要素複合肥料のいずれか二以上を配合し、造粒又は成形したもの</p> <p>二 前号に掲げる化成肥料の原料となる肥料に、米ぬか、発酵米ぬか、乾燥藻及びその粉末、発酵乾ぶん肥料、よもぎかす、骨灰、動物の排せつ物（鶏ふんの炭化物に限る。）又は動物の排せつ物の燃焼灰（鶏ふん燃焼灰又は牛の排せつ物と鶏ふんとの混合物の燃焼灰に限る。）のいずれか一以上を配合し、造粒又は成形したもの</p> <p>三 肥料（<u>熔成汚泥灰けい酸りん肥</u>、<u>熔成汚泥灰複合肥料</u>、<u>混合汚泥複合肥料</u>及び規則第一条各号に掲げる普通肥料を除く。）又は肥料原料（<u>汚泥及び魚介類の臓器を除く。</u>）を使用し、これに化学的操作を加えた単一の化合物</p> <p>四 りん酸又はりん鉱石を硝酸若しくは硫酸で分解したものに、アモニア又は硫酸を加え、これに第一号に掲げる化成肥料若しくはその原料となる肥料、前号に掲げる化成肥料又は塩基性のマグネシウム含有物を加えたもの</p> <p>五 第三号又は前号に掲げる化成肥料を配合し、造粒又は成形したもの</p> <p>六 第一号又は第二号に掲げる化成肥料又はその原料となる肥料若しくはその原料となる肥料を配合したものに、第三号若しくは第四号に掲げる化成肥料、その化成肥料を配合したもの又は前号に掲げる化成肥料を配合し、造粒又は成形したもの</p>
	（新設）
	（新設）

肥料は、次の各号のいずれかに該当するものとする。

一 同条各号に掲げる窒素質肥料、りん酸質肥料、加里質肥料、有機質肥料、副産肥料等、複合肥料、石灰質肥料、けい酸質肥料、苦土質肥料、マンガン質肥料、ほう素質肥料又は微量元素複合肥料に堆肥（動物の排せつ物又は食品由来の有機質物を主原料とするものに限る。）を混合し、造粒又は成形後、加熱乾燥したもの

二 同条各号に掲げる窒素質肥料、りん酸質肥料、加里質肥料、有機質肥料、副産肥料等、複合肥料、石灰質肥料、けい酸質肥料、苦土質肥料、マンガン質肥料、ほう素質肥料又は微量元素複合肥料に米ぬか、発酵米ぬか、乾燥藻及びその粉末、発酵乾菌ん肥料、よもぎかす、骨灰、動物の排せつ物（鶏ふんの炭化物に限る。）又は動物の排せつ物の燃焼灰（鶏ふん燃焼灰に限る。）のいずれか一以上及び堆肥（動物の排せつ物又は食品由来の有機質物を主原料とするものに限る。）を混合し、造粒又は成形後、加熱乾燥したもの

17 規則第七条の六第六号の農林水産大臣が指定する成形複合肥料は、同条第一号に掲げる窒素質肥料、同条第二号に掲げるりん酸質肥料、同条第三号に掲げる加里質肥料、同条第四号に掲げる有機質肥料、同条第五号に掲げる副産肥料等、同条第六号に掲げる複合肥料、同条第七号に掲げる石灰質肥料、同条第八号に掲げるけい酸質肥料、同条第九号に掲げる苦土質肥料、同条第十号に掲げるマンガン質肥料、同条第十一号に掲げるほう素質肥料又は同条第十二号に掲げる微量元素複合肥料に、木質泥炭、紙パルプ廃繊維、草炭質腐植、流紋岩質凝灰岩粉末又はベントナイトのいずれか一を混合し、造粒又は成形したものとする。

18 規則第七条の六第六号の農林水産大臣が指定する被覆複合肥料は、同号に掲げる化成肥料又は同条第五号に掲げる液状肥料を硫黄その他の被覆原料で被覆したものとする。

19 規則第七条の六第六号の農林水産大臣が指定する配合肥料は、次の各号のいずれかに該当するものとする。

10 規則第七条の六第五号の農林水産大臣が指定する成形複合肥料は、同条第一号に掲げる窒素質肥料、同条第二号に掲げるりん酸質肥料、同条第三号に掲げる加里質肥料、同条第四号に掲げる有機質肥料、同条第五号に掲げる複合肥料、同条第八号に掲げる苦土肥料、同条第九号に掲げるマンガン質肥料、同条第十号に掲げるほう素質肥料又は同条第十一号に掲げる微量元素複合肥料に、木質泥炭、紙パルプ廃繊維、草炭質腐植、流紋岩質凝灰岩粉末又はベントナイトのいずれか一を混合し、造粒又は成形したものとする。

11 規則第七条の六第五号の農林水産大臣が指定する被覆複合肥料は、同号に掲げる化成肥料を硫黄その他の被覆原料で被覆したものとする。

12 規則第七条の六第五号の農林水産大臣が指定する配合肥料は、次の各号のいずれかに該当するものとする。

	<p>一 規則第七条の六各号に掲げる窒素質肥料、りん酸質肥料、加里質肥料、有機質肥料、<u>副産肥料等</u>、複合肥料、石灰質肥料、けい酸質肥料、<u>苦土質肥料</u>、<u>マンガン質肥料</u>、ほう素質肥料又は微量要素複合肥料のいずれか二以上を配合したもの</p> <p>二 前号に掲げる配合肥料の原料となる肥料に、米ぬか、発酵米ぬか、乾燥藻及びその粉末、発酵乾ふん肥料、グアノ（りん酸のく溶率五十パーセント以上のもので造粒又は成形しないものに限る。）、よもぎかす、骨灰、動物の排せつ物（鶏ふんの炭化物に限る。）又は動物の排せつ物の燃焼灰（鶏ふん燃焼灰又は牛の排せつ物と鶏ふんとの混合物の燃焼灰に限る。）のいずれか一以上を配合したもの</p> <p>三 <u>第十四項各号に掲げる化成肥料を配合したもの</u></p>
20	<p>規則第七条の六第七号の農林水産大臣が指定する混合石灰肥料は、<u>同号に掲げる石灰質肥料に、同条第四号に掲げる有機質肥料、同条第五号に掲げる副産肥料等、同条第七号に掲げる石灰質肥料、同条第八号に掲げるけい酸質肥料、同条第九号に掲げる苦土質肥料、同条第十号に掲げるマンガン質肥料、同条第十一号に掲げるほう素質肥料又は同条第十二号に掲げる微量要素複合肥料を混合したものとする。</u></p>
21	<p>規則第七条の六第九号の農林水産大臣が指定する被覆苦土肥料は、<u>同条第五号に掲げる副産肥料（専ら原料規格第二中十一の項に掲げる原料を使用した肥料であつて、苦土を保証したものに限る。）又は同条第九号に掲げる苦土質肥料を硫黄その他の被覆原料で被覆したものとする。</u> (削る)</p>
22	<p>規則第七条の六第九号の農林水産大臣が指定する混合苦土肥料は、<u>同条第五号に掲げる副産肥料（専ら原料規格第二中十一の項</u></p>
	<p>一 規則第七条の六各号に掲げる窒素質肥料、りん酸質肥料、加里質肥料、有機質肥料、複合肥料、石灰質肥料、けい酸質肥料（<u>シリカゲル肥料に限る。</u>）、<u>苦土肥料</u>、<u>マンガン質肥料</u>、ほう素質肥料又は微量要素複合肥料のいずれか二以上を配合したもの</p> <p>二 前号に掲げる配合肥料の原料となる肥料に、米ぬか、発酵米ぬか、乾燥藻及びその粉末、発酵乾ふん肥料、グアノ（りん酸のく溶率五十パーセント以上のもので造粒又は成形しないものに限る。）、よもぎかす、骨灰、動物の排せつ物（鶏ふんの炭化物に限る。）又は動物の排せつ物の燃焼灰（鶏ふん燃焼灰又は牛の排せつ物と鶏ふんとの混合物の燃焼灰に限る。）のいずれか一以上を配合したもの</p> <p>三 <u>第九項各号に掲げる化成肥料を配合したもの</u></p>
13	<p>規則第七条の六第六号の農林水産大臣が指定する混合石灰肥料は、<u>石灰質肥料に、石灰質肥料、苦土肥料、ほう素質肥料又は微量要素複合肥料を混合したもののうち、植害試験の成績の提出が不要であるものとする。</u></p>
14	<p>規則第七条の六第八号の農林水産大臣が指定する被覆苦土肥料は、<u>苦土肥料を硫黄その他の被覆原料で被覆したもののうち、植害試験の成績の提出が不要であるものとする。</u></p>
15	<p>規則第七条の六第八号の農林水産大臣が指定する副産苦土肥料は、<u>食品工業、パルプ工業、化学工業、窯業、鉄鋼業又は非鉄金属製造業において副産されたものうち、植害試験の成績の提出が不要であるものとする。</u></p>
16	<p>規則第七条の六第八号の農林水産大臣が指定する混合苦土肥料は、<u>苦土肥料を二以上混合したものうち、植害試験の成績の提</u></p>

<p>に掲げる原料を使用した肥料であつて、苦土を保証したものに限る。)又は同条第九号に掲げる苦土質肥料に同条第四号に掲げる有機質肥料、同条第五号に掲げる副産肥料等、同条第七号に掲げる石灰質肥料、同条第八号に掲げるけい酸質肥料、同条第九号に掲げる苦土質肥料、同条第十号に掲げるペンガン質肥料、同条第十一号に掲げるほう素質肥料又は同条第十二号に掲げる微量要素複合肥料を混合したものである。</p>	<p><u>出が不要であるものとする。</u></p>
<p>23 規則第七条の六第十号の農林水産大臣が指定する混合ペンガン肥料は、<u>同条第五号に掲げる副産肥料</u>（専ら原料規格第二中十二の項に掲げる原料を使用した肥料であつて、ペンガンを保証したものに限る。）又は<u>同条第十号に掲げるペンガン質肥料に同条第四号に掲げる有機質肥料、同条第五号に掲げる副産肥料等、同条第七号に掲げる石灰質肥料、同条第八号に掲げるけい酸質肥料、同条第九号に掲げる苦土質肥料、同条第十号に掲げるペンガン質肥料、同条第十一号に掲げるほう素質肥料又は同条第十二号に掲げる微量要素複合肥料を混合したものである。</u></p>	<p>17 規則第七条の六第九号の農林水産大臣が指定する混合ペンガン肥料は、<u>ペンガン質肥料にペンガン質肥料又は苦土肥料を混合したもの</u>のうち、<u>植害試験の成績の提出が不要であるものとする。</u></p>
<p>24 規則第七条の六第十二号の農林水産大臣が指定する混合微量要素肥料は、<u>同条第五号に掲げる副産肥料</u>（専ら原料規格第二中十一の項に掲げる原料を使用した肥料であつて、苦土を保証したものの又は専ら原料規格第二中十二の項に掲げる原料を使用したものであつて、ペンガンを保証したものに限る。）<u>、同条第九号に掲げる苦土質肥料、第十号に掲げるペンガン質肥料、同条第十一号に掲げるほう素質肥料又は同条第十二号に掲げる微量要素複合肥料に同条第四号に掲げる有機質肥料、同条第五号に掲げる副産肥料等、同条第七号に掲げる石灰質肥料、同条第八号に掲げるけい酸質肥料、同条第九号に掲げる苦土質肥料、同条第十号に掲げるペンガン質肥料、同条第十一号に掲げるほう素質肥料又は同条第十二号に掲げる微量要素複合肥料を混合したものである。</u></p>	<p>18 規則第七条の六第十一号の農林水産大臣が指定する混合微量要素肥料は、<u>ペンガン質肥料、ほう素質肥料、微量要素複合肥料又は苦土肥料を混合したもの</u>のうち、<u>植害試験の成績の提出が不要であるものとする。</u></p>

附 則

この告示は、肥料取締法の一部を改正する法律（令和元年法律第六十二号）附則第一条第二号に掲げる規定の施行の日（令和三年十二月一日）から施行する。

○農林水産省告示第 号

肥料取締法の一部を改正する法律（令和元年法律第六十二号）の一部の施行に伴い、並びに肥料の品質の確保等に関する法律施行規則（昭和二十五年農林省令第六十四号）第十一条の二第一項、第二項、第三項及び第四項の規定に基づき、昭和五十九年三月十六日農林水産省告示第七百号（肥料の品質の確保等に関する法律施行規則第十一条の二第一項、第二項、第三項及び第四項の規定に基づき普通肥料の原料の種類等の保証票への記載に関する事項を定める件）の一部を次のように改正する。

令和三年 月 日

農林水産大臣 野上浩太郎

次の表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分（以下「傍線部分」という。）でこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線部分があるものは、これを当該傍線部分のように改め、改正後欄に掲げる規定の傍線部分でこれに対応する改正前欄に掲げる規定の傍線部分がないものは、これを加え、改正前欄に掲げる規定の傍線部分でこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線部分がないものは、これを削る。

改正後	改正前
<p>1 原料の種類又は配合の割合等の記載</p> <p>(1) 保証票に原料の種類又は配合の割合を記載する普通肥料 肥料の品質の確保等に関する法律施行規則（昭和25年農林省 令第64号。以下「規則」という。）第11条の2第2項第1号の 保証票に原料の種類又は配合の割合を記載する普通肥料は、次 に掲げる普通肥料とする。</p> <p>イ 指定配合肥料及び指定化成肥料（家庭園芸用肥料を除く。 ）</p> <p>ロ 窒素全量を保証した普通肥料（別表第1に掲げるものを除 く。）</p> <p>ハ <u>規則第1条の2第1号及び第2号</u>に掲げる普通肥料</p> <p>ニ 特殊肥料等入り指定混合肥料及び土壌改良資材入り指定混 合肥料</p> <p>ホ <u>別表第2に掲げる普通肥料（家庭園芸用肥料を除く。）</u></p> <p>(2) 保証票に原料の種類又は配合の割合等を記載する方法等 （1）に規定する普通肥料について、規則第11条の2第1項、 第3項及び第4項の保証票に肥料の品質の確保等に関する法律 （昭和25年法律第127号。以下「法」という。）第17条第1項 第12号及び第13号（法第33条の2第6項において準用する場合 を含む。）に掲げる事項及び原料の種類又は配合の割合を記載 する方法、原料の種類又は配合の割合並びにウエブサイトのア ドレスにより記載する方法は、次に規定するとおりとする。</p> <p>イ （1）のイに該当する普通肥料</p> <p>（イ）～（ニ） （略）</p> <p>記載例 1・2 （略）</p> <p>記載例 3 ウエブ表示を行う場合（統合表示名称を記載しな い場合）</p>	<p>1 原料の種類又は配合の割合等の記載</p> <p>(1) 保証票に原料の種類又は配合の割合を記載する普通肥料 肥料の品質の確保等に関する法律施行規則（昭和25年農林省 令第64号。以下「規則」という。）第11条の2第2項第1号の 保証票に原料の種類又は配合の割合を記載する普通肥料は、次 に掲げる普通肥料とする。</p> <p>イ 指定配合肥料及び指定化成肥料（家庭園芸用肥料を除く。 ）</p> <p>ロ 窒素全量を保証した普通肥料（別表第1に掲げるものを除 く。）</p> <p>ハ <u>規則第1条第1号から第7号までに掲げる普通肥料</u></p> <p>ニ 特殊肥料等入り指定混合肥料及び土壌改良資材入り指定混 合肥料 （新設）</p> <p>(2) 保証票に原料の種類又は配合の割合等を記載する方法等 （1）に規定する普通肥料について、規則第11条の2第1項、 第3項及び第4項の保証票に肥料の品質の確保等に関する法律 （昭和25年法律第127号。以下「法」という。）第17条第1項 第12号及び第13号（法第33条の2第6項において準用する場合 を含む。）に掲げる事項及び原料の種類又は配合の割合を記載 する方法、原料の種類又は配合の割合並びにウエブサイトのア ドレスにより記載する方法は、次に規定するとおりとする。</p> <p>イ （1）のイに該当する普通肥料</p> <p>（イ）～（ニ） （略）</p> <p>記載例 1・2 （略）</p> <p>記載例 3 ウエブ表示を行う場合（統合表示名称を記載しな い場合）</p>

(配合原料)
硫酸アソモニア、塩化加里、指定配合肥料、大豆油かす及びその粉末、（魚かす粉末）、加工家きんふん肥料、その他
備考：1 重量割合の大きい順である。
2 硫酸アソモニアと塩化加里の重量割合の順位は、入れ替わることがある。
3 （ ）内の原料は、原料事情等により使用しないことがあり、この場合の使用原料の重量割合の順位は、「硫酸アソモニア、塩化加里、大豆油かす及びその粉末、指定配合肥料、加工家きんふん肥料、尿素、混合汚泥複合肥料」となる。
4 「その他」には有機質肥料等以外の原料及び汚泥を原料として含む。
5 原料の詳細は下記のリンク先に記載。なお、書面をご希望の場合は以下の連絡先にお問い合わせください。（電話番号）

二次元コード

ロ (1)のロに該当する普通肥料

(イ) 使用する原料が次の表の原料の欄に該当する場合には、同表の字句の欄に掲げる字句をもつて記載すること。

原料	字句
別表第3の第1欄に掲げる普通肥料	当該肥料の種類又は統合表示名称
別表第3の第1欄に掲げる	当該肥料の種類

(配合原料)
硫酸アソモニア、塩化加里、指定配合肥料、大豆油かす及びその粉末、（魚かす粉末）、加工家きんふん肥料、その他
備考：1 重量割合の大きい順である。
2 硫酸アソモニアと塩化加里の重量割合の順位は、入れ替わることがある。
3 （ ）内の原料は、原料事情等により使用しないことがあり、この場合の使用原料の重量割合の順位は、「硫酸アソモニア、塩化加里、大豆油かす及びその粉末、指定配合肥料〔植物質類、動物質類〕、加工家きんふん肥料、尿素、混合汚泥複合肥料」となる。
4 「その他」には有機質肥料等以外の原料及び汚泥を原料として含む。
5 原料の詳細は下記のリンク先に記載。なお、書面をご希望の場合は以下の連絡先にお問い合わせください。（電話番号）

二次元コード

ロ (1)のロに該当する普通肥料

(イ) 使用する原料が次の表の原料の欄に該当する場合には、同表の字句の欄に掲げる字句をもつて記載すること。

原料	字句
別表第2の第1欄に掲げる普通肥料	当該肥料の種類又は統合表示名称
別表第2の第1欄に掲げる	当該肥料の種類

普通肥料以外の普通肥料（指定配合肥料及び指定化成肥料を除く。次号において同じ。）であつて、公定規格が定められているもの	
（削る）	（削る）
指定配合肥料	「指定配合肥料」の字句
指定化成肥料	「指定化成肥料」の字句

(ロ)～(ハ) (略)

(ニ) 製品に占める窒素全量の量の割合の大きい原料から順に、その旨を明記して記載すること。ただし、窒素全量の量の割合の大きい原料から順に５つ以上又は原料の窒素全量の量の割合の合計が８割以上となるように原料を記載し、残りの原料を「その他」と記載することができる。この場合には、その他の字句の次に「」を付し、「」の中に当該残りの原料を記載しなければならない。この際、「」内の原料は、必ずしも窒素全量の量の割合の大きい順に記載する必要はないが、窒素全量の量の割合の大きい順に記載しない場合には、順不同となることがある旨を記載すること。また、荷口番号を記載した上で、当該荷口番号ごとに、当該荷口番号に対応する製品の窒素全量を保証し、又は含有する全ての原料を農林水産大臣が認めるウエブサイトに公表し、当該ウエブサイトのアドレスを記載した場合には、「その他」の次の「」の記載を省略することができる。この場合には、書面により荷口番号に対応する製品の窒素全量を保証

普通肥料以外の普通肥料（指定配合肥料及び指定化成肥料を除く。次号において同じ。）であつて、公定規格が定められているもの	
別表第２の第１欄に掲げる普通肥料以外の普通肥料であつて、公定規格が定められていないもの	「仮登録肥料」の字句
指定配合肥料	「指定配合肥料」の字句
指定化成肥料	「指定化成肥料」の字句

(ロ)～(ハ) (略)

(ニ) 製品に占める窒素全量の量の割合の大きい原料から順に、その旨を明記して記載すること。ただし、窒素全量の量の割合の大きい原料から順に５つ以上又は原料の窒素全量の量の割合の合計が８割以上となるように原料を記載し、残りの原料を「その他」と記載することができる。この場合には、その他の字句の次に「」を付し、「」の中に当該残りの原料を記載しなければならない。この際、「」内の原料は、必ずしも窒素全量の量の割合の大きい順に記載する必要はないが、窒素全量の量の割合の大きい順に記載しない場合には、順不同となることがある旨を記載すること。また、荷口番号を記載した上で、当該荷口番号ごとに、当該荷口番号に対応する製品の窒素全量を保証し、又は含有する全ての原料を農林水産大臣が認めるウエブサイトに公表し、当該ウエブサイトのアドレスを記載した場合には、「その他」の次の「」の記載を省略することができる。この場合には、書面により荷口番号に対応する製品の窒素全量を保証

し、又は含有する全ての原料の記載事項の交付を求める者に書面により当該記載事項を交付するとともに、その旨を記載すること。なお、省略した〔 〕内の原料に有機質肥料及び特殊肥料（粗砕石灰石、製糖副産石灰、石灰処理肥料、含鉄物、微粉炭燃焼灰、カルシウム肥料及び石こうを除く。）以外のもの（汚泥を原料とする肥料（混合汚泥複合肥料及び汚泥肥料）を含む。）が含まれる場合には、その旨を記載すること。さらに、原料事情等により隣接する２つの原料の窒素全量の量の割合の順位が入れ替わる場合には、その旨を記載することにより、当該順位を入れ替えることができる。ただし、「その他」と順位を入れ替えてはならず、また、（ホ）に規定するところに従い（ ）を付して記載した原料を使用しない場合として記載例により記載する原料については、当該原料の順位を入れ替えてはならない。

(ホ) (略)

- (ヘ) (1)のロに該当する普通肥料が原料として使用される場合には、当該肥料の種類の空白の次に〔 〕を付し、〔 〕の中に当該肥料の原料の種類を、（イ）から（ホ）までに規定するところに従い、次の記載例により記載すること。ただし、荷口番号を記載した上で、当該荷口番号ごとに、当該荷口番号に対応する製品の窒素全量を保証し、又は含有する全ての原料を農林水産大臣が認めるウエブサイトに公表し、当該ウエブサイトのアドレスを記載した場合には、〔 〕の記載を省略することができる。この場合には、書面により荷口番号に対応する製品の窒素全量を保証し、又は含有する全ての原料の記載事項の交付を求める者に書面により当該記載事項を交付するとともに、その旨を記載すること。なお、省略した〔 〕内の原料に有機質肥料及び特殊肥料（粗砕石灰石、

し、又は含有する全ての原料の記載事項の交付を求める者に書面により当該記載事項を交付するとともに、その旨を記載すること。なお、省略した〔 〕内の原料に有機質肥料及び特殊肥料（粗砕石灰石、製糖副産石灰、石灰処理肥料、含鉄物、微粉炭燃焼灰、カルシウム肥料及び石こうを除く。）以外のもの（汚泥を原料とする肥料（混合汚泥複合肥料及び規則第一条第一号から第六号までに規定する肥料）を含む。）が含まれる場合には、その旨を記載すること。さらに、原料事情等により隣接する２つの原料の窒素全量の量の割合の順位が入れ替わる場合には、その旨を記載することにより、当該順位を入れ替えることができる。ただし、「その他」と順位を入れ替えてはならず、また、（ホ）に規定するところに従い（ ）を付して記載した原料を使用しない場合として記載例により記載する原料については、当該原料の順位を入れ替えてはならない。

(ホ) (略)

- (ヘ) (1)のロに該当する普通肥料が原料として使用される場合には、当該肥料の種類又は「仮登録肥料」の文字の次に〔 〕を付し、〔 〕の中に当該肥料の原料の種類を、（イ）から（ホ）までに規定するところに従い、次の記載例により記載すること。ただし、荷口番号を記載した上で、当該荷口番号ごとに、当該荷口番号に対応する製品の窒素全量を保証し、又は含有する全ての原料を農林水産大臣が認めるウエブサイトに公表し、当該ウエブサイトのアドレスを記載した場合には、〔 〕の記載を省略することができる。この場合には、書面により荷口番号に対応する製品の窒素全量を保証し、又は含有する全ての原料の記載事項の交付を求める者に書面により当該記載事項を交付するとともに、その旨を記載すること。なお、省略した〔 〕内の原料に有機質肥料及び特殊

製糖副産石灰、石灰処理肥料、含鉄物、微粉炭燃焼灰、カルシウム肥料及び石こうを除く。) 以外のもの(汚泥を原料とする肥料(混合汚泥複合肥料及び汚泥肥料)を含む。)が含まれる場合には、その旨を記載すること。

記載例 1 ～ 3 (略)

ハ (略)

ニ (1)の二に該当する普通肥料

(イ) (略)

(ロ) 普通肥料 (法第 4 条第 1 項第 3 号に掲げるものを除く。)、普通肥料 (法第 4 条第 1 項第 3 号に掲げるものに限る。) 及び特殊肥料に該当する肥料ごとに、製品に占める重量割合の大きい原料から順に、その旨を明記して記載すること。なお、指定配合肥料又は指定化成肥料を原料として使用する場合には、「指定配合肥料」又は「指定化成肥料」の字句の次に「 」を付し、「 」の中に当該肥料の原料の種類を、特殊肥料のうち堆肥又は動物の排せつ物を原料として使用する場合には、「堆肥」又は「動物の排せつ物」の字句の次に「 」を付し、「 」の中に当該肥料の原料を(イ)及びこの号の規定するところに従い次の記載例により記載すること。ただし、使用する原料が(イ)の表に掲げる原料に該当しない場合には「鶏ふん」、「もみがら」等最も一般的な名称をもつて記載すること。

【記載例 略】

ホ (1)のホに該当する普通肥料

(イ) 使用する原料が次の表の原料の欄に該当する場合には、同表の字句の欄に掲げる字句をもつて記載すること。

原料	字句
----	----

肥料(粗砕石灰石、製糖副産石灰、石灰処理肥料、含鉄物、微粉炭燃焼灰、カルシウム肥料及び石こうを除く。)
() 以外のもの(汚泥を原料とする肥料(混合汚泥複合肥料及び規則第一条第一号から第六号までに規定する肥料)を含む。) が含まれる場合には、その旨を記載すること。

記載例 1 ～ 3 (略)

ハ (略)

ニ (1)の二に該当する普通肥料

(イ) (略)

(ロ) 普通肥料 (法第 4 条第 1 項第 3 号に掲げるものを除く。)、普通肥料 (法第 4 条第 1 項第 3 号に掲げるものに限る。) 及び特殊肥料に該当する肥料ごとに、製品に占める重量割合の大きい原料から順に、その旨を明記して記載すること。なお、指定配合肥料又は指定化成肥料を原料として使用する場合には、「指定配合肥料」又は「指定化成肥料」の字句の次に「 」を付し、「 」の中に当該肥料の原料の種類を、特殊肥料のうち堆肥又は動物の排せつ物を原料として使用する場合には、「堆肥」又は「動物の排せつ物」の字句の次に「 」を付し、「 」の中に当該肥料の原料を(イ)及びこの号の規定するところに従い次の記載例により記載すること。

【記載例 略】

(新設)

別表第 3 の第 1 欄に掲げる 普通肥料	当該肥料の種類又は統合表 示名称
別表第 3 の第 1 欄に掲げる 普通肥料以外の普通肥料（ 指定配合肥料及び指定化成 肥料を除く。次号において 同じ。）であつて、公定規 格が定められているもの	
別表第 3 の第 1 欄に掲げる 普通肥料以外の普通肥料で あつて、公定規格が定めら れていないもの	「仮登録肥料」の字句
指定配合肥料	「指定配合肥料」の字句
指定化成肥料	「指定化成肥料」の字句

- (ロ) 使用する原料が公定規格の原料規格第一から第三までに掲げる原料である場合にあつてはこれらの規格の原料の種類を欄に掲げる字句を、特殊肥料である場合にあつては当該肥料の指定名をもつて記載すること。
- (ハ) 使用する原料が(イ)又は(ロ)に掲げる原料に該当しない場合には、「泥炭」、「けいそう土」等最も一般的な名称をもつて記載すること。
- (ニ) 生産に当たつて使用された重量の大きい原料から順に、その旨を明記して記載すること。ただし、原料事情等により隣接する 2 つの原料の重量の順位が入れ替わる場合には、その旨を記載することにより、当該順位を入れ替えることができる。ただし、(ホ)に規定するところに従い（ ）を付して記載した原料を使用しない場合として記載例により記載する原料については、当該原料の順位を入れ替えてはならない。

(ホ) 原料事情等により原料として使用しない原料がある場合には、その旨を明記して、当該原料の種類に（ ）を付して記載することができる。ただし、記載したすべての原料の種類に（ ）を付してはならない。

(ハ) (1)のホに該当する普通肥料が原料として使用される場合には、当該肥料の種類又は「仮登録肥料」の字句の次に〔 〕を付し、〔 〕の中に当該肥料の原料の種類を、(4)から(ホ)までに規定するところに従い、記載すると。

記載例

(原料)
尿素、指定配合肥料、副産肥料〔加里含有物〕、りん酸含有物、(副産動植物質肥料〔動物由来物質、植物由来物質〕)
備考：1 重量割合の大きい順である。
2 副産肥料〔加里含有物〕とりん酸含有物の重量割合の順位は、入れ替わることがある。
3 () 内の原料は、原料事情等により使用しないことがあり、この場合の使用原料の重量割合の順位は、「尿素、副産肥料〔加里含有物〕、指定配合肥料、りん酸含有物」となる。
4 [] 内は副産肥料又は副産動植物質肥料の原料である。

2 炭素窒素比の記載

- (1) 保証票に炭素窒素比を記載する普通肥料
規則第11条の2第2項第1号の保証票に炭素窒素比を記載する普通肥料は、規則第1条の2第1号及び第2号に掲げる普通肥料とする。
- (2) (略)

(新設)

2 炭素窒素比の記載

- (1) 保証票に炭素窒素比を記載する普通肥料
規則第11条の2第1項第1号の保証票に炭素窒素比を記載する普通肥料は、規則第1条の2第1号から第7号までに掲げる普通肥料とする。
- (2) (略)

<p>3 材料の種類及び名称又は使用量の記載</p>	<p>3 材料の種類及び名称又は使用量の記載</p>
<p>(1) 保証票に記載する材料の種類</p> <p>イ 規則第11条の2第2項第2号の保証票にその種類及び名称又は使用量を記載する材料の種類は、組成の均一化を促進する材料（以下「組成均一化促進材」という。）、効果の発現を促進する材料（以下「効果発現促進材」という。）、着色する材料（以下「着色材」という。）、土壌中における硝酸化成を抑制する材料（以下「硝酸化成抑制材」という。）及び規則別表第1号ホの摂取の防止に効果があると認められる材料（以下「摂取防止材」という。）とする。ただし、配合に当たつて原料として使用する肥料又は原料に当該配合前に使用された組成均一化促進材、効果発現促進材、着色材又は硝酸化成抑制材（規則別表第1号ハの規定に基づき農林水産大臣が指定するものに限る。）については、この限りでない。</p> <p>ロ</p> <p>(イ) 家庭園芸用肥料以外の普通肥料にあつては、効果発現促進材、硝酸化成抑制材及び摂取防止材についてその種類、名称及び使用量（配合に当たつて原料として使用する肥料又は原料に当該配合前に使用された摂取防止材については、その種類及び名称）を、組成均一化促進材及び着色材については、その種類及び名称を記載する。ただし、配合に当たつて原料として使用する肥料又は原料に当該配合前に使用された効果発現促進材及び硝酸化成抑制材（規則別表第1号ハの規定に基づき農林水産大臣が指定するものに限る。）については、その種類、名称及び使用量の記載を、組成均一化促進材及び着色材については、その種類及び名称の記載を省略することができる。</p> <p>(ロ) 家庭園芸用肥料にあつては、材料の種類を記載する。</p> <p>ハ (略)</p> <p>(2) (略)</p>	<p>(1) 保証票に記載する材料の種類</p> <p>イ 規則第11条の2第2項第2号の保証票にその種類及び名称又は使用量を記載する材料の種類は、組成の均一化を促進する材料（以下「組成均一化促進材」という。）、効果の発現を促進する材料（以下「効果発現促進材」という。）、着色する材料（以下「着色材」という。）、土壌中における硝酸化成を抑制する材料（以下「硝酸化成抑制材」という。）及び規則別表第1号ホの摂取の防止に効果があると認められる材料（以下「摂取防止材」という。）とする。ただし、配合に当たつて原料として使用する肥料に当該配合前に使用された組成均一化促進材、効果発現促進材、着色材又は硝酸化成抑制材（規則別表第1号ハの規定に基づき農林水産大臣が指定するものに限る。）については、この限りでない。</p> <p>ロ</p> <p>(イ) 家庭園芸用肥料以外の普通肥料にあつては、効果発現促進材、硝酸化成抑制材及び摂取防止材についてその種類、名称及び使用量（配合に当たつて原料として使用する肥料に当該配合前に使用された摂取防止材については、その種類及び名称）を、組成均一化促進材及び着色材については、その種類及び名称を記載する。ただし、配合に当たつて原料として使用する肥料に当該配合前に使用された効果発現促進材及び硝酸化成抑制材（規則別表第1号ハの規定に基づき農林水産大臣が指定するものに限る。）については、その種類、名称及び使用量の記載を、組成均一化促進材及び着色材については、その種類及び名称の記載を省略することができる。</p> <p>(ロ) 家庭園芸用肥料にあつては、材料の種類を記載する。</p> <p>ハ (略)</p>

4 (略)	(2) (略)
別表第1 (1の(1)のロ関係)	4 (略)
1 尿素、アセトアルデヒド縮合尿素、イソブチルアルデヒド縮合尿素、硫酸グアニル尿素、オキサミド、石灰窒素、被覆窒素肥料、グリオキサール縮合尿素、ホルムアルデヒド加工尿素肥料、メチロール尿素重合肥料	別表第1 (1の(1)のロ関係)
2～4 (略)	1 尿素、アセトアルデヒド縮合尿素、イソブチルアルデヒド縮合尿素、硫酸グアニル尿素、オキサミド、石灰窒素、被覆窒素肥料、グリオキサール縮合尿素、ホルムアルデヒド加工尿素肥料、メチロール尿素重合肥料、 <u>副産窒素肥料</u> 、 <u>液状副産窒素肥料</u>
5 <u>本則1の(1)のホに該当する普通肥料</u>	2～4 (略)
別表第2 (1の(1)のホ関係)	(新設)
1 <u>乾燥菌体肥料、副産動植物質肥料</u>	
2 <u>副産肥料、液状肥料、吸着複合肥料、菌体肥料</u>	
3 <u>仮登録を受けた肥料</u>	
別表第3 (1の(2)のイの(イ)の <u>1</u> の(2)のロの(イ)及び <u>1</u> の(2)のホの(イ)関係)	別表第2 (1の(2)のイの(イ)及び <u>1</u> の(2)のロの(イ)関係)
[表 略]	[表 略]

附 則

1 この告示は、肥料取締法の一部を改正する法律附則第一条第二号に掲げる規定の施行の日（令和三年十二月一日）から施行する。

2 この告示の施行の日前に肥料の品質の確保等に関する法律第四条第一項、第三項若しくは第四項若しくは第三十三条の二第一項の規定による登録又は第五条若しくは第三十三条の二第一項の規定による仮登録を受けた普通肥料（登録を受けた普通肥料にあつては、肥料の品質の確保等に関する法律施行規則の一部を改正する省令（令和三年農林水産省令第 号）による改正後の肥料の品質の確保等に関する法律施行規則第一条に掲げるもの（家庭園芸用複合肥料を除く。）に限る。）の容器又は包装に付される保証票への記載方法については、その登録又は仮登録の更新を受け、又はその有効期間が満了するまでの間は、なお従前の例によることができる。

3 この告示の施行の日前に肥料の品質の確保等に関する法律第四条第一項、第三項若しくは第四項若しくは第三十三条の二第一項の規定による登録を受けた普通肥料を原料として使用した普通肥料の容器又は包装に付される保証票への原料として使用した普通肥料の記載方法については、原料として使用した普通肥

料が登録の更新を受け、又はその有効期間が満了するまでの間は、令和 年 月 日農林水産省告示第

号（肥料の品質の確保等に関する法律に基づき普通肥料の公定規格を定める等の件の一部を改正する件）による改正後の昭和六十一年二月二十二日農林水産省告示第二百八十四号（肥料の品質の確保等に関する法律に基づき普通肥料の公定規格を定める等の件）に規定する肥料の種類を記載することができる。

○農林水産省告示第 号

肥料の品質の確保等に関する法律施行規則（昭和二十五年農林省令第六十四号）第二条の二の規定に基づき、昭和五十九年三月十六日農林水産省告示第六百九十七号（肥料の品質の確保等に関する法律施行規則第二条の二の規定に基づき植物に対する害に関する栽培試験の成績を要する肥料から除くものを指定する件）の一部を次のように改正する。

令和三年 月 日

農林水産大臣 野上浩太郎

次の表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分（以下「傍線部分」という。）でこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線部分があるものは、これを当該傍線部分のように改め、改正後欄に掲げる規定の傍線部分でこれに対応する改正前欄に掲げる規定の傍線部分がないものは、これを加え、改正前欄に掲げる規定の傍線部分でこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線部分がないものは、これを削る。

改 正 後		改 正 前	
区 分	農林水産大臣の指定するもの	区 分	農林水産大臣の指定するもの
<u>一 肥料の品質の確保等に関する法律施行規則（以下「規則」という。） 第二条の二第一号の熔成けい酸りん肥</u>	<u>汚泥を原料に使用していないもの</u>	(新設)	(新設)
(削る)	(削る)	<u>一 肥料の品質の確保等に関する法律施行規則（以下「規則」という。） 第二条の二第一号の副産窒素肥料</u>	<u>一 硫酸マグネシウムと硫酸アンモニウムの複塩から成るもの</u> <u>二 食品工業における発酵廃液を濃縮乾燥したもの</u> <u>三 一又は二の副産窒素肥料に規則第四条第三号に掲げる材料（以下「材料」という。）を使用したもの</u>
(削る)	(削る)	<u>二 規則第二条の二第二号の液状副産窒素肥料</u>	<u>食品工業における発酵廃液を原料とするもの</u>
(削る)	(削る)	<u>三 規則第二条の二第四号の副産りん酸肥料</u>	<u>一 獣骨を原料としてゼラチンを生産する際に副産されるもの</u> <u>二 米ぬか又はとうもろこしを原料としてイノシトールを抽出する際に副産されるもの</u>

<p>二 <u>規則第二条の二</u> <u>第二号の乾燥菌体</u> <u>肥料</u></p>	専ら昭和六十一年二月二十二日農林水産省告示第二百八十四号（肥料の品質の確保等に関する法律に基づき普通肥料の公定規格を定める等の件。以下「公定規格」という。）の原料規格第一中三の項ホ又はへに掲げる原料を使用したもの	
（削る）	（削る）	
（削る）	（削る）	
（削る）	（削る）	
<p>四 <u>規則第二条の二</u> <u>第五号の乾燥菌体</u> <u>肥料</u></p>	<p>一 培養によつて得られる菌体を加熱乾燥したもの</p> <p>二 培養によつて得られる菌体から脂質を抽出したかす又は酵母から核酸を抽出したかすを乾燥したもの</p> <p>三 一又は二の乾燥菌体肥料に材料を使用したもの</p>	<p>三 一又は二の副産りん酸肥料に材料を使用したもの</p>
<p>五 <u>規則第二条の二</u> <u>第六号の吸着複合</u> <u>肥料</u></p>	<p>一 肥料又は食品工業における発酵廃液を吸着原料に吸着させたもの</p> <p>二 一の吸着複合肥料に材料を使用したもの</p>	
<p>六 <u>規則第二条の二</u> <u>第七号の副産複合</u> <u>肥料</u></p>	<p>一 食品工業における発酵廃液を濃縮乾燥したもの</p> <p>二 アズラヤシの果房から搾油のために果実を分離したものを燃焼したもの</p> <p>三 一又は二の副産複合肥料に材料を使用したもの</p>	
<p>七 <u>規則第二条の二</u> <u>第九号の副産苦土</u> <u>肥料</u></p>	<p>一 粗製水酸化マグネシウムを粉末としたもの</p> <p>二 マグネシアクリンカー副産物（軽焼マグネシアを含む。）、普通鋼製鋼用転炉のドロマイトレンがさい又はフェロニッセル鉱さいを粉末としたもの</p>	

附 則

この告示は、肥料取締法の一部を改正する法律（令和元年法律第六十二号）附則第一条第二号に掲げる規定の施行の日（令和三年十二月一日）から施行する。

○農林水産省告示第 号

肥料の品質の確保等に関する法律（昭和二十五年法律第二百二十七号）第二十二條の三第三項の規定に基づき、消費者の利益に資するため特に表示の適正化を図る必要があるものとして農林水産大臣が定める表示事項又は遵守事項を次のように定める。

令和三年 月 日

農林水産大臣 野上浩太郎

肥料の品質の確保等に関する法律第二十二條の三第三項の消費者の利益に資するため特に表示の適正化を図る必要があるものとして農林水産大臣が定める表示事項又は遵守事項は、次に掲げるものとする。

一 令和三年 月 日農林水産省告示第 号（肥料の品質の確保等に関する法律第二十一條第一

項第一号及び第二号の規定に基づき普通肥料の表示の基準を定める件）第一に定める表示事項及び同告示第二に定める遵守事項

二 平成十二年八月三十一日農林水産省告示第一千百六十三号（特殊肥料の品質表示基準を定める件）第二の一の七のウに定める事項

附 則

この告示は、肥料取締法の一部を改正する法律（令和元年法律第六十二号）附則第一条第二号に掲げる規定の施行の日（令和三年十二月一日）から施行する。